# MEDIT Scan for Clinics



ME-UG-702J

Revision 27.2 (2026.10)
SW version 1.14.5

# Table of Contents


## Medit Scan for Clinics

はじめに ..... 6

Medit Scan for Clinics ..... 6

使用目的 ..... 6

禁忌 ..... 6

運用ユーザーの資格 ..... 6

## インストール

システム要件 ..... 7

推奨システム要件 ..... 7

必須システム要件 ..... 7

Medit Scan for Clinicsのインストール ..... 9

インストール ..... 9

更新 ..... 10

ソフトウェアの更新 ..... 10

ファームウェアの更新 ..... 10

スキャナー接続 ..... 13

スキャナーステータス ..... 13

ハブステータス ..... 14

ペアリングマネージャー（i700 wireless、i900 Mobility） ..... 15

Switch & Scan（i700 wirelessのみ） ..... 19

スキャナーのキャリブレーション ..... 21

口腔内スキャナーのキャリブレーション ..... 21

## 開始する

ユーザーインターフェース ..... 30

概要 ..... 30

タイトルバー ..... 31

メインツールバー ..... 32

情報ボックス ..... 33

スキャン工程 ..... 34

模型ビュー ..... 34

スキャン情報 ..... 34

データツリー ..... 35

サイドツールバー ..... 36

スキャン工程ツールバー ..... 36

ライブビュー ..... 36

スキャン深度 39
設定 40
プログラム設定情報 40
スキャニング補助 42
スキャニング性能 44
後処理 45
スキャナー 47
スキャンデータ分析 50
基本操作 52
3Dデータコントロール 52
スキャンの操作 55
カーソルとしてのスキャナー（Air Mouse） 56
スキャン操作の基本 59
スキャンチェックリスト 59
練習モード 59
タッチインターフェースのチュートリアル 68
スキャン中の表示 70
スマート矢印 71
スマートスキャンガイド 73

## スキャン工程

工程管理 76
工程管理 76
スキャン工程 76
工程の追加／削除 79
デフォルトのワークフローとして保存 82
工程順の変更 86
上顎/下顎の施術前 88
施術前上顎工程 88
施術前下顎工程 88
施術前工程の追加ツール 89
上顎/下顎 90
上顎工程 90
下顎工程 90
上顎/下顎工程の追加ツール 91
スキャンボディ 92
上顎スキャンボディ工程 92
下顎スキャンボディ工程 92
スキャンボディ工程用の追加ツール 92

無歯上顎／下顎 96
上顎無歯顎工程 96
下顎無歯顎工程 96
下顎無歯顎用の追加ツール 97
上顎／下顎義歯 98
上顎義歯工程 98
下顎義歯工程 98
咬合 100
咬合工程 100
咬合工程用の追加ツール 100
顔面 117
顔面工程 117
顔面工程用の追加ツール 117
追加データ 119
追加データ工程 119
スマートスキャン確認 123
スマートスキャン確認工程 123
スマートスキャン確認レポート 123
スマートスキャン確認のツール 124
スマートスキャン確認処理 125
完了 130
仕上げ工程 130

## ツールと機能

スキャン工程ツール 132
基本スキャンツール 132
フィルタリングツール 135
高機能ツール 141
メインツールバーツール 143
トリミングツール 143
機能ツール 148
サイドツールバーツール 178

## ケースおよびワークフローの例

義歯スキャン 180
総義歯 180
複製義歯 184
インプラントオーバーデンチャー 185
施術前スキャン 187
施術前スキャンの活用方法 187

トリミングツールで施術前スキャンを活用する方法 188
施術前スキャンおよび新規データスキャンの複製を削除する方法 191
印象スキャン 196
インプレッションスキャンの取得方法 196
マージン用インプレッションスキャンの活用方法 199
ポスト&コアケース用インプレッションスキャンの活用方法 200
咬合ケース用インプレッションスキャンの活用方法 202
アバットメントライブラリマッチング 204
アバットメントライブラリマッチングの使用方法 206
スキャンボディライブラリマッチング 211
スキャンボディライブラリマッチングの使用方法 212
支台歯確認 217
支台歯確認ツールの使用法 218
Medit SmartXワークフロー 222
リアルタイムインテリジェンス 229

# はじめに

## Medit Scan for Clinics

Medit Scan for Clinicsはスキャナーを使用して歯の形状的特徴や周囲の軟組織をデジタルで記録するための使いやすいインターフェースを備えたソフトウェアプログラムです。

## 使用目的

本システムは歯や周囲の軟組織の形状的な特徴をデジタルで記録することを目的とする口腔内3Dスキャナーです。 本システムは、コンピュータ支援の設計および歯科修復物の製作で使用するための3Dスキャンを生成します。

## 禁忌

当システムは、歯の内部構造や支持骨格構造の画像を取得することを意図していません。

## 運用ユーザーの資格

当スキャナーはトレーニングを受けた歯科専門家および歯科技工士によって使用される必要があります。 当スキャナーの使用者は、当スキャナーが特定の患者ケースに適しているかどうかの判断について全責任を負うものとします。 ユーザーは、スキャナーおよびそれに伴うソフトウェアによって取得したすべてのデータの正確性、完全性、および適切性について全責任を負うものとします。 ユーザーは適切な治療のために結果の正確性と適切性を確認する必要があります。 当システムはユーザーガイドと注意事項に従って使用する必要があります。 また、ユーザーは当システムを修正または変更してはいけません。 当システムの不適切な使用または取り扱いがある場合、その保証は無効になります。 適正なシステムの使用法に関する詳細については、お近くの販売会社にお問い合わせください。

# システム要件

## 推奨システム要件

<table>
<tr><th></th><th colspan="2">Windows</th><th>macOS</th></tr>
<tr><th></th><th>ノートパソコン</th><th>デスクトップ</th><th>ノートパソコン/デスクトップ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">プロセッサ</td><td>Intel Core i7 - 14700HX<br>Intel Core i7 - 13700H<br>Intel Core Ultra 7 155H<br>以上</td><td>Intel Core i7 - 14700K<br>Intel Core i7 - 13700K<br>以上</td><td rowspan="2">M1 Pro (10-Core CPU, 16-core GPU)<br>M2 (8-Core CPU, 10-core GPU)<br>M2 Pro (10-Core CPU, 16-core GPU)<br>M3 (8-Core CPU, 10-core GPU)<br>M3 Pro (10-Core CPU, 16-core GPU)<br>以上</td></tr>
<tr><td>AMD Ryzen 7 8745H<br>AMD Ryzen 7 7735H<br>以上</td><td>AMD Ryzen 7 8700F<br>AMD Ryzen 7 7700X<br>以上</td></tr>
<tr><td>RAM</td><td colspan="2">32GB以上</td><td>24GB以上</td></tr>
<tr><td>グラフィック</td><td colspan="2">NVIDIA GeForce RTX 5060（VRAM 8 GB以上）<br>*Medit Scan for Clinics v1.13.3以降でのみ互換性あり<br><br>NVIDIA GeForce RTX 4060（VRAM 8 GB以上）<br>NVIDIA GeForce RTX 3070（VRAM 8 GB以上）<br>NVIDIA RTX A3000（VRAM 8 GB以上）<br>以上<br><br>* AMD Radeonはサポートされていません</td><td>-</td></tr>
<tr><td>OS</td><td colspan="2">Windows 10 64-bit<br>Windows 11（第12世代以降のIntel Coreプロセッサを推奨）<br>以降</td><td>Sonoma 14<br>Sequoia 15<br>以上</td></tr>
</table>

## 必須システム要件

| | Windows | macOS |
|---|---|---|

| | ノートパソコン | デスクトップ | ノートパソコン/デスクトップ |
|---|---|---|---|
| **プロセッサ** | Intel Core i5-14500HX<br>Intel Core i5-13500H<br>Intel Core Ultra 5-125H<br>以上 | Intel Core i5-14400<br>Intel Core i5-13400<br>以上 | M3 (8-core CPU, 8-core GPU)<br>以上 |
| | AMD Ryzen 5 8640H<br>AMD Ryzen 5 7640H<br>以上 | AMD Ryzen 5 8600G<br>AMD Ryzen 5 7600<br>以上 | |
| **RAM** | 16GB以上 | | 16GB以上 |
| **グラフィック** | NVIDIA GeForce RTX 4050（VRAM 6 GB以上）<br>NVIDIA GeForce RTX 3060（VRAM 6 GB以上）<br>NVIDIA RTX A2000（VRAM 6 GB以上）<br>以上<br><br>** AMD Radeonはサポートされていません* | | - |
| **OS** | Windows 10 64-bit<br>Windows 11（12世代以降のIntel Coreプロセッサを推奨）<br>以上 | | Sonoma 14<br>Sequoia 15<br>以上 |

> 🔎**注意**
>
> Medit i500はmacOSをサポートしていません。

# Medit Scan for Clinicsのインストール

## インストール

Medit Scan for Clinicsは、Medit Linkをインストールする際にMedit Scan for Labsのパッケージとしてインストールされます。

インストール方法については、Medit Link > インストール > WindowsでのインストールまたはmacOSでのインストールを参照してください。

> ⚠️**注意**
>
> スキャナーは、インストール後にPCを再起動しない場合、正常に機能しない場合があります。

# 更新

## ソフトウェアの更新

Medit Linkを実行時にプログラムの更新を確認します。 インターネット接続時に、最新バージョンに自動更新されます。

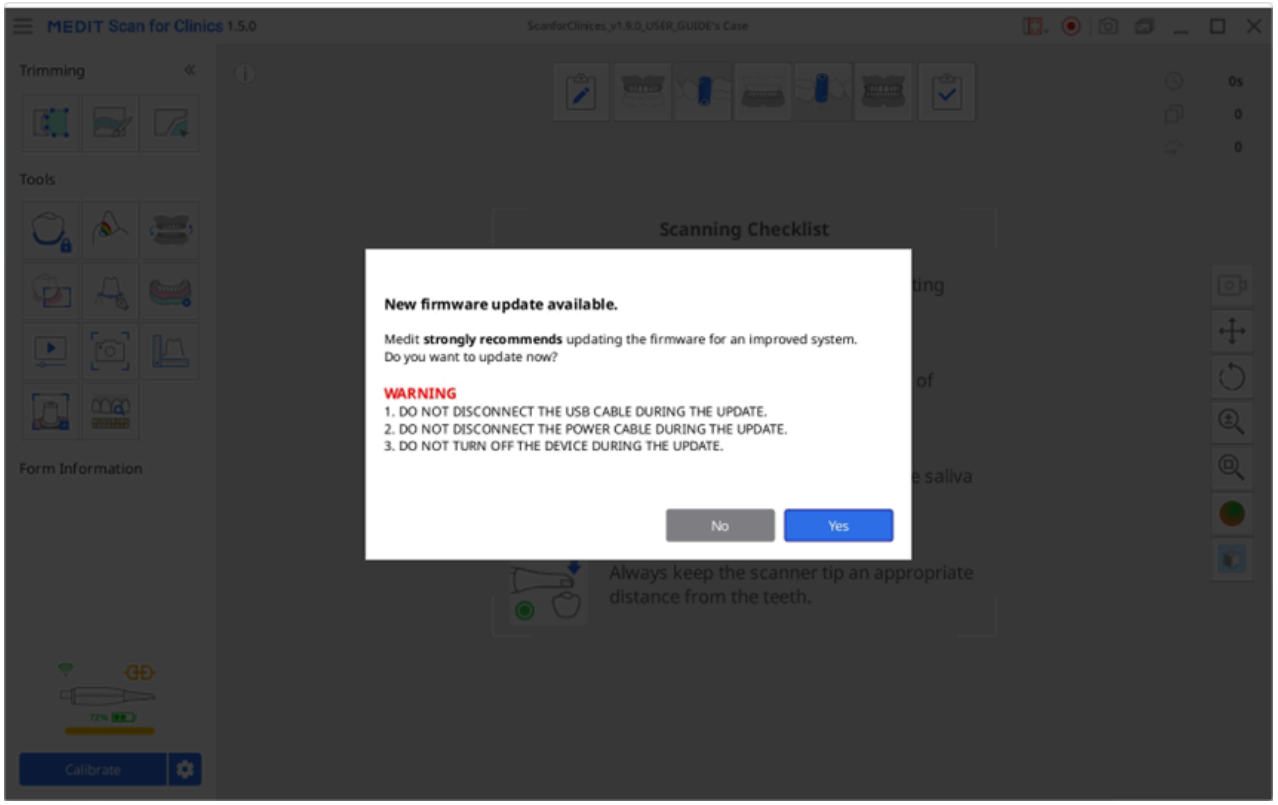
Medit Scan for ClinicsおよびMedit Scan for Labsは、新しいMedit Linkがインストールされた時に最新バージョンに更新されます。

## ファームウェアの更新

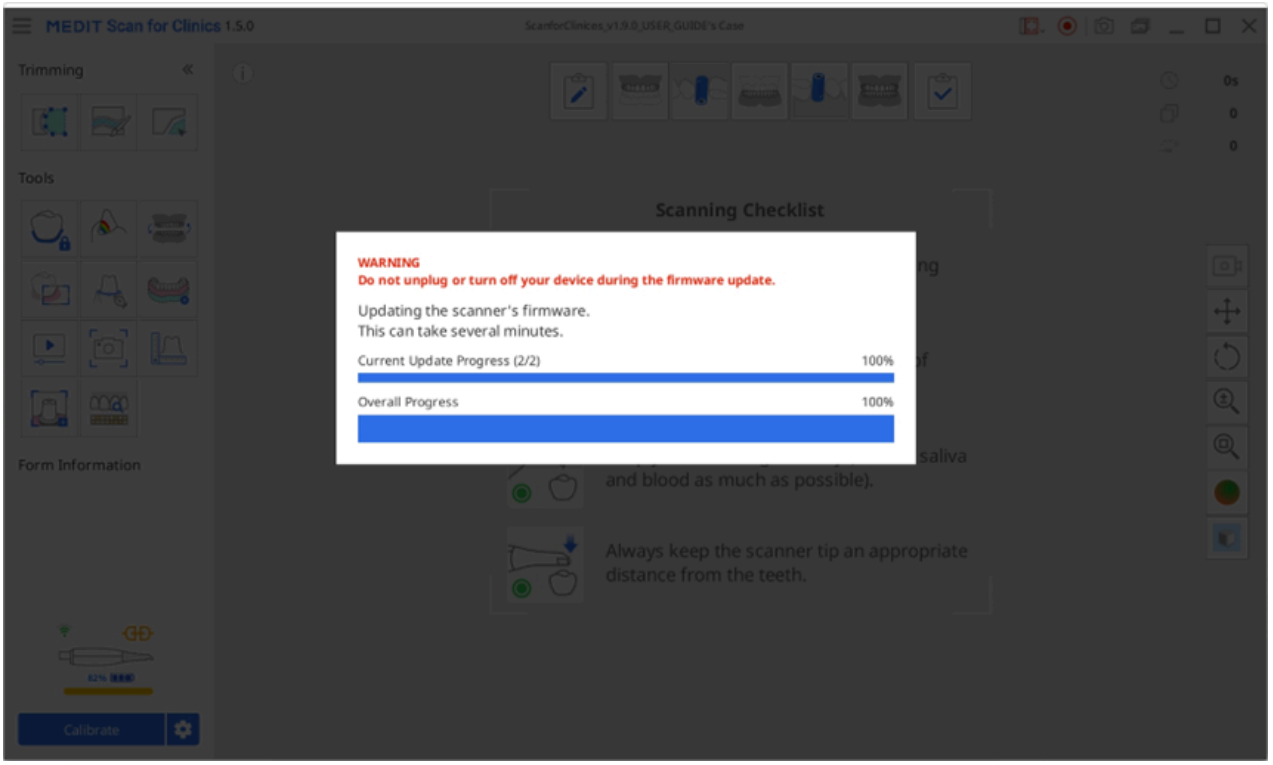
新機能や更新を利用するためにワイヤレスハブのファームウェアバージョンを最新状態にしておくことを推奨します。 ファームウェアの更新をすぐに実施しない場合でも、既存の機能を使用できます。

以下のように、プログラムで新しい更新が利用可能になると、自動的に最新ファームウェアがインストールされます。

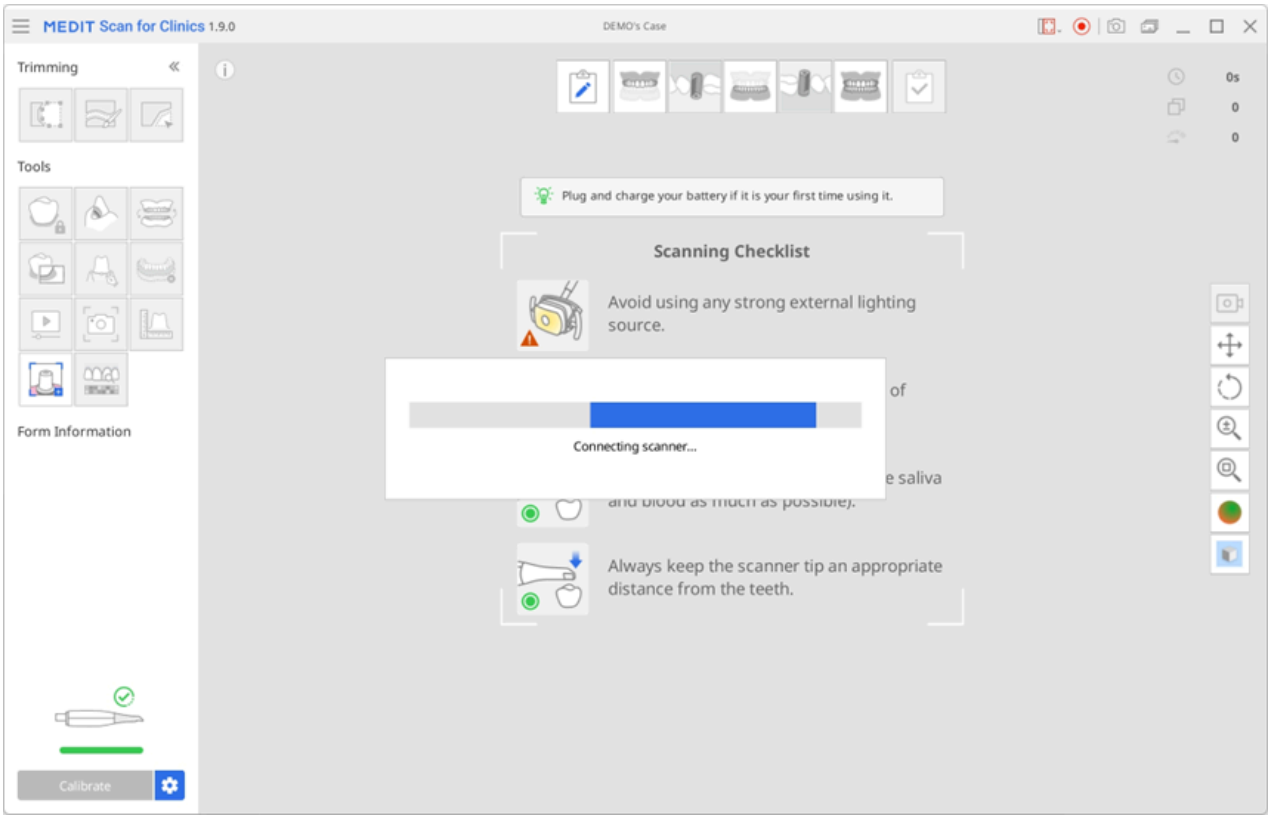
1. ワイヤレススキャナーを使用している場合には、ワイヤレスハブとPCをケーブルで接続し、スキャナーがワイヤレスハブに接続されているか確認します。
2. Medit Scan for Clinicsを実行します。
3. 新しいファームウェアが使用可能になると以下のダイアログが表示されます。




4. 「はい」をクリックし、ファームウェアの更新を続けます。




5. ファームウェアが更新されると、プログラムは再びスキャナーに接続しようとします。



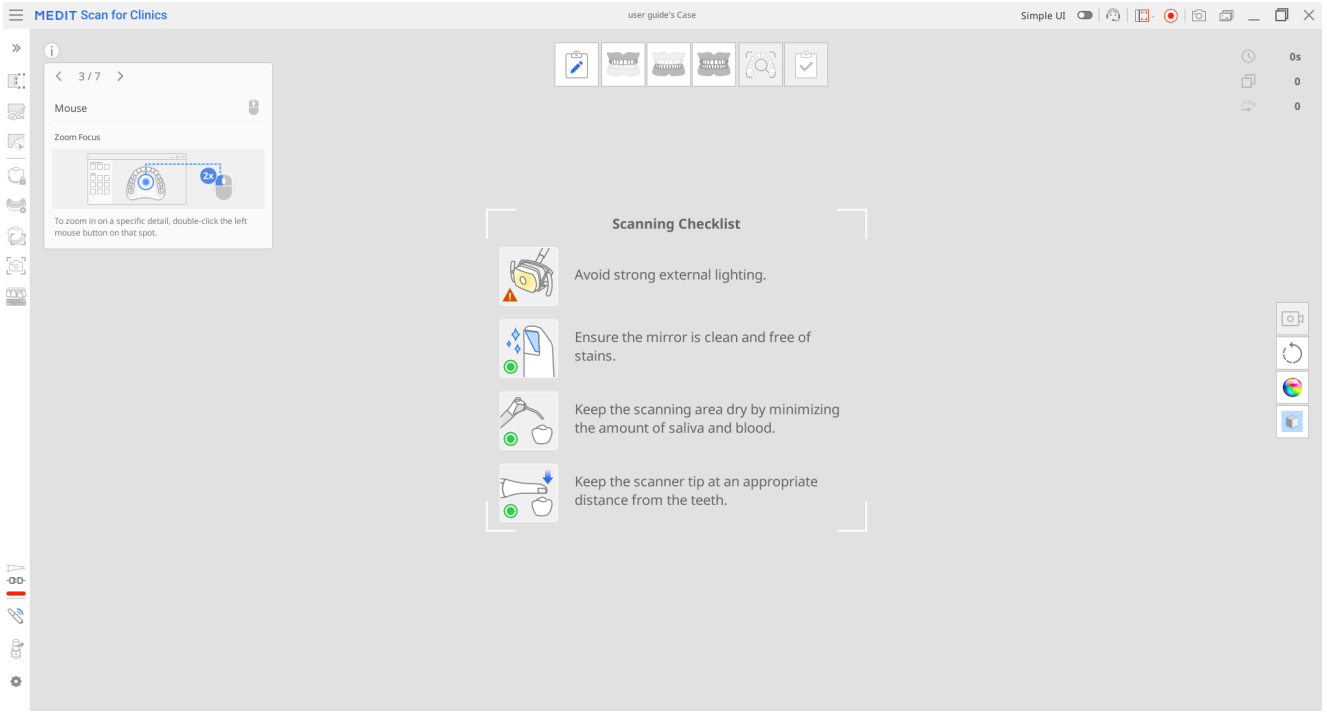

6. メニュー>弊社について>ファームウェアバージョンに移動すると、現在のファームウェアバージョンを確認できます。

> 🔎**注意**
>
> - ワイヤレススキャナーの場合、ハブとローカルPCの接続がされていない、またはスキャナーのバッテリー量が少ない場合には更新が停止します。 この場合には、ハブをPCに再度接続してプログラムを再度実行してファームウェアをアップデートできます。

- 有線スキャナーの場合、ファームウェアのアップデートが正常に完了しても、スキャナーを再起動しないとエラーメッセージが表示されることがあります。 この場合には、ケーブルを抜いて再度ケーブルを差し込んでスキャナーを再起動して、スキャナーの状態を確認されることをお勧めします。

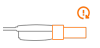
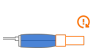
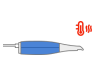
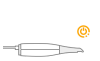
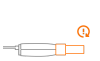
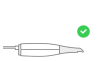
# スキャナー接続

Medit Scan for Clinicsを起動する場合、画面の左下隅にあるワイヤレススキャナー、ワイヤレスハブステータスを使用して、スキャナーのステータスを確認できます。




# スキャナーステータス

以下がスキャナーのステータス表示です。

| モデル/状態 | 未接続 | 先端チップなし | 接続中 | 再起動 | キャリブレーション要 | 使用可能 | スキャン中 | スリープ | 機器の過熱 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| i500 |  | 該当なし |  |  |  |  |  |  |  |
| i600 |  |  |  |  |  |  |  | 該当なし |  |
| i700 |  |  |  |  |  |  |  | 該当なし |  |
| i700 wireless |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| i900 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

| モデル/状態 | 未接続 | 先端チップなし | 接続中 | 再起動 | キャリブレーション要 | 使用可能 | スキャン中 | スリープ | 機器の過熱 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| i900 classic |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| i900 Mobility |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

| モデル/状態 | 未接続 | 先端チップなし | 接続中 | 再起動 | キャリブレーション要 | 使用可能 | スキャン中 | スリープ | 機器の過熱 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| iE* |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

*iEスキャナーは、小チップをサポートしていません。

# ハブステータス

ワイヤレススキャナーを使用時に、以下のようにワイヤレスハブのステータスが表示されます。

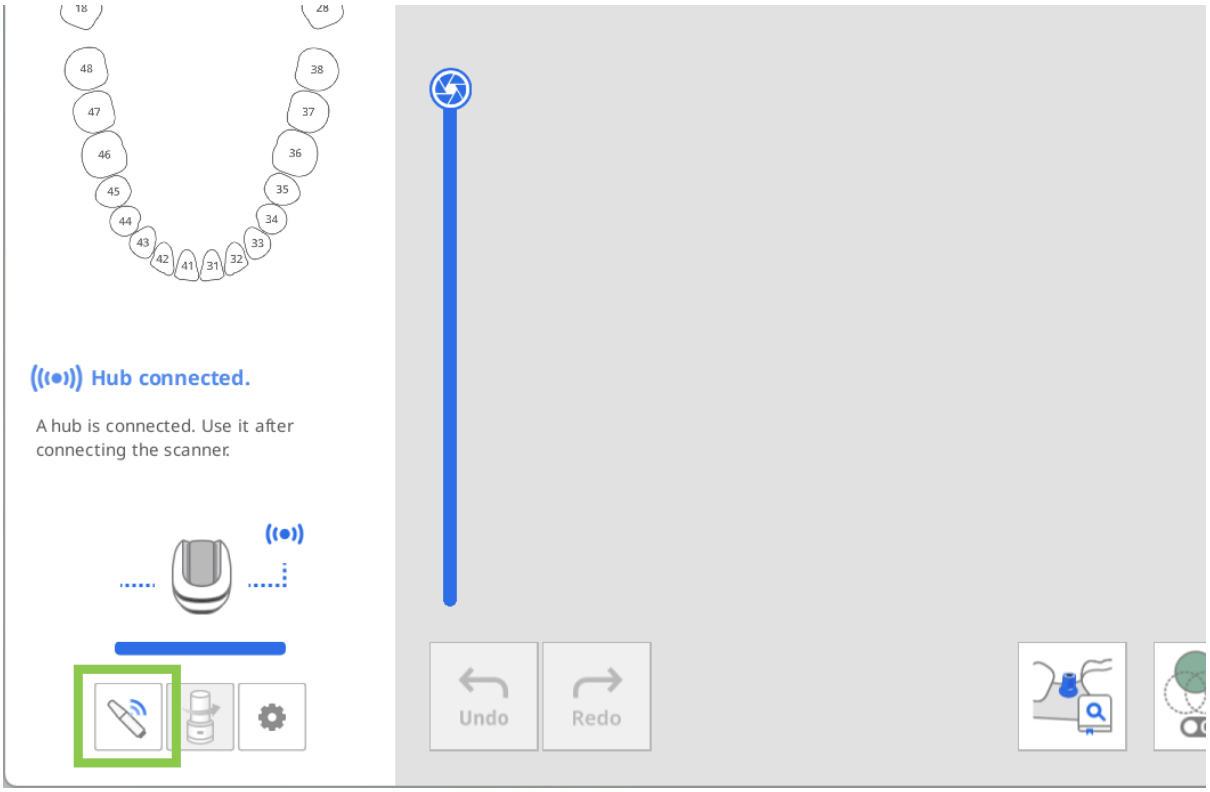
| 状態の説明 | i700 wireless | i900 Mobility |
|---|---|---|
| **ハブ接続済み：**<br>ハブはスキャナーに接続されています。 |  |  |
| **接続中：**<br>ハブはパソコンに接続中です。 |  |  |
| **接続解除完了:**<br>ハブはスキャナーから接続解除されています。 |  |  |

# ペアリングマネージャー（i700 wireless、i900 Mobility）

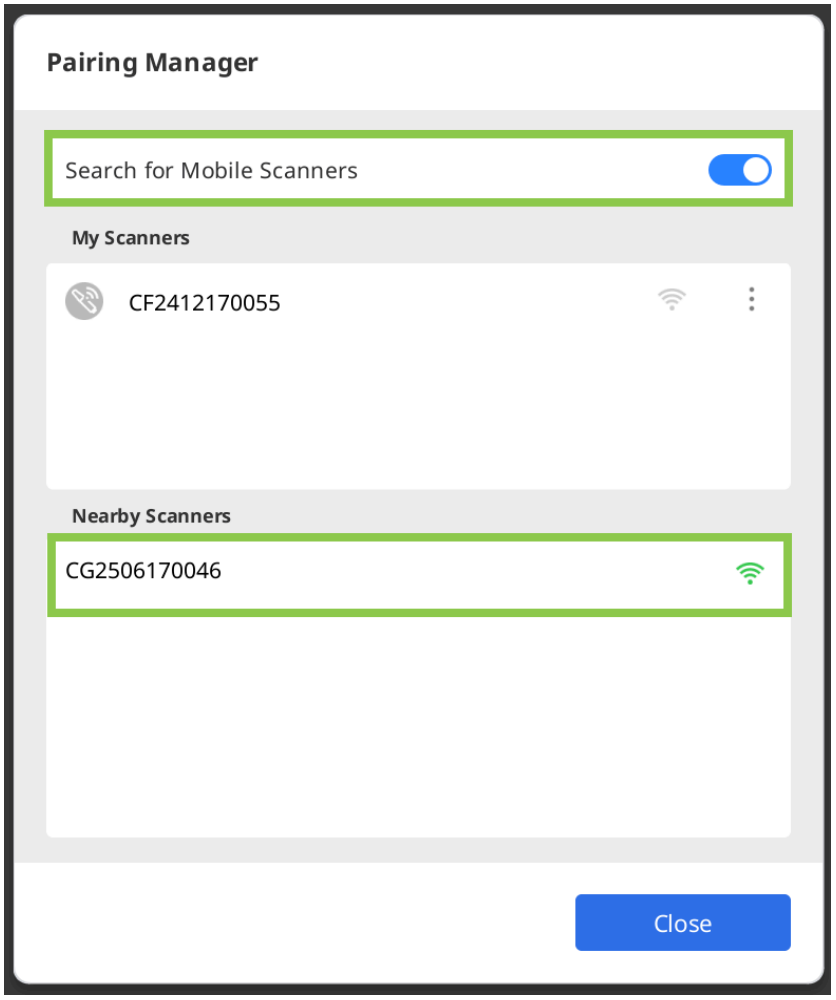
**i900 Mobilityのペアリング**

> 🔎**注意**
>
> ペアリングをスムーズに行うために、スキャナ設定で「モバイルスキャナーコネクタ」が有効になっていることを確認します。

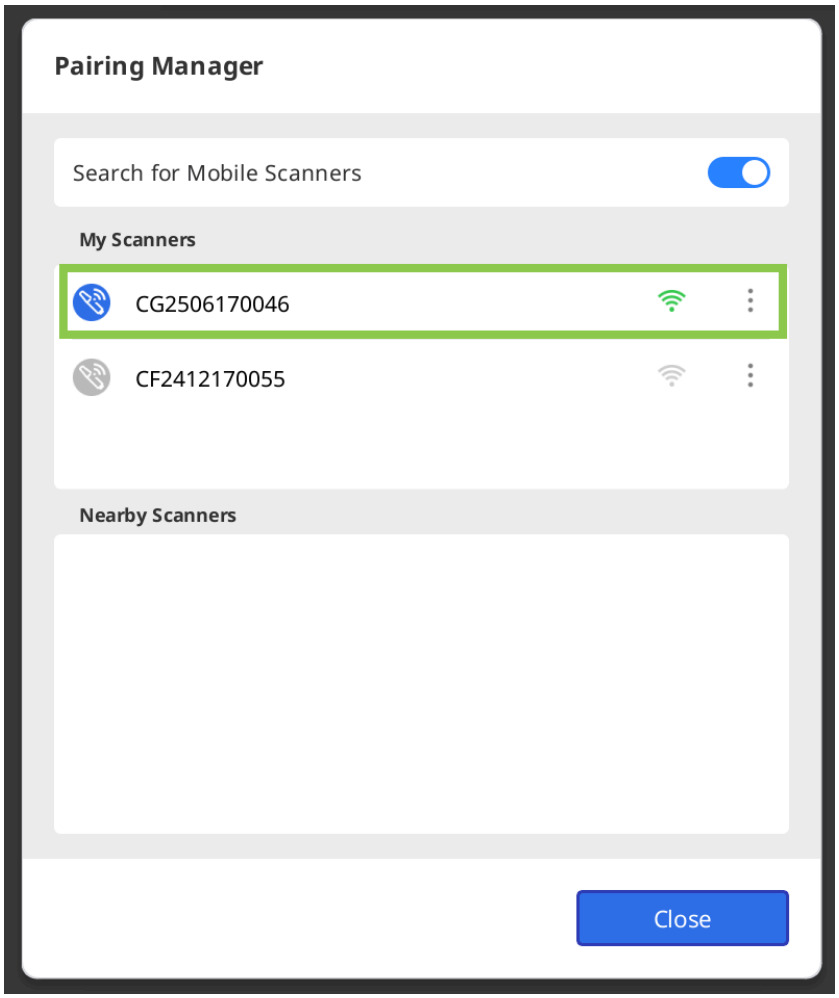
1. ご使用のパソコンにハブを接続し、接続されたら「ペアリングマネージャー」のアイコンが下の画像のように画面の左下隅に表示されます。



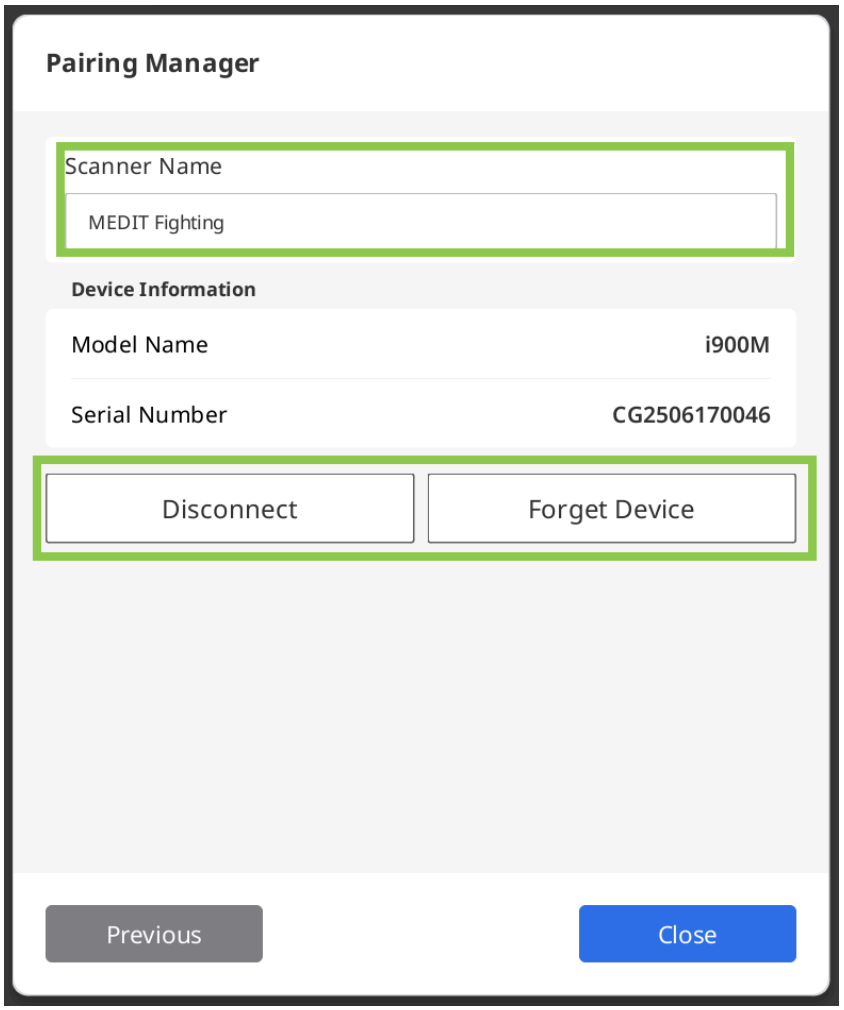

2. 「ペアリングマネージャー」を開き、「モバイルスキャナーを検索」トグルをオンにします。次に、スキャナーをオンにすると、近くのスキャナーセクションに表示されます。
   プログラムは近くにあるすべてのi900 Mobilityデバイスを自動的に検出します。シリアル番号で接続するスキャナーを指定し、クリックしてペアリングします。




3. スキャナーのペアリングが完了すると、記憶され次回にオンになると自動的に再接続されます。

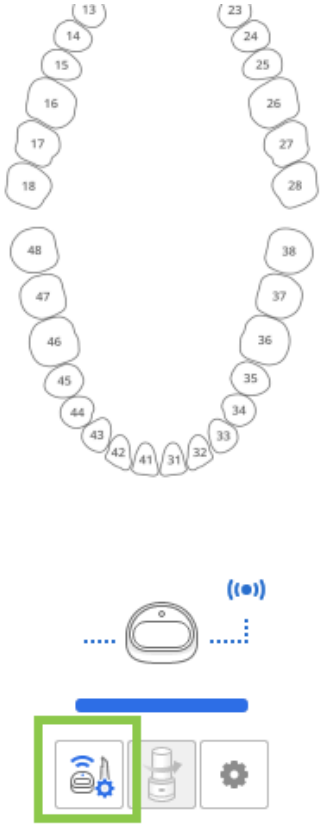


4. 複数台のスキャナーを使用している場合には、名前の横にあるメニューボタンを使用してそれぞれのスキャナーを管理できます。ボタンをクリックしてスキャナーの名前を変更（シリアル番号からカスタム名に変更するなど）し、接続を解除jまたはデバイスを忘れさせます。



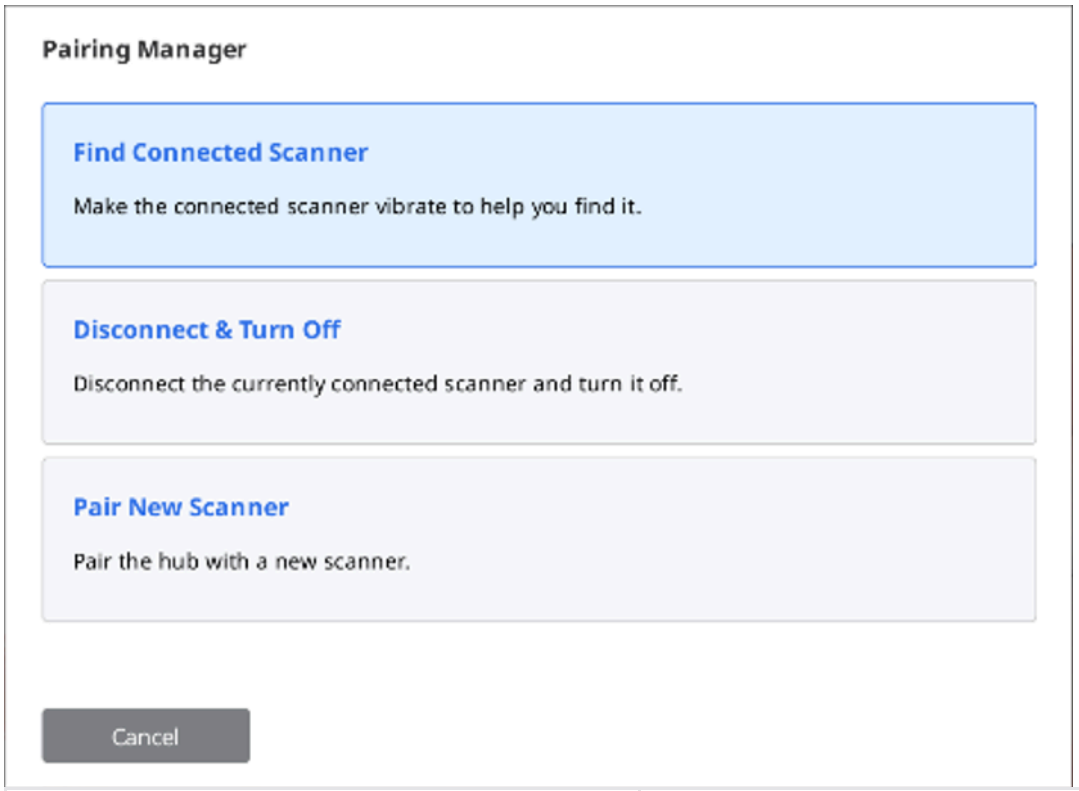

**i700 wirelessのペアリング**

1. ご使用のパソコンにハブを接続し、接続されたら「ペアリングマネージャー」のアイコンが下の画像のように画面の左下隅に表示されます。以前にペアリングしたスキャナーが近くにある場合には、自動的に接続されすぐにスキャンを開始できます。





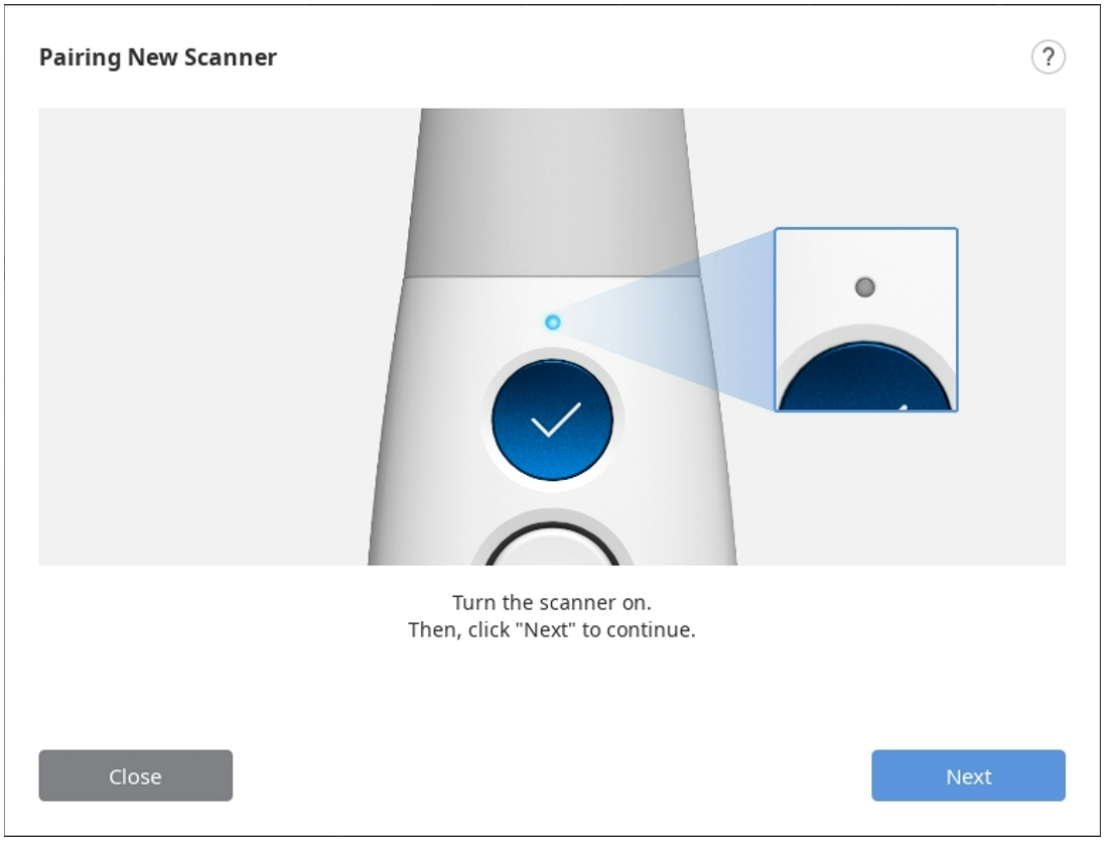
2. 「ペアリングマネージャー」を開き、すでにペアリングが完了したスキャナーとの接続をコントロールしたり、新規のスキャナーをペアリングしたりします。




| | |
|---|---|
| 接続済みスキャナーを探す | ペアリング済みスキャナーを振動させると、容易に探すことができます。 |
| 接続解除&オフ | 現在ペアリング済みのスキャナーの接続を解除し、オフにします。 |
| 新規スキャナーをペアリング | ワイヤレスハブを新規スキャナーとペアリングします。 |

3. 新規のスキャナー接続を手動で行うには、「新規スキャナーのペアリング」を選択し、画面上に表示される詳細な指示に従います。

> ⚠️**注意**
>
> ペアリング中の問題を避けるために、バッテリーは入れたままにし、ハブの接続を切らずスキャナーとハブ間の通信を中断させないようにしてください。また、ハンドピースの端を手で覆わないようにしてください。




4. スキャナーのペアリングが完了したら、左下隅のスキャナー接続状態を確認できます。

# Switch & Scan（i700 wirelessのみ）

切り替え&スキャンは、1台のスキャナーを2つ以上のワイヤレスハブに登録し、ハブ間で接続を切り替えできます。この機能を使用すると、部屋から部屋へスキャナーを運び、歯科医院のどのワイヤレスハブにも接続できます。

最初に、スキャナーとワイヤレスハブのデバイス情報を手動ペアリングで登録する必要があります。接続信号がどんなに強くても、未登録のスキャナーとワイヤレスハブはペアリング接続できません。

1. 切り替え&スキャン機能を使用する前に、ファームウェアが最新の状態になっていることを確認してください。

2. スキャナーにまだ接続していない新規ハブを接続する場合、新規ハブにスキャナーを登録するために手動でのペアリングが必要です。
3. 接続するスキャナーとハブの両方がオンになっていることを確認します。 Medit Scan for Clinicsを実行せずに、スキャナーとワイヤレスハブを接続できます。
4. コントロールボタンの中心を2秒以上押します。
5. スキャナーは短く3回振動します。これは、切り替え&スキャンを使用開始の準備ができたことを意味します。
6. ワイヤレスハブに正常に接続された場合、スキャナーは短く振動します。
7. プログラムを実行し、スキャンを開始します。

**⚠️注意**

- オープンな作業スペースに複数のワイヤレスハブがある場合、スキャナーは接続したいハブとは別のハブに接続される可能性があります。
- 2台のワイヤレスハブ間で接続を試みる場合、スキャナーは接続したいハブとは別のハブに接続される可能性があります。
- スキャナーが接続に失敗した場合、接続したいワイヤレスハブに近づき、コントロールボタンの中心を2秒以上押し、再度接続を試します。

# スキャナーのキャリブレーション

## 口腔内スキャナーのキャリブレーション

> 🔎**注意**
>
> デバイスを定期的にキャリブレーションすることをお勧めします。
>
> メニュー > 設定 > スキャナーに移動し、キャリブレーション期間（日）オプションでキャリブレーション期間を設定します。

正しいスキャンとデバイスの正常な性能のために、キャリブレーションを推奨します。

次の場合にスキャナーをキャリブレーションしてください。

- スキャンデータの質が、以前のスキャンに比較して低下している場合。
- デバイスの温度等の外部要因が使用中に変化した場合。
- すでに設定されたキャリブレーション期間を過ぎている場合。

> ⚠️**注意**
>
> キャリブレーションパネルは繊細なコンポーネントです。こちらに触らないでください。
>
> キャリブレーションが失敗した場合には、パネルを調べて、汚れている場合にはサービス販売会社にご連絡ください。

キャリブレーション中のスキャナーの温度がスキャン中の温度と同程度であれば、スキャンデータの精度が上がることにご留意ください。

キャリブレーションする前にスキャン中と同程度の温度になるようにスキャナーをウォームアップしましょう。

## キャリブレーションの方法（i500、i600、i700、i700 wireless）

i700でのキャリブレーショ方法は以下の通りです。 i500/i600/i700 wirelessのような他のスキャナーモデルは同じようにキャリブレーションできます。 i900/i900 classic/iEをキャリブレーションする場合には、以下の対応するセクションをご参照ください。

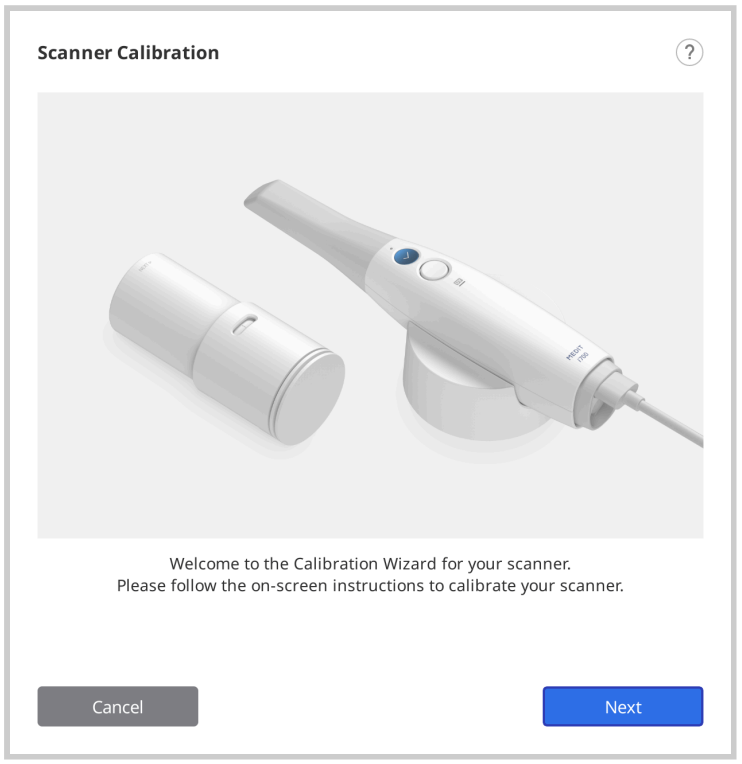
> 🔎**注意**
>
> スキャナーのスキャンボタンを押して、「次へ」または「完了」を選択できます。

1. スキャナーをオンにして、スキャナーをソフトウェアに接続します。
2. プログラムの左下隅にある「キャリブレーション」アイコンをクリックします。

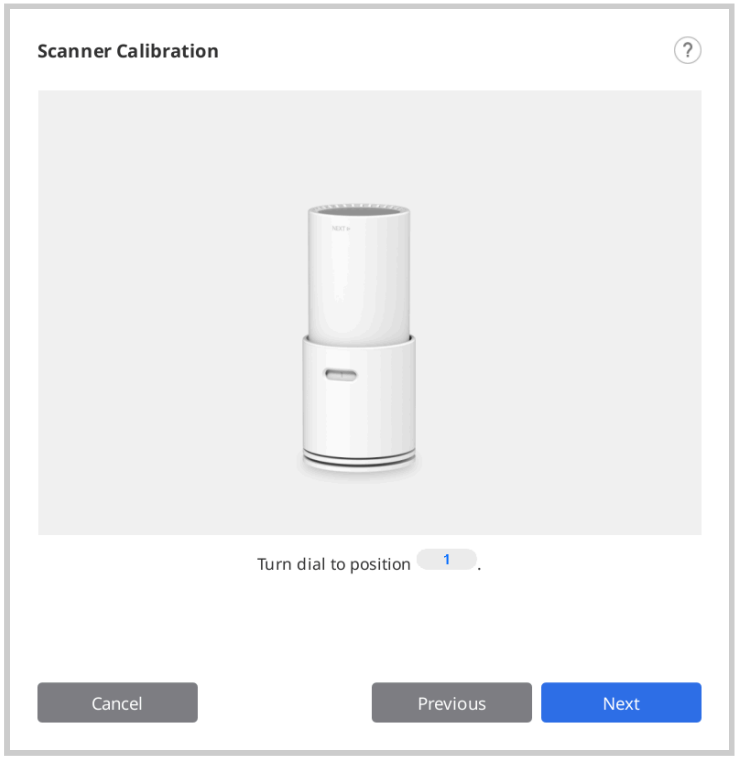
> キャリブレーションツールにスキャナーを差し込むだけでキャリブレーションが開始されます。 （i500では利用できません）



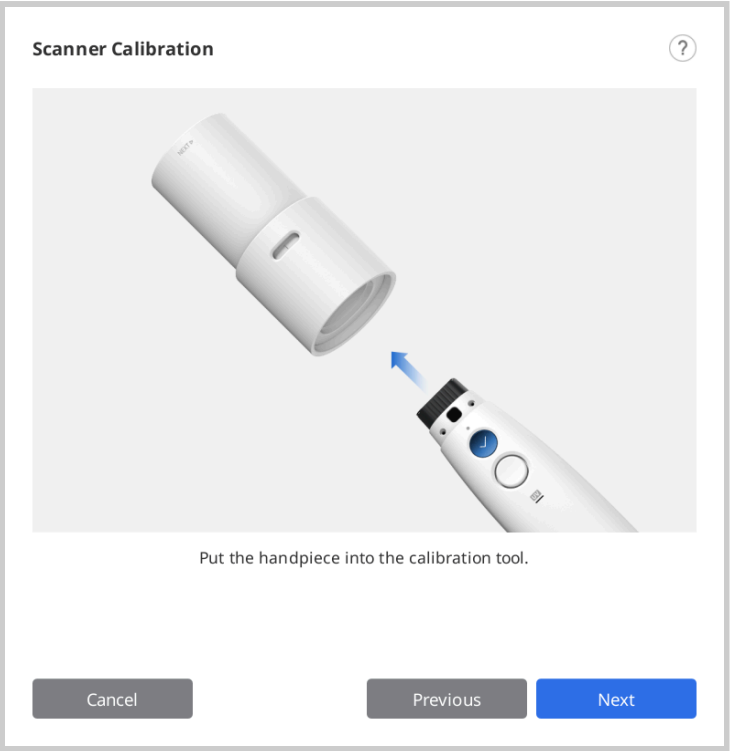
3. キャリブレーションツールの準備をし、「次へ」をクリックし、キャリブレーションプロセスを開始します。



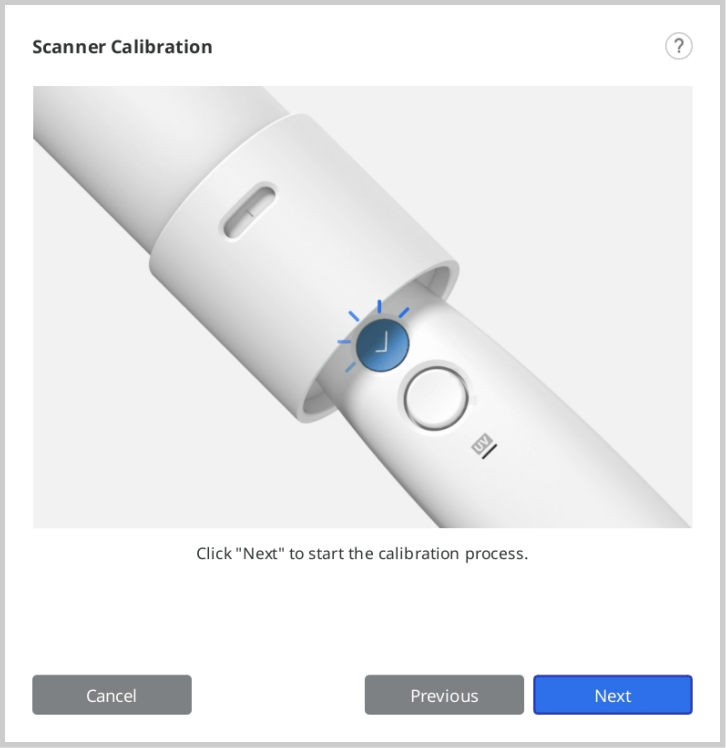

4. キャリブレーションツールのダイヤルを1に設定します。



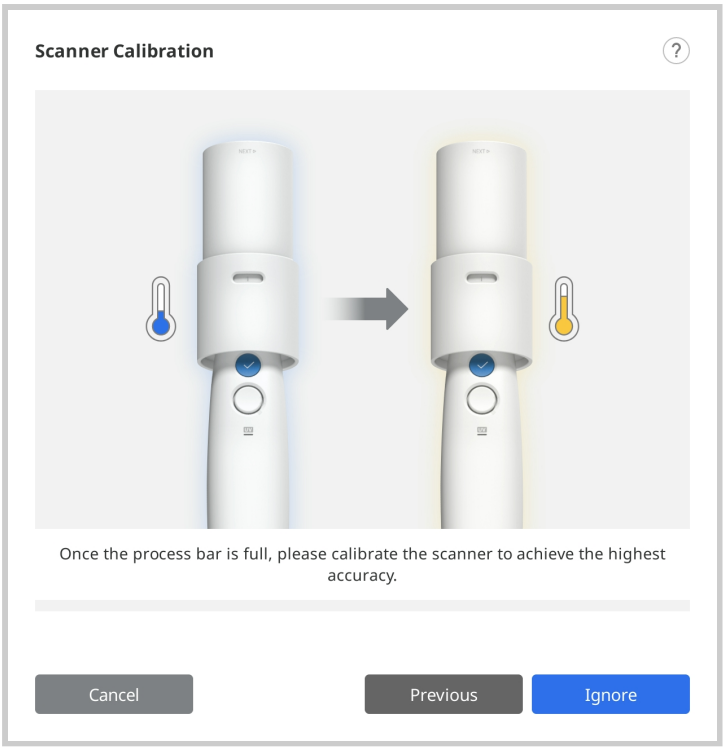
5. ハンドピースをキャリブレーションツールに挿入します。



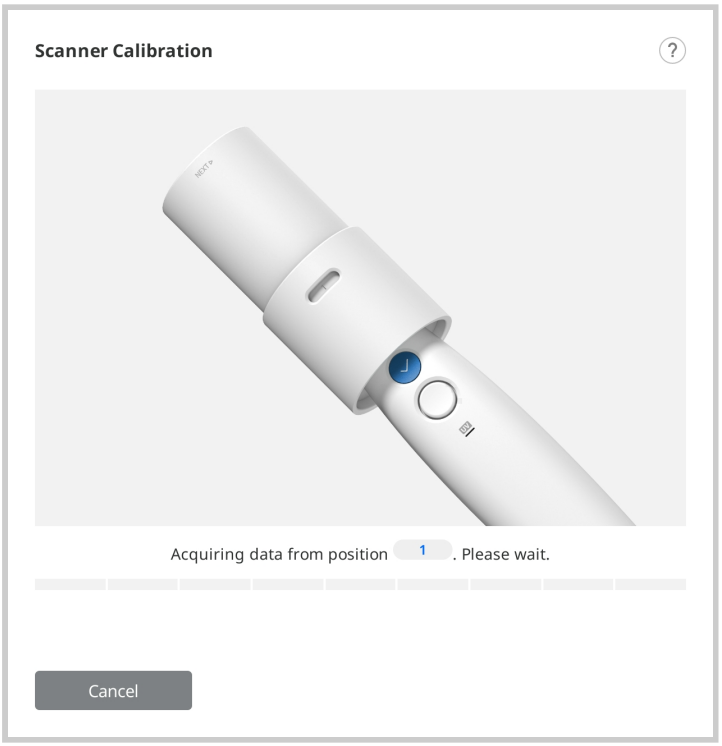

6. 「次へ」をクリックしてキャリブレーションを開始します。



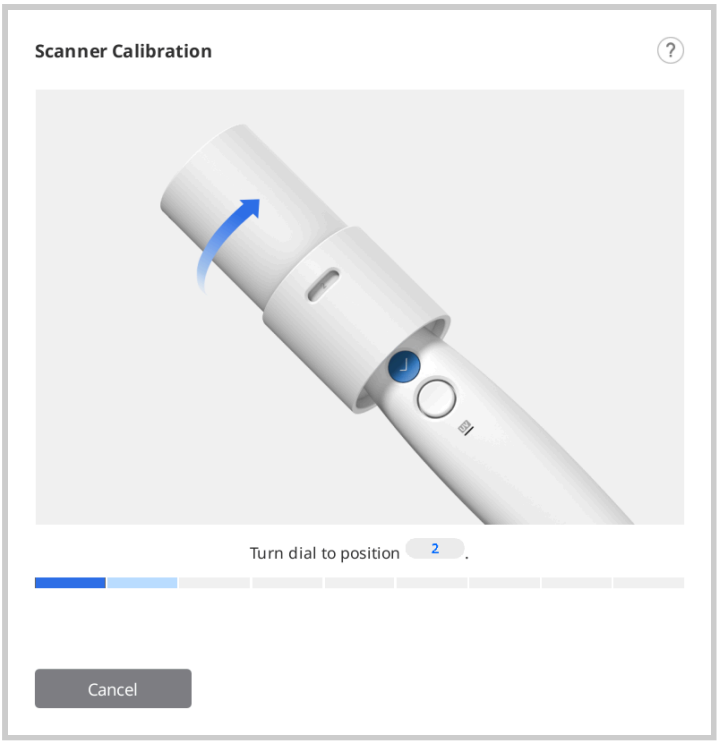

7. スキャナーの温度が低すぎる場合は、最適なパフォーマンスを確保するために予熱が必要です。



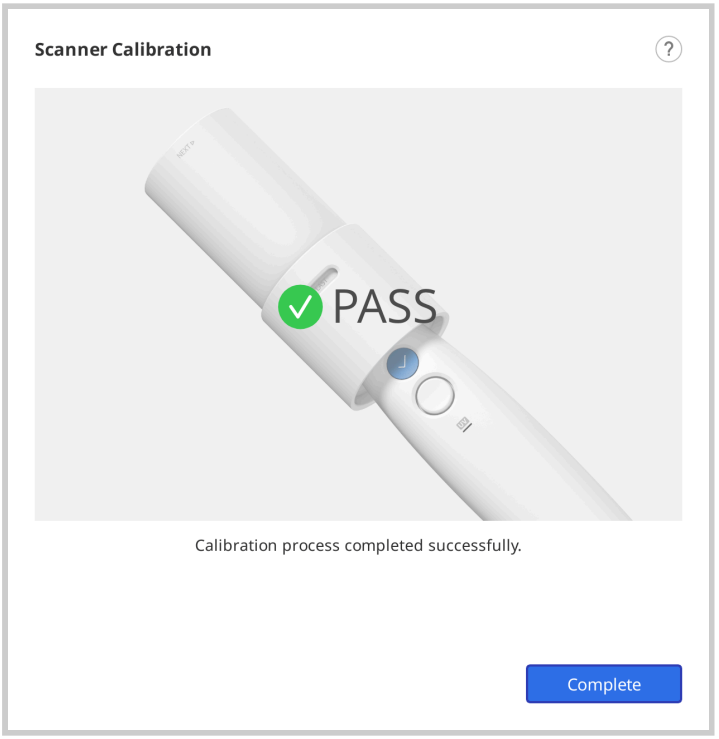

8. ハンドピースが正しく取り付けられている場合、システムは1の位置で自動的にデータを取得します。




9. 1でのデータ取得が完了後に、画面の指示に従って次の位置にダイヤルを回します。




10. 2から8の位置まで上記のプロセスを繰り返し、LASTの位置にします。
11. LASTのダイヤル位置でデータ取得が完了すると、キャリブレーションの結果が表示されます。




## キャリブレーションのやり方（i900、i900 classic、i900 Mobility、iE）

i900でのキャリブレーショ方法は以下の通りです。他のスキャナーモデルについては、キャリブレーション方法（i500、i600、i700、i700 wireless）をご参照ください。

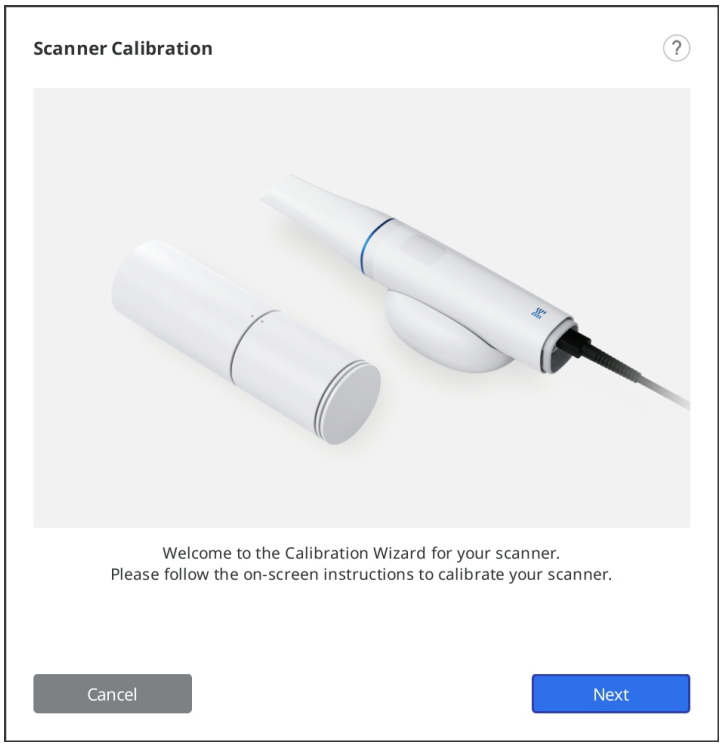
1. スキャナーをオンにして、スキャナーをソフトウェアに接続します。

2. プログラムの下部左側にある「キャリブレーション」アイコンをクリックし、キャリブレーションウィザードを実行します。

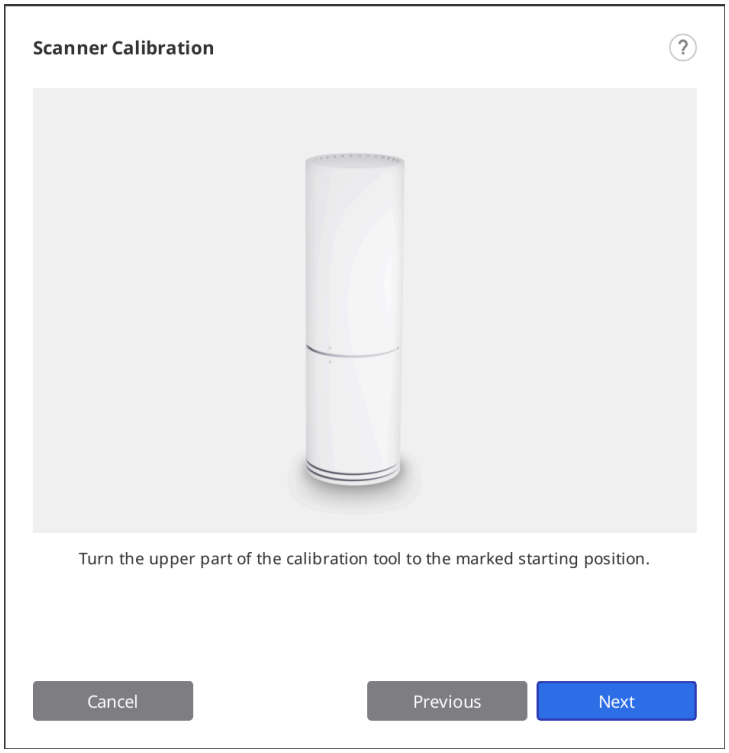
> キャリブレーションツールにスキャナーを差し込むだけでキャリブレーションが開始されます。



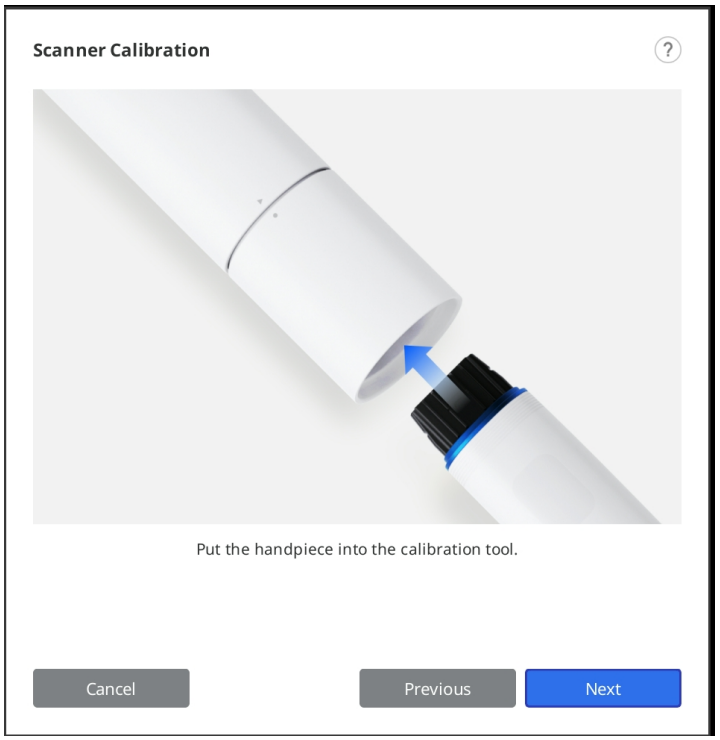
3. キャリブレーションツールの準備をし、「次へ」をクリックし、キャリブレーションプロセスを開始します。



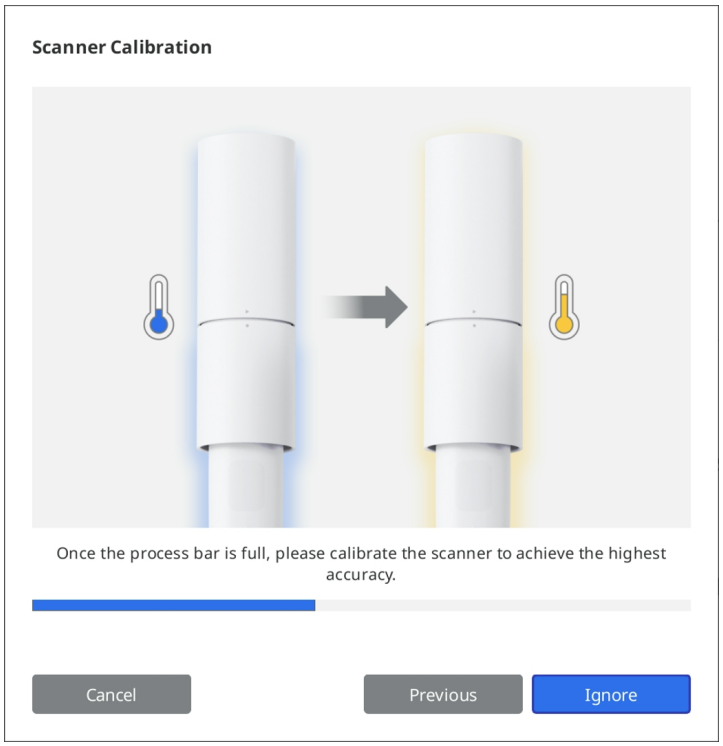

4. キャリブレーションツールのダイヤルを開始位置に設定します。



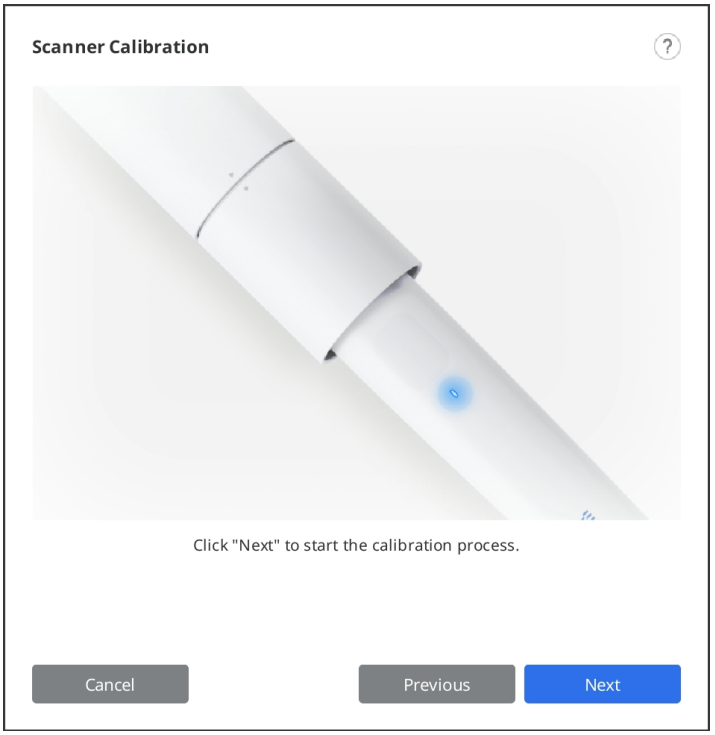
5. ハンドピースをキャリブレーションツールに挿入します。



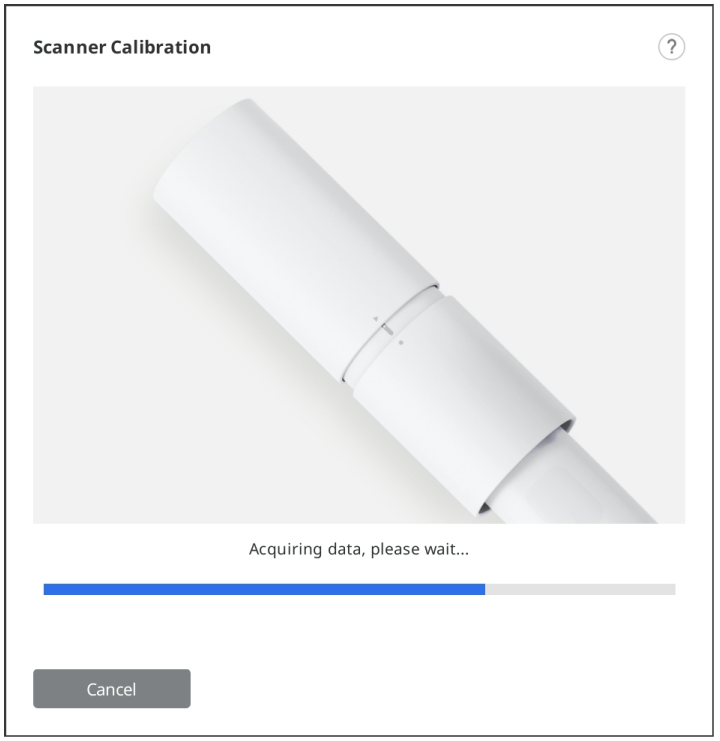

6. 「次へ」をクリックしてキャリブレーションを開始します。
7. スキャナーの温度が低すぎる場合は、最適なパフォーマンスを確保するために予熱が必要です。



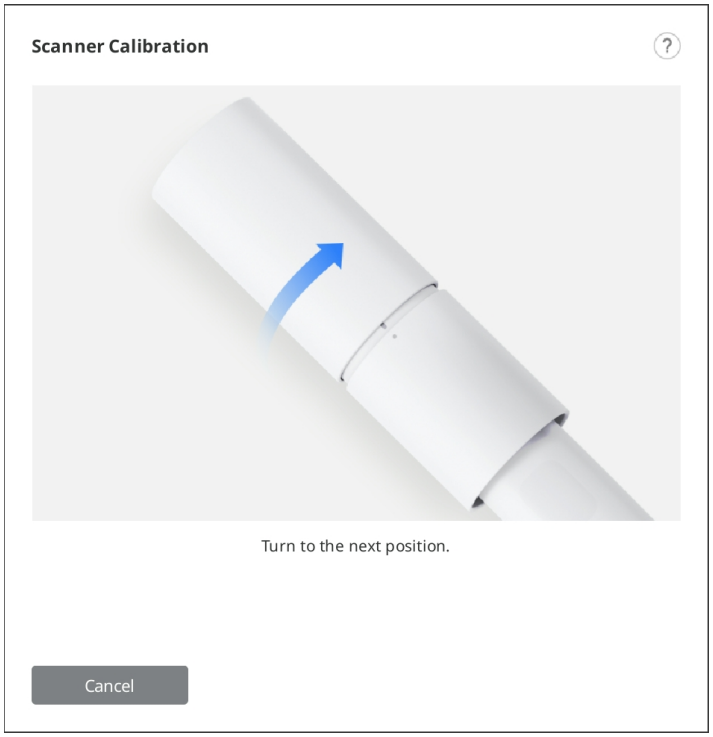

8. 「次へ」をクリックすると、キャリブレーションプロセスが開始されます。



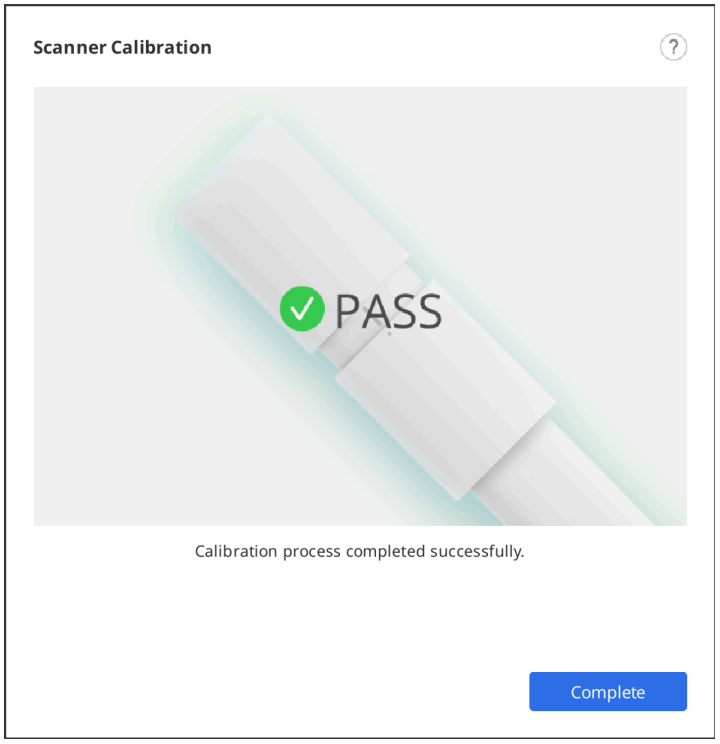

9. ハンドピースが正しく取り付けられている場合、システムは自動的にデータを取得します。




10. 開始位置でのデータ取得が完了後に、画面の指示に従って次の位置にキャリブレーションツールを回します。

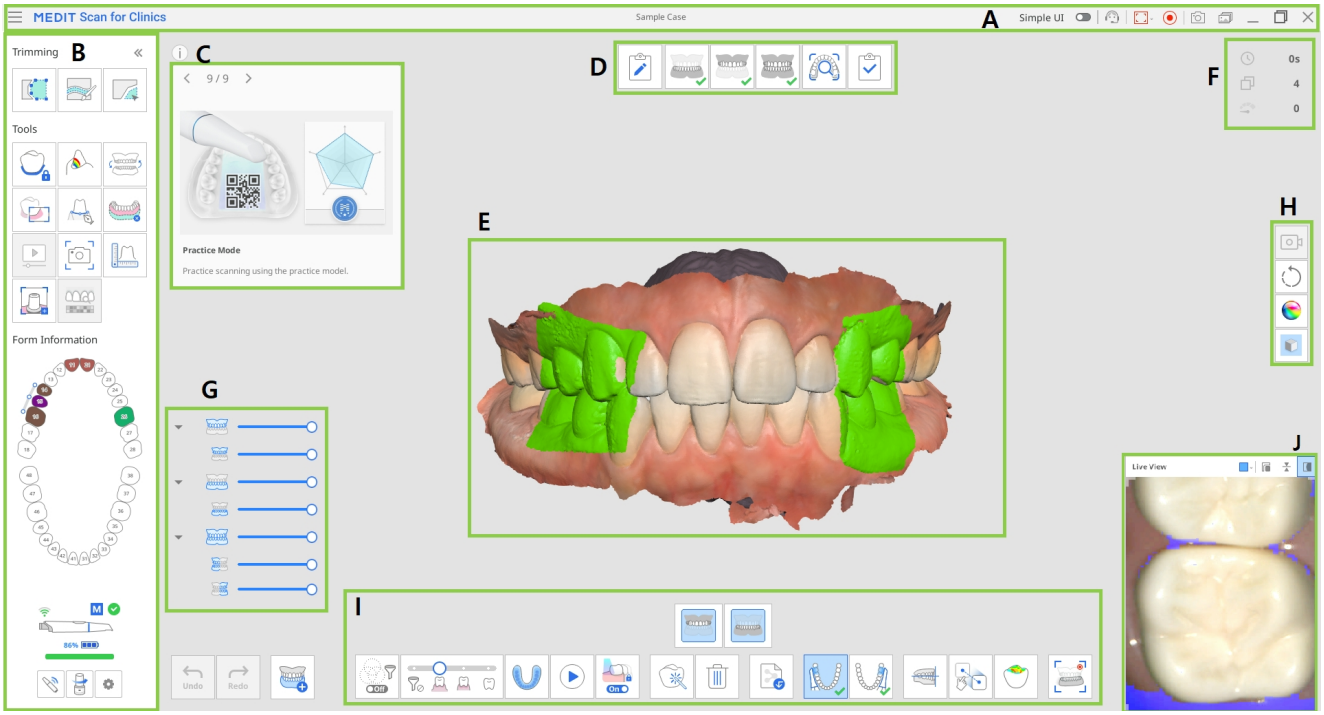



11. 上記の手順を最後の位置まで繰り返します。
12. 最後のダイヤル位置でデータ取得が完了すると、キャリブレーションの結果が表示されます。



# ユーザーインターフェース

## 概要

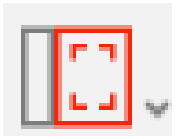



| | |
|---|---|
| A | タイトルバー |
| B | メインツールバー |
| C | 情報ボックス |
| D | 工程（ワークフロー） |
| E | 模型ビュー |
| F | スキャン情報 |
| G | データツリー |
| H | サイドツールバー |
| I | スキャン工程ツールバー |
| J | ライブビュー |

> 🔎**注意**
>
> macOS上ではタイトルバーが異なるように見え、画像が画面解像度に従い、異なるサイズで表示される場合があります。

# タイトルバー

タイトルバーは、次のオプションで構成されます。

| | | |
|---|---|---|
|  | メニュー | 保存、設定、ユーザーガイド、ソフトウェアについてなどの基本的なプログラム機能を提供します。 |
|  | 簡易UI | 簡易ユーザーインターフェースに切り替えるトグルボタンです。 |
|  | 技術サポートへのお問い合わせ | サポートリクエストを提出できる、ヘルプセンターページに移動します。 |
|  | 動画の録画領域を選択 | 動画を録画する画面領域を選択します。<br>プログラムの全ウィンドウまたは3Dデータが表示されている領域のみを録画できます。 |
|  | 動画録画の開始／停止 | 動画撮影を開始または停止します。<br>撮影された動画ファイルは患者、歯科医院、技工所間のやり取りに役立ちます。 |
|  | スクリーンショット | 全画面またはスキャンソフトウェアの3Dデータ表示領域だけを撮影します。<br>撮影済み画像ファイルは患者、歯科医院、技工所間でのやり取りに役立ちます。 |
|  | 画面撮影の画像マネージャー | 撮影済み画像を管理します。<br>スクリーンショットは自動的にMedit Linkに保存。<br>スクリーンショットは削除またはローカルPCにJPG、JEP、PNG、BMP形式で保存できます。 |

「メニュー」アイコンをクリックすると、次のオプションが表示されます。

| | | |
|---|---|---|
|  | 保存 | 現行ケースのすべての変更を保存します。 |
|  | 設定 | スキャンオプション等の環境設定のオプションを表示します。 |
|  | ユーザーガイド | ユーザーガイドを開きます。 |
|  | 弊社について | ソフトウェアプログラム、スキャナー、会社概要の詳細情報を提供します。 |

# メインツールバー

メインツールバー上のツール使用方法については、メインツールバーツールを参照してください。

# フォーム情報

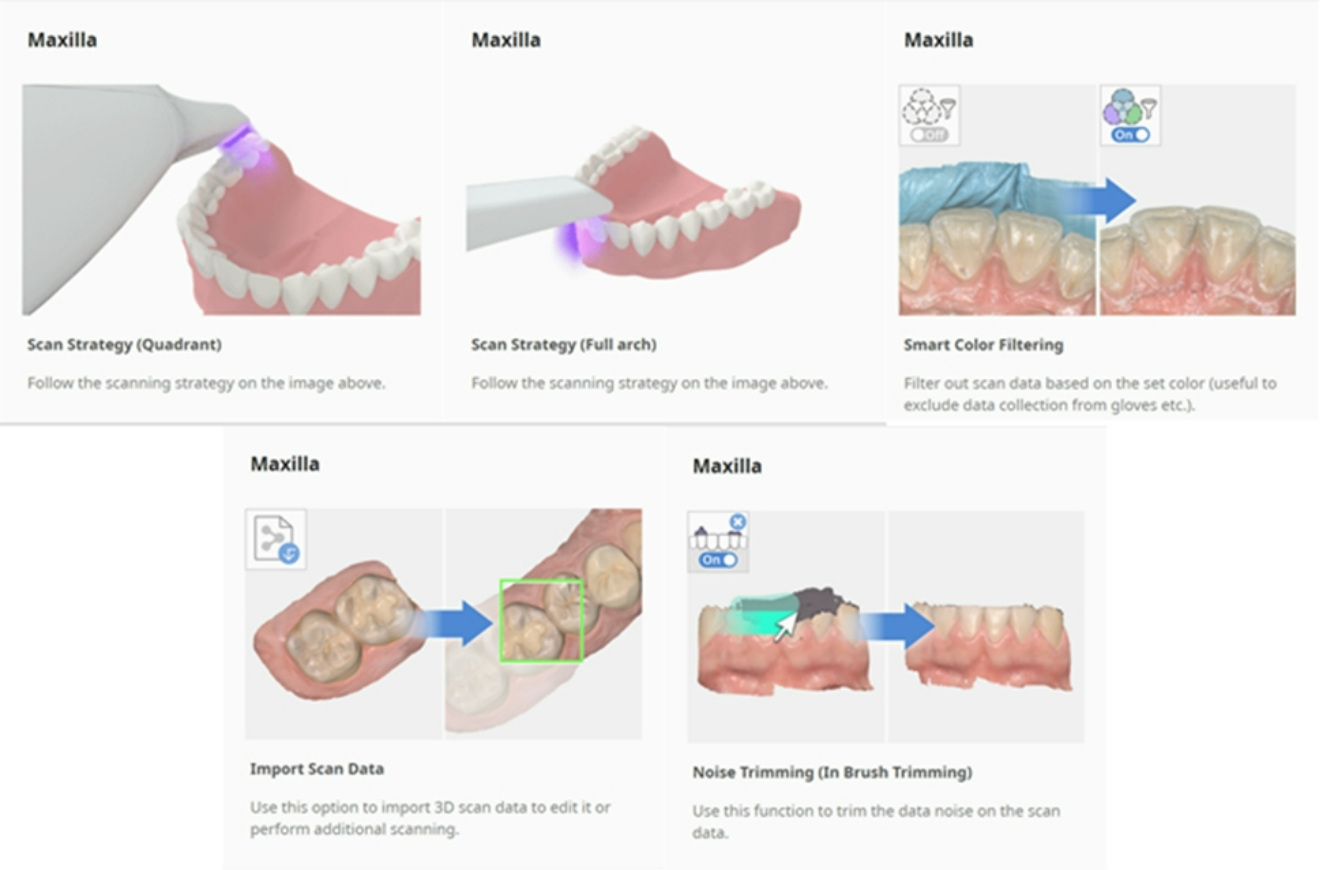
Medit Linkから登録されるフォーム情報は、治療に必要な歯に関する概要を提供します。




# 情報ボックス

スキャンおよび編集処理には、主な機能の説明やこの工程で役立つツールの紹介をする短い説明と視覚的補助が伴います。

一般のスキャン工程の場合は、さまざまな機能を表示するように無作為の順序で情報が表示されます。



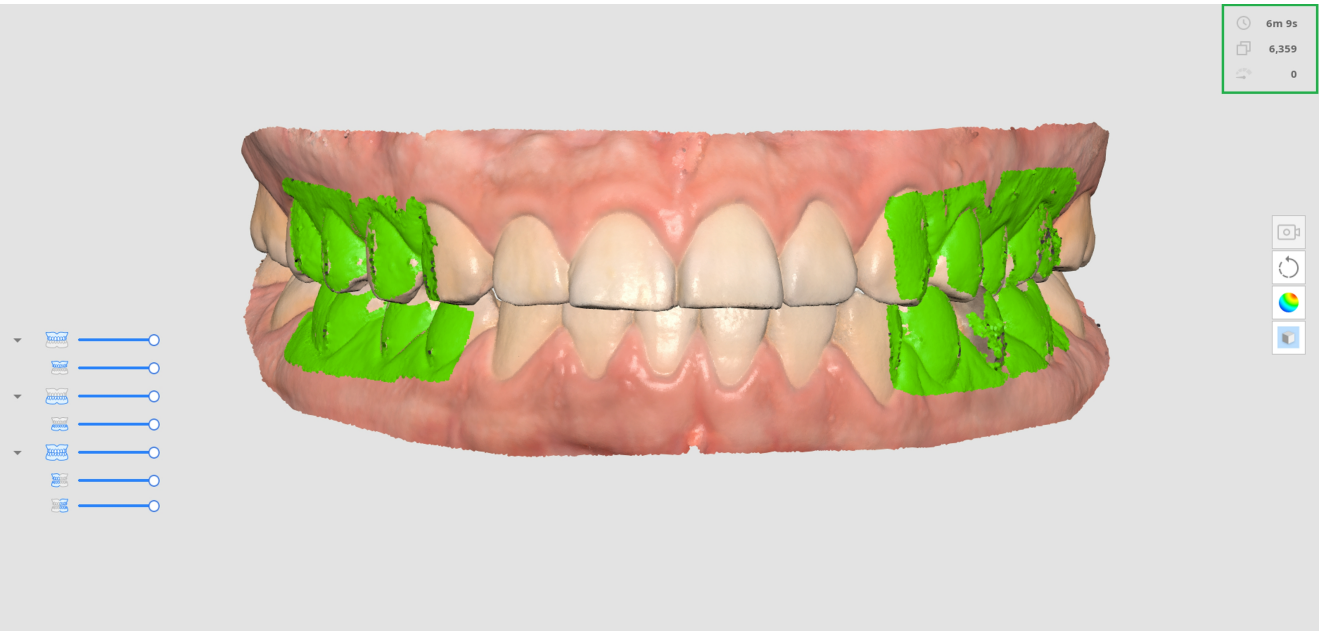

# スキャン工程

スキャンのワークフローの設定についての詳細情報については、工程管理をご参照ください。

# 模型ビュー

ケースで選択した工程に対応するスキャンデータは、3Dデータ表示領域に表示されます。スキャン中にリアルタイムで領域で取得したデータを確認することもできます。

# スキャン情報

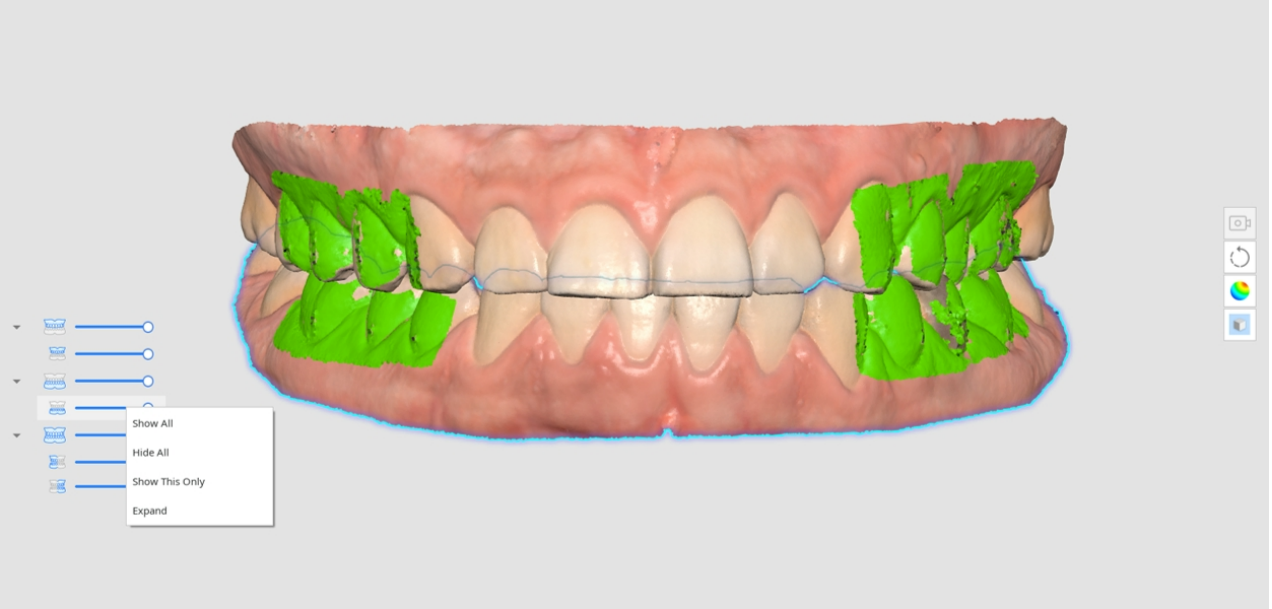



| | | |
|---|---|---|
| | スキャン時間 | 各スキャン工程およびすべてのスキャン工程でスキャンに要した時間を示しています。 |
| | フレーム数 | 各スキャン工程およびすべてのスキャン工程でスキャンした画像数を示しています。 |
| | スキャン速度 | 現在のスキャン速度を示しています。 |

# データツリー

概要工程でデータツリーではデータ表示オプションを調整できます。

- データツリー上で右クリックすると次のオプションを表示できます。




  - すべて表示
  - すべて非表示
  - これのみを表示する
  - 拡大／縮小
- スライダーバーを使用して、各データの不透明度を調整します。
- 各データのアイコンにマウスを合わせると、対応領域をハイライトします。検査したいデータを簡単に差別化し、検査することができます。

# サイドツールバー

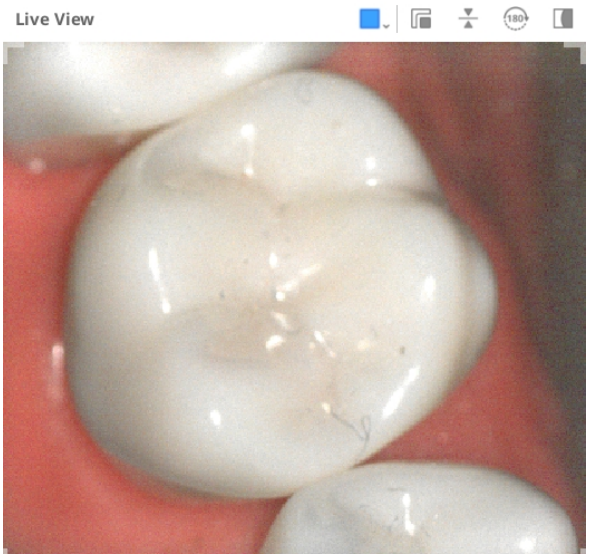
サイドツールバーのツールの詳細情報については、サイドツールバーツールを参照してください。

# スキャン工程ツールバー

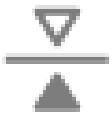
各工程の画面下部に表示されるツールの使用情報については、スキャン工程ツールを参照してください。

# ライブビュー

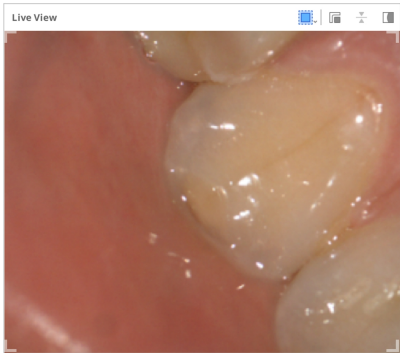
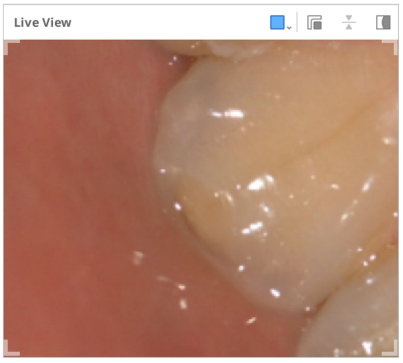
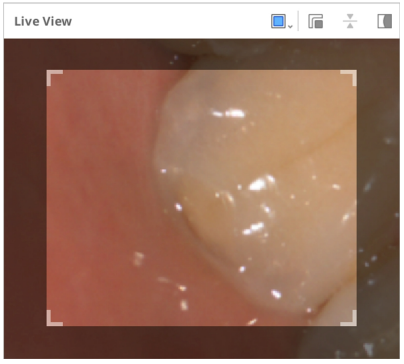
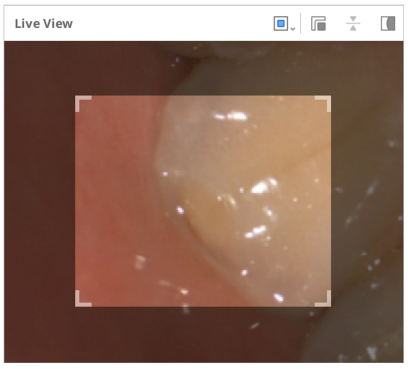
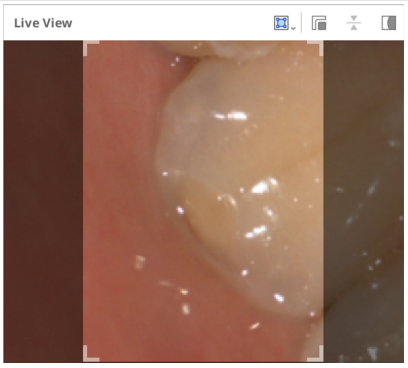
ライブビューウィンドウでは、スキャナーから取得した2D画像が表示され、役にたつツールが提供されます。




以下のツールはライブビューウィンドウのタイトルバーで提供されます。

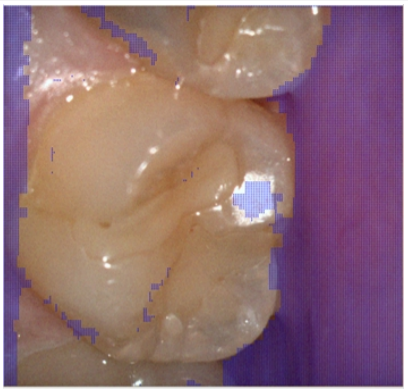
| | | |
|---|---|---|
|  | カスタムスキャン領域 | スキャンデータを取得する領域を調整します。<br>既定のモードを選択したり、領域を調整したりできます。 |
|  | ライブビューウィンドウの分離 | 固定位置からライブビューウィンドウを切り離します。<br>ウィンドウを切り離すと、ウィンドウサイズを変更できます。 |
|  | ライブビューウィンドウのリセット | ライブビューウィンドウをデフォルト位置とサイズに戻します。 |
|  | 画像の反転 | スキャンデータを上下逆にします。<br>これは、患者の頭頂部から口腔内スキャンを実施する場合に役に立ちます。 |
|  | 180°回転 | 180°スキャンデータを回転させ、患者の歯を見ている方向に画面の歯データの方向に合わせます。 |
|  | マスキングの表示／非表示 | スキャンできない領域の可視性をオンまたはオフにします。<br>スキャンできない領域は青くマスキングして表示されます。 |

「カスタムスキャン領域」アイコンをクリックすると以下のオプションが表示されライブビュー画面サイズを設定できます。

| 大 | 標準 |
| --- | --- |
|  |  |
| **小** | **極小** |
|  |  |
| **カスタム** | |
|  | |

> 🔎**注意**
>
> ライブビュー画面のより大きなサイズは、i900、i900 classic、i900 Mobility、iEのモデルでのみ使用できます。

「マスキングの表示／非表示」アイコンをクリックすると、以下のようにスキャンできない領域が表示または非表示されます。

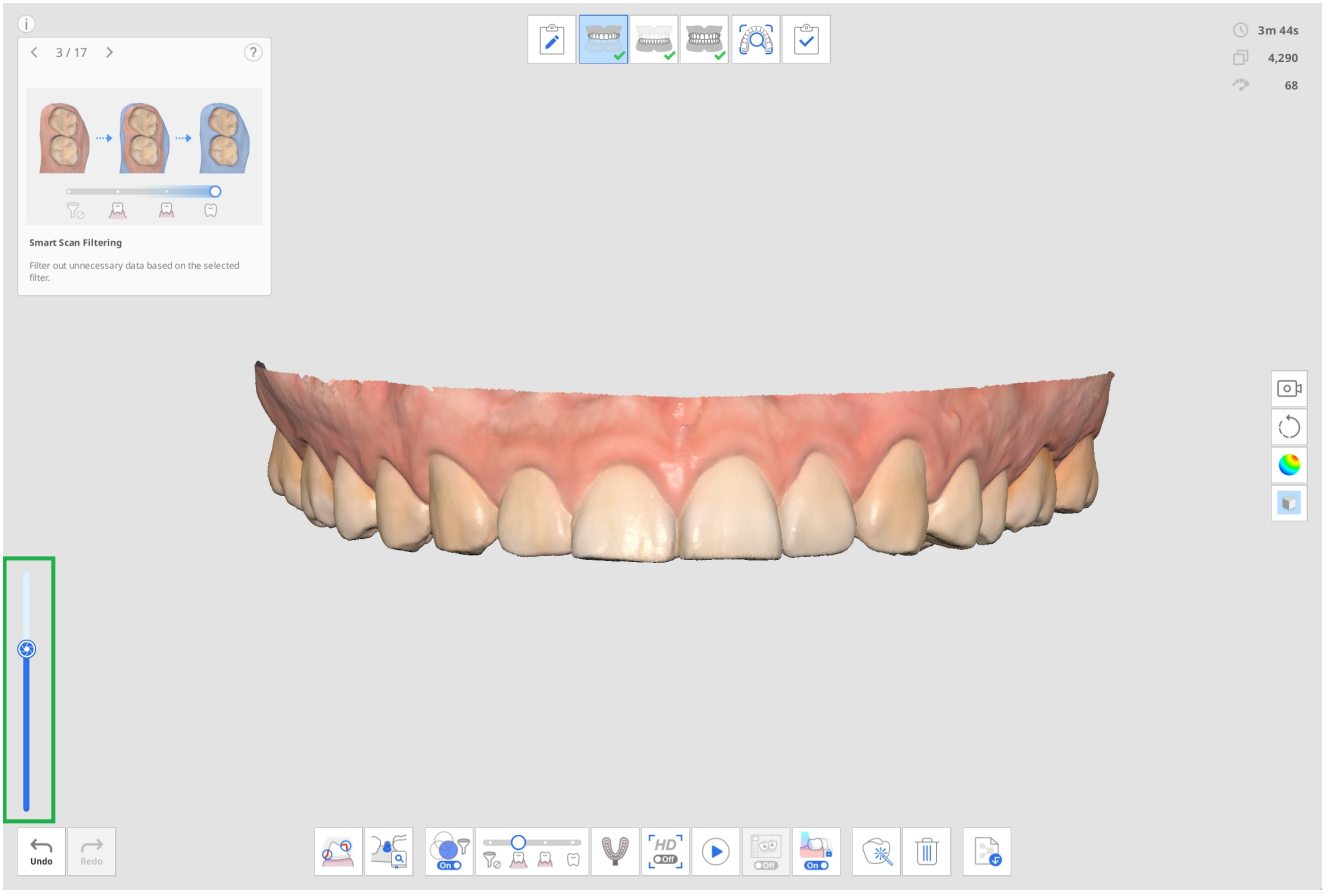
| マスキングの表示 | マスキングの非表示 |
| --- | --- |
|  |  |

# スキャン深度

スキャン深度はスキャナータイプに従い、以下のように調整できます。

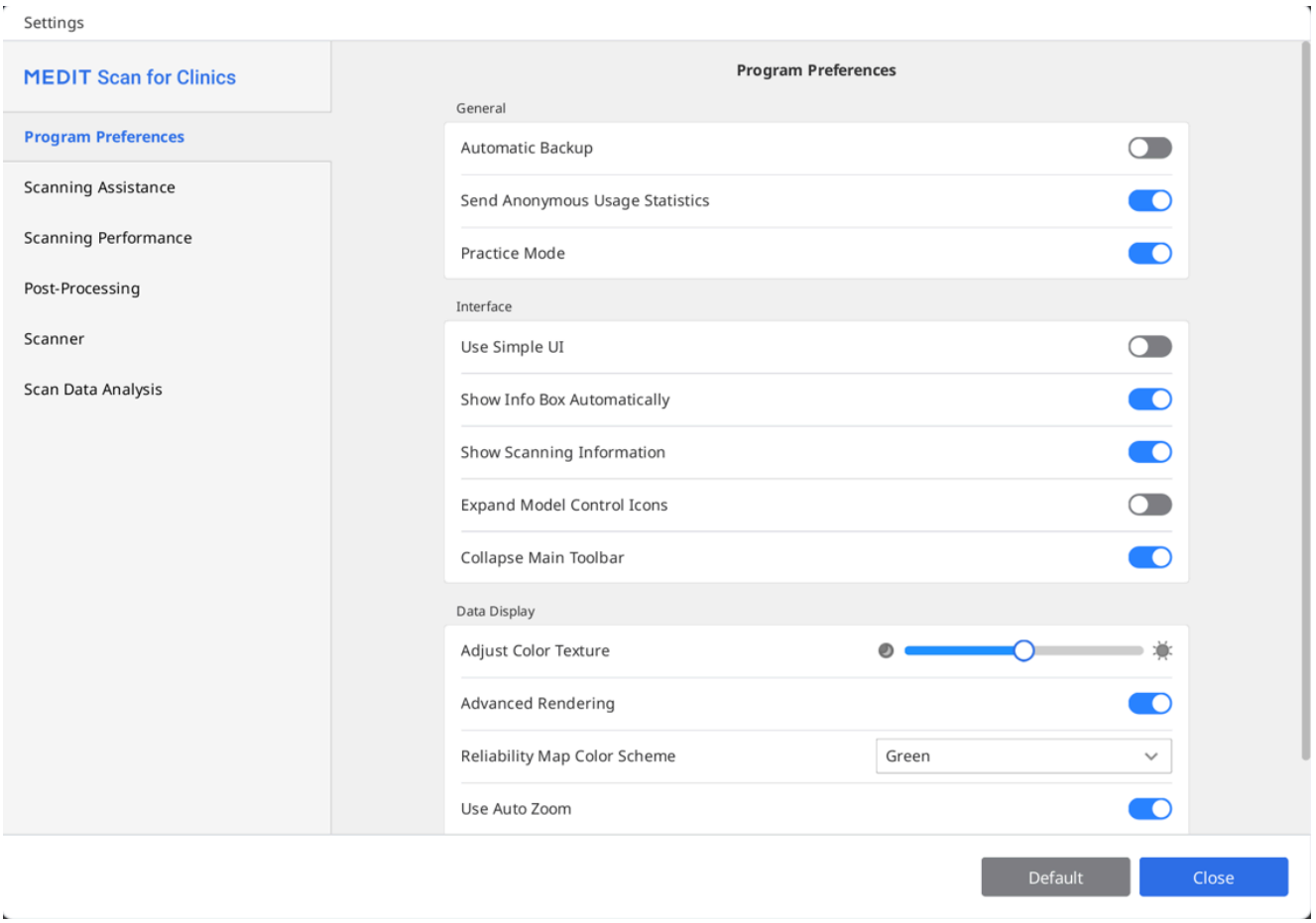
- i500：12mm～21mm
- i600、i700、i700 wireless：12mm～23mm
- i900、i900 classic、i900 Mobility、iE：12mm～30mm

深めのスキャン深度は、ほぼすべての通常スキャン作業に適用できます。浅めのスキャン深度は、不要な軟部組織等のノイズの多いデータを除去したい場合に役に立ちます。



# 設定

メニュー > 設定に移動し、Medit Scan for Clinicsの設定ダイアログを開きます。




> 🔎**注意**
>
> 「デフォルト」ボタンをクリックすると、すべての設定パラメータがデフォルト値にリセットされます。

# プログラム設定情報

## 一般

| | |
|---|---|
| 自動バックアップ | 現在の作業を一時的に保存します。<br>プログラムが保存せずに予期せず停止した場合、バックアップデータが復元のために使用されます。 |
| 匿名の使用統計情報を送信 | Meditに匿名の使用統計情報を送信するかどうかを設定します。 |

| | |
|---|---|
| | **匿名の統計値を集計**<br>Meditは、常に製品の改善を目指し、次のような情報を収集しています。<br>• OS、グラフィックカード等のハードウェアとソフトウェア構成。<br>• ソフトウェアの使用の頻度やパーフォマンスなどのパターンや傾向。<br>• 診断用情報。<br>使用に関する統計値は開発チームがユーザーの必要条件をより良く理解し、今後のリソースでの改善をするために役立てられます。ユーザーの氏名、会社名、macアドレスやその他の個人を特定できる情報等の個人情報は収集することはありません。ユーザーのプロジェクトに関する特定の詳細情報を探し出すために収集したデータをリバースエンジニアすることはできませんし、することはありません。 |
| 練習モード | 練習用模型を使用しているユーザー用にスキャンの練習を提供します。<br>このオプションが有効の場合、取得済みスキャンデータがない場合の フルスクリーン上に「練習モード」バナーが表示されます。<br>* i500では利用不可 |

# インターフェース

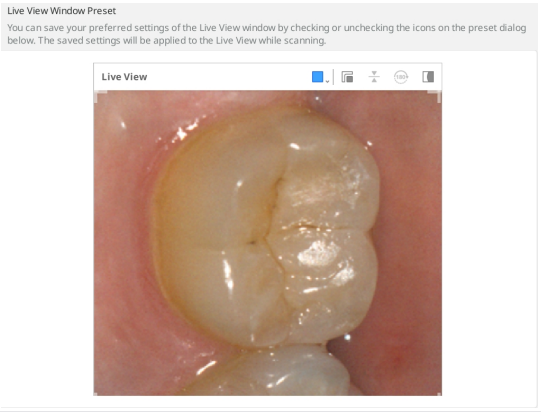
| | | |
|---|---|---|
| 簡易UIの使用 | オンの場合、プログラムはデフォルトのインターフェースから簡易インターフェースに切り替わります。<br>簡易インターフェースではスキャンデータを取得し処理するための最小限の機能が提供されます。 | |
| 情報ボックスを自動表示する | オンの場合、プログラムで作業中にウィンドウの上部左隅に情報ボックスが自動的に表示されます。 | |
| スキャンパラメータを表示 | スキャン時間 | 各工程のスキャン時間また合計スキャン時間を表示します。 |
| | フレーム数 | 各工程のスキャナーで撮影した画像数または合計数を表示します。 |
| | スキャン速度 | 現在のスキャン速度を表示します。 |
| 画面操作ボタン拡張 | オンの場合、パン、回転、拡大／縮小、ズームフィットの3D模型コントロールアイコンがサイドツールバーに追加されます。 | |
| メインツールバーを折りたたむ | デフォルトで右側にあるメインのツールバーを折りたたみます。 | |

# データ表示

| | |
|---|---|
| 色テクスチャの調整 | 3D模型の明るさを調整します。<br>3D模型の色は画像取得ソフトウェアに合わせて最適化されます。<br>他のソフトウェアを使用してデータを表示している場合には、結果の表示カラーは、画像取得ソフトウェアによって異なります。 |
| 高度なレンダリング | 高度なテクノロジーが適用された鮮明な3Dデータが表示されます。 |
| 視覚化方式 | ボクセル値：ボクセル値としてデータを表示します。これは、スキャンを未加工のブロック構造で表示します。これは、スキャンの範囲、密度、スキャンを追加する必要がある領域をチェックするのに便利です。 |
| | メッシュ：データをより連続性のあるメッシュ面として表示します。対象をより滑らかに、よりリアルな状態で表示し、模型の仕上がりの予測をより正確にできるようになります。 |
| 信頼性マップカラースキーム | 緑色、青色、黄緑色で信頼度データの色を設定します。 |
| 自動拡大を使用 | オンの場合には、拡大鏡の調整は現在のスキャンデータのサイズに従って自動的に設定されます。 |
| 拡大鏡を調整 | 「自動拡大を使用」がオフの場合には拡大鏡の調整を手動で設定します。 |

# スキャニング補助

| | |
|---|---|
| スマートスキャンガイド | スキャン中の異常な操作を特定し、関連するガイダンスを提供します。 |
| スマート矢印 | 収集したスキャンデータに基づき信頼性が低い領域を示す、青色の矢印が表示されます。 |
| 外部照明に対する警告（ベータ） | 外部の照明源がスキャンに影響している場合には警告が表示されます。<br>* i900、i900 classic、i900 Mobility、iEでは利用不可 |
| 咬合データの警告 | ユーザーがデータをスキャン後に「完了」をクリックする際に、プログラムはデータと咬合スキャン工程中に取得した整列のステータスを確認します。 |

| | |
|---|---|
| 音声フィードバックを有効化する | 異なる音声でスキャナーの状態を示します。 |
| 音声ライブラリ | スキャナー状態通知（音声フィードバック）で使用する音声ファイルを選択します。デフォルトの音声を使用、または.wav, .mp3, または .wma形式のカスタム音声ファイルをインポートできます。以下の場合には別々の音声を割り当てることができます。<br>• 接続音声 – スキャナーが正常に接続されたときに再生されます。<br>• HD カメラ音声 – HD カメラHD カメラが有効になったときに再生されます。<br>• 照合音 – 咬合合わせ中に再生されます。<br>• スキャン音 – スキャン進行中に再生されます。<br>スキャン音には、追加のオプションがあります。<br>• シャッフル – スキャン中に音声をランダムに再生します。<br>• 追跡を失った場合の警告の音量 – 追跡が失われた場合の警告音の音量を調整します。 |
| ライブビュー画像スタビライゼーション | オンになっている時には、スキャン中のライブビューで自動画像スタビライゼーションが適用され、改善された鮮明さと安定性で安定した画像がユーザーに提供されます。<br>* i900、i900 classic、i900 Mobility、 iEのみ |
| ライブビュー画面プリセット | ウィンドウサイズ、ウィンドウの切り離しやリセット、マスキングの表示や非表示などのライブビューウィンドウのオプションのデフォルト設定を定義します。<br>プリセットウィンドウの設定を変更すると、変更はスキャンデータを取得中に表示されるライブビューウィンドウに適用されます。<br> |

# スキャニング性能

| | |
|---|---|
| GPU利用 | このオプションは、GPU（グラフィック処理ユニット）を使用して全般的なデータ処理能力を向上するために使用されます。 |
| スキャンデータの不整列を防止する | スマートスキャンフィルタリングオプションをオンにして、スキャンデータを取得時に追加情報を使用してスキャンデータを整列させます。 |
| ダイナミックレンジの拡張 | スキャンするのが難しい領域のスキャンを補助するために周辺データを使用します。 |
| スマートステッチ間隔 | 間隔を調整し、スマートステッチ用に新規スキャンデータスキャンデータを取得します。<br><br>スマートステッチ機能がオンの場合、別のデータとして連続していない領域を取得し保存でき、連続している領域は後で、データをもっと取得しながら整列させることができます。<br>スマートステッチ間隔が短いほど、不連続のデータをもっと素早くスキャンし始めます。<br>同時に、長めのスマートステッチ間隔については、ユーザーは連続していないデータに対応する前に連続したデータを取得するために少し長めに待つ必要があります。 |
| ライブビューで異常動作除去を使用（ベータ） | スキャン中に取得した異常な画像をフィルタリングします。<br>その結果は、スキャナー接続のシグナルの強度による影響を受けることがあります。<br>* i700 wirelessのみ |
| 軟組織の自動削除 | 軟組織やノイズを削除します。<br>軟組織の自動削除は、スキャン中、別のスキャン工程へ移動時、および完了時に実行されます。 |
| 自動スマートスキャンフィルタリング | 余分な歯肉データが取得されるような場合、スキャン中にスマートスキャンフィルタリングでフィルタリング設定を自動で調整します（歯+歯肉（強）から歯+歯肉）。 |
| アクティブノイズフィルタリング（ベータ） | スキャン中に取得したノイズデータを効果的に削除します。 |

| | |
|---|---|
| 咬合の不整合を防止（ベータ） | 咬合および下顎のデータの方向を確認し、咬合データを取得中の不整合を防止します。 |
| メタルスキャン | このオプションをオンにすると、メタル補綴物がスキャン領域の大部分を占めている場合、メタル補綴物用に最適化されたスキャンパラメータが自動的に適用されます。必要に合わせて設定オプションを選択してください。「精度重視」では、より正確なデータの取得が優先され、「範囲重視」では、メタル領域のデータをより多く収集することが優先されます。デフォルト設定では、その両方のオプションでバランスが取れた状態になります。 |
| スキャンアシスト | スキャン中にリアルタイムでスキャンデータを自動的に再整列し、初期整列後に継続した整列を維持します。 |

# 後処理

| | |
|---|---|
| ファイルサイズを自動設定 | このオプションをオンにすると、スキャンデータのファイルサイズを自動で最適化します。 |
| ファイルサイズ | 結果ファイルのサイズを調整します。<br><br>左にスライドバーを設定すると、より早く計算され、より小さいサイズの結果を作成します。<br>結果ファイルの使用目的に基づきファイルサイズを決定できます。より小さいサイズの結果ファイルは矯正ケースに適切です。 |
| 咬合整列の最適化 | オンの場合、プログラムは咬合整列データを最適化します。<br><br>スライダーバーを左に設定すると、上顎と下顎の噛み合わせの調整が緩くなり、右側に設定すると上顎と下顎の噛み合わせの調整がきつくなります。 |
| 詰められた穴に隣接色を使用する | 隣在歯データの色でスキャンデータの空きスペースを充填したい場合、このオプションをオンにします。 |
| 重複データを消去（ベータ） | スキャンデータを最適化中、自動的に二重重複または複数の層で重複している領域を特定し、削除します。 |

| | |
|---|---|
| 背景処理の使用 | 取得または操作されているデータがない工程のために背景でデータを処理します。 |
| 咬合アラインメント後に最適化 | 咬合整列が完了したら上顎側と下顎側のデータを自動的に最適化します。<br>最適化された咬合により最終的な結果データの咬合状態をプレビューできます。 |
| スキャンデータの自動最適化 | スキャンデータを取得している間に自動的に最適化します。 |
| テクスチャのマッピング（ベータ） | 有効になっている場合、スキャンしたデータのテクスチャが強化され、歯や歯肉がよりリアルに表示されます。 |

## 高解像度データ処理*

| | | |
|---|---|---|
| 適用 | スキャン全体 | スキャンデータ全体に高解像度データ処理を適用します。 |
| | HDスキャン部分のみ | 高解像度スキャン（HDスキャン）を使用してスキャンした部分に高解像度データ処理を適用します。 |
| 支台歯データに適用（ベータ） | このオプションをオンにすると、プログラムが支台歯データを自動検出し、支台歯データに高解像度データ処理を適用します。<br>このオプションがオンになっている場合、Medit Linkで登録されている歯番の歯の領域がスマートスキャン確認機能で選択することができます。<br>また、マージンラインが指定されている場合には、マージン付きの歯は高解像度データとして処理されます。 | |

*i600機能アップグレードを購入後にi600を利用可能

## Medit SmartXワークフローのデータを処理中

| | | |
|---|---|---|
| 結果ファイル（スキャンボディ工程*） | アーチデータとライブラリデータ | 別々のファイルを作成：スキャンした歯列弓のファイルとライブラリのファイル |
| | アーチデータをライブラリデータに結合 | 1個のファイルを作成：スキャンした歯列弓ファイルとライブラリデータのファイルを結合。 |
| | ライブラリデータのみ | 1個のファイルを作成：ライブラリデータのみを含める。 |
| 結合されたデータに重複 | 重複データを保持 | 結合したファイルを作成する場合には、両方のデータセットの重複 |

| | | |
|---|---|---|
| | | している部分を保持します。 |
| | アーチデータを削除 | 結合したファイルを作成する場合には、スキャンした歯列弓の重複している部分を削除します。 |
| | ライブラリデータを削除 | 結合したファイルを作成する場合には、ライブラリデータの重複している部分を削除します。 |

* 上顎と下顎の各スキャンボディ工程にのみ適用可能です。
* iEスキャナーでは利用できません。

# スキャナー

| | |
|---|---|
| 自動スキャンを開始 | いずれの操作も実行することなくスキャン工程に入ると、自動的にプログラムがスキャンを開始します。<br>このオプションがオフの場合には、スキャンボタンを押すか、i900の場合にはタッチバンドを2回タップするとスキャンを開始できます。 |
| キャリブレーション期間（日） | スキャナーのキャリブレーション期間を設定します。 |
| HDモードでスキャン開始 | HDモードでスキャンを開始するようデフォルト設定します。 |
| スキャンライト | スキャンライトに青色光源または白色光源を使用するかを設定します。 |
| スキャナーの最低温度に関する通知 | スキャン開始時にスキャナーの温度が確認されます。<br>スキャナーの温度が最低値を下回った場合、スキャナーは予熱を開始します。<br>* i500では利用不可 |
| 自動UVオン | スキャナーが接続されている、またはスキャンが停止している場合、UVライトが自動的にオンに設定されます。<br>UVライトは、「UV動作時間」オプションの時間設定後、またはスキャンが開始時に自動的にオフになります。<br>* i500、 i600では利用不可 |
| UV動作時間（分） | 「自動UVオン」オプションの時間を設定します。<br>* i500、i600では利用不可 |

| | |
|---|---|
| スキャン中にバイブレーション通知をオン | 位置ずれなどの場合は、スキャナーを振動させてユーザーに通知します。<br>* i500では利用できません。i600では、i600機能アップグレードを購入後に利用可能になります。 |
| 曇り止めファンモード | スキャナー温度が低い場合、鏡の曇り止めのために「サイレントモード」と「高性能モード」のいずれかのファンモードを選択します。 |
| スキャン体験 | 画面をより滑らかに表示するのか、最高の性能でスキャンデータを取得するのかを選択します。<br>* i700、i700 wireless、i900、i900 classic、i900 Mobility、iEのみ。<br>*i600機能アップグレードを購入後にi600を利用可能 |
| モバイルスキャナーの接続 | プログラムが開かれると利用可能なi900 Mobilityのハンドピースが自動的に検索されます。 |
| パソコンとスキャナーのWi-Fi自動接続 | パソコンとスキャナーが常に同じWi-Fiアクセスポイントに接続されるように自動的に維持します。 |
| アダプティブFPSモード | このモードが有効になっている場合には、ネットワークの安定性とその他の要因に基づきスキャンのフレームレートが自動調整され、スムーズで安定したスキャン速度を維持できます。このモードがオフの場合には、FPSが頻繁に変動する可能性があります。 |

## スキャンのボタン操作

| | |
|---|---|
| ダブルクリック | スキャナーのスキャンボタンの2回クリック操作を定義します。<br>* i900では利用不可 |
| 3回クリック | スキャナーのスキャンボタンの3回クリック操作を定義します。<br>* i500、i900では利用不可 |
| 長押しクリック | スキャナーのスキャンボタンの長押し操作を定義します。<br>* i900では利用不可 |

## タッチジェスチャー（i900のみ）

| | |
|---|---|
| タッチインターフェースのチュートリアル | タッチインターフェースのチュートリアルダイアログを実行して、タッチバンド、タッチパッド、メニューボタンなどのタッチインターフェースの使用方法を練習します。 |

| | |
|---|---|
| タッチバンド - 2回タップ | スキャナー上でのタッチバンドの2回タップ操作を定義します。 |
| タッチバンド - 左にスワイプ | スキャナーのタッチバンドの左スワイプ操作を定義します。 |
| タッチバンド - 右にスワイプ | スキャナーのタッチバンドの右スワイプ操作を定義します。 |
| タッチパッド - 2回タップ | スキャナーのタッチパッドの2回タップ操作を定義します。 |
| メニューボタン - 長押しタップ | スキャナーのメニューボタンの長押しタップ操作を定義します。 |

## カーソルとしてのスキャナー - Air Mouse（i900、i900 classicのみ）*

| | |
|---|---|
| カーソルサイズ | 画面に表示されるカーソルの大きさを調整します。 |
| カーソルの応答性 | 動きに対するハンドピースの応答性を調整します。 |

*i600機能アップグレードを購入後にi600を利用可能

## 電源

| | |
|---|---|
| スリープモード | スキャナーがスリープモードに入る前のアイドル時間を設定します。 |
| 自動電源オフ（スリープモードに入ってから） | スキャナーが電源オフになる前のスリープモードの時間を設定します。 |

## バッテリーでの使用(i700 wireless、i900 Mobilityのみ)

| | |
|---|---|
| スリープモードに変更 | 入力されている分数が使用されていない場合は、スキャナーはスリープモードに入ります。 |
| スキャナーがオフ | スリープモードに入った後に、入力されている分数が使用されない場合はスキャナーはオフになります。 |

## コンセントに接続時

| | |
|---|---|
| スリープモードに変更 | 入力した分数の間使用しない場合にはスキャナーはスリープモードに入ります。 |

| | |
|---|---|
| | * i900、i900 classic、i900 Mobility、iEのみ |
| スキャナーがオフ | 電源が入った時に入力された分数が使用されていない場合はスキャナーはオフになります。<br>* i500では利用不可 |

# スキャンデータ分析

## リアルタイムインテリジェンス

| | |
|---|---|
| リアルタイムインテリジェンスを有効にする | 支台歯を自動的に識別し、スキャンデータをリアルタイムで評価してクラウン形成の要件を満たしているか検証し、調整のためにフィードバックを即時に提供します。<br>* サブスクリプションに登録しているiEスキャナーで利用可能です。 |

## スマートスキャン確認

| | |
|---|---|
| スマートスキャン確認工程を有効にする | このオプションをオンにすると、ワークフローのスマートスキャン確認工程が表示されます。 |
| スマートスキャン確認工程で咬合面に揃える | このオプションをオンにすると、データ確認の開始前にスマートスキャン確認工程に入った際に咬合面にデータを整列します。 |
| 支台歯確認のために歯の削合深度を表示 | このオプションをオンにすると、スマートスキャン確認工程の支台歯確認機能を使用する際に歯の削合深度を確認します。 |
| 表示 支台歯確認のための対合歯までの距離 | このオプションをオンにすると、スマートスキャン確認工程の支台歯確認機能を使用する際に対合歯との距離を確認します。 |
| 表示 支台歯確認のための隣在歯までの距離 | このオプションをオンにすると、スマートスキャン確認工程の支台歯確認機能を使用する際に隣在歯との距離を確認します。 |

## 支台歯確認

### 距離

歯の削合が正しく行われたかどうかを決定する基準として下記の値を設定します。設定値は、スマートスキャン確認の参照データとしても使用されます。

| | |
|---|---|
| 対合歯までの最小距離（mm） | 対合歯までの距離の最小値を設定します。 |
| 隣在歯までの最小距離（mm） | 隣在歯までの距離の最小値を設定します。 |

## 歯の削除深度

歯の削除が正しく行われたかどうかを決定する基準として下記の値を設定します。設定値は、スマートスキャン確認の参照データとしても使用されます。

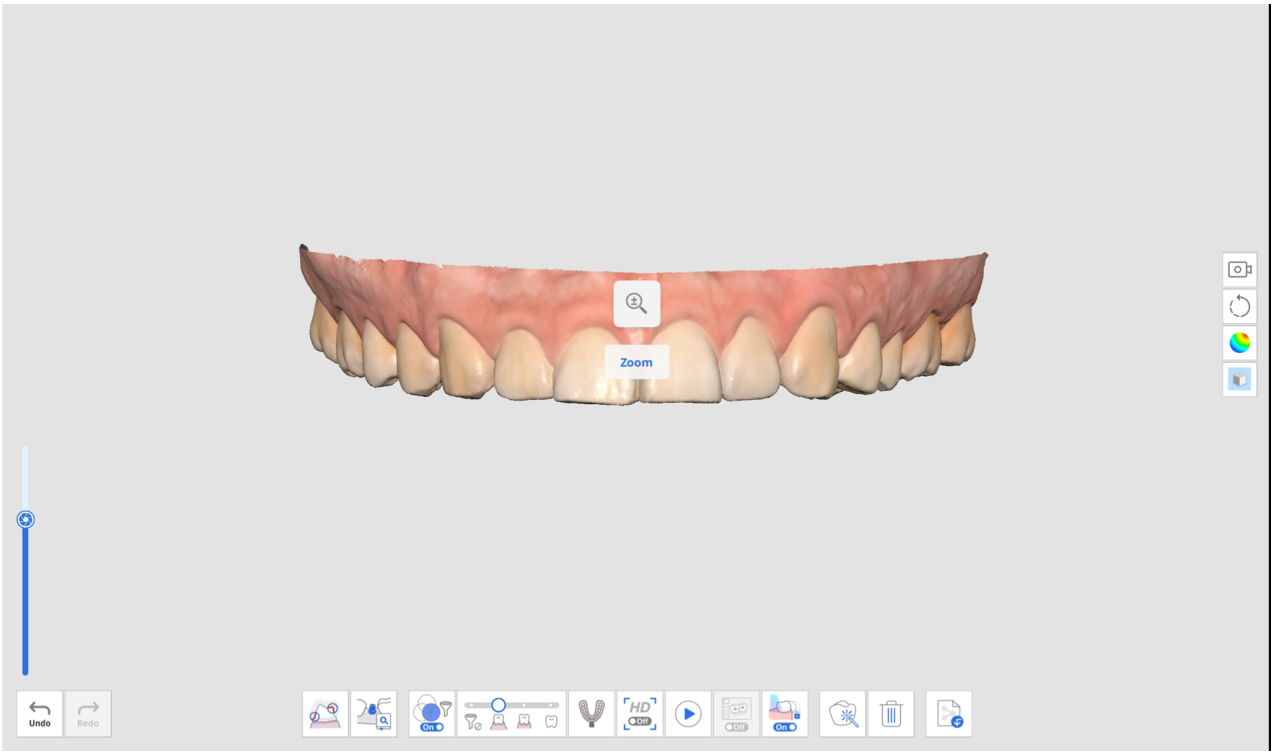
| | |
|---|---|
| 歯の削合深度の統一を適用 | これを有効にすると、すべての方向の参照データとして歯の削合深度の統一が適用されます。<br>• オンの場合、「最小削合深度（mm）」がすべての方向に適用されます。<br>• オフの場合、「唇/頬側（mm）」「口蓋/舌側（mm）」「隣在歯間（mm）」「咬合（mm）」が各方向に適用されます。 |
| 最小削合深度（mm） | すべての方向についての歯の削合深度の最小値を設定します。 |
| 唇/頬側（mm） | 唇/頬側の削合深度の最小値を設定します。 |
| 口蓋/舌側（mm） | 口蓋/舌側の削合深度の最小値を設定します。 |
| 隣在歯間（mm） | 隣在歯間の削合深度の最小値を設定します。 |
| 咬合（mm） | 咬合の削合深度の最小値を設定します。 |

# 基本操作

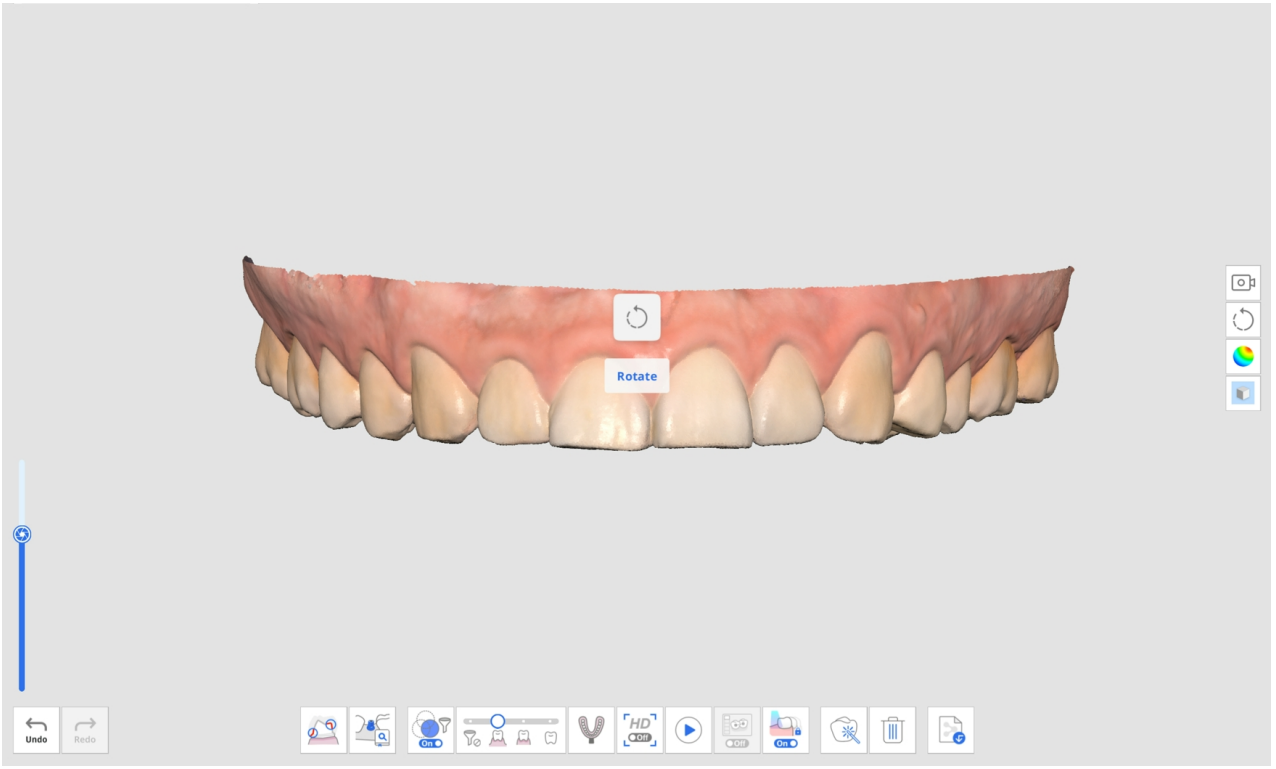
## 3Dデータコントロール

Medit Scan for Clinicsでは、回転、パン、ズームの3つのデータコントロールモードをサポートしています。

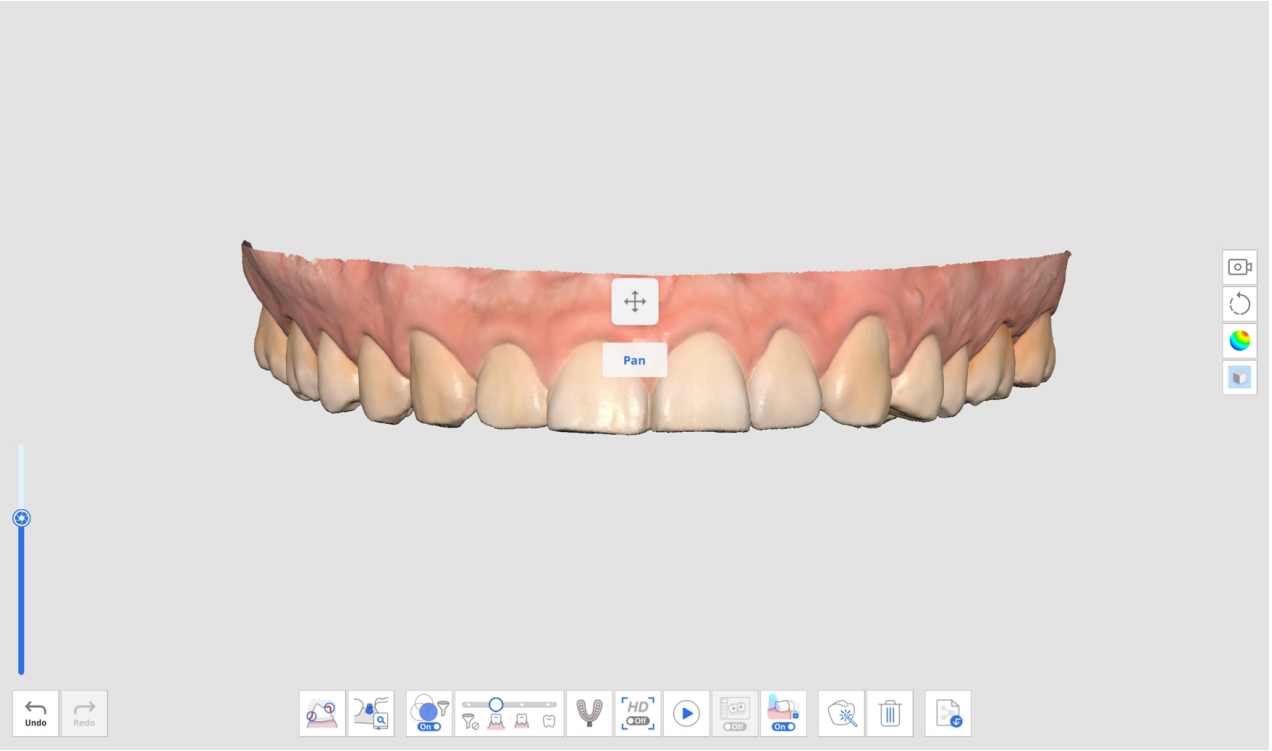
- ズーム



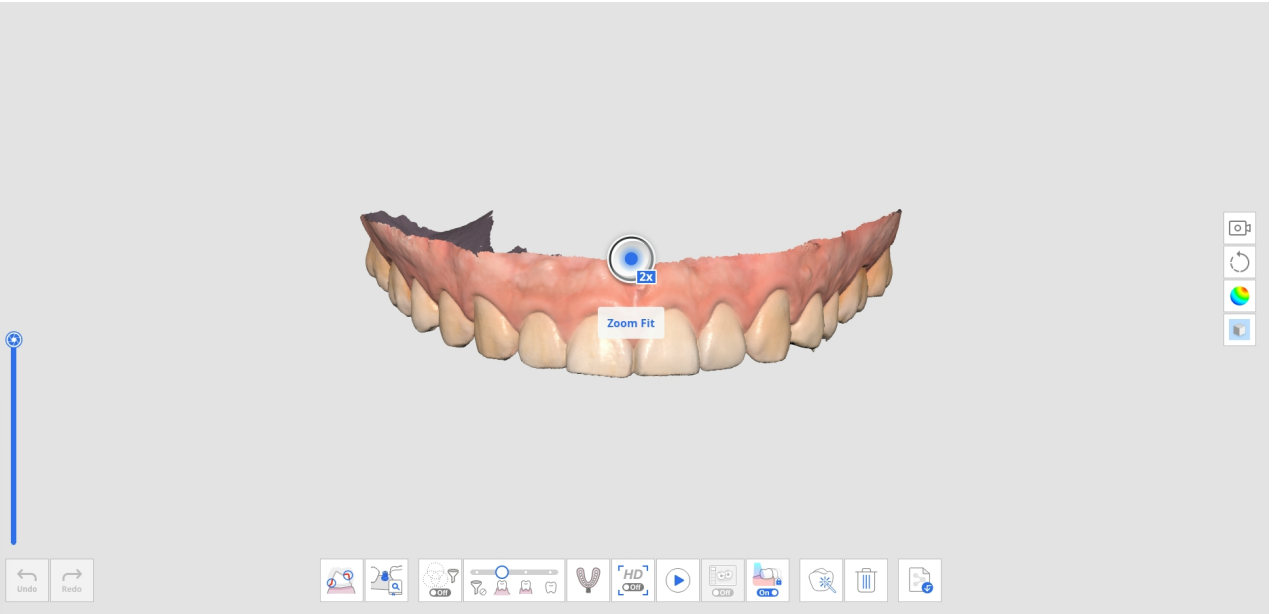

- 回転



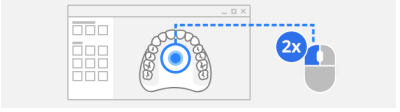
- パン

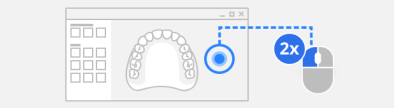



- ズームフィット：コントロールボタンをダブルクリックして、データを画面中心に整列させます。




## マウスを使用した3Dデータのコントロール

| | 画像 | 説明 |
|---|---|---|
| ズーム |  | マウスホイールをスクロールします。 |
| ズームフォーカス |  | データをダブルクリックします。 |

| | 画像 | 説明 |
|---|---|---|
| ズームフィット |  | 背景をダブルクリックします。 |
| 回転 |  | 右ボタンでドラッグします。 |
| パン |  | マウスホイールをドラッグします。 |

## マウスとキーボードを使用した3Dデータのコントロール

| | Windows | | macOS | |
|---|---|---|---|---|
| ズーム |  |  |  |  |
| 回転 |  |  |  |  |
| パン |  |  |  |  |

## スキャナーボタンを使用した3Dデータコントロール（i700/i700 wireless/i900 Mobility）

| | 画像 | 説明 |
|---|---|---|
| データコントロールモード切替 |  | コントロールボタンを1回クリック |
| ズームフィット | | コントロールボタンを2回クリック |
| ズーム |  | コントロールボタンの上/下を押す |
| 回転 | | コントロールボタンの上/下/左/右を押す |
| パン | | コントロールボタンの上/下/左/右を押す |

# タッチインターフェースを使用して3Dデータをコントロール（i900）

| | 画像 | 説明 |
|---|---|---|
| データコントロールモード切替 |  | スキャナーのメニューボタンを軽くタップ |
| ズームフィット | | スキャナーのメニューボタンを2回タップ |
| ズーム |  | タッチバンドをタップして上/下にドラッグ |
| 回転 | | タッチバンドをタップして上/下/左/右にドラッグ |
| パン | | タッチバンドをタップして上/下/左/右にドラッグ |

# 3Dマウス対応

Medit Scan for Clinicsは3Dconnexion 3Dマウスの使用に対応しています。

3D入力デバイス開発ツールおよび関連する技術は、3Dconnexionのライセンスに基づき提供されます。 © 3Dconnexion 1992 - 2013. All rights reserved.

# スキャンの操作

## スキャンボタンを使用して開始/停止（i900では利用不可）

スキャナーのスキャンボタンを押してスキャンを開始または終了できます。



## タッチバンドを使用して開始/停止（i900のみ）

スキャナーのタッチバンドを2回タップしてスキャンを開始または終了できます。



## スキャナーを持ち上げたり、置いたりして開始/停止（i900のみ）

クレイドルからスキャナーを取り外してスキャンを開始、またはクレイドルに戻すだけで終了できます。

> 🔎**注意**
>
> この機能は、「自動スキャン」オプションが設定 > スキャナーで有効になっている場合だけご利用いただけます。

# カーソルとしてのスキャナー（Air Mouse）

この機能によりハンドピースをマウスとして使用できるようになります。ユーザーは画面上のカーソルをハンドピースを使用してコントールでき、クリックするなどの基本的なマウス操作を実行できます。 Air Mouseとしてスキャナーを使用することで、ユーザーは物理的なマウスやタッチパッドの使用を回避し、交差感染のリスクを軽減できます。この機能は、以下のスキャナーモデルでサポートされています。

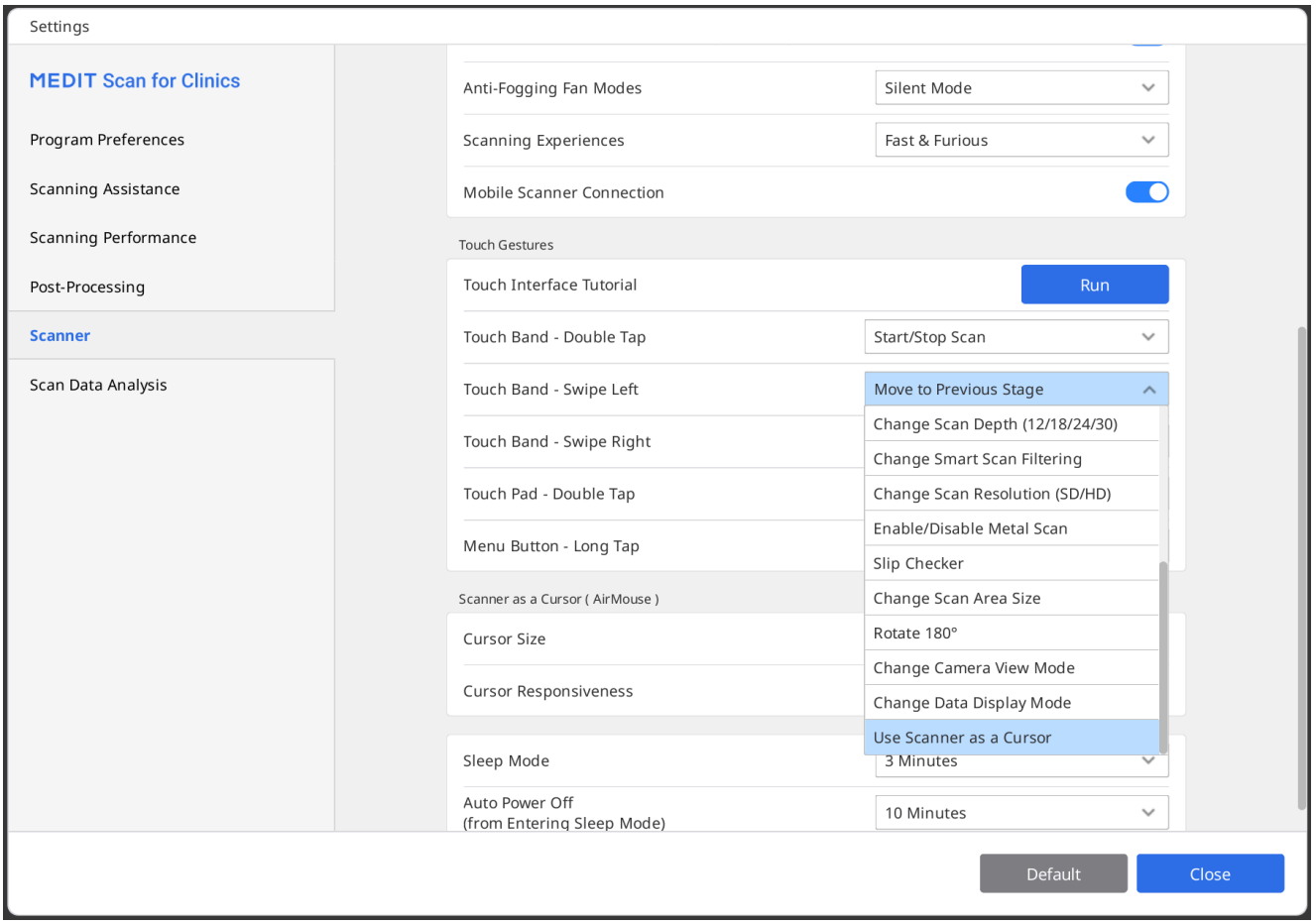
- i900

- i900 classic
- i600 *（i600機能アップグレードを購入後にのみ利用可能）*

この機能を使用するには、設定 > スキャナーに移動し、スキャナーモデル（以下の詳細を参照）の該当するセクションの「カーソルとしてスキャナーを使用」を選択します。有効にすると、マウスとしてハンドピースを使用して、カーソルをコントロールし、選択した操作を使用してクリックを実行できます。カーソルの大きさや応答性も調整できます。

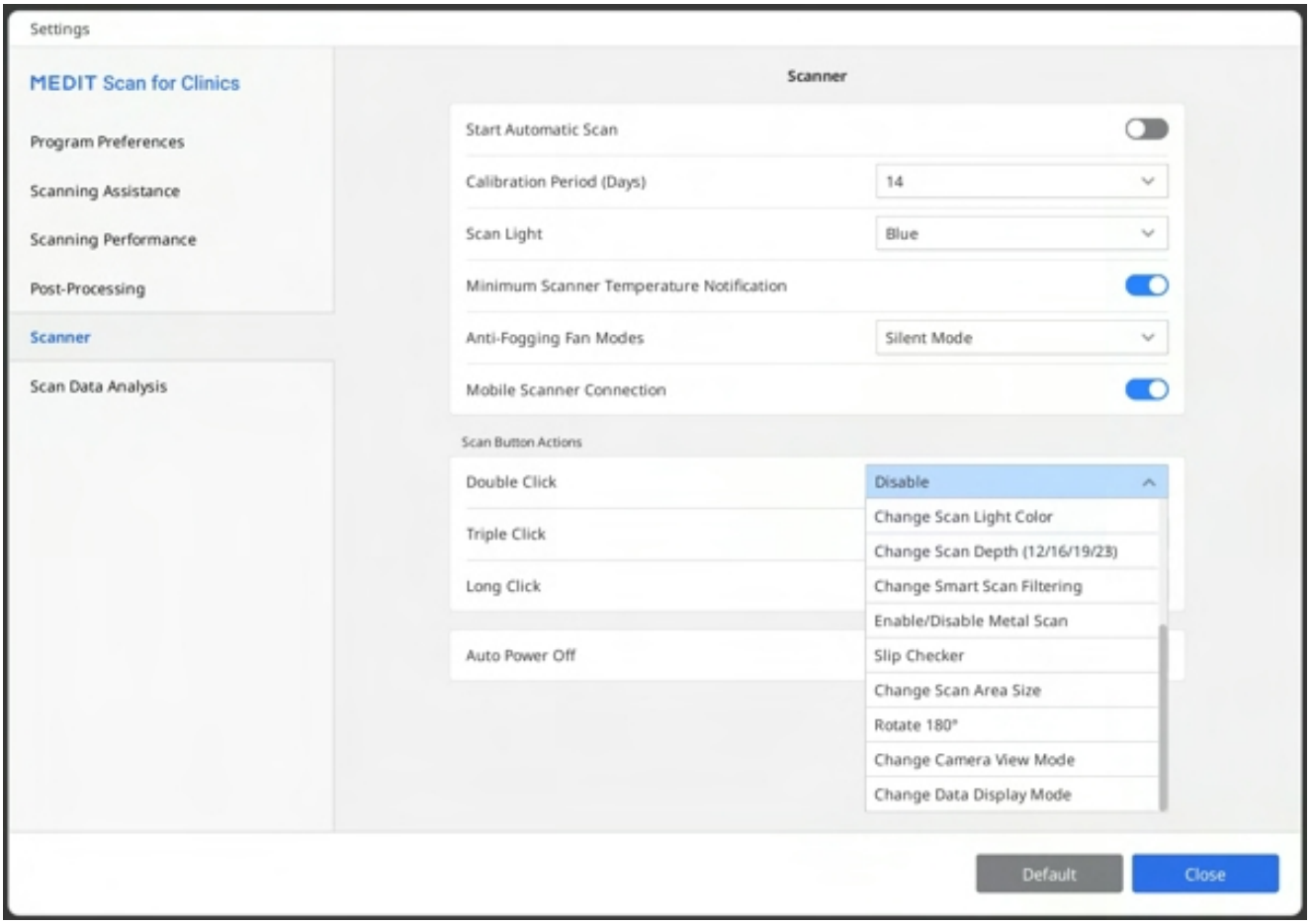
**i900/i900 classic**

タッチジェスチャーセクションで、希望するジェスチャーの操作ドロップダウンメニューを開き、「カーソルとしてスキャナーを使用」を選択します。




**i600 （i600機能アップグレードによってのみ）**

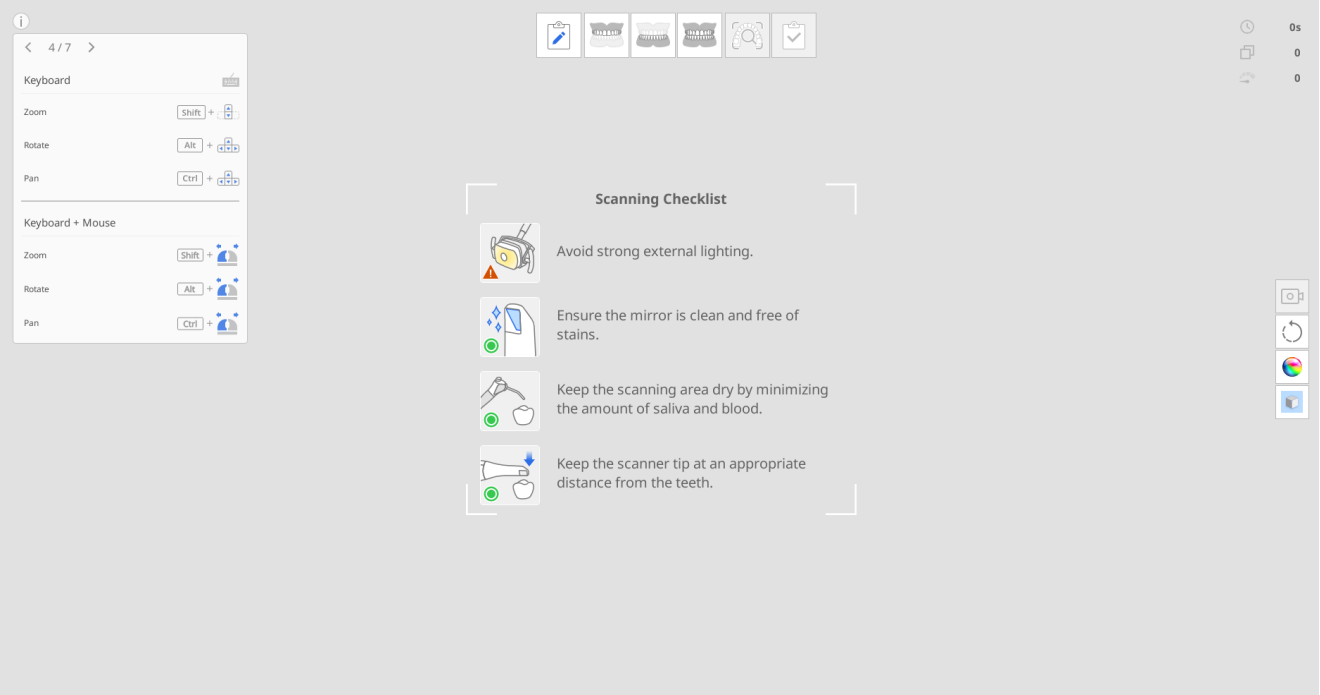
スキャンのボタン操作セクションで、操作ドロップダウンメニューを開き、希望するボタン操作の「カーソルとしてスキャナーを使用」を選択します。


Settings
MEDIT Scan for Clinics
Program Preferences
Scanning Assistance
Scanning Performance
Post-Processing
Scanner
Scan Data Analysis
Scanner
Start Automatic Scan
Calibration Period (Days)
14
Scan Light
Blue
Minimum Scanner Temperature Notification
Anti-Fogging Fan Modes
Silent Mode
Mobile Scanner Connection
Scan Button Actions
Double Click
Disable
Triple Click
Long Click
Auto Power Off
Change Scan Light Color
Change Scan Depth (12/16/19/23)
Change Smart Scan Filtering
Enable/Disable Metal Scan
Slip Checker
Change Scan Area Size
Rotate 180°
Change Camera View Mode
Change Data Display Mode
Default
Close

# スキャン操作の基本

## スキャンチェックリスト

スキャンデータがまだ取得されていない場合、メイン画面にはスキャンチェックリストが表示されています。




スキャンを開始する前に、以下の注意事項を必ずお読みください。

- 強い外部照明を使用しないでください。
- 鏡が清潔で、汚れがないことを確認してください（軽度な水垢は問題ありません）。
- スキャン領域をできる限り乾燥した状態に保ち、唾液や血液の付着を最小限に抑えてください。
- スキャナーチップと歯との間に常に適切な距離を保ってください。

## 練習モード

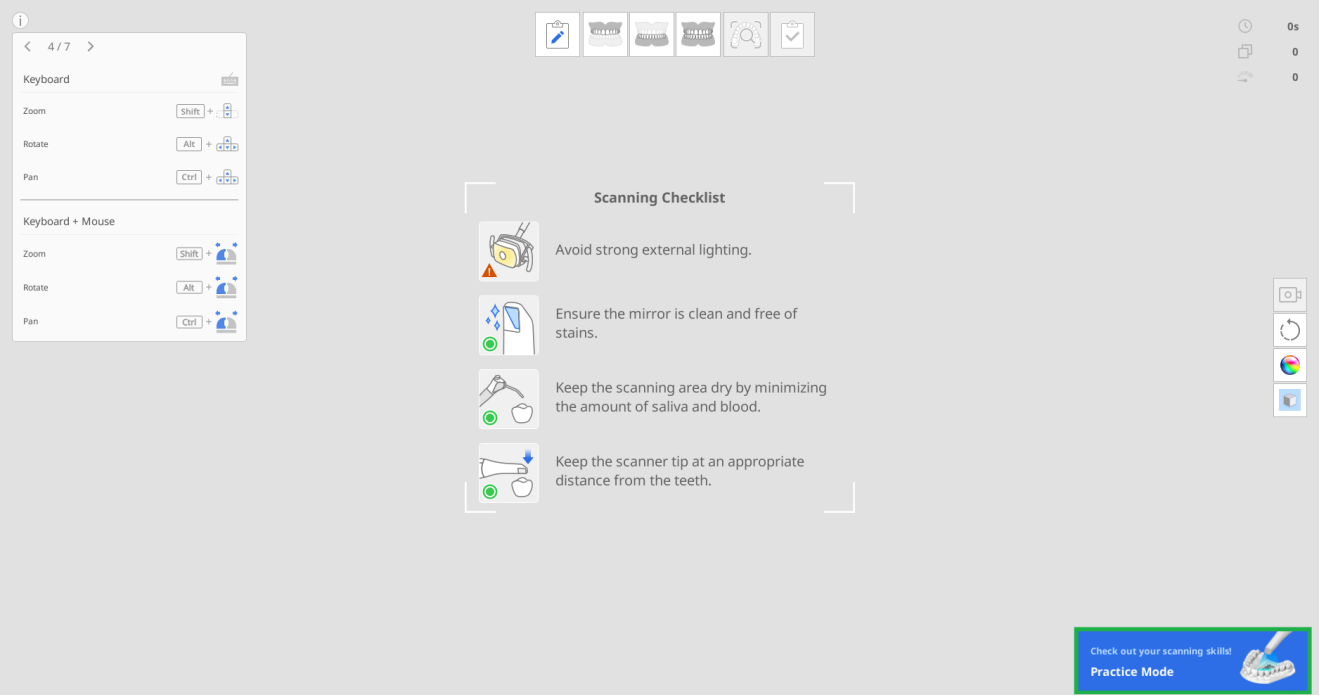
練習モードは練習用模型を使用して正しいスキャンを実施する方法を練習することを目的としています。

練習用模型に付いているQRコードをスキャンしてサンプルデータをダウンロード、またはすでにダウンロード済みの場合は、保存済みのサンプルデータを取得して使用できます。

練習モードで取得されたデータは、モード終了時に保存されません。

> 🔎**注意**

- 設定> プログラム設定情報 > 一般に移動し、「練習モード」オプションをゆうこにすると、練習モードバナーが表示されます。
- 練習モードバナーは取得されたスキャンデータがない時にのみ、フルスクリーンに表示されます。
- 練習モードはi500では利用できません。



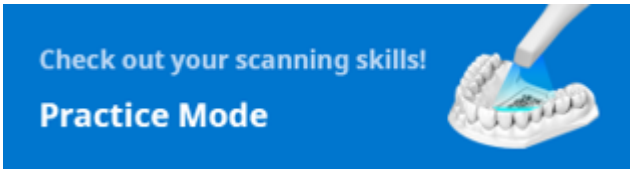

練習モードは、3つのトレーニングレベルがあり、各レベルで異なるスコア基準が設けられています。

- 初級：口腔内スキャナー使用の初心者レベル
- 中級：口腔内スキャナー使用に慣れている中級レベル
- 上級：中級レベル以上の上級レベルに達するベテランレベル

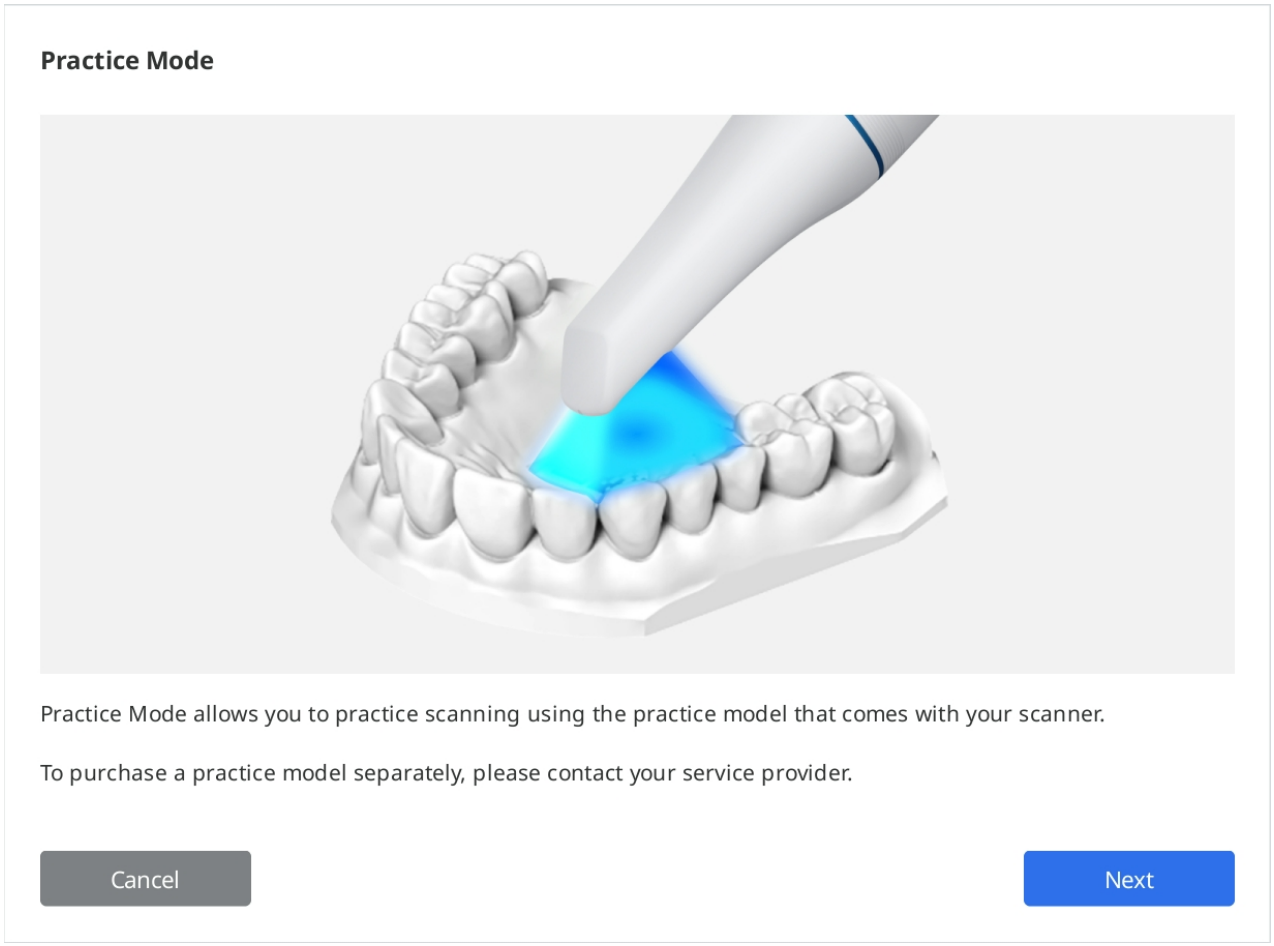
スキャン中に難易度が変更された場合、取得したスキャンデータは削除されます。

# 練習モードを開始

1. スキャナーパッケージに入っている練習用模型を準備します。追加での購入については最寄りのサービス販売会社にお問い合わせください。
2. 歯科医院向けのスキャンを実行し、画面右下にある「練習モード」バナーをクリックします。

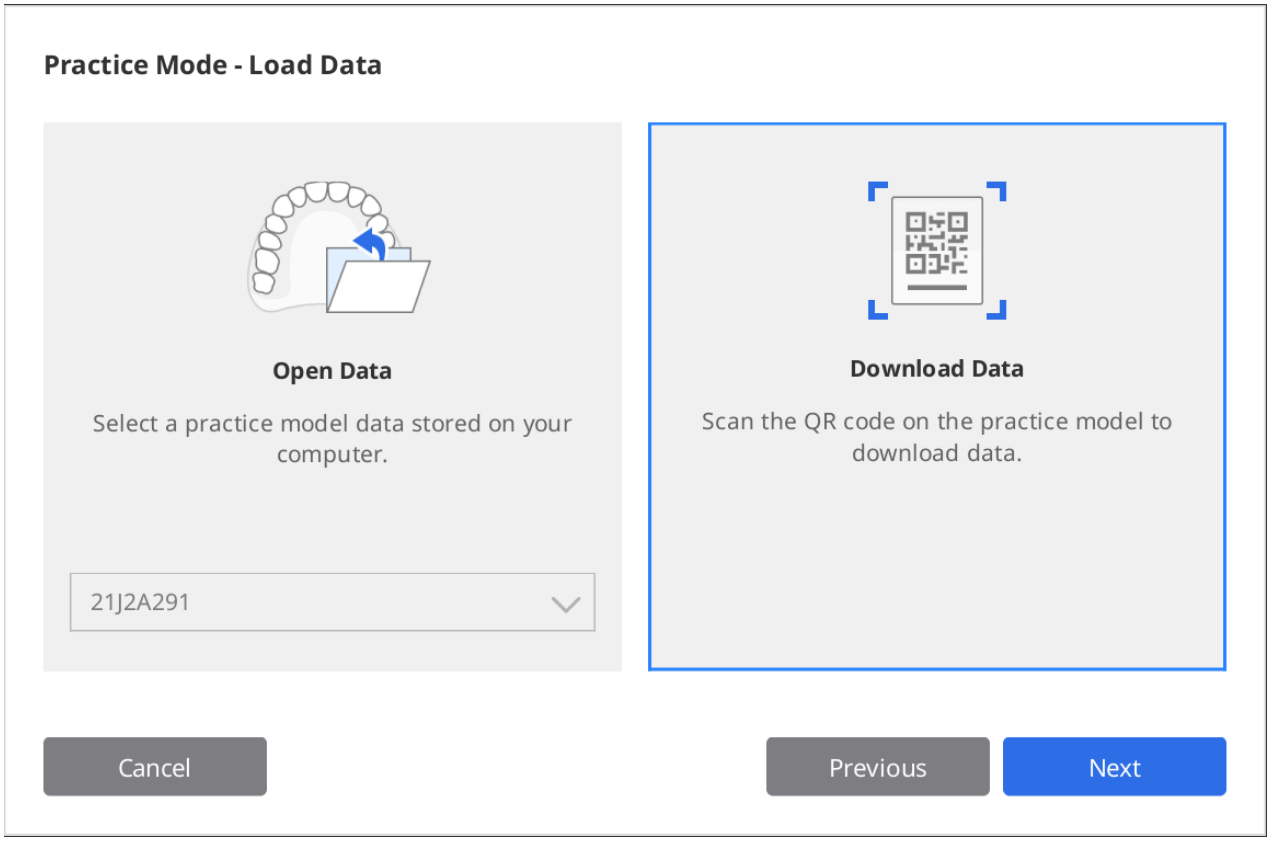



3. 画面上に表示される指示に従います。

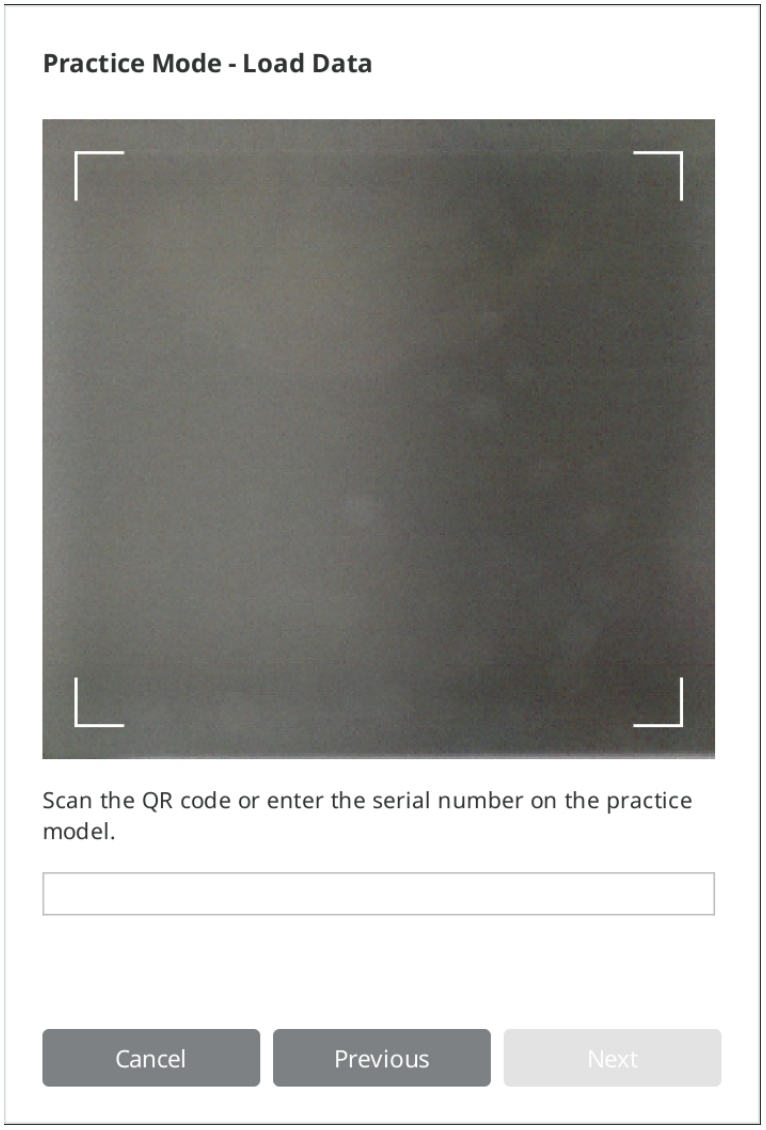



4. 「データをダウンロード」をクリックして、サーバーから練習用模型のサンプルデータをダウンロードします。

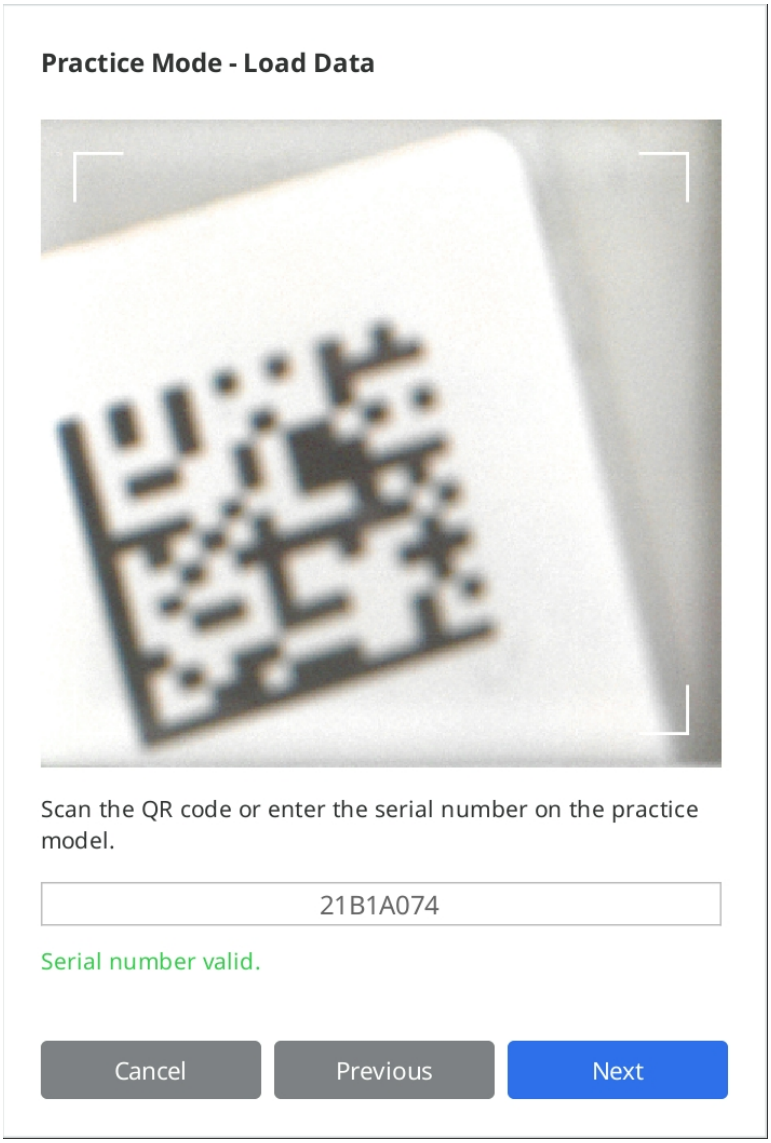
> 🔎**注意**
> すでにダウンロード済みの場合には、パソコンに保存した練習用模型データを使用することもできます。この場合、使用する練習用模型と一致するシリアル番号を選択します。



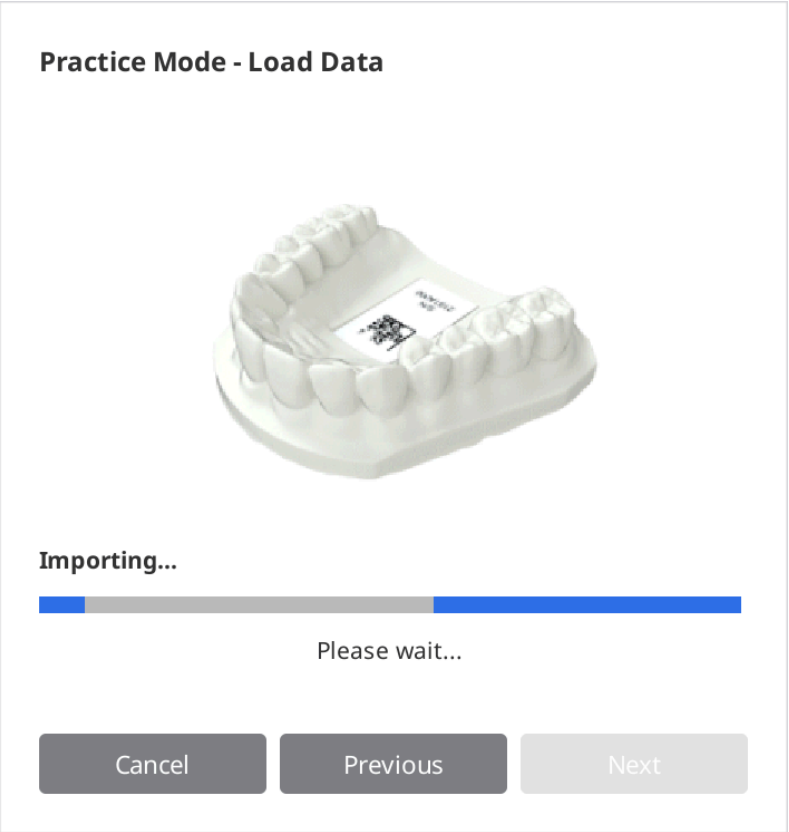

5. スキャナーでQRコードをスキャンします。
6. カメラがオンになると、QRコードを認証します。 QRコードが読み取られない場合には、ステッカーのシリアル番号を入力できます。



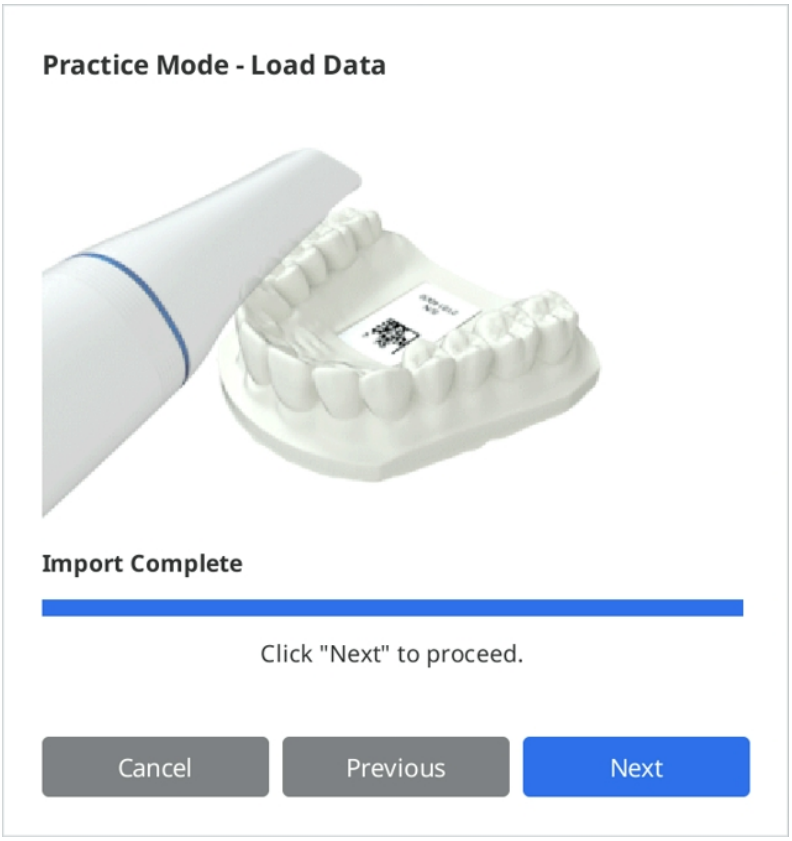

7. シリアル番号が確認されたら、「次へ」をクリックします。



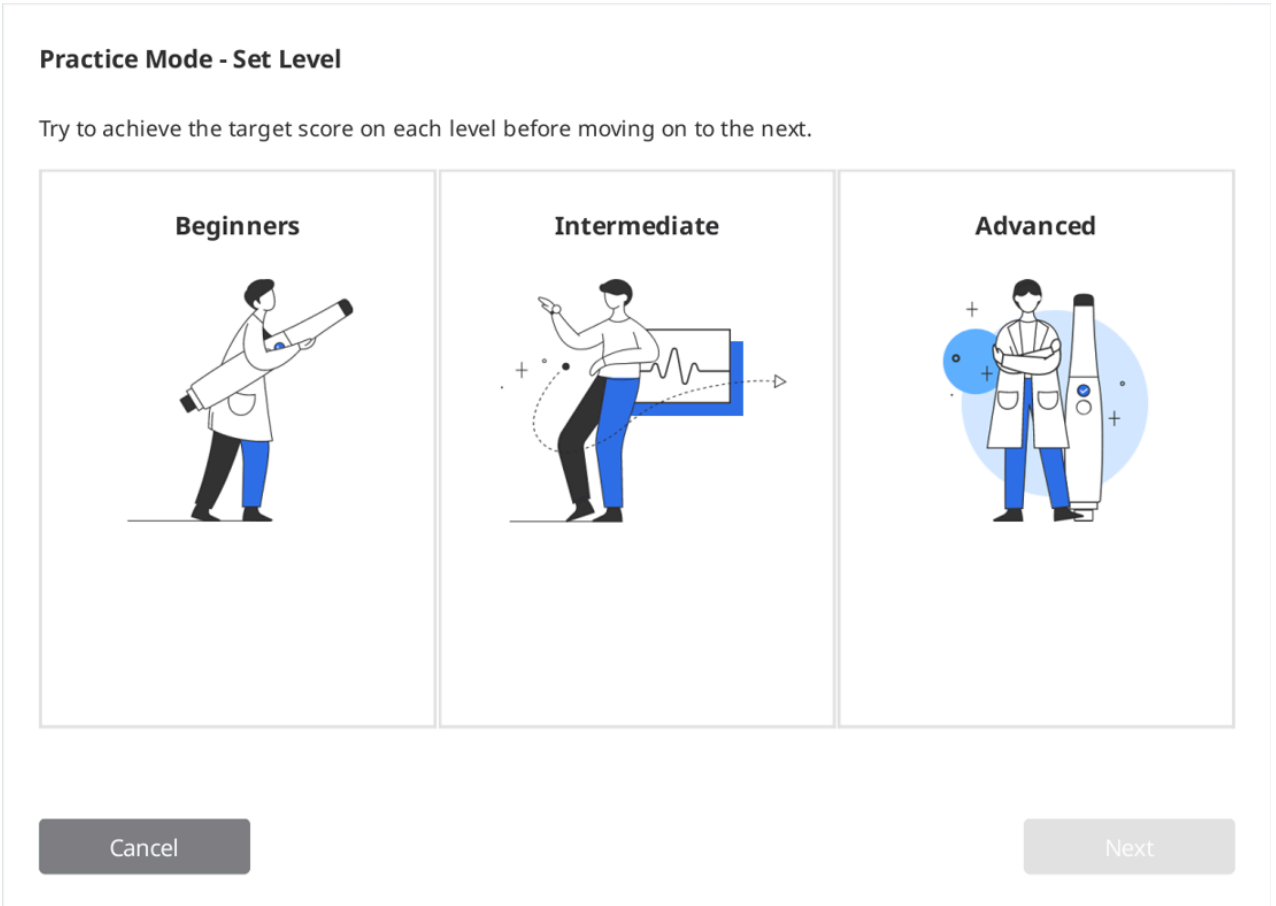

8. ダウンロード中に練習用模型のスキャン方法についての情報動画が表示されます。



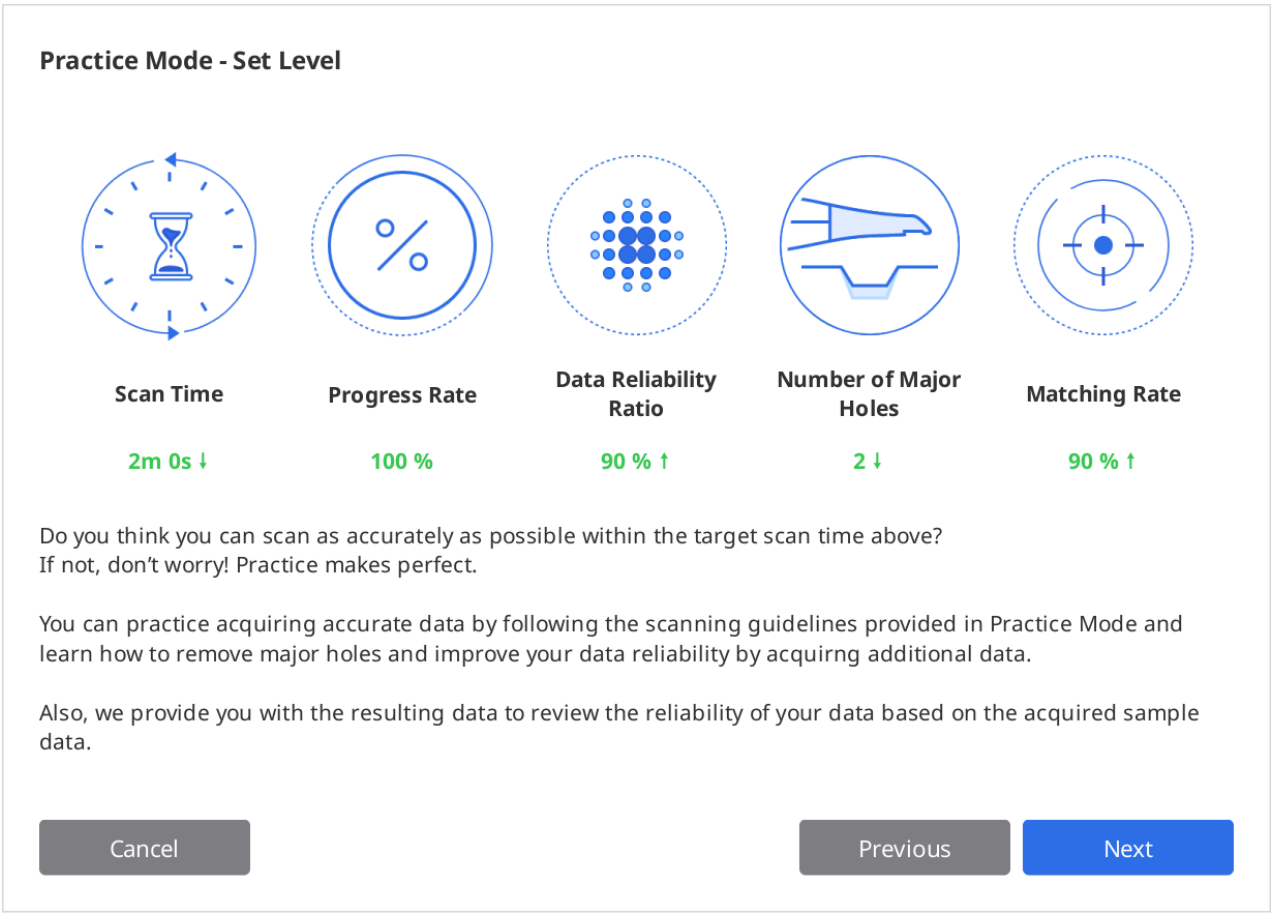
9. ダウンロードが完了したら、「次へ」をクリックし、レベルを選択します。




10. 「初級」「中級」「上級」のレベルから1つの難易度レベルを選択します。

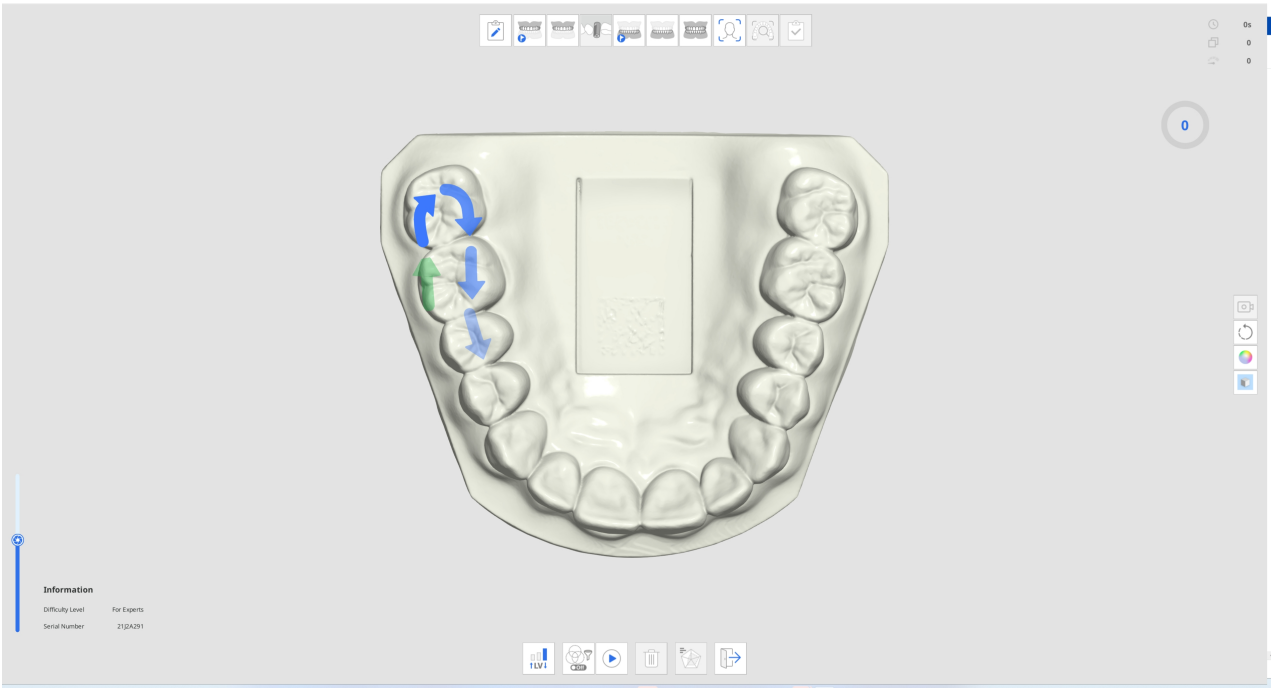



11. 選択した難易度レベルで達成する必要のある目標を確認し、「次へ」をクリックしスキャンの練習を開始します。戻って難易度レベルを変更するには、「前へ」をクリックします。

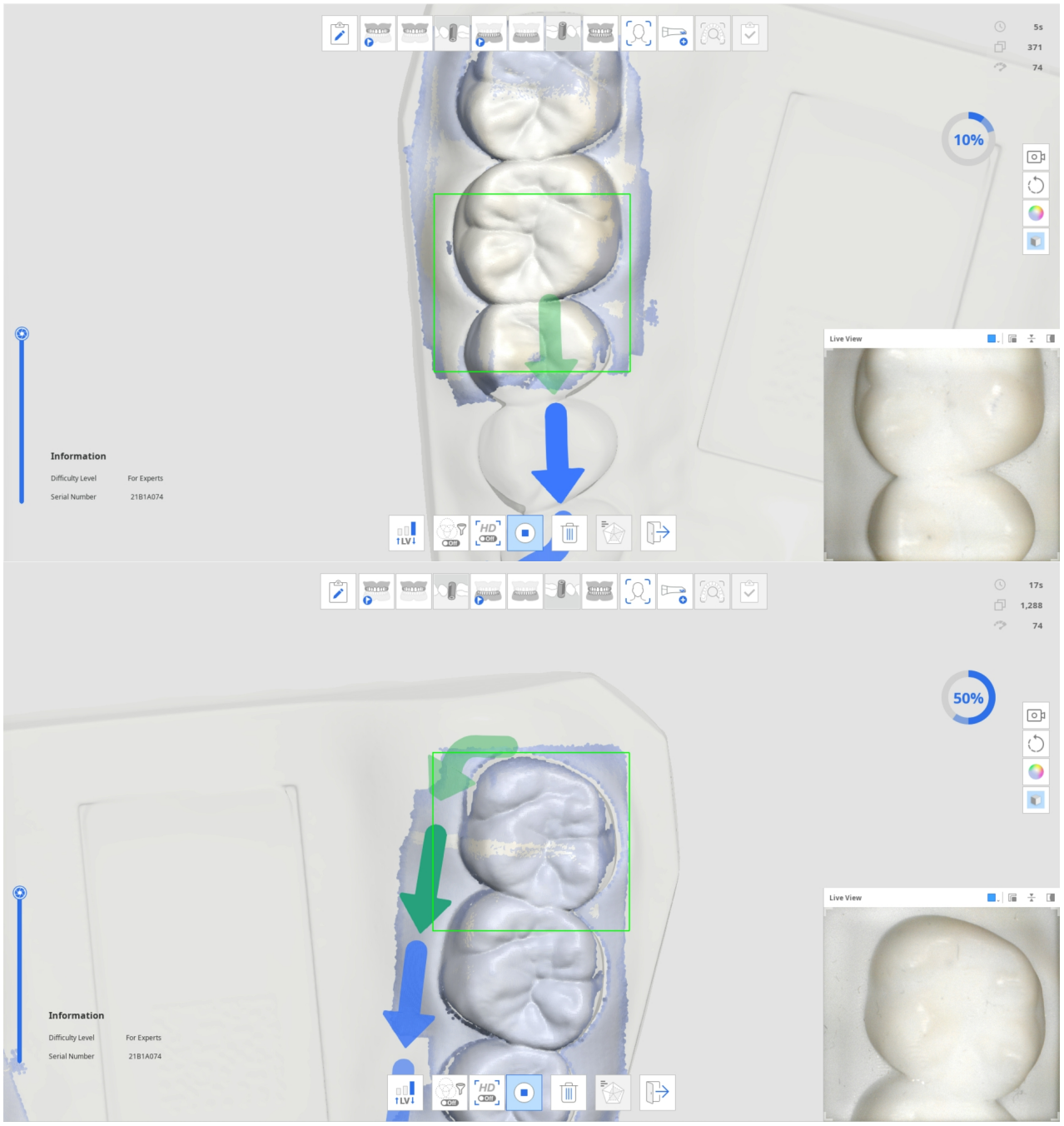



# スキャンの練習

1. ダウンロード済みのサンプルデータが画面上に表示されたら、「スキャン」ボタンをクリックし開始します。




2. 指示と矢印の方向に従い、練習用模型をスキャンします。
3. 効果的にスキャンの練習をするために、データを取得中にスキャン情報と進行状況を確認します。



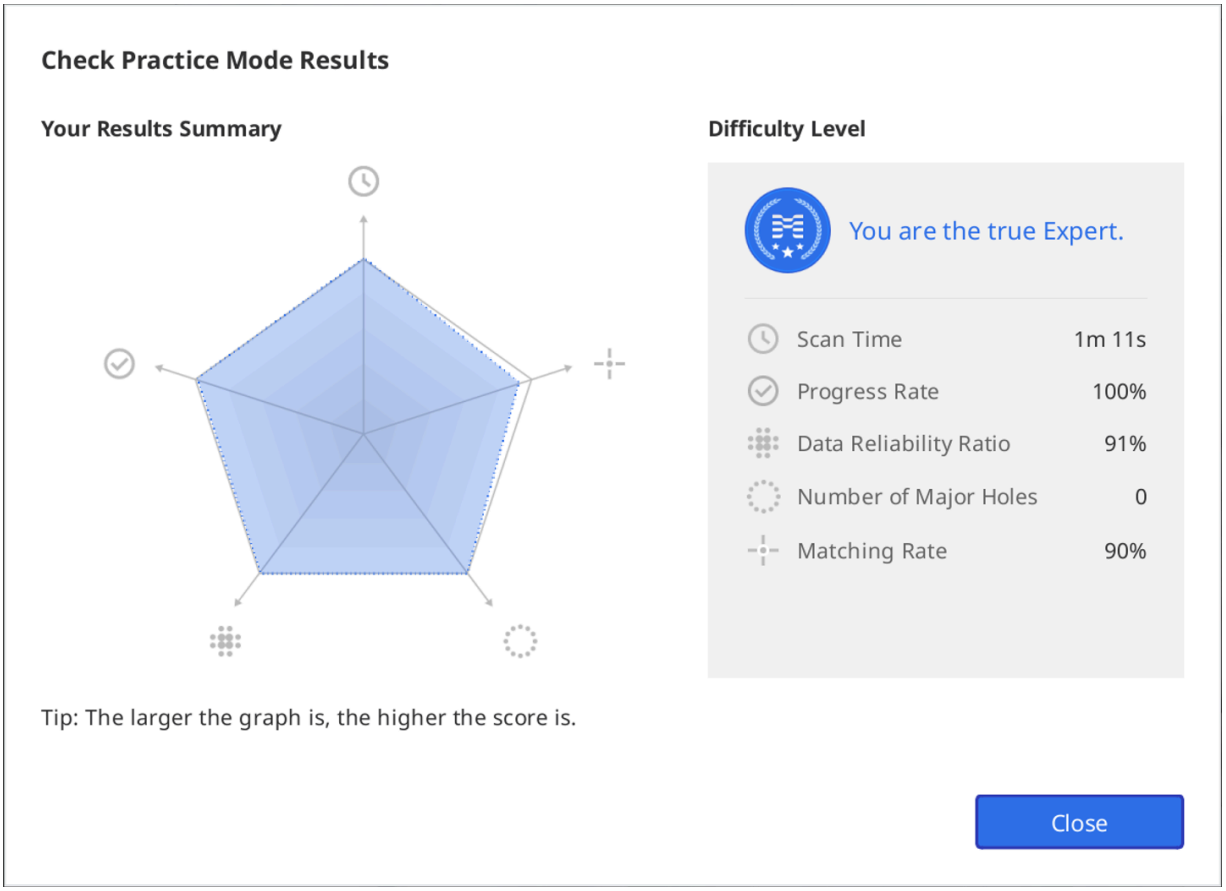

4. 一定のスキャンデータ量を取得したら、進行がチェックマークに変わり、下部の「練習モードの結果を確認」アイコンが有効になります。




5. 「練習モードの結果を確認」アイコンをクリックして、スコアを確認します。



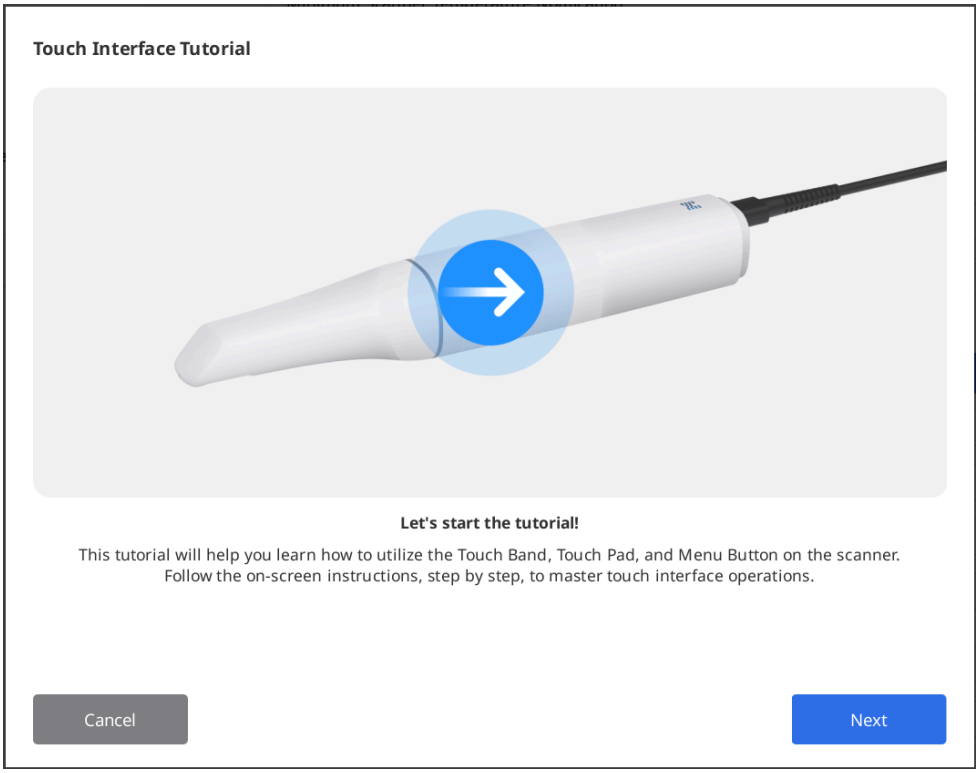

6. スコアは、選択した難易度レベル、スキャン時間、進行速度、データ信頼性比率などに基づいています。



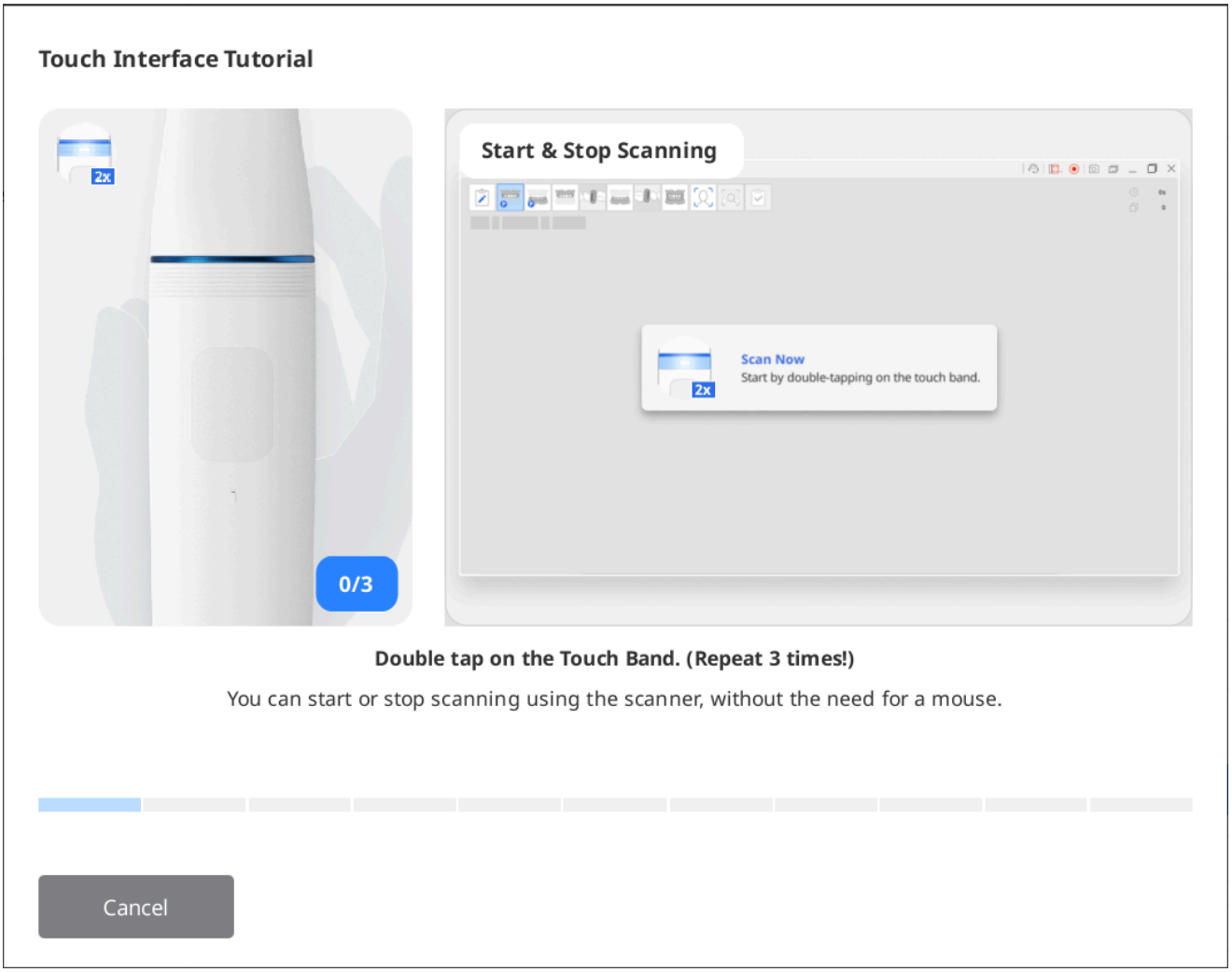

7. 結果を確認後に更にスキャンを実施し、追加でのスキャン後にデータに基づく結果を再確認できます。

# タッチインターフェースのチュートリアル

プログラムが初めてi900スキャナーに接続されると、以下のタッチインターフェースのチュートリアルのダイアログが表示されます。



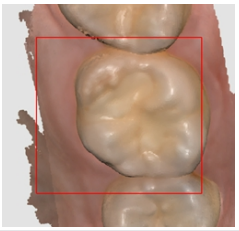

ダイアログの説明に従ってタッチインターフェースの使用方法をご覧いただくと、最小限のマウスやキーボード操作でスキャンできます。




> 🔎**注意**
>
> チュートリアルに戻るには、設定 > スキャナーに移動し「タッチインターフェースのチュートリアル」オプションの横にある「実行」ボタンをクリックしてください。

# スキャン中の表示

スキャン中に表示される長方形ボックスの色は、スキャンの状態を示しています。

| | |
|---|---|
|  |  |
| スキャンとトラッキングが正常に処理されています。 | スキャン中にトラッキングが失われました。<br>スキャナーチップを配置し直し、続きの場所から連続的にスキャンする必要があります。 |

# スマート矢印

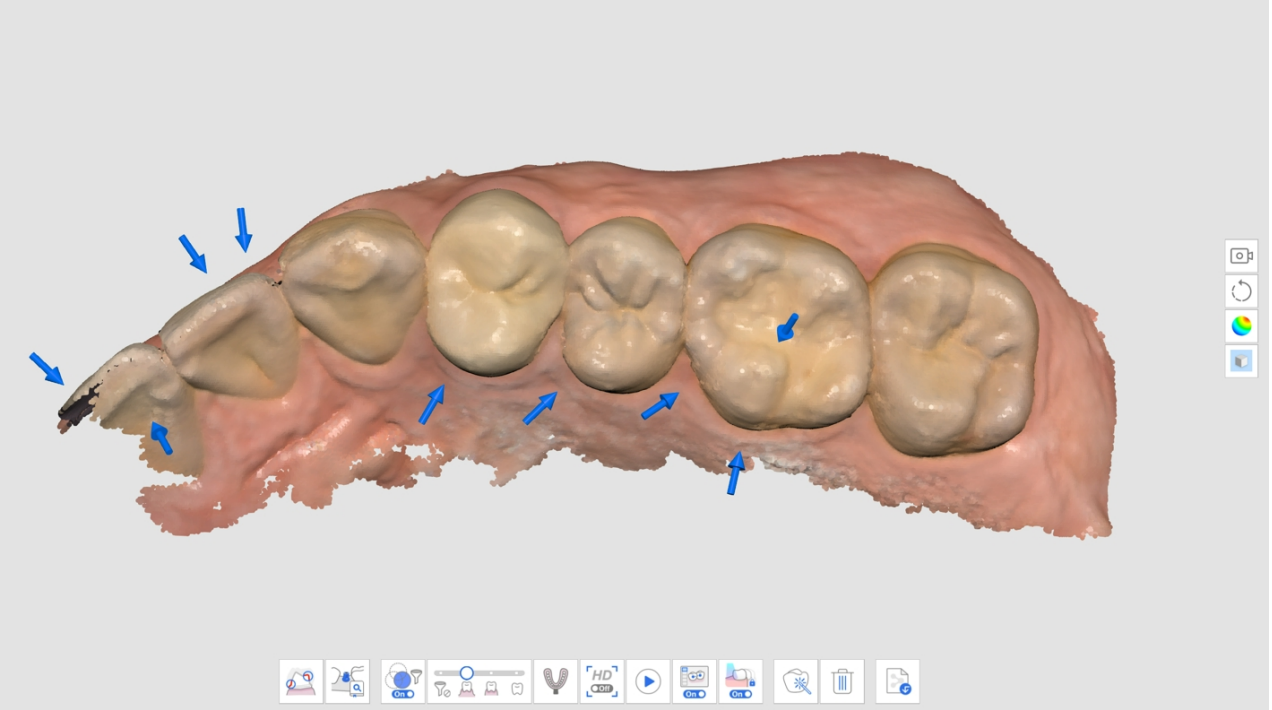
スマート矢印は、取得したスキャンデータの信頼性が低い領域を指します。

スキャンを停止時に、青色矢印は信頼性が不十分な領域を指します。追加スキャンでデータの信頼性が向上すると矢印は消えます。

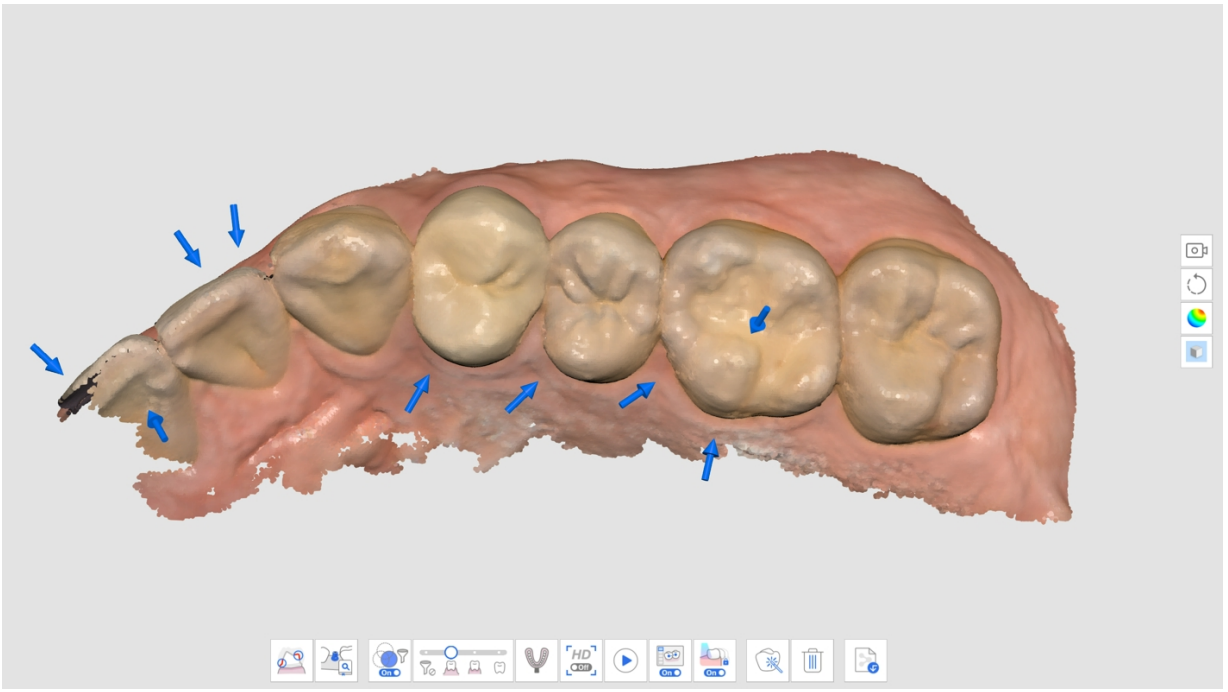
この機能は、次のスキャン工程でのみサポートされています。

- 上顎施術前
- 下顎施術前
- 上顎
- 下顎
- スマートスキャン確認

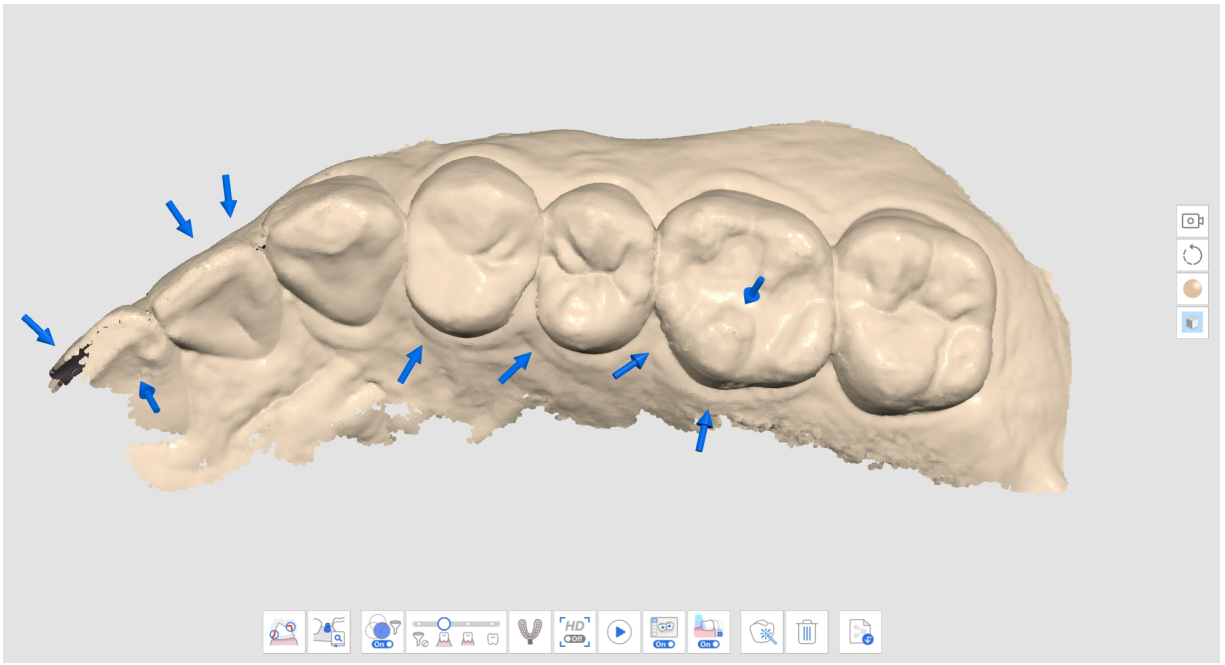
1. サポートされているスキャン工程のうちの一つのスキャンデータ。
2. スキャン停止時に、青色矢印が表示され、データの信頼性が低い領域を指します。



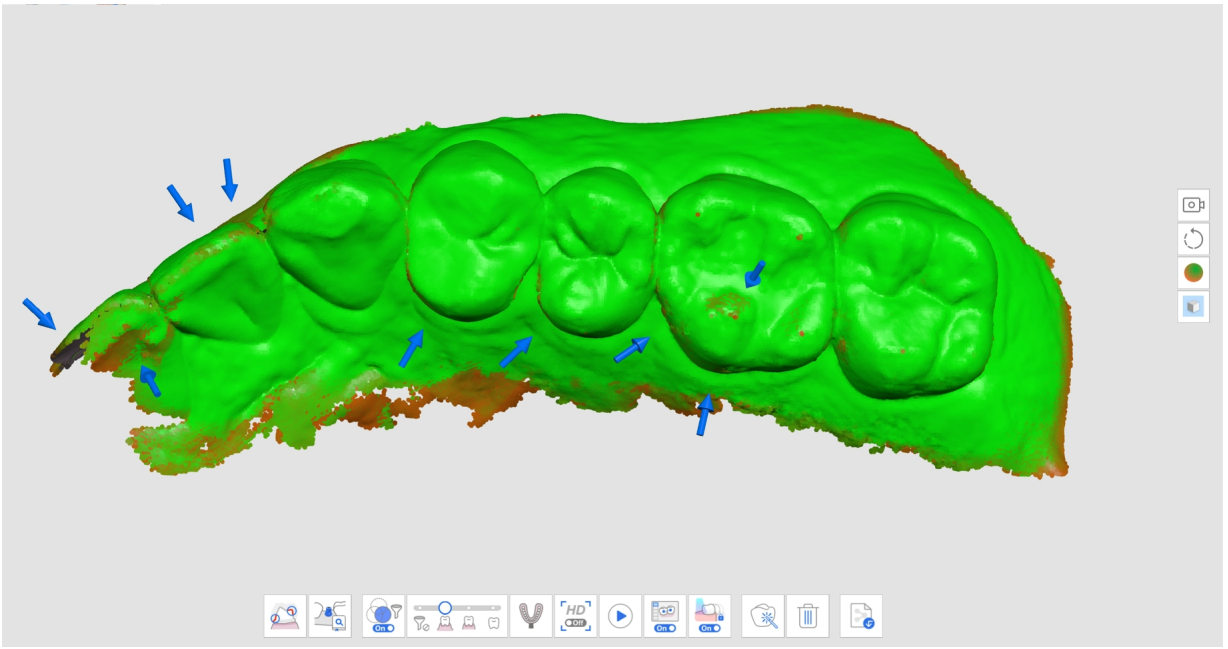
3. マークされた領域を見直して、スキャンデータを確認します。データ表示モードの「信頼性マップ」または「光沢なし + 信頼性マップ」を選択して、領域をクローズアップした詳細を検査できます。
    - 光沢なし



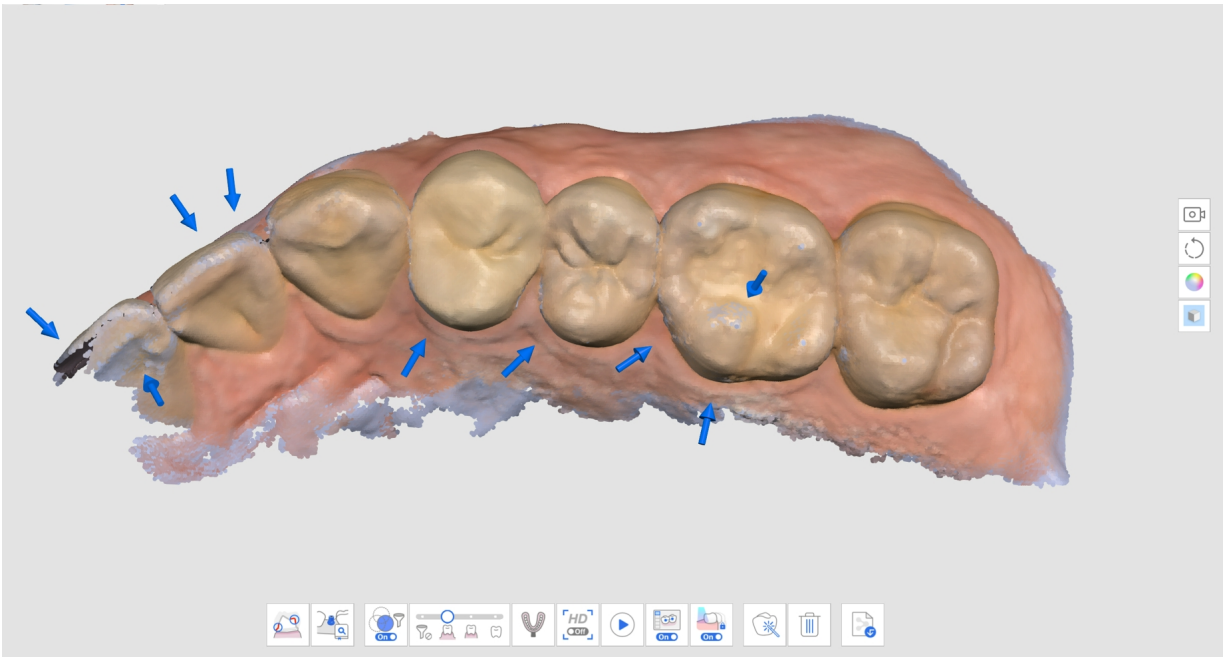
- モノクロ



- 信頼性マップ



- 光沢なし + 信頼性マップ

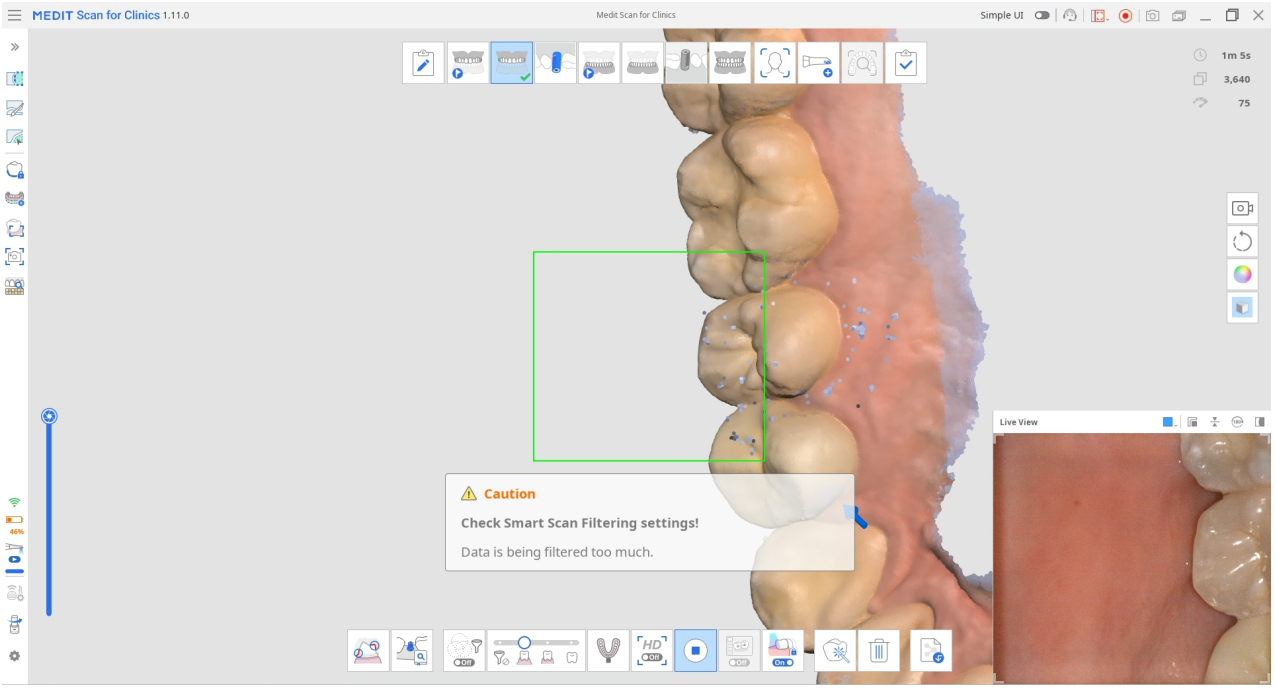


4. 追加データをスキャンし、不足している領域を充填します。複数の方向にスキャナーを動かし、さまざまな方向からのデータをスキャンして、データの信頼性を向上させます。
5. 矢印は十分な信頼性のあるデータが取得されると消えます。
6. 十分にスキャンをし、関心のある領域の周辺のすべての矢印を取り除き（例えば、マージンや隣在歯に集中して修復物作成時）、次のスキャン工程に移動します。

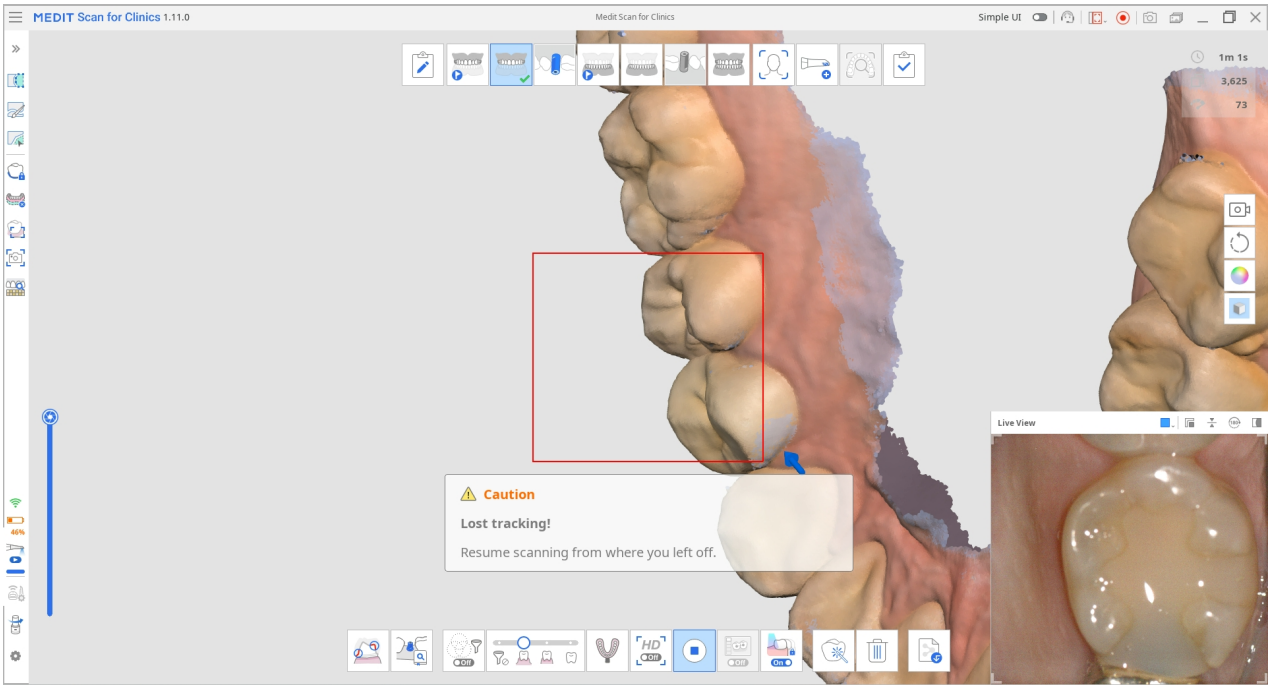
# スマートスキャンガイド

スマートスキャンガイドは、スキャン中の通常とは異なる操作を識別し、適切なガイダンスを提供します。メッセージは一定期間経過後、または状況が解決されると自動的に消えます。

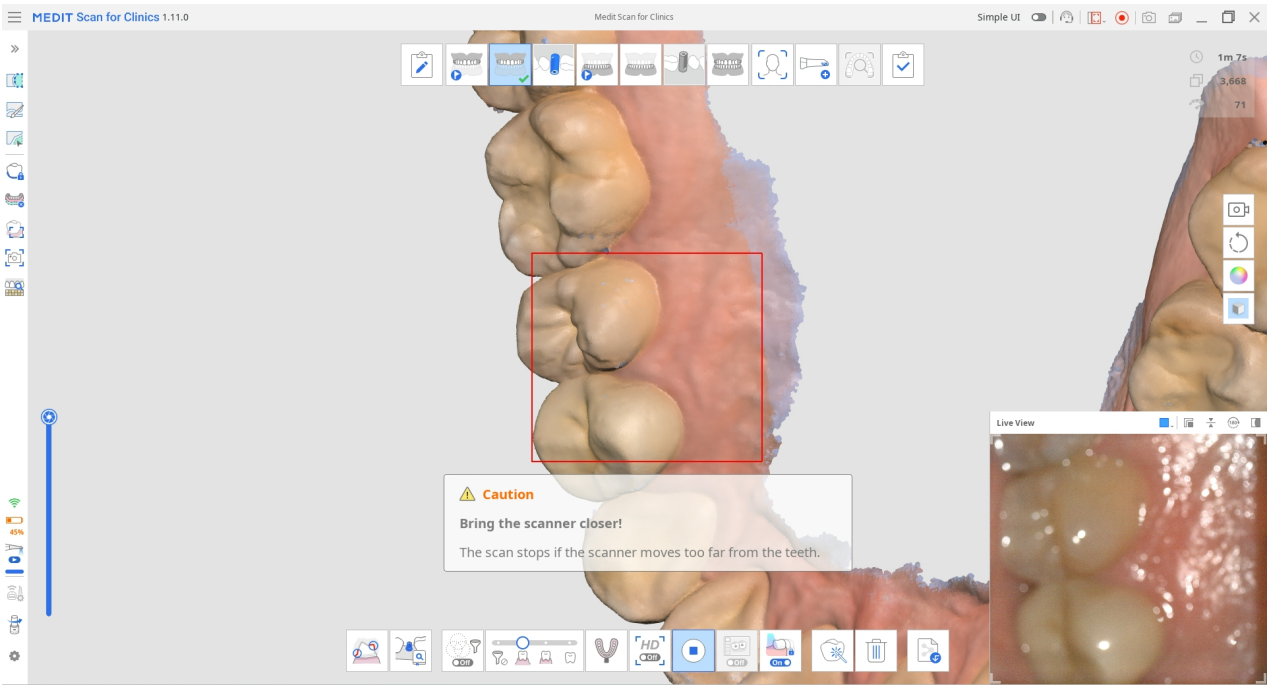
- スマートスキャンフィルタリングを使用してスキャン中に過度のデータが取り除かれた場合



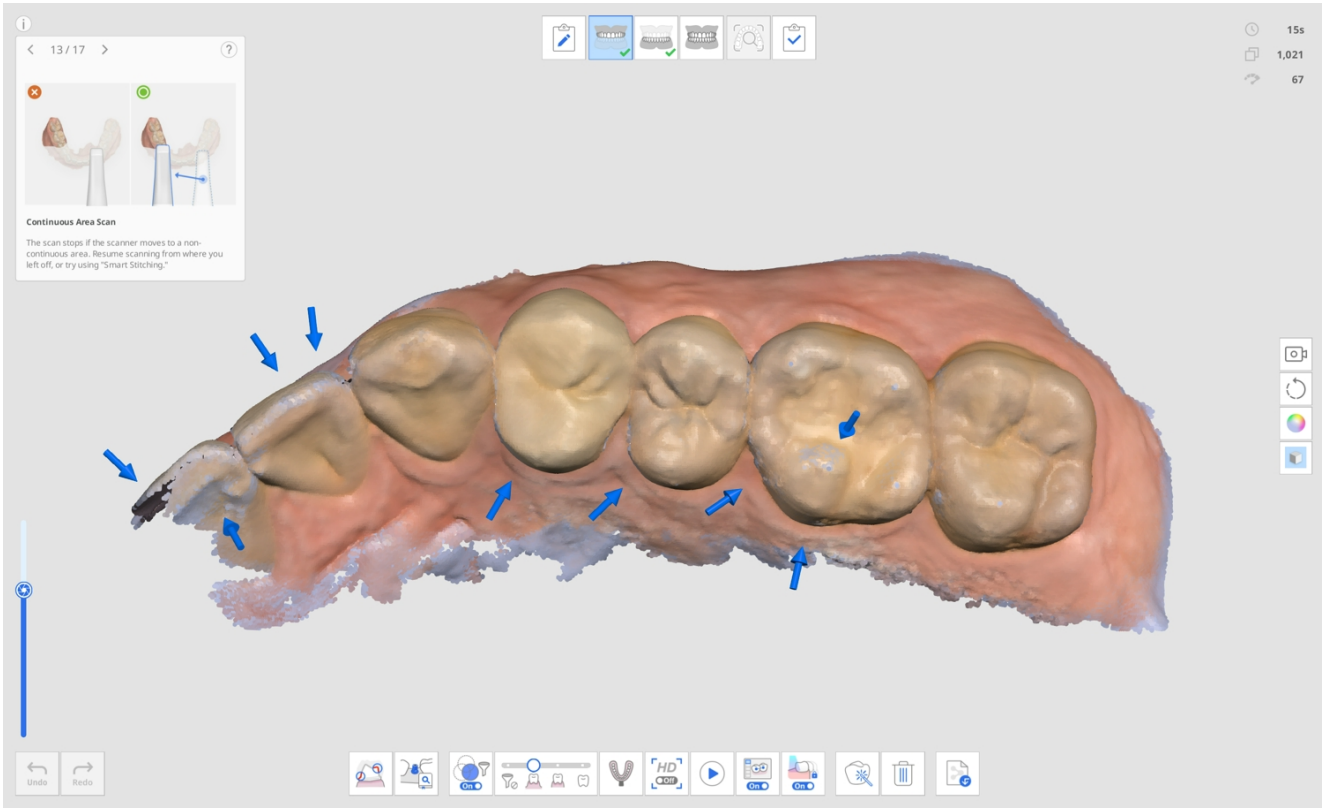

- スキャンに一貫性がなく、スキャンを（スマートステッチ機能がオフで）新しい位置から継続している場合




- スキャナーと歯の距離が十分でない場合




スキャンを中止すると、左上の情報ウィンドウに追加情報が表示されます。



# 工程管理

## 工程管理

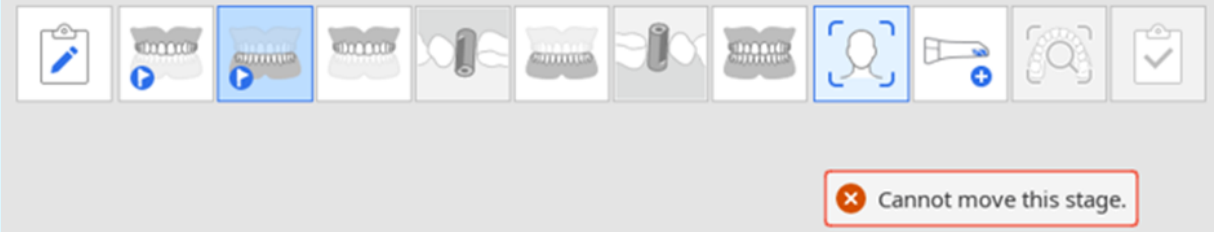
歯科医院用スキャンでは、上顎、下顎、咬合がデフォルトのスキャン工程として提供されています。



工程管理アイコンを使用すると、Medit Linkで登録済みのフォーム情報に関わらず、ワークフローに工程を追加またはワークフローから削除でき、注文を変更できます。



工程管理のダイアログで、各工程を追加または削除してワークフローを設定できます。

> 🔎**注意**
>
> - ワークフロー中の顔面と追加データの工程の順序は変更できません。
>
> 
> 
>
> - スマートスキャン確認工程の順序を変更できませんが、設定 > スキャンデータ分析 > スマートスキャン確認で工程を削除できます。
> - 完了工程の順序の変更または下顎/上顎工程の削除はできません。

# スキャン工程

以下のスキャン工程がスキャン管理工程で設定できます。

| | | |
|---|---|---|
|  | 施術前上顎 | 上顎用の施術前3D画像を取得します。 |
|  | 施術前下顎 | 下顎用の施術前3D画像を取得します。 |
|  | 上顎 | 上顎の3D画像を取得します。 |
|  | 上顎スキャンボディ | 上顎のスキャンボディ3D画像を取得します。 |
|  | 下顎 | 下顎の3D画像を取得します。 |
|  | 下顎スキャンボディ | 下顎のスキャンボディ3D画像を取得します。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 上顎無歯顎 | 上顎無歯顎の3D画像を取得します。 |
|  | 上顎義歯 | 上顎義歯の3D画像を取得します。 |
|  | 下顎無歯顎 | 下顎無歯顎の3D画像を取得します。 |
|  | 下顎義歯 | 下顎義歯の3D画像を取得します。 |
|  | 咬合 | 咬合整列の3D画像を取得します。 |
|  | 顔面 | 歯、口、鼻などの3Dデータを取得します。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 追加データ | スキャン処理用の追加データを取得します。 患者の既存の補綴物、仮補綴物等をスキャンできます。 |

🔎**注意**

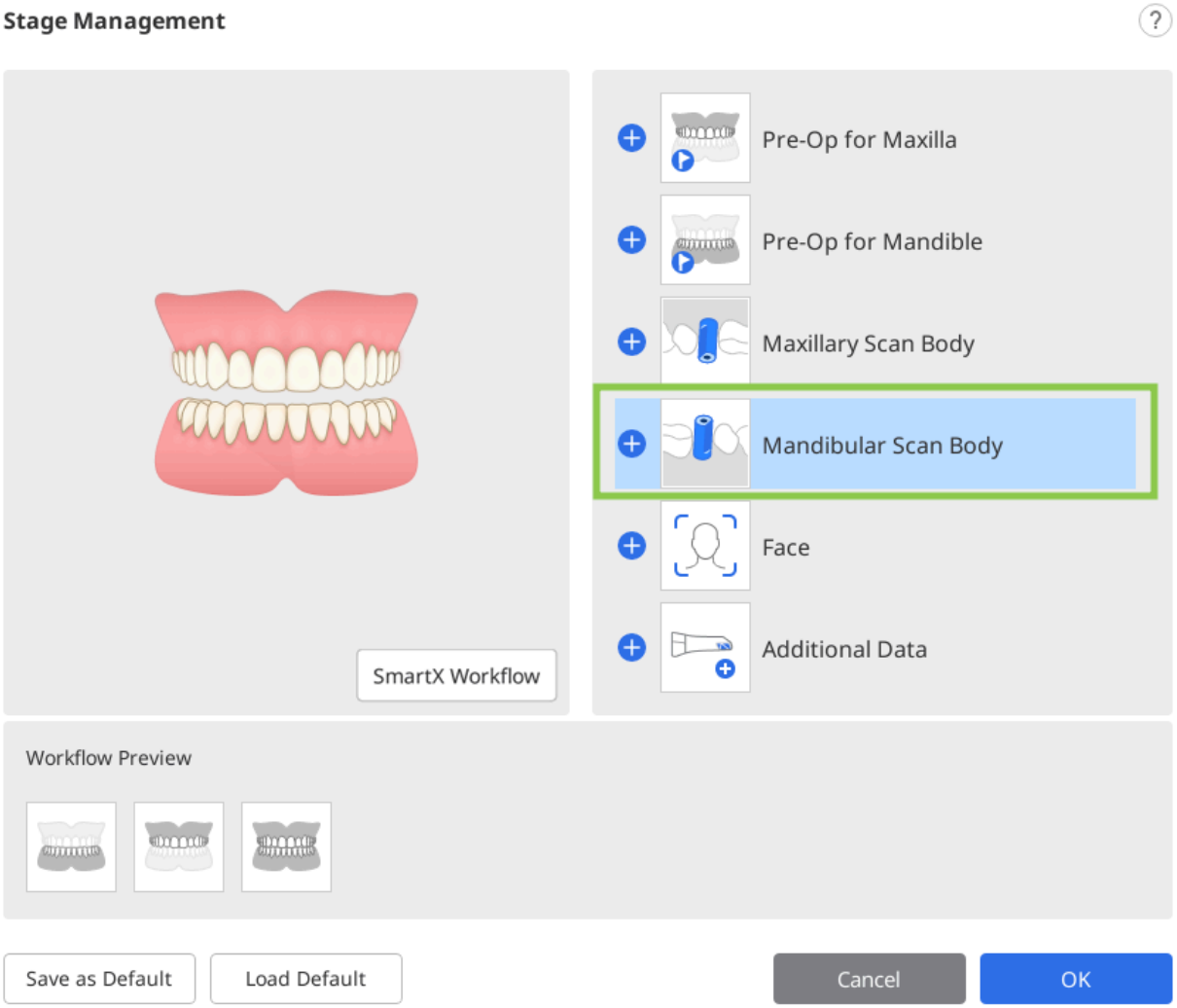
- Medit Linkのフォーム情報で全部床義歯、義歯の複製またはインプラントオーバーデンチャーが指定されている場合に、上顎／下顎義歯工程が使用できます。
- Medit Linkのフォーム情報で総義歯またはインプラントサポート義歯が指定されている場合に、上顎無歯顎／下顎工程が使用できます。

# 工程の追加／削除

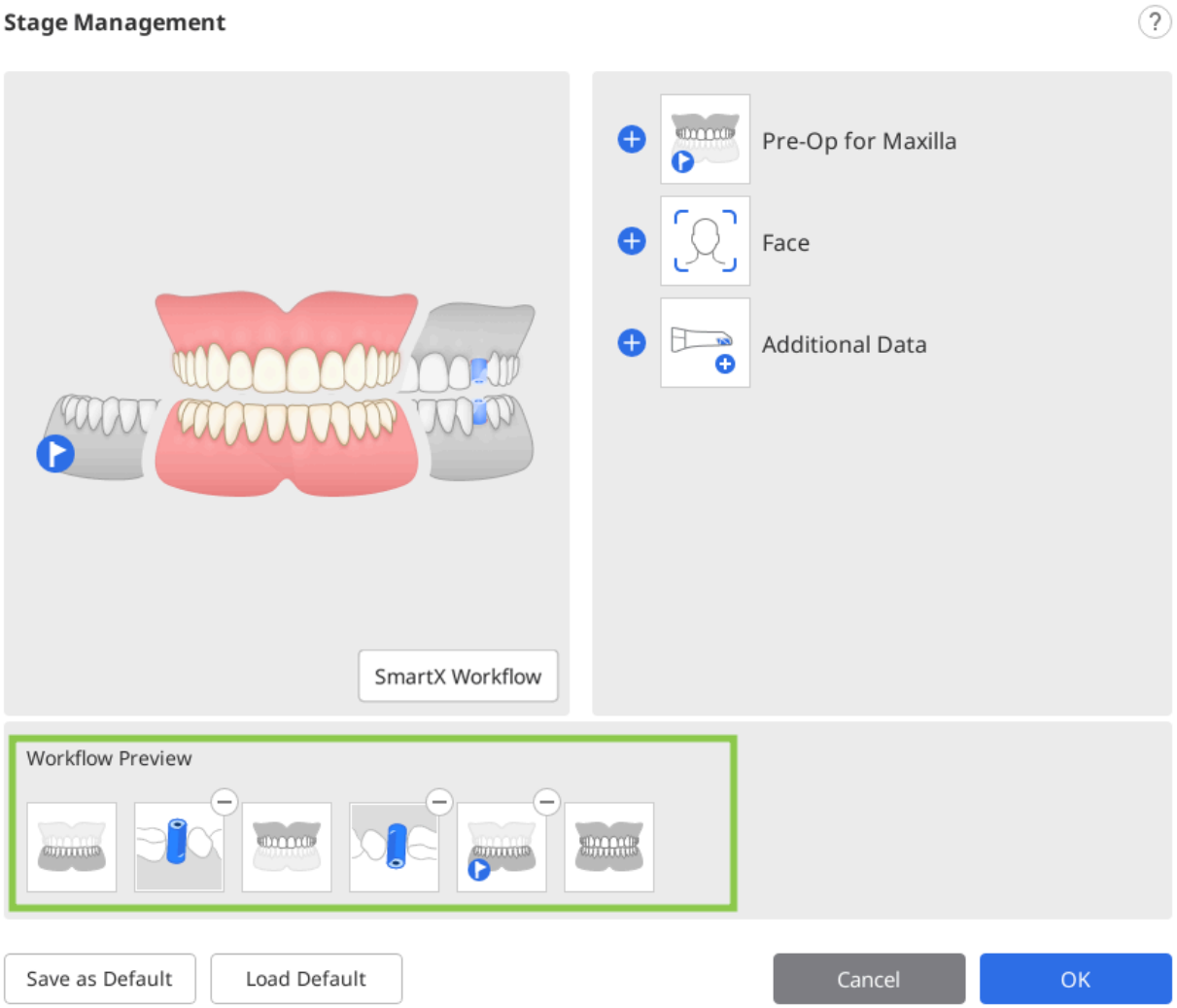
1. 工程管理アイコンをクリックします。



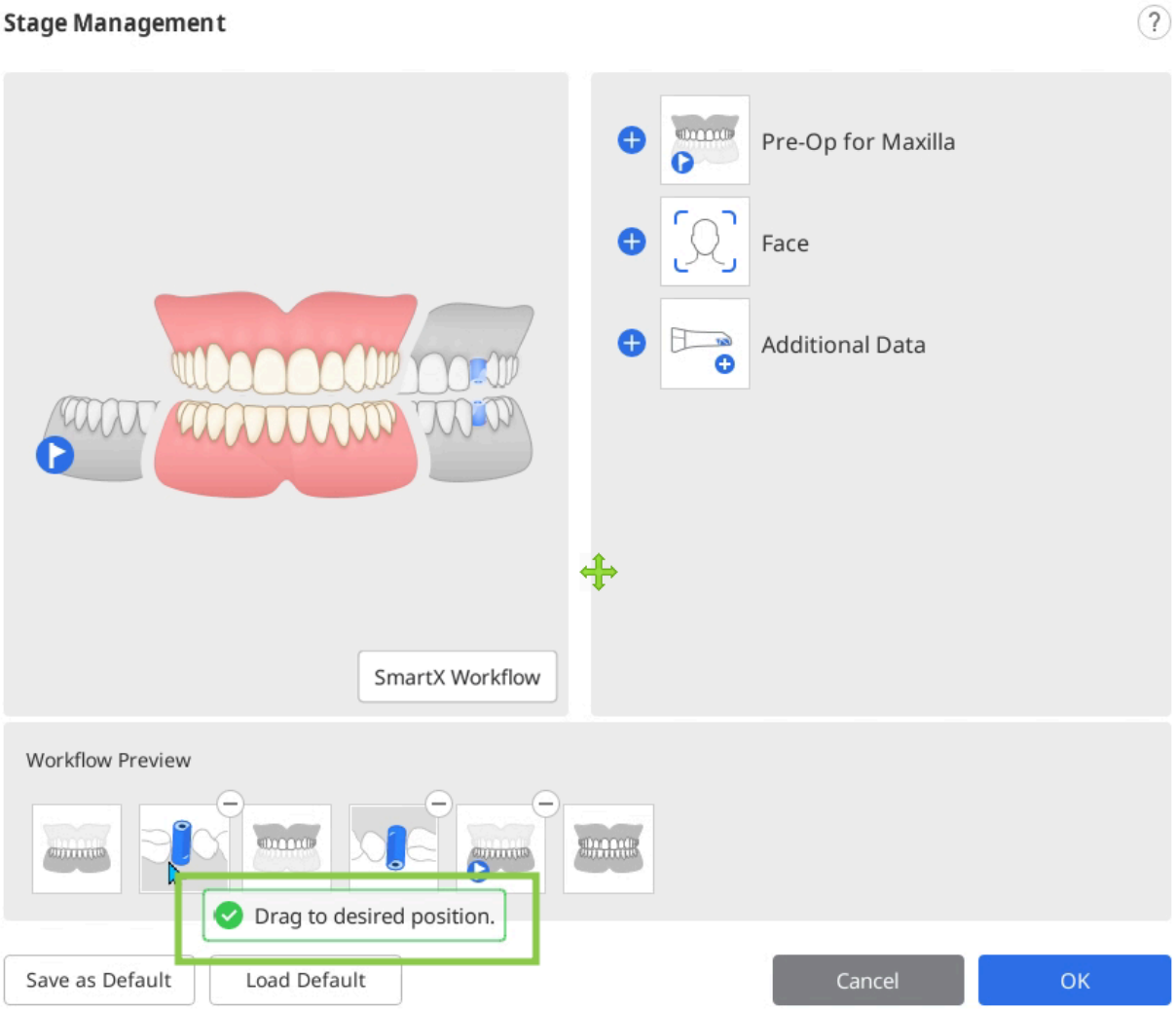
2. 工程管理ダイアログが表示されます。
3. 右側のリストから追加する工程をクリックします。




4. 選択した工程は、下部のワークフロープレビューセクションに追加されます。




5. ワークフロープレビューで工程アイコンをドラッグして、ワークフロー中の工程順を変更できます。 工程アイコンの上部右隅にある⊖をクリックすると、ワークフローから工程を削除できます。

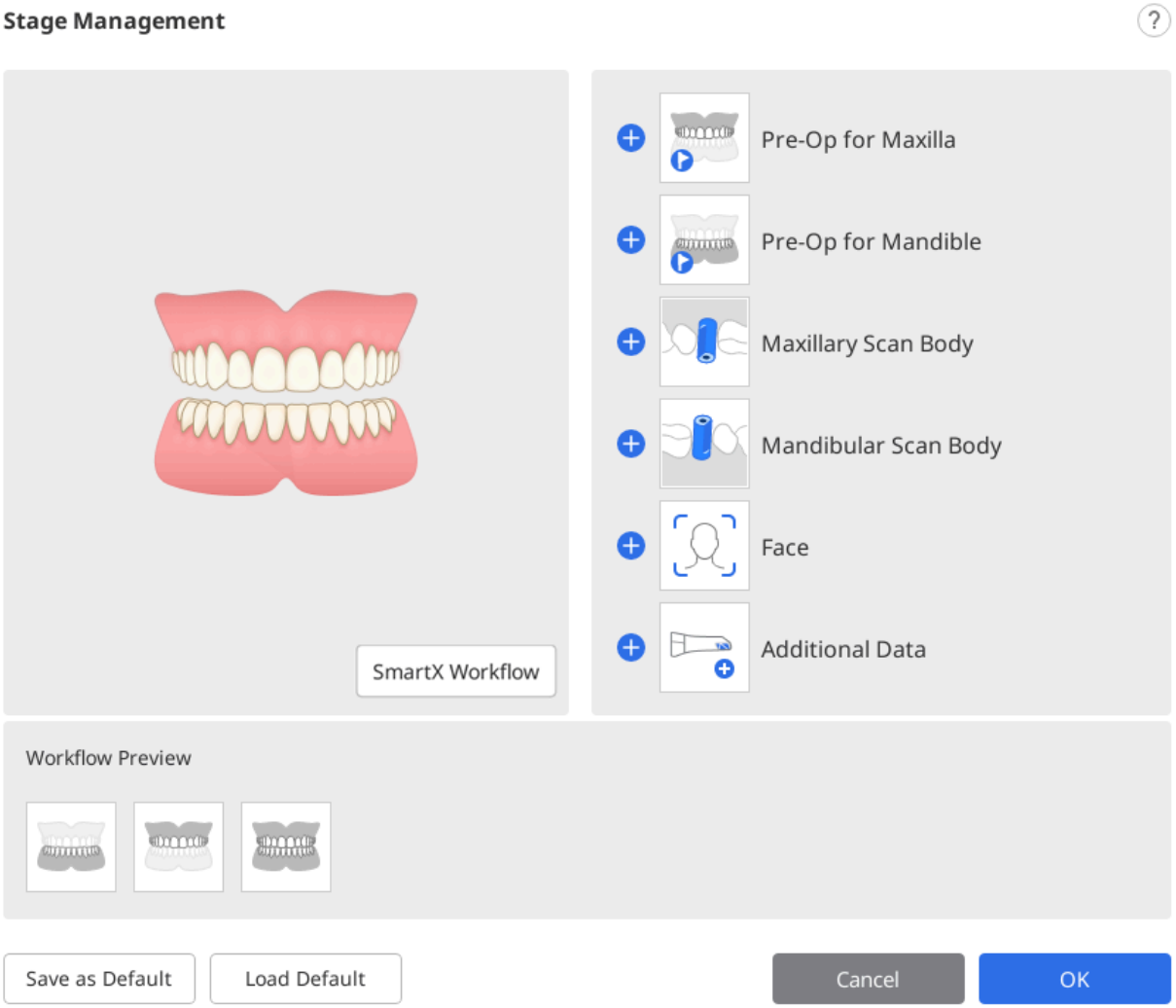



6. 「OK」をクリックすると、ワークフローの変更を保存します。
7. 工程管理ダイアログが消え、画面上部の工程アイコンが変更したワークフローに沿って更新されます。

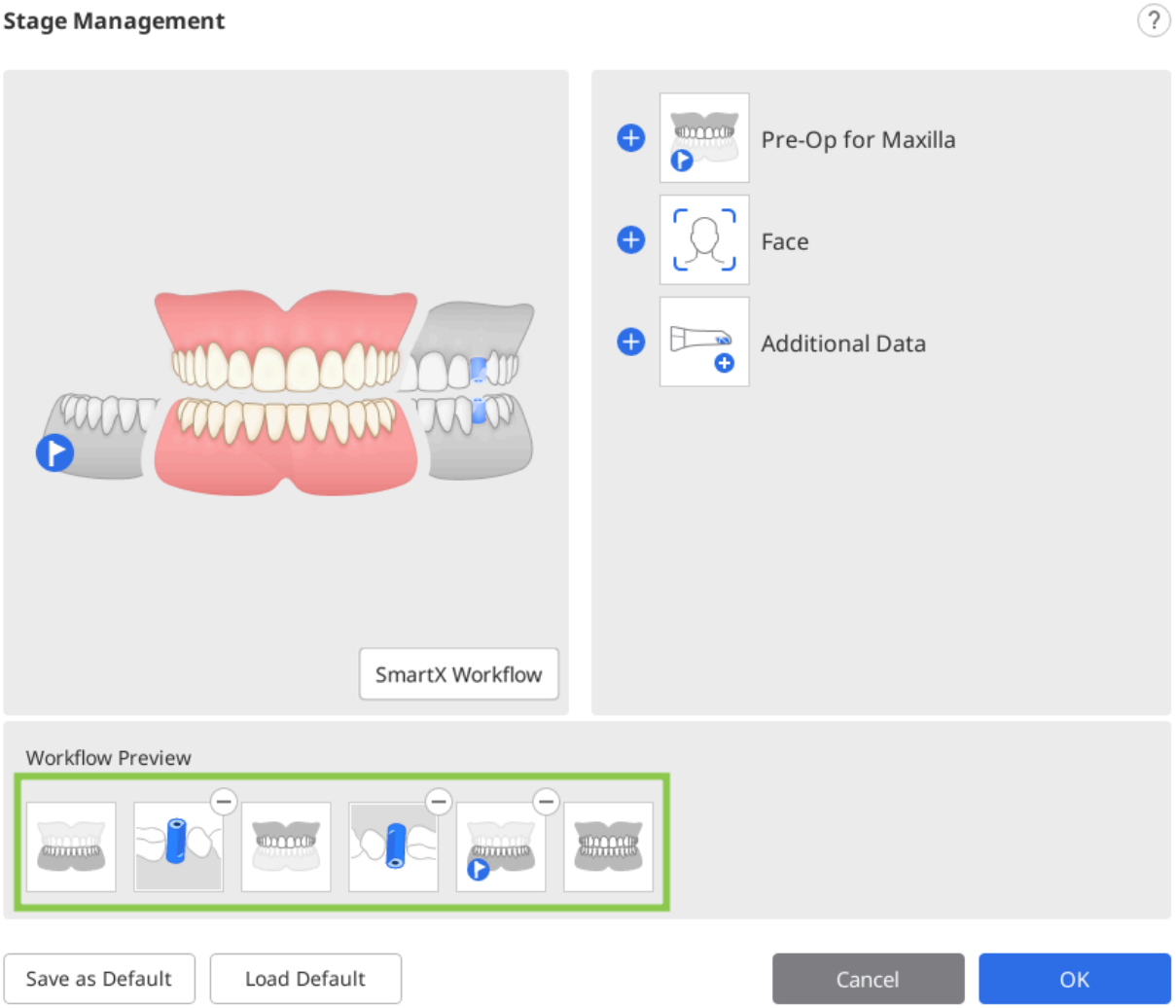


# デフォルトのワークフローとして保存

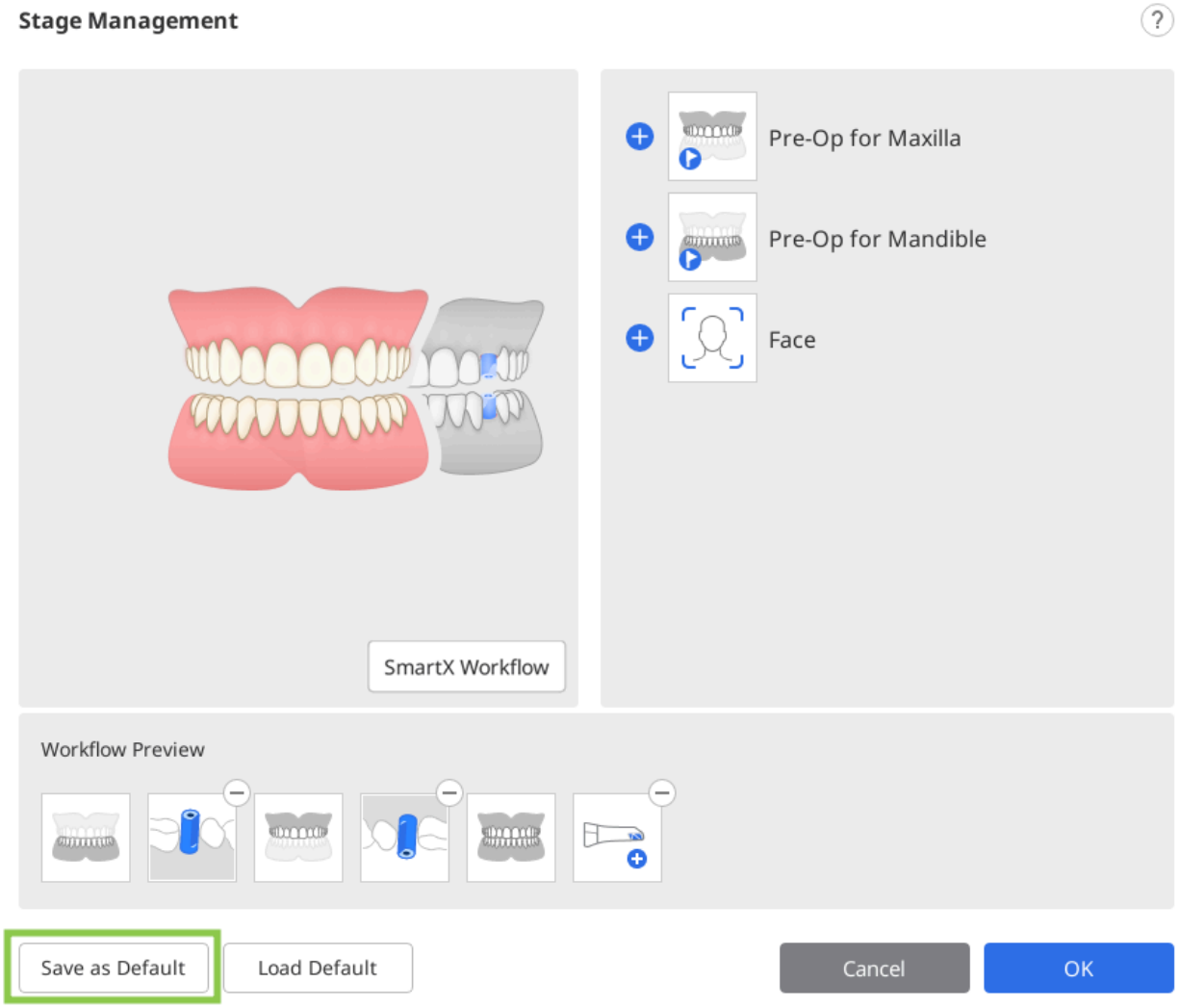
1. 工程管理アイコンをクリックして工程管理を実行します。



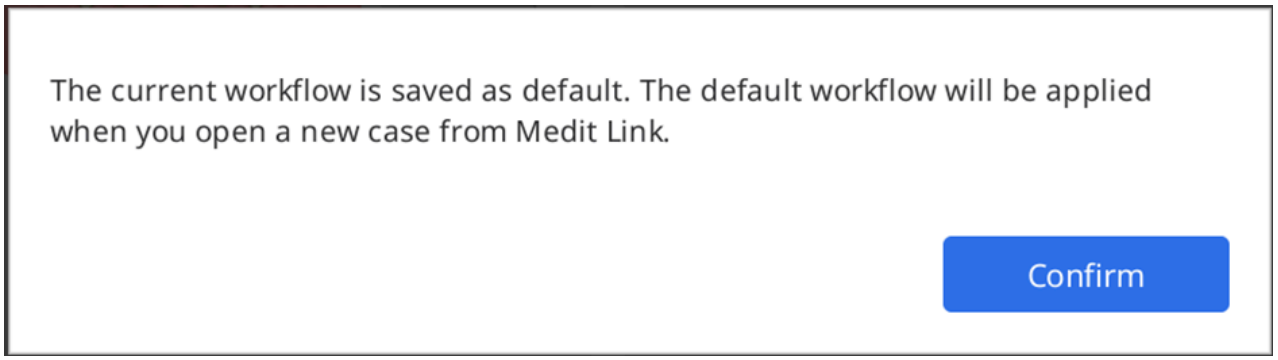

2. ワークフロープレビューに工程リストから希望する工程を追加します。




3. 下部の「デフォルトとして保存」をクリックして、変更したワークフローを保存します。




4. 「確認」をクリックして、続行します。




5. デフォルトのスキャン工程は、新規ケースを開いた時に画面の上部に表示されます。




# 工程順の変更

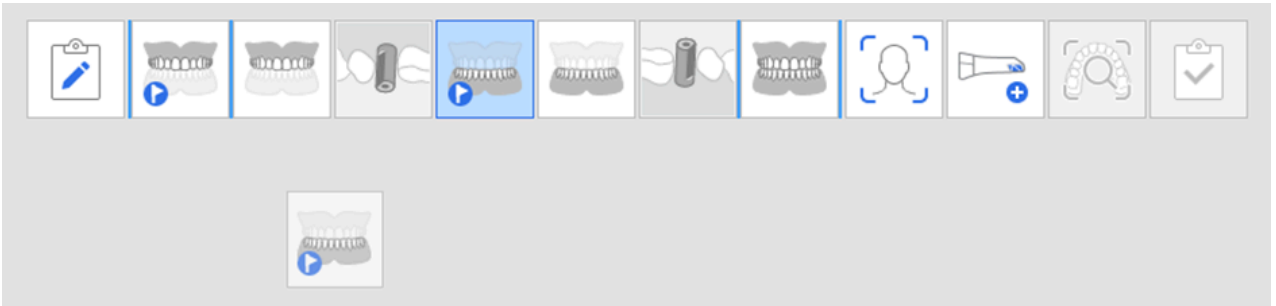
青色のバーが表示される、希望する位置に工程アイコンを移動できます。

下顎工程を一番最初の位置に動かしたい場合

1. 画面上部の工程アイコンにチェックを入れます。



2. 下顎工程アイコンをクリックして、ドラッグします。 次に、スキャン工程を移動できる箇所に青色のバーが表示されます。



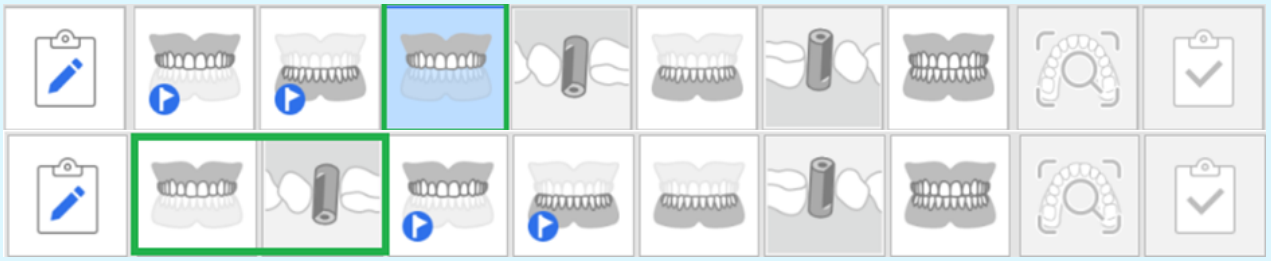
3. スキャン工程を希望する位置に移動します。



4. 変更されると、その時からプログラムは変更された順で開始します。

> 🔎**注意**
>
> スキャンボディ工程は下顎／上顎工程と一緒に移動します。

例えば、下顎工程を左の端にドラッグした場合、以下に示すように下顎スキャンボディ工程も一緒に移動します。



# 上顎/下顎の施術前

## 施術前上顎工程



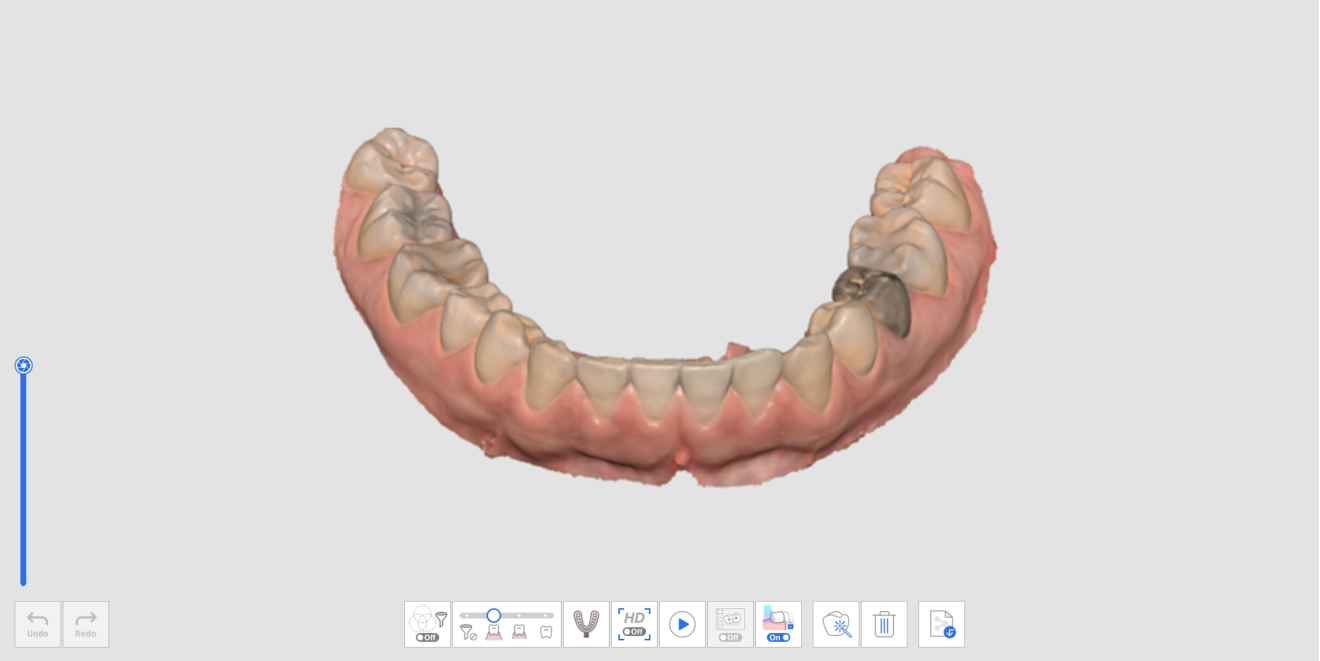
上顎用の施術前3D画像を取得します。



## 施術前下顎工程



下顎用の施術前3D画像を取得します。




# 施術前工程の追加ツール

各工程の画面下部に表示されるツールの詳しい使用方法については、スキャン工程ツールを参照してください。

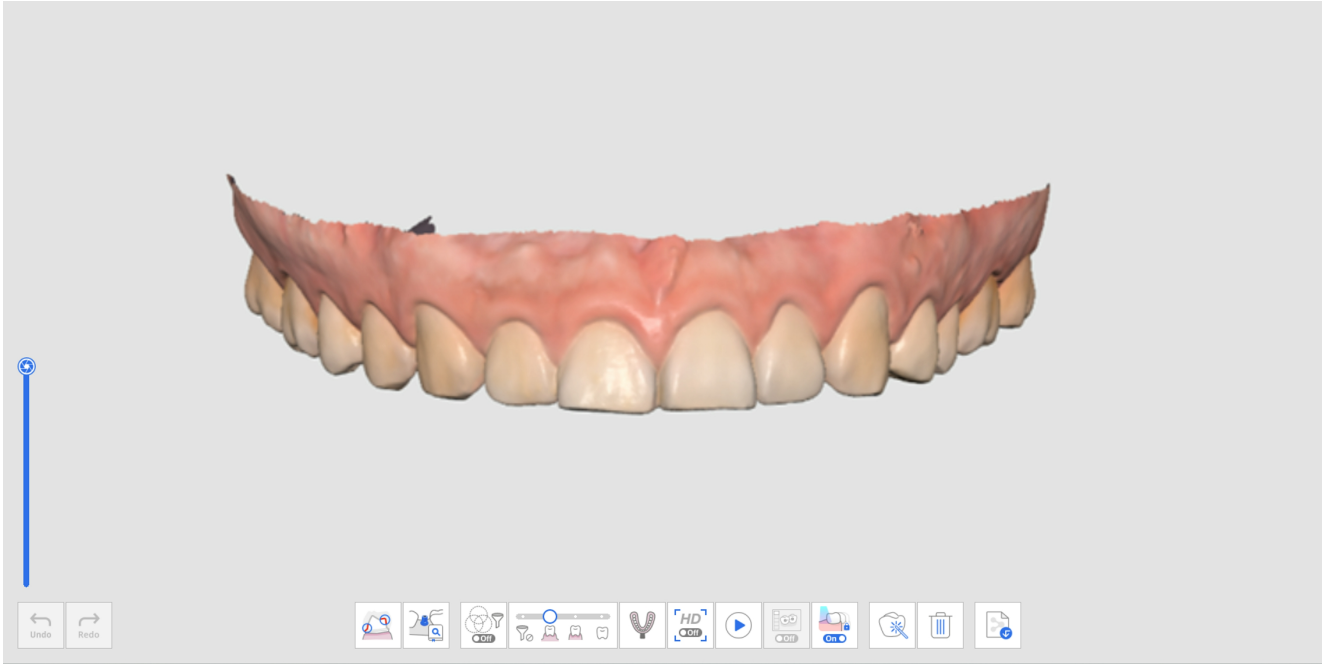
| | | |
|---|---|---|
|  | 印象スキャン | インプレッションデータを取得し、リアルタイムで口腔内スキャンデータと整列させます。 |

# 上顎/下顎

## 上顎工程



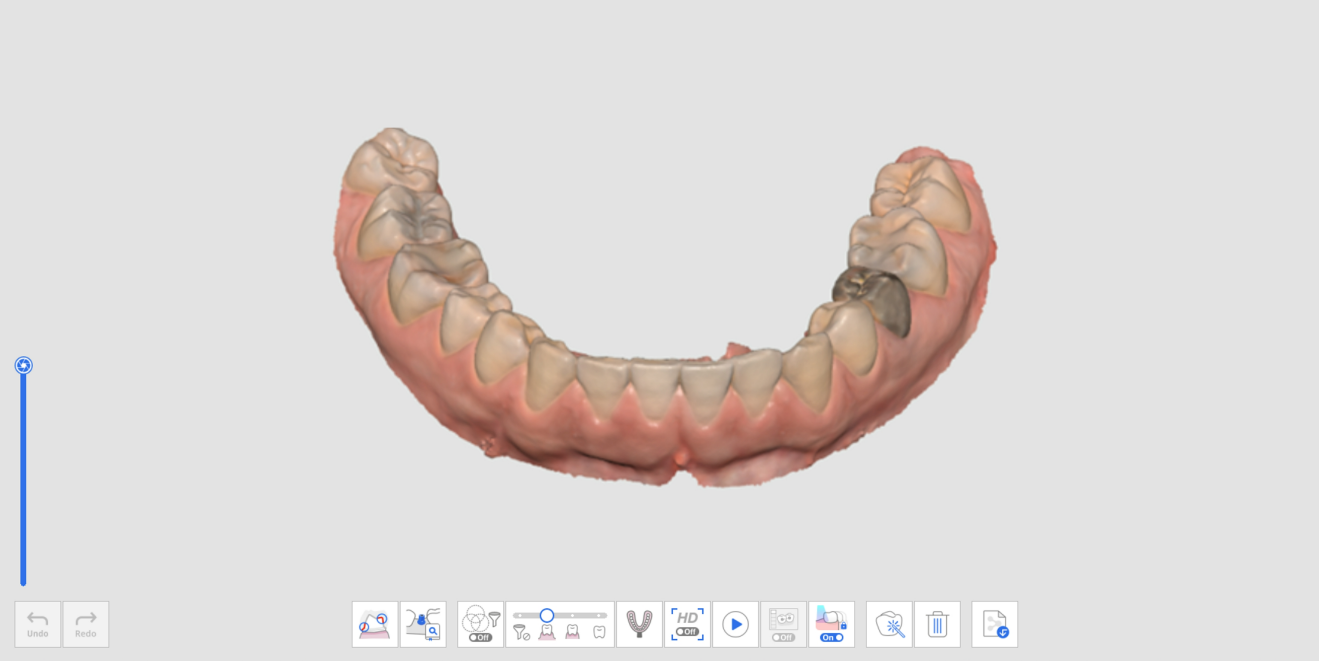
上顎の3D画像を取得します。



## 下顎工程



下顎の3D画像を取得します。



# 上顎/下顎工程の追加ツール

画面下部に表示されるツールの使用情報については、スキャン工程ツールを参照してください。

| | | |
|---|---|---|
|  | 印象スキャン | 印象データを取得しリアルタイムで口腔内スキャンデータに揃えます。<br>* ツールの詳細な使用法についてはケースおよびワークフローの例 > 印象スキャンを参照してください。 |
|  | アバットメントライブラリマッチング | カスタムアバットメントライブラリを管理します。<br>このライブラリデータは、届きにくい領域をスキャンする必要性を最小限に抑え、スキャンデータと自動的に揃えられます。<br>ライブラリデータは、設計などのその他のプロセスで共有できます。<br>* ツールの詳細な使用法についてはケースおよびワークフローの例 > アバットメントライブラリマッチングを参照してください。 |
|  | 支台歯確認 | 挿入パスと距離測定を使用して支台歯データを確認します。<br>* ツールの使用方法の詳しい説明については、ケースとワークフローの例 > 支台歯確認を参照してください。 |

# スキャンボディ

## 上顎スキャンボディ工程

| | |
|---|---|
|  | 上顎のスキャンボディ3D画像を取得します。 |

## 下顎スキャンボディ工程

| | |
|---|---|
|  | 下顎のスキャンボディ3D画像を取得します。 |




## スキャンボディ工程用の追加ツール

各工程の画面下部に表示されるツールの詳しい使用情報については、スキャン工程ツールを参照してください。

| | | |
|---|---|---|
|  | スキャンボディライブラリマッチング | カスタムスキャンボディライブラリを管理します。<br>このライブラリデータは、届きにくい領域をスキャンする必要性を最小限に抑え、スキャンデータと自動的に揃えられます。<br>ライブラリデータは、設計などのその他のプロセスで共有できます。 |

| | | |
|---|---|---|
| | | * ツールの詳細な使用法についてはケースおよびワークフローの例 > スキャンボディライブラリマッチングを参照してください。 |
|  | 既存データの複製 | 既存の上顎/下顎データを複製します。 |

# 既存データの複製

1. 上顎または下顎工程でデータを取得します。



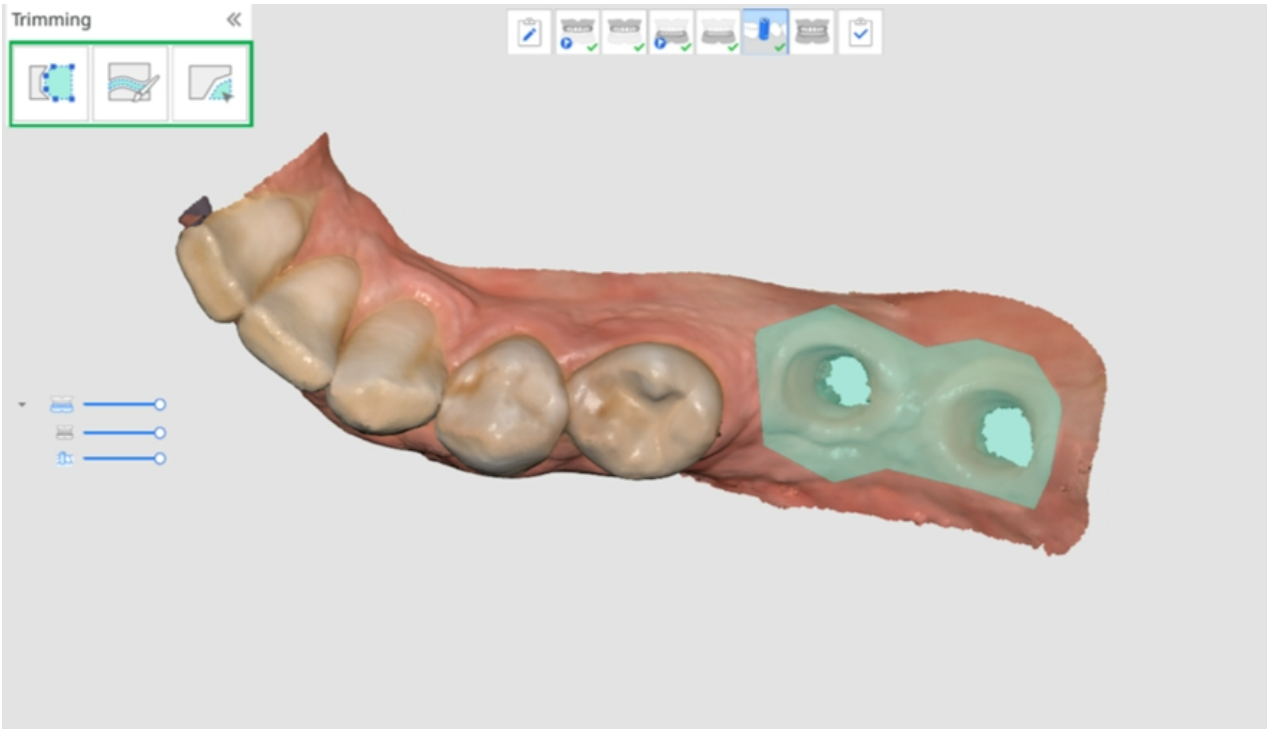
2. スキャンボディ工程に移動し、下部にある「既存データの複製」をクリックします。

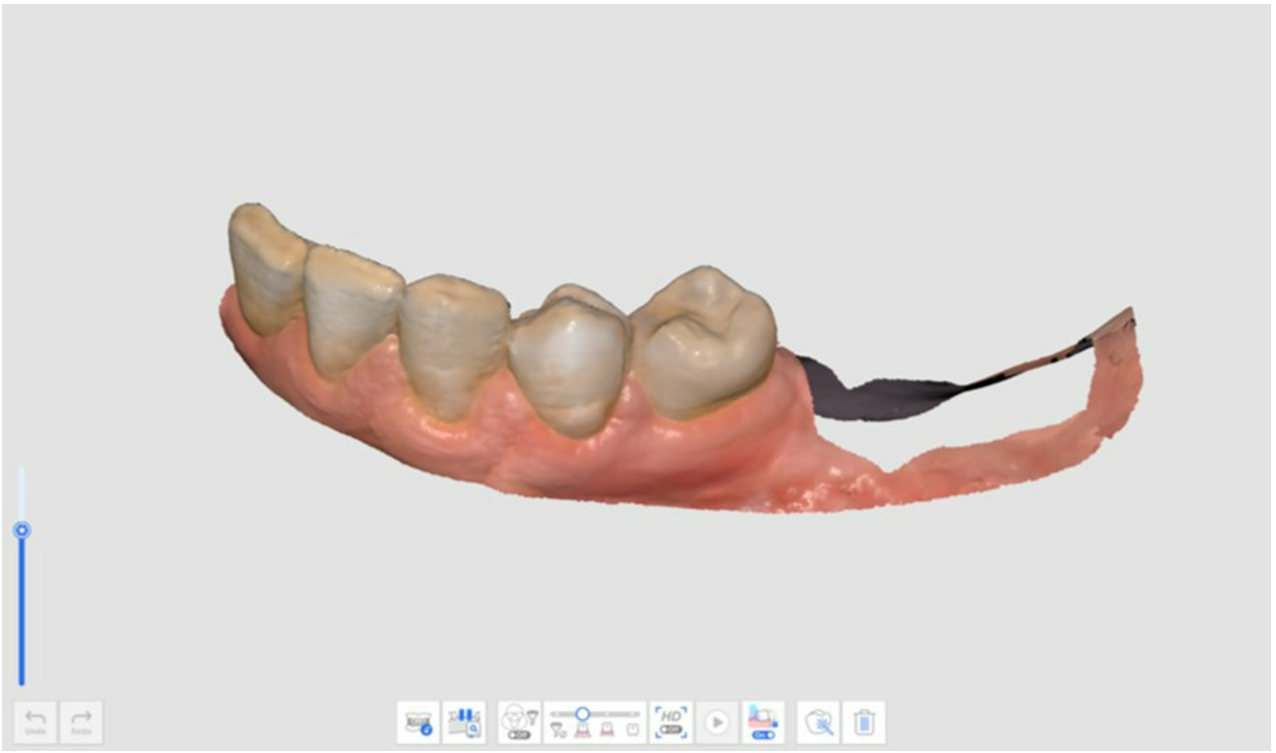


3. 上顎または下顎工程のデータはスキャンボディ工程で複製されます。 フレーム数はデータをコピー後に更新されます。

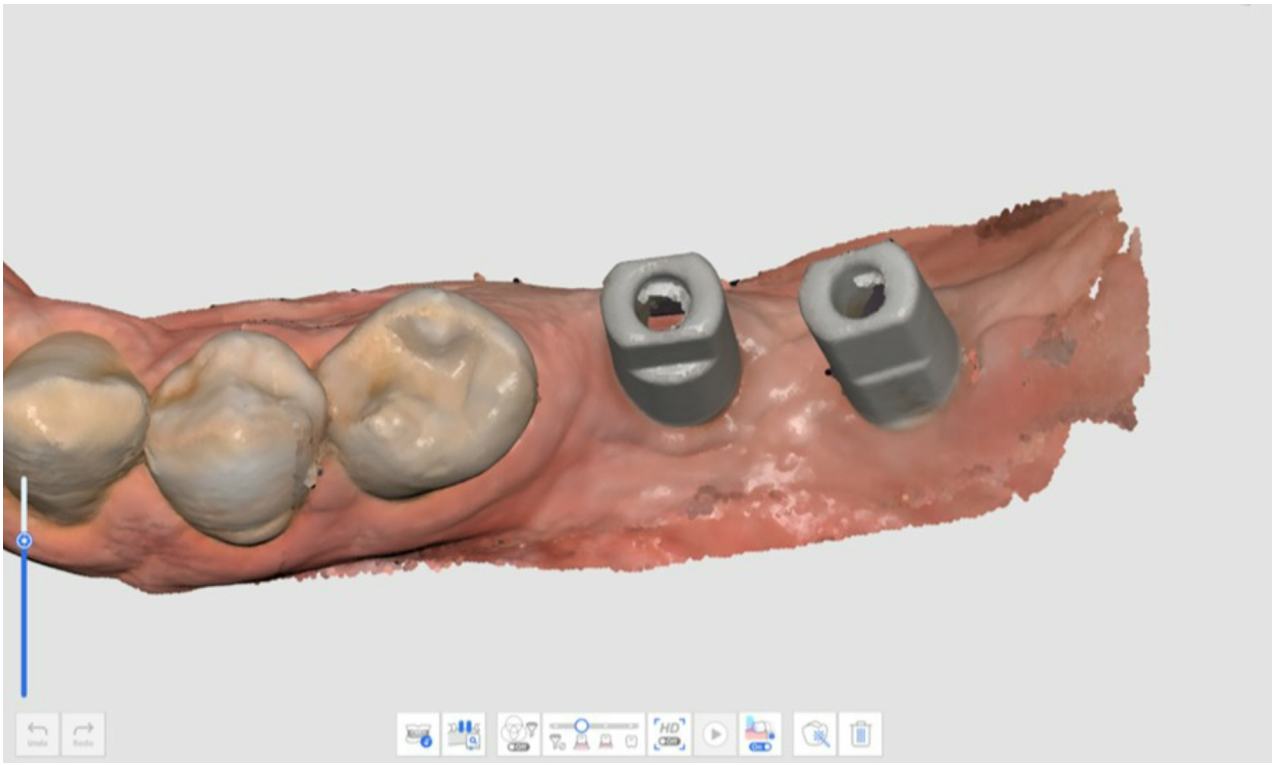


4. スキャンボディが配置された領域のトリミングツールを使用してデータを削除できます。





5. 上顎または下顎にスキャンボディを取り付け、スキャンボディデータを取得します。



6.

# 無歯上顎／下顎

> 🔎**注意**
>
> - Medit Linkのフォーム情報で総義歯またはインプラントサポート義歯が登録されている場合には、上顎無歯顎／下顎工程が表示されます。
> - Medit Link上のアーチタブからMedit Scan for Clinicsを実行後に工程管理の義歯工程を追加した場合には、上顎／下顎工程の代わりに上顎無歯顎／下顎工程が表示されます。

## 上顎無歯顎工程



上顎無歯顎の3D画像を取得します。




## 下顎無歯顎工程



下顎無歯顎の3D画像を取得します。




# 下顎無歯顎用の追加ツール

各工程の画面下部に表示されるツールの詳しい使用方法については、スキャン工程ツールを参照してください。

| | | |
|---|---|---|
|  | 裏装義歯スキャン | 裏装義歯を装着した表面をスキャンすると、下顎無歯スキャンとして使用します。 これは最適な義歯製作プロセスのために下顎無歯環境を再生するのに役立ちます。 |

# 上顎／下顎義歯

> 🔎**注意**
>
> Medit Linkフォームが総義歯またはインプラントサポート義歯として登録されている場合には、上顎/下顎の義歯工程が表示されます。
> Medit Linkでアーチを選択後にMedit Scan for Clinicsを実行すると、工程管理のワークフローに上顎/下顎の義歯工程を追加できます。

## 上顎義歯工程



上顎義歯の3D画像を取得します。




## 下顎義歯工程

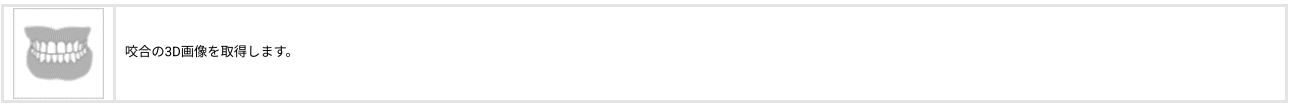


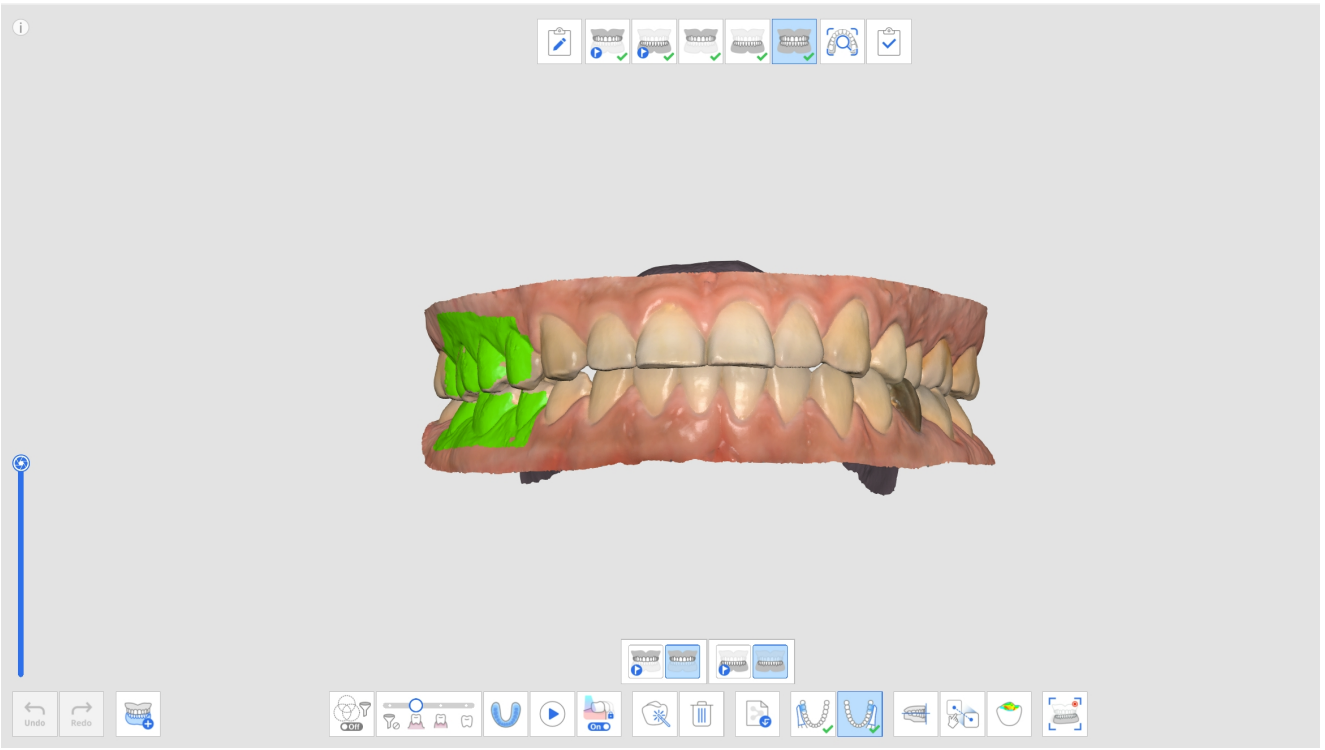
下顎義歯の3D画像を取得します。


Undo
Redo
On
HD
Off
On

# 咬合

## 咬合工程

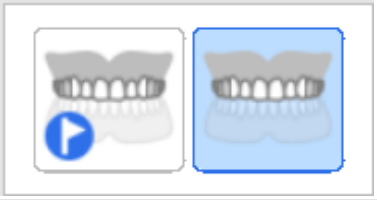
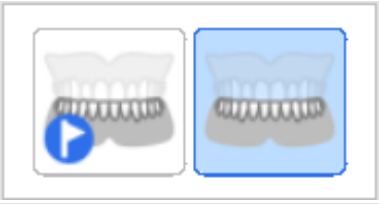


## 咬合工程用の追加ツール

各工程の画面下部に表示されるツールの詳しい使用方法については、スキャン工程ツールを参照してください。

| | | |
|---|---|---|
|  | 複数咬合 | 咬合スキャンデータおよび整列のさまざまなタイプを再現します。咬合スキャン工程でのみ利用できます。 |
|  | バイト印象をスキャン | 噛み合わせのインプレッションの3D画像を取得します。 次に上顎と下顎を整列させます。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 上顎咬合対象の選択 | 施術前上顎および咬合整列用上顎データのどちらかを選択します。 |
|  | 下顎咬合対象の選択 | 施術前下顎および咬合整列用下顎データのどちらかを選択します。 |
|  | 1番目の咬合 | 咬合整列用の1番目のスキャン咬合データを取得します。 |
|  | 2番目の咬合 | 咬合整列用の2番目のスキャン咬合データを取得します。 2番目の咬合は、1番目の咬合の反対側を取得することが多いです。 |
|  | 咬合面との位置合わせ | データ位置をexocadに対応する咬合面に移動します。 |
|  | 手動整列 | ユーザー定義の点を使用して、データを手動で整列させます。 |
|  | 上顎を取り外す | 上顎を切り離し、事前に整列させた位置に戻します。 |
|  | 下顎を取り外す | 下顎を切り離し、事前に整列させた位置に戻します。 |
|  | 咬合データを切り取ります | 1番目および2番目の咬合データを切り離し、事前に整列させた位置に戻します。 |
|  | 全てを切り取ります | すべてのデータを切り離し、事前に整列させた位置に戻します。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 下顎運動 | 咬合が整列されると、患者の実際の下顎運動を録画し、シミュレーションします。 |

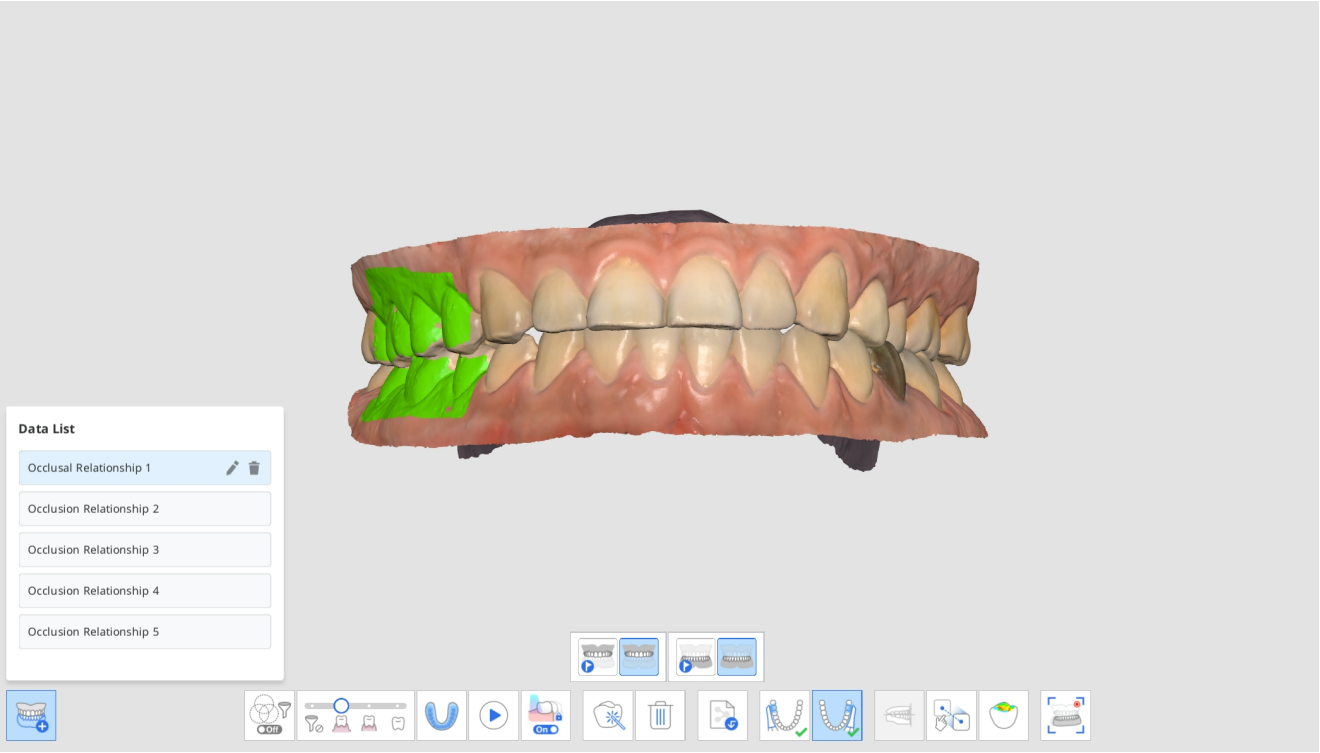
# 複数咬合

咬合スキャン工程の複数咬合グループ機能は、さまざまな咬合スキャンデータと整列を再現できます。 複数咬合パターンは、患者のより大きいまたは不規則な歯の運動を使用して取得できます。 無歯顎患者の中心部の咬合、マウスピース製作のための咬合高径、いびき防止器具製作のための前方咬合、患者の歯科医院のための中央咬合などのケースで、さまざまな咬合を作成・管理できます。

「複数咬合の管理」ダイアログを使用して、次の機能を実行できます。

- 咬合グループを追加
- 咬合グループを削除
- 名前の変更

最大5個の咬合グループを作成でき、選択済み咬合グループのスキャンデータは画面上に表示されます。 各グループ中の咬合対象を自由に選択できます。




> 🔎**注意**
>
> 同じ上顎と下顎のスキャンデータは、各咬合グループの整列に従って再現されますので、この機能は異なる上顎と下顎のスキャンデータが取得された場合には、利用できません。

1. 上顎と下顎の各工程の上顎と下顎のデータを取得します。

2. 咬合工程に移動します。



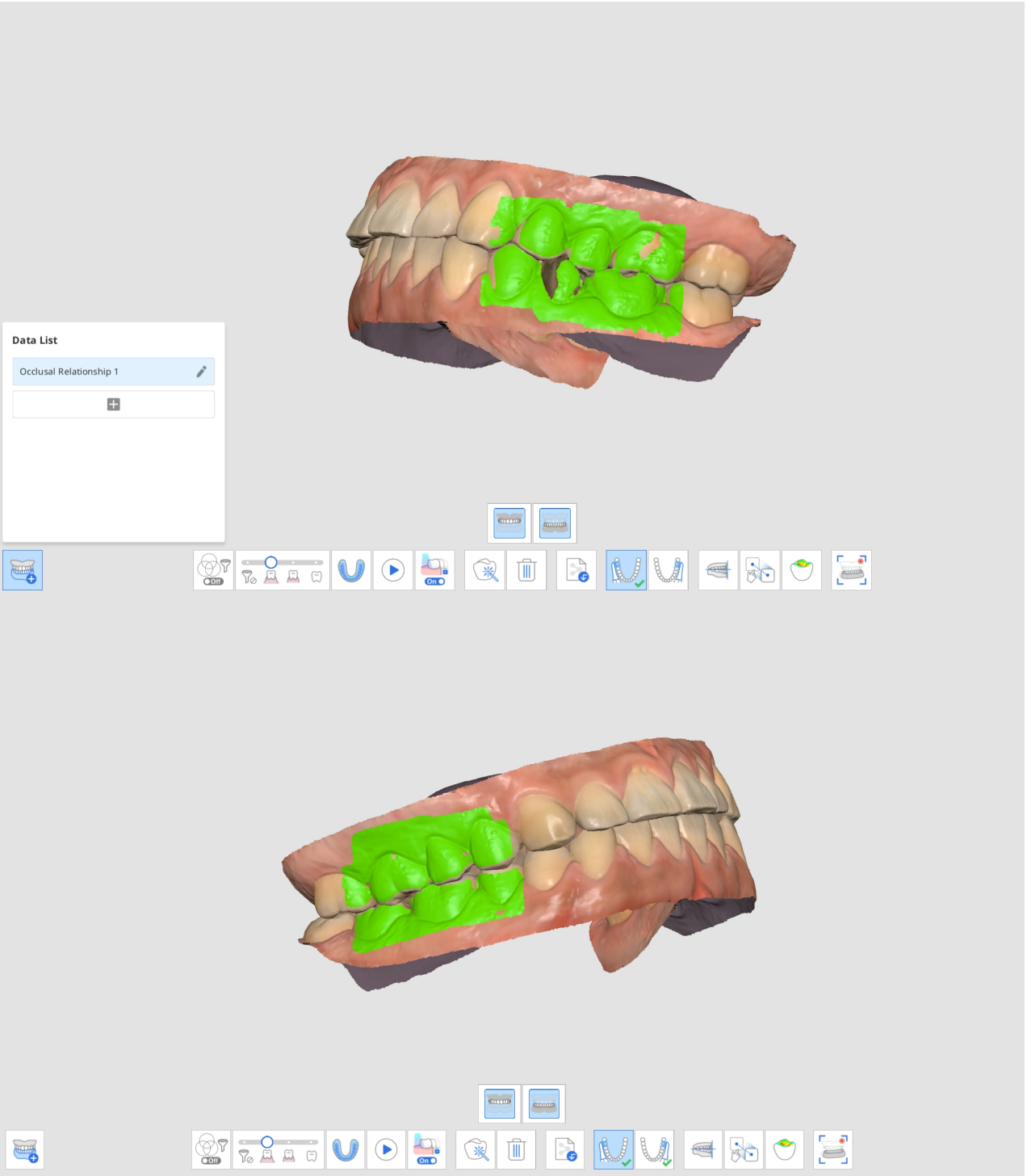
3. 下部の「複数咬合グループ」アイコンをクリックして、データリストを開きます。



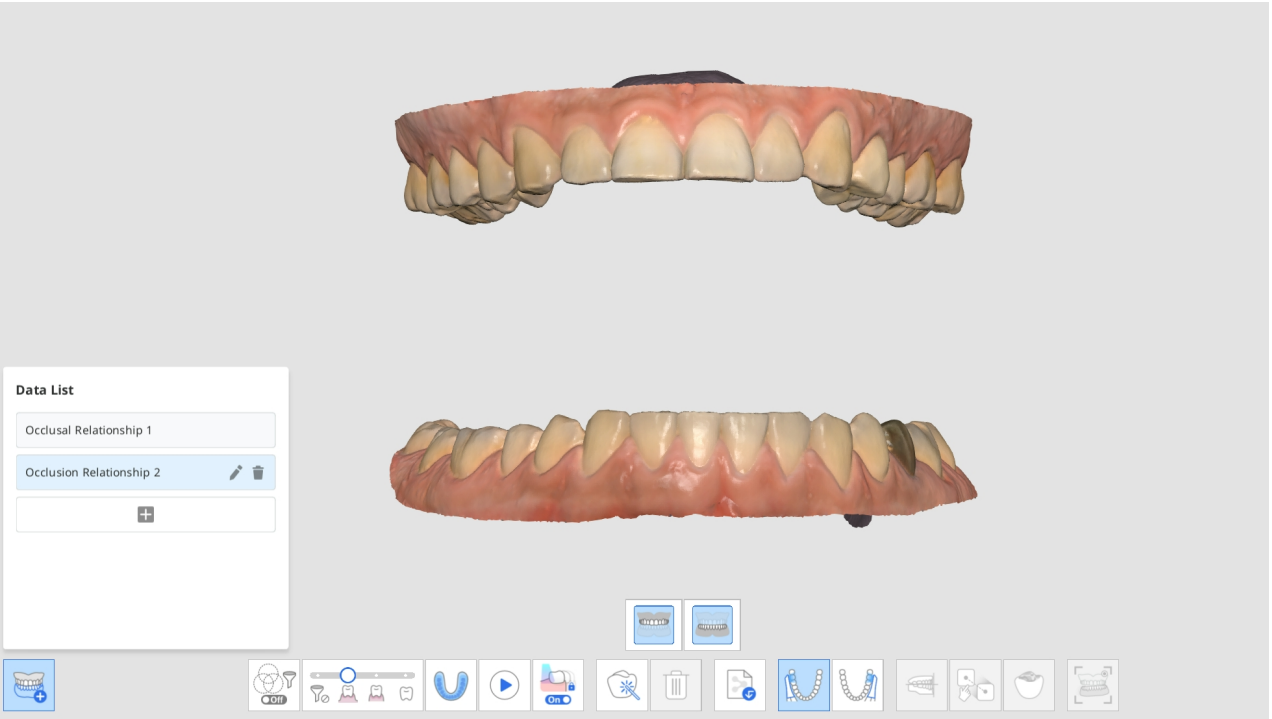
4. 既存の咬合スキャンデータは、咬合関係1として割り当てられます。 データリスト中の咬合グループを追加、削除または名前の変更できます。



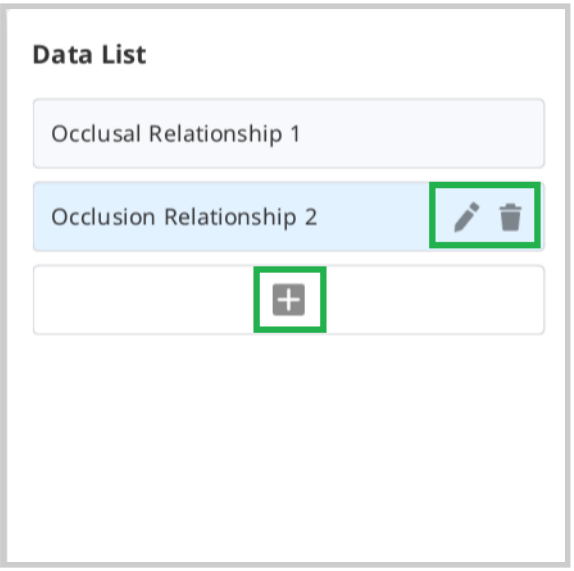

5. 最初と2番目の咬合スキャンを実行し、上顎、下顎、咬合のスキャンデータを整列させます。




6. 「追加」をクリックして、新規咬合グループを作成します。
7. 新規咬合グループを作成後、1番目の咬合スキャンを入力します。




8. 新規咬合スキャンを実行し、上顎、下顎、咬合のスキャンデータを整列させます。
9. 最大5個の咬合グループを作成できます。
10. データリストダイアログでは、新規グループの作成、作成したグループの名前の変更、グループの削除ができます。



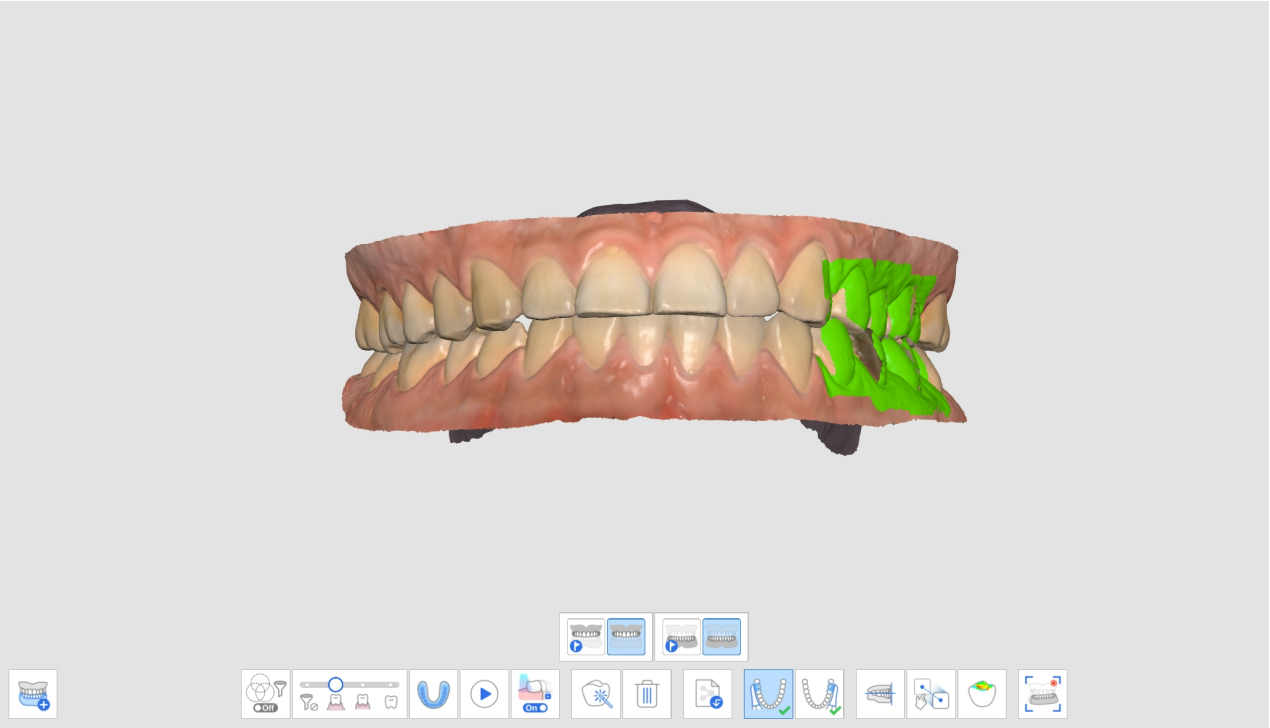

11. さまざまな咬合グループや整列のスキャンデータは、概要にある「複数咬合グループ」機能を使用して確認できます。



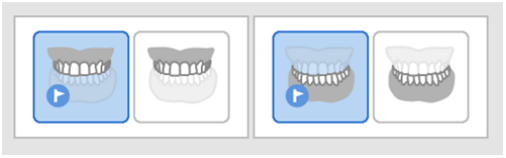
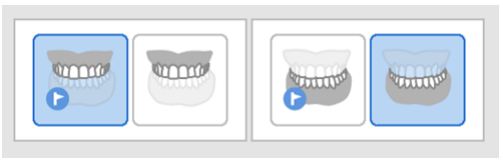
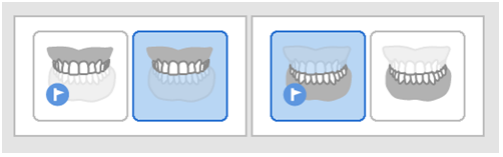
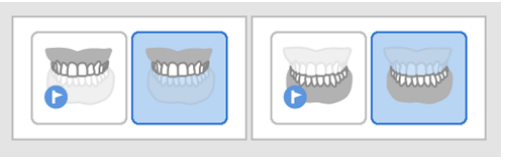
# 上顎／下顎の咬合対象

上顎と下顎の両方の施術前および支台歯のデータ間で咬合対象を選択できます。

1. 上顎／下顎の施術前および上顎／下顎の工程での上顎／下顎の施術前および上顎／下顎のデータを取得します。
2. 咬合工程に移動します。 上顎と下顎用の咬合対象を選択するために4個のアイコンが表示されます。



3. 咬合整列のために4つのペアから一つを選びます。

| | |
|---|---|
| 上顎の施術前／下顎の施術前 |  |
| 上顎／下顎の施術前 |  |
| 上顎／下顎の施術前 |  |
| 上顎／下顎 |  |

## 咬合面との位置合わせ

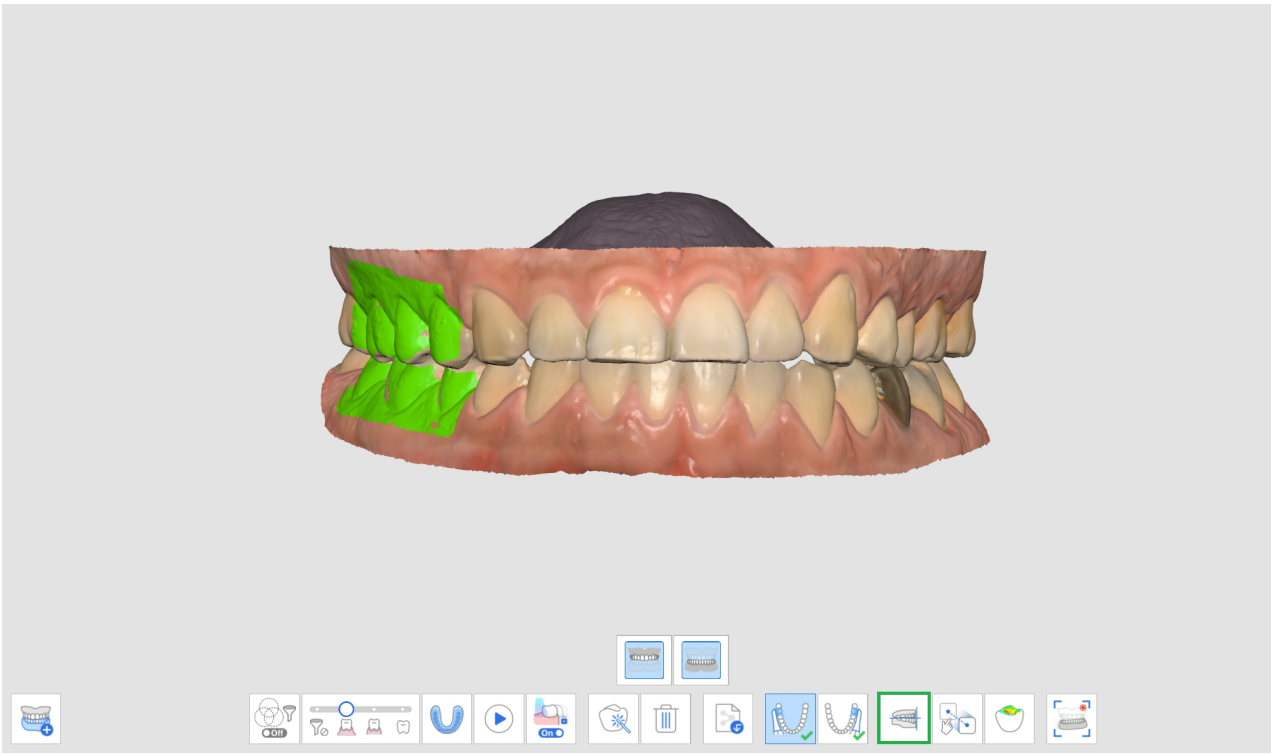
Medit Scan for Clinicsで咬合面にスキャン済みデータの位置を調整でき、exocadのバーチャル咬合器と互換性があります。

以下のツールには咬合面に揃える機能が提供されています。

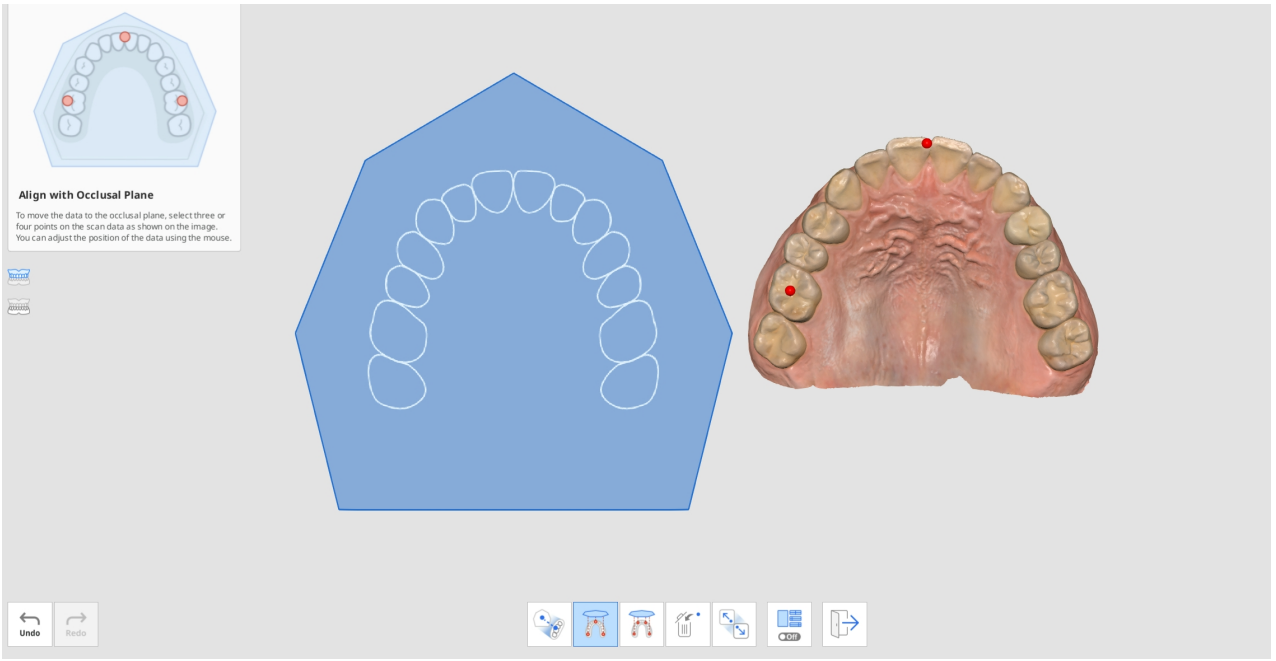
| | | |
|---|---|---|
|  | 半アーチ整列 | データと咬合面上で一致する3つの点を設定して、咬合面と半アーチを揃えます。 |
|  | 3点で咬合平面に揃える | 上顎または下顎で3つの点を選択して、咬合面に整列させます。 |
|  | 4点で咬合平面に揃える | 上顎または下顎で4つの点を選択して、咬合面に整列させます。 前歯がない場合に便利です。 |
|  | マーカー点を削除する | 位置合わせのために選択した点を削除します。 |
|  | データ分離 | 整列済みデータを切り離し、元の位置に移動します。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 複数表示 | 3Dスキャンデータは、4方面から表示されます。 |
|  | 終了 | 前のステップに戻ります。 |

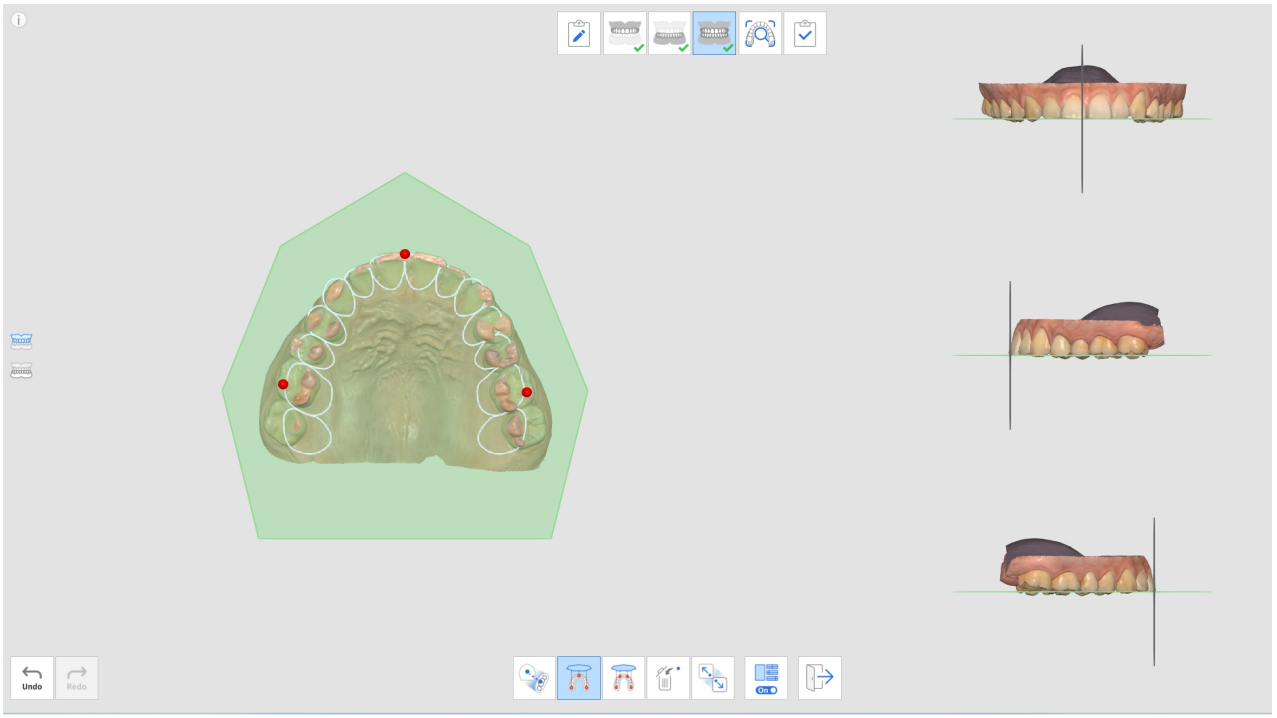
1. 咬合整列が完了後に「咬合面に揃える」をクリックします。



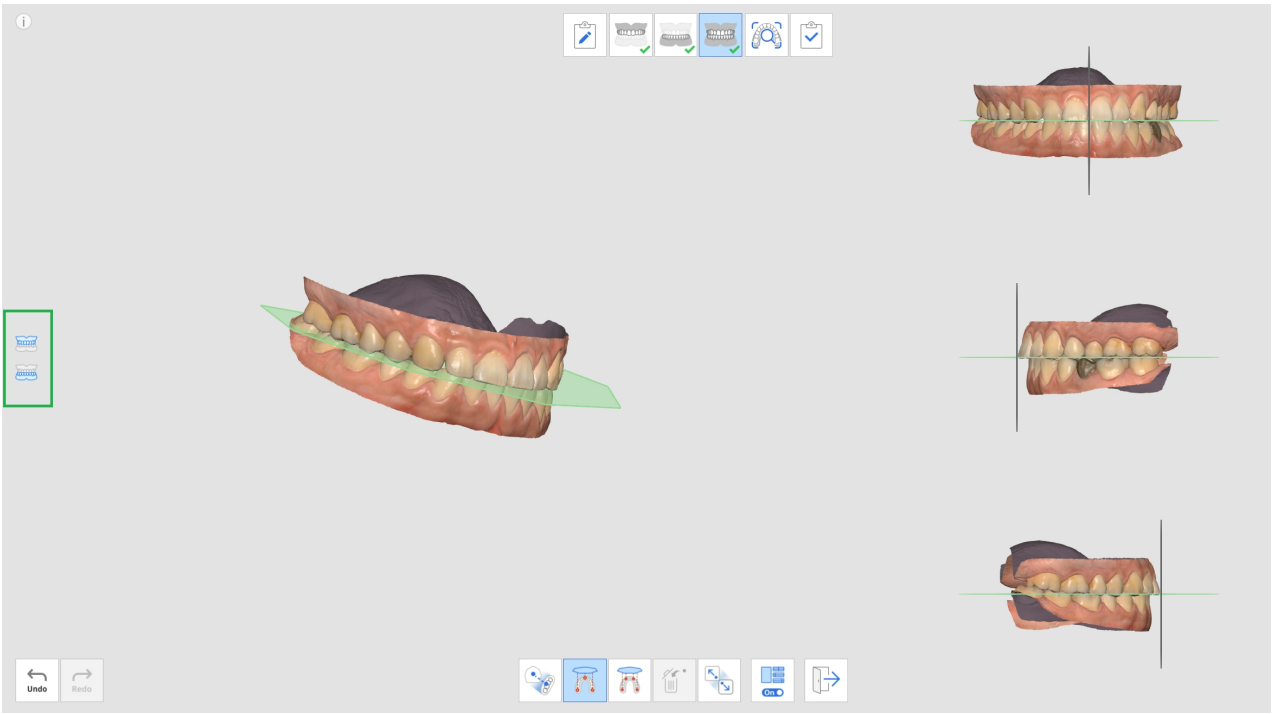
2. 上顎または下顎上で3つまたは4つの点を選択します。 前方に歯がない場合、両側の対応する歯で4点を選択します。




3. 右側のアーチデータを動かし、咬合面上の位置を調整します。 異なる方向から調整できます。



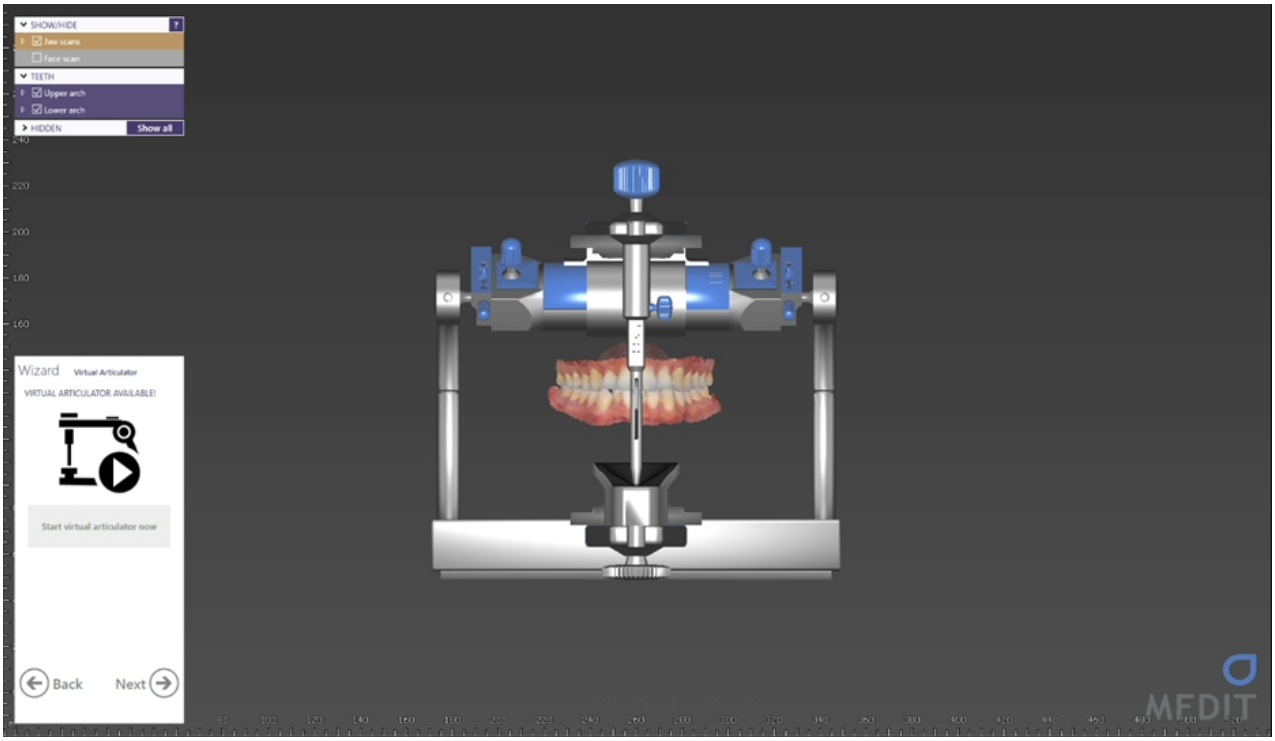

4. 左側のボタンを使用して、上顎、下顎、または両方を選択します。 これにより、上顎と下顎スキャンデータを個別または一緒に表示できます。




5. 複数表示機能をオンまたはオフにできます。



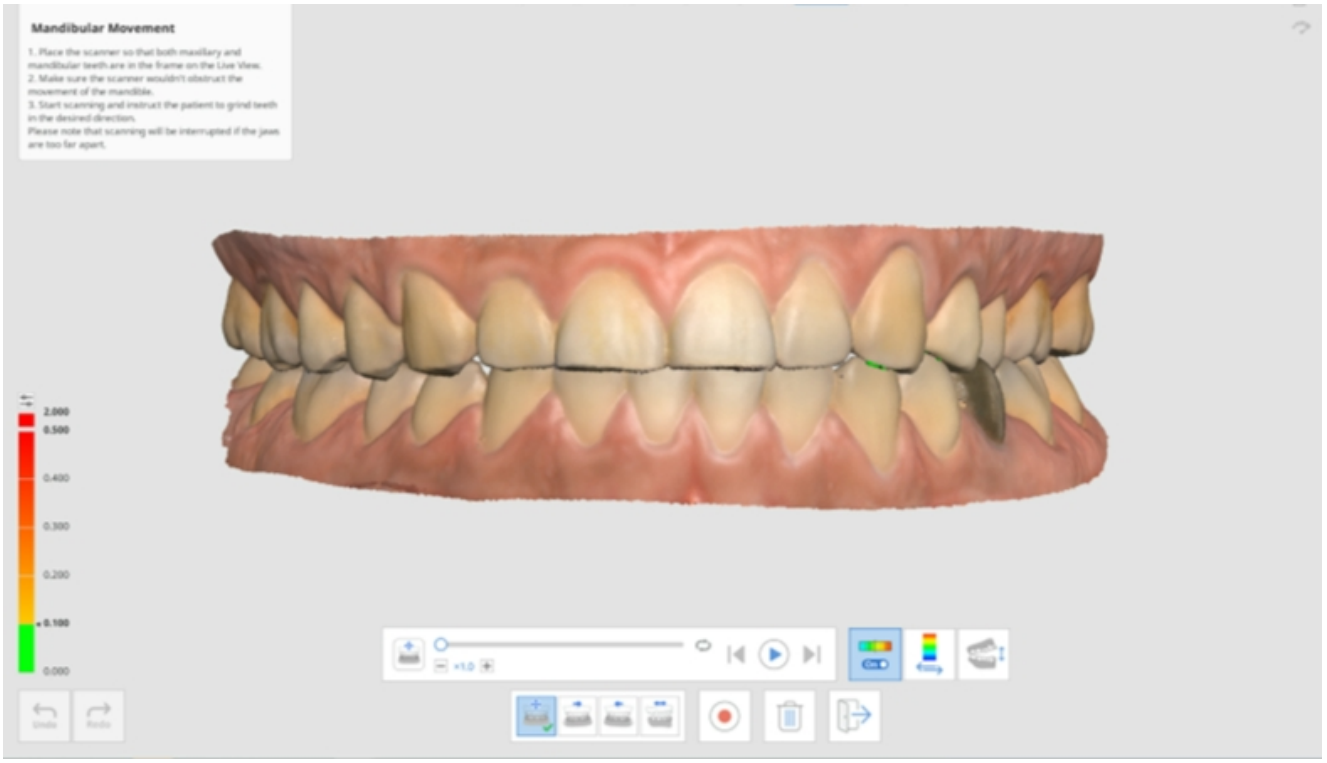
6. exocadからのデータ読み込みが完了したら、スキャンデータはバーチャル咬合器と同じ位置に配置されます。




# 下顎運動

取得済みスキャンデータを使用して患者を診断し、治療計画を立て、歯科用補綴物や器具を製作するためには、下顎および上顎が互いに整列されている必要があります。 上下の関係性を示す最初と2番目の咬合データに基づき、下顎と上顎の咬合対象を整列させるようにします。 ただし、これは動きがない状態での上顎と下顎の位置を示すだけです。

中心の咬合だけでなく、より正確な補綴物や器具を製作できるように顎関節症の患者の下顎運動も考慮する必要があります。 この下顎運動機能を使用して、上顎データに基づく実際の下顎運動を録画でき、補綴物製作用のシミュレーションデータを使用できます。

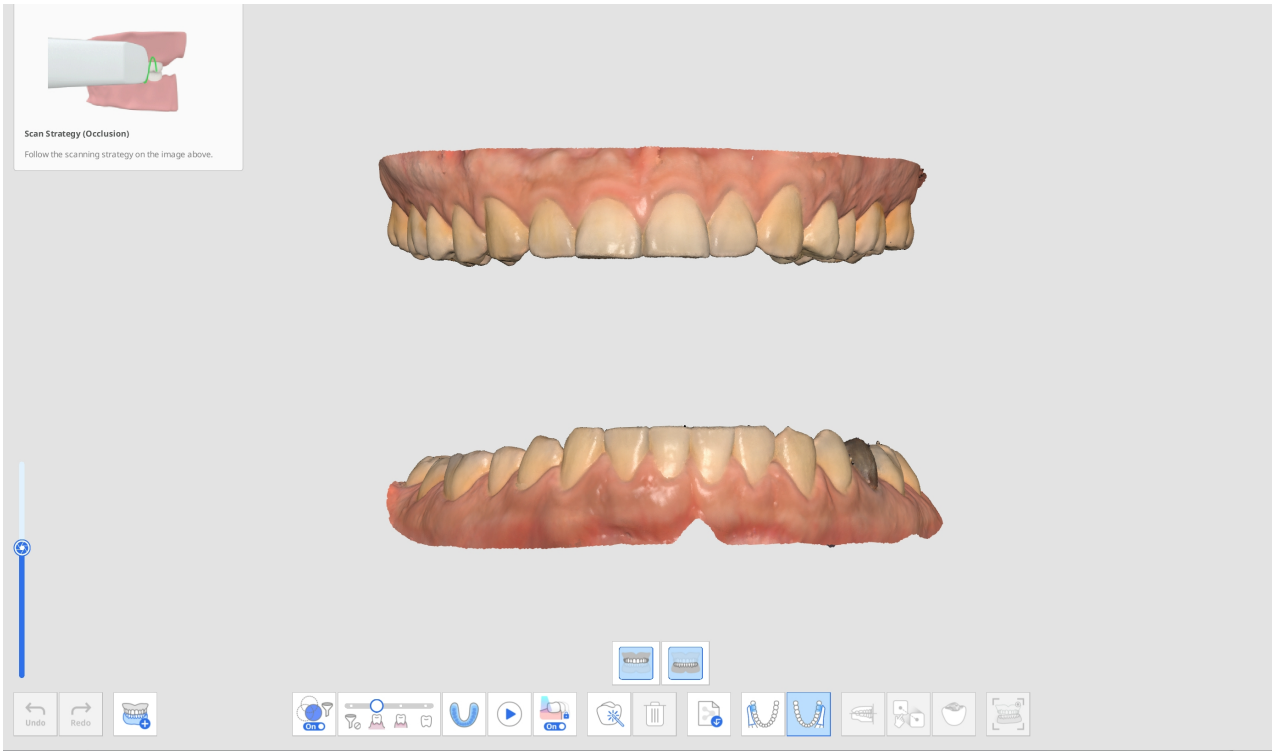



次の運動の録画を撮れます。

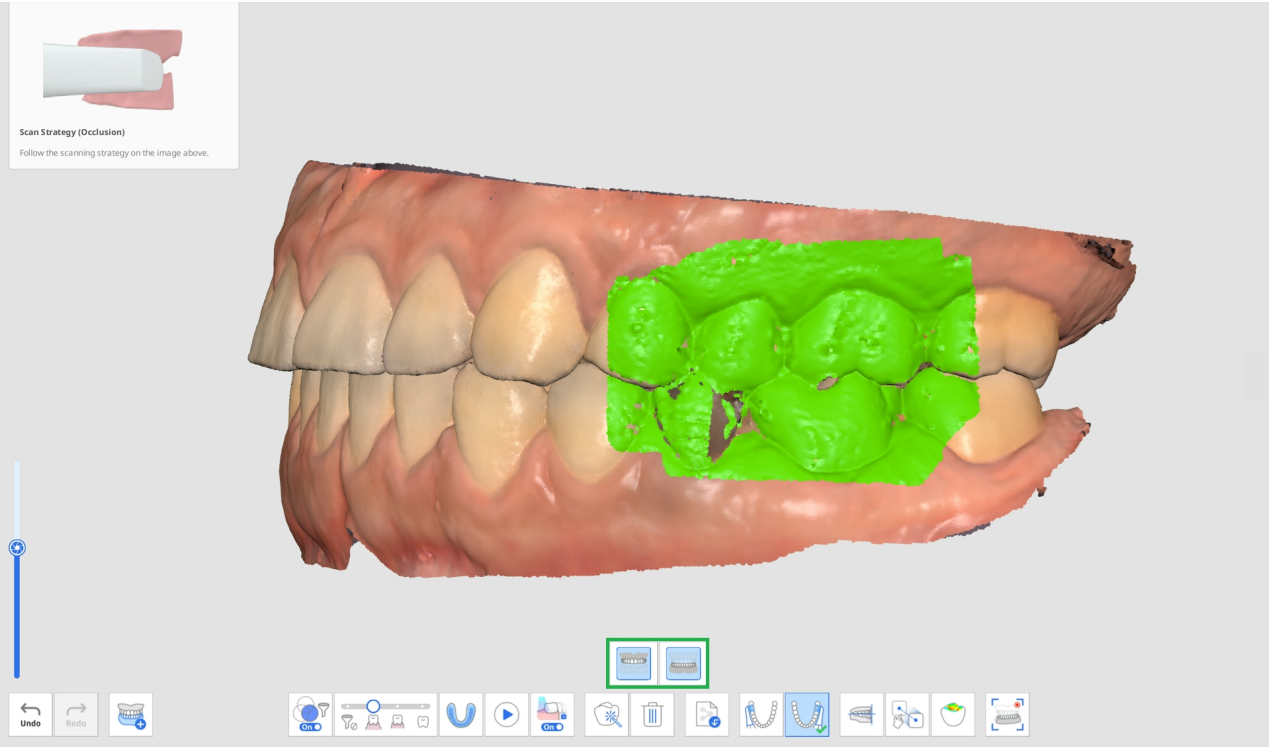
- 自由運動
- 左水平運動
- 右水平運動
- 前方運動

各運動を録画後、下顎運動はシミュレーションで再現できます。 カラーマップで、下顎と上顎の干渉領域を簡単に識別できます。

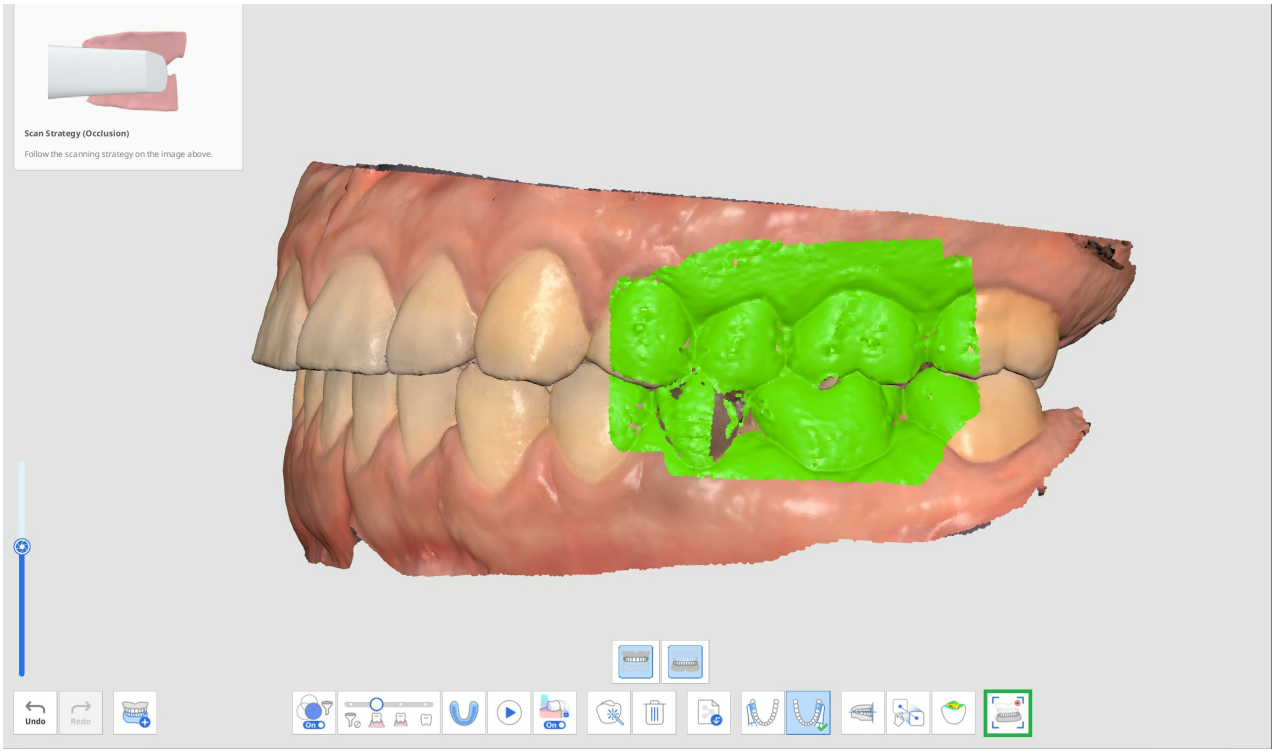
1. 上顎と下顎の各工程の上顎と下顎のデータを取得します。



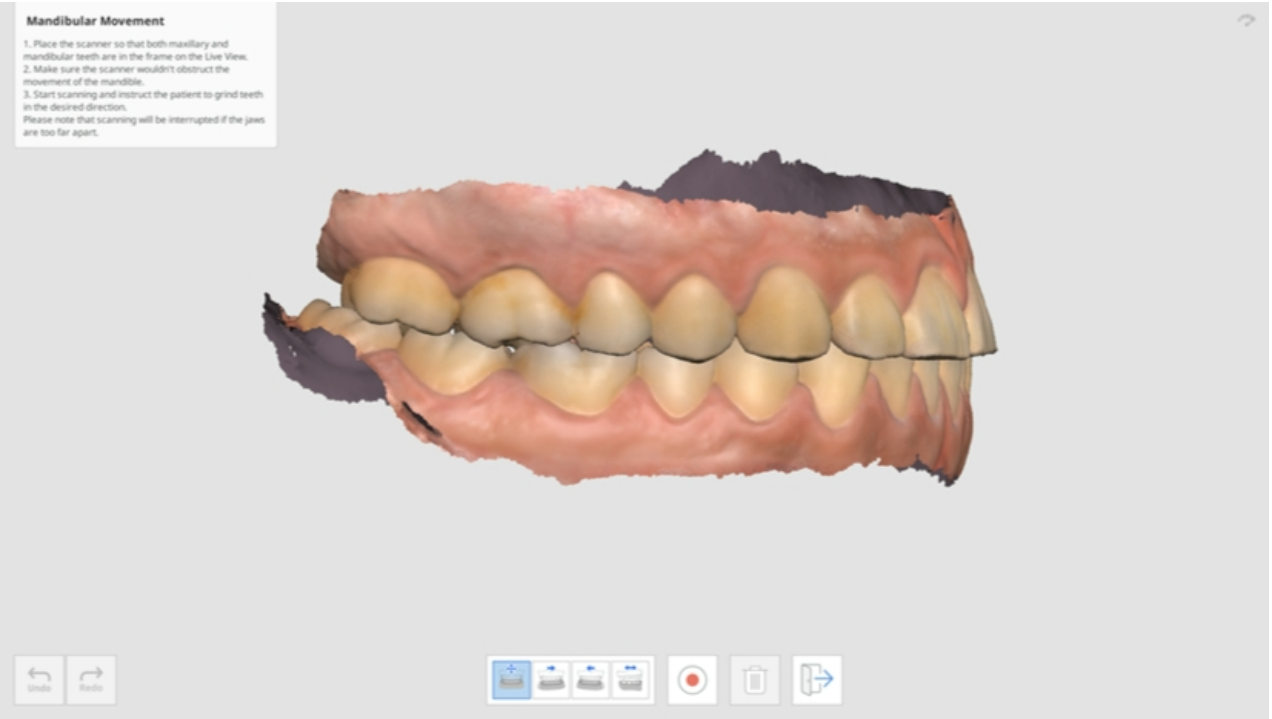

2. 咬合工程での最初（および2番目）の咬合スキャンデータを取得し、整列へと進みます。



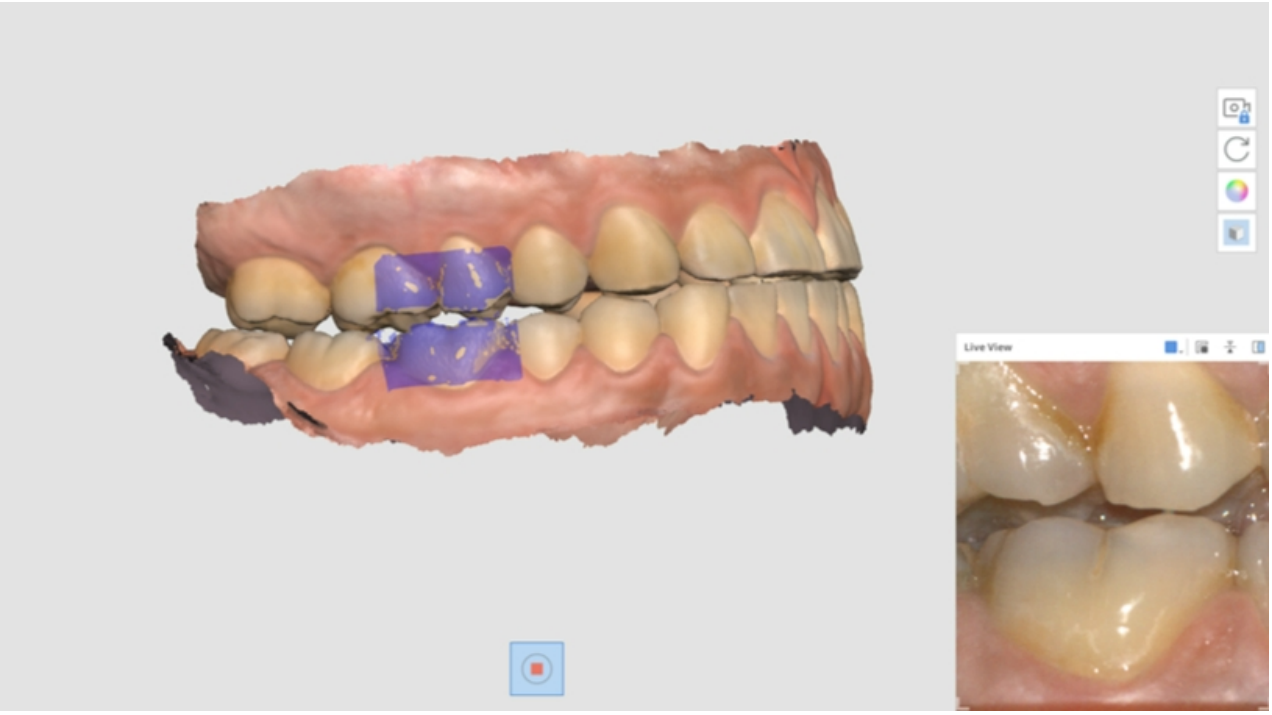

3. 有効化されている場合に、下部の「下顎運動」アイコンをクリックします。



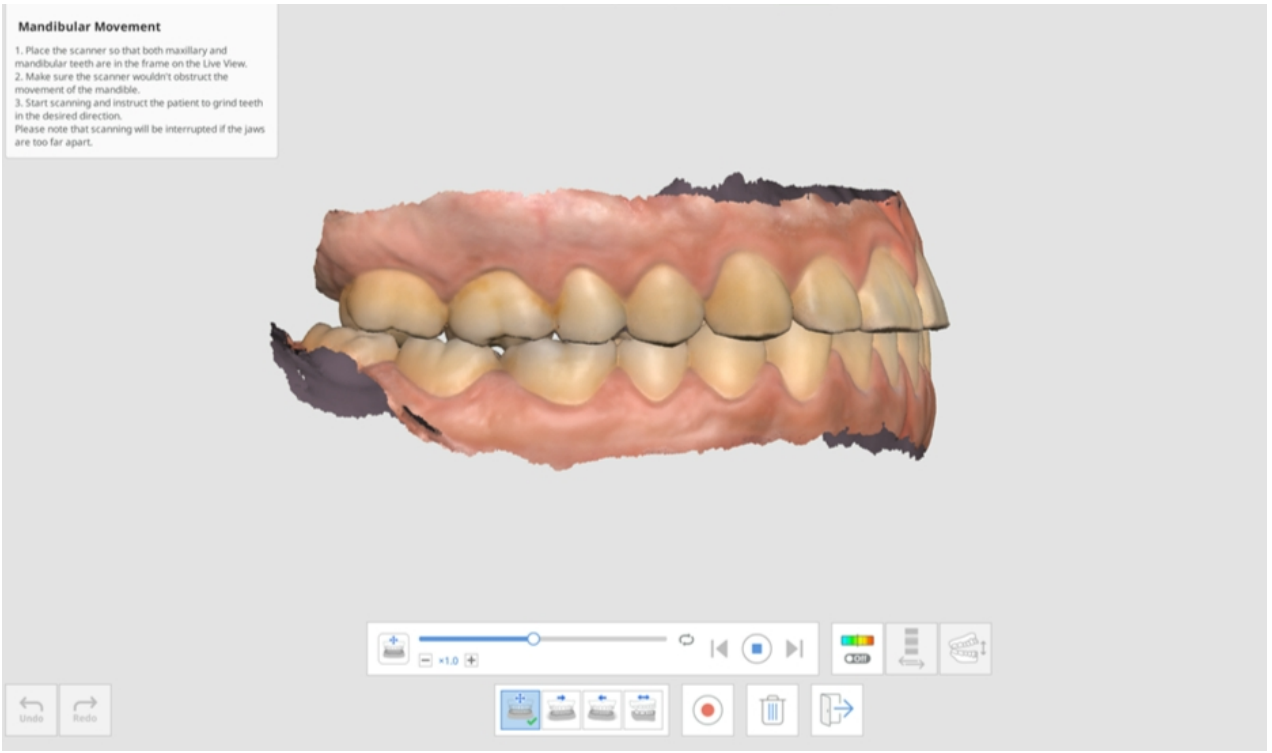

4. 下部の自由、右水平、左水平、前方のうち希望する運動方向のアイコンを選択します。



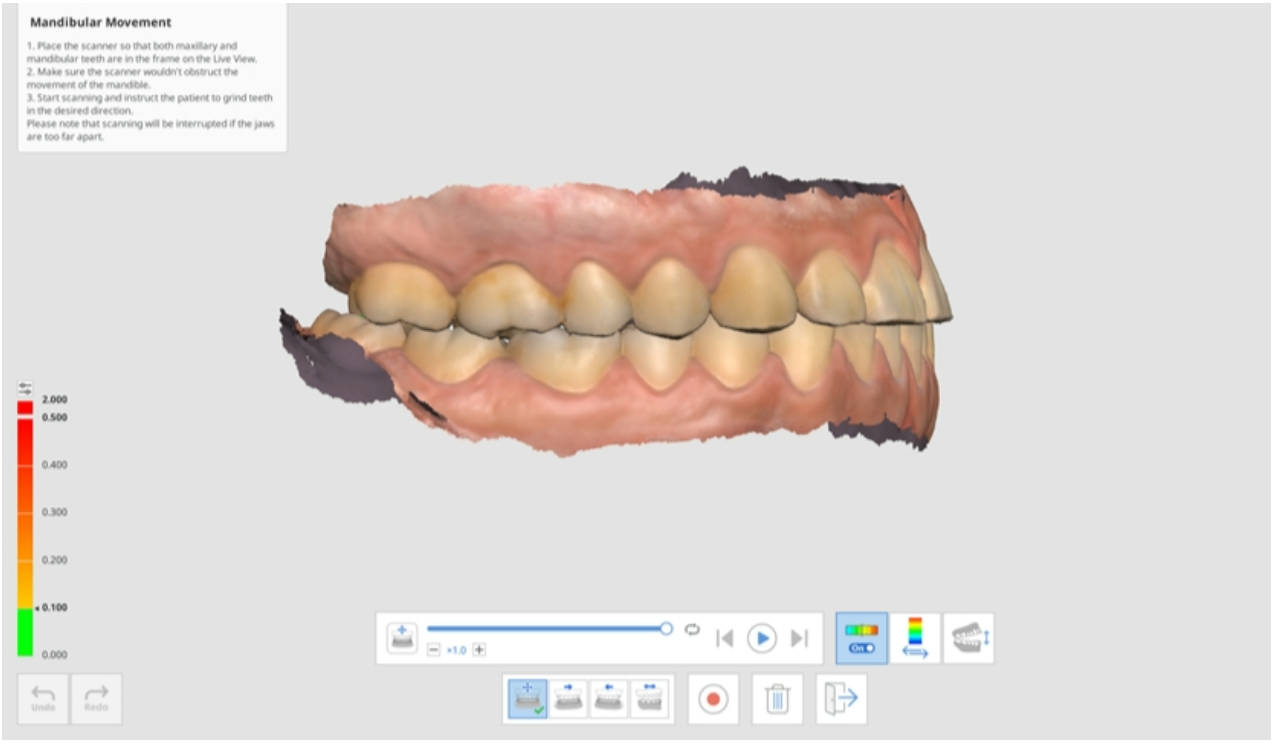

5. 患者が顎を軽く閉じている状態で上顎と下顎が噛み合う場所にスキャナーチップを配置します。



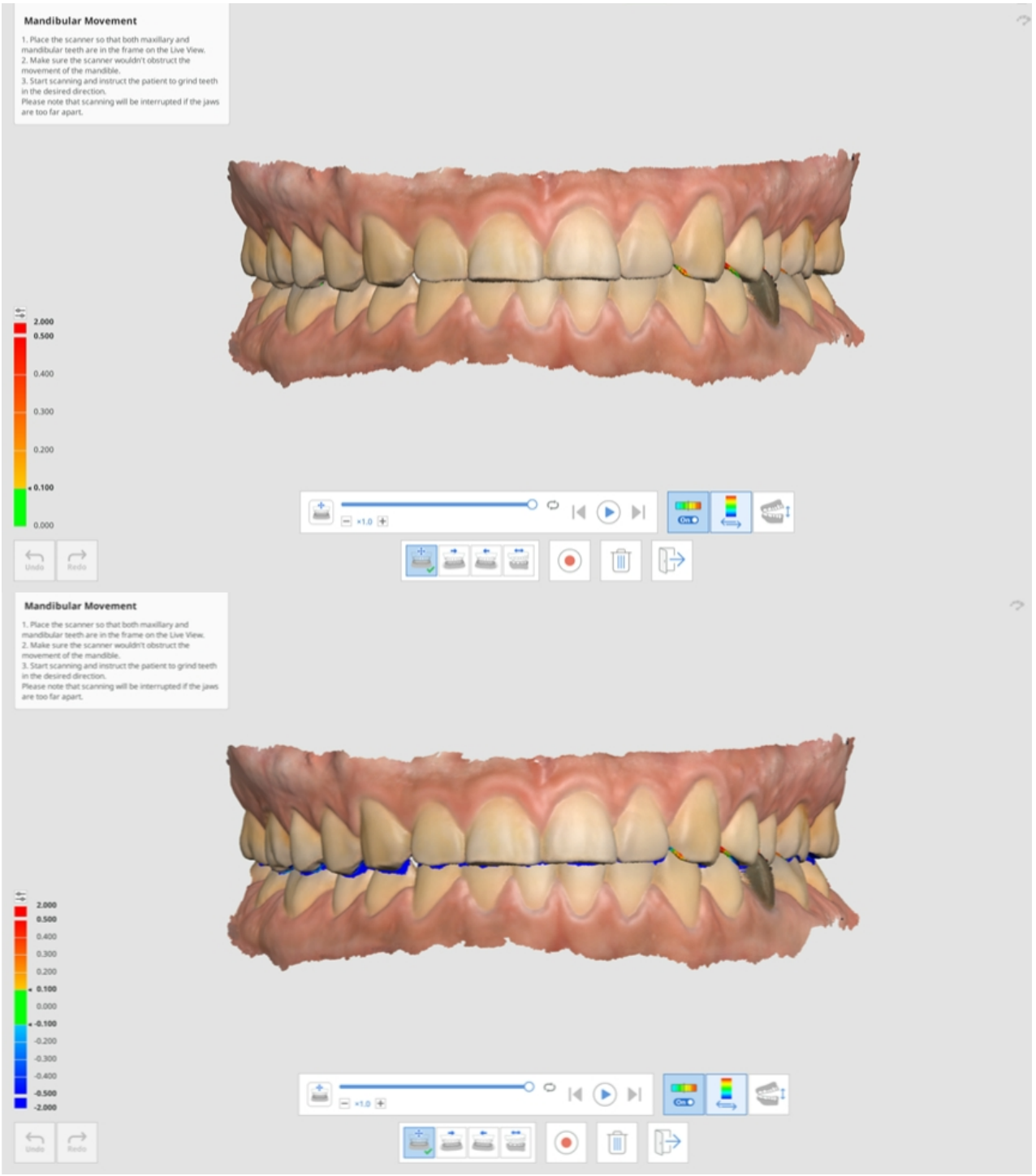

6. スキャナーが録画を開始すると、ライブビューウィンドウが画面上に表示されます。 次に、患者に選択した運動方向に従って下顎を動かすように指示します。 下顎と上顎の両方の歯がライブビューで表示されるようにします。 顎が離れすぎている場合にはスキャンが中断され、運動は画面上に表示されなくなります。
7. 録画が完了すると、下顎運動シミュレーションに関する再生バーとアイコンが画面上に表示されます。 「開始」ボタンをクリックして、運動の録画を再生できます。 運動の速度を調整したり、繰り返しをオンにできます。



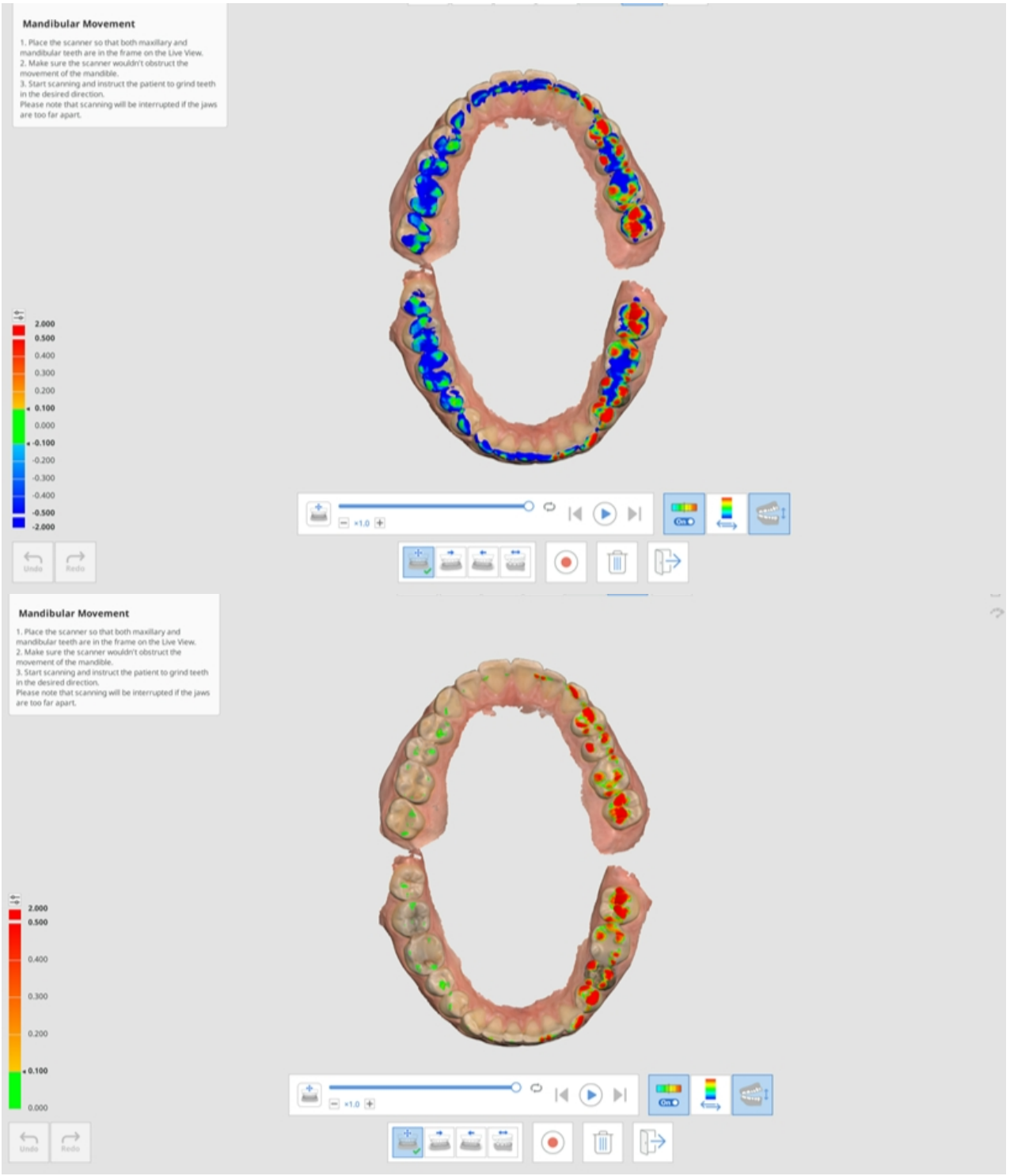

8. 偏位のオン／オフをクリックして、下顎運動中の干渉領域を表示または非表示にします。 色による分析には時間がかかる場合があります。




9. 「偏位表示領域の切り替え」アイコンをクリックして、すべてのデータまたは接触領域のみを表示します。




10. 「表示切替」をクリックして、「開いた顎」および「閉じた顎」のいずれかで表示スタイルを変更します。




11. 終了をクリックして、咬合工程に戻ります。下顎運動の録画は、Medit Linkのデータツリーに追加されます。

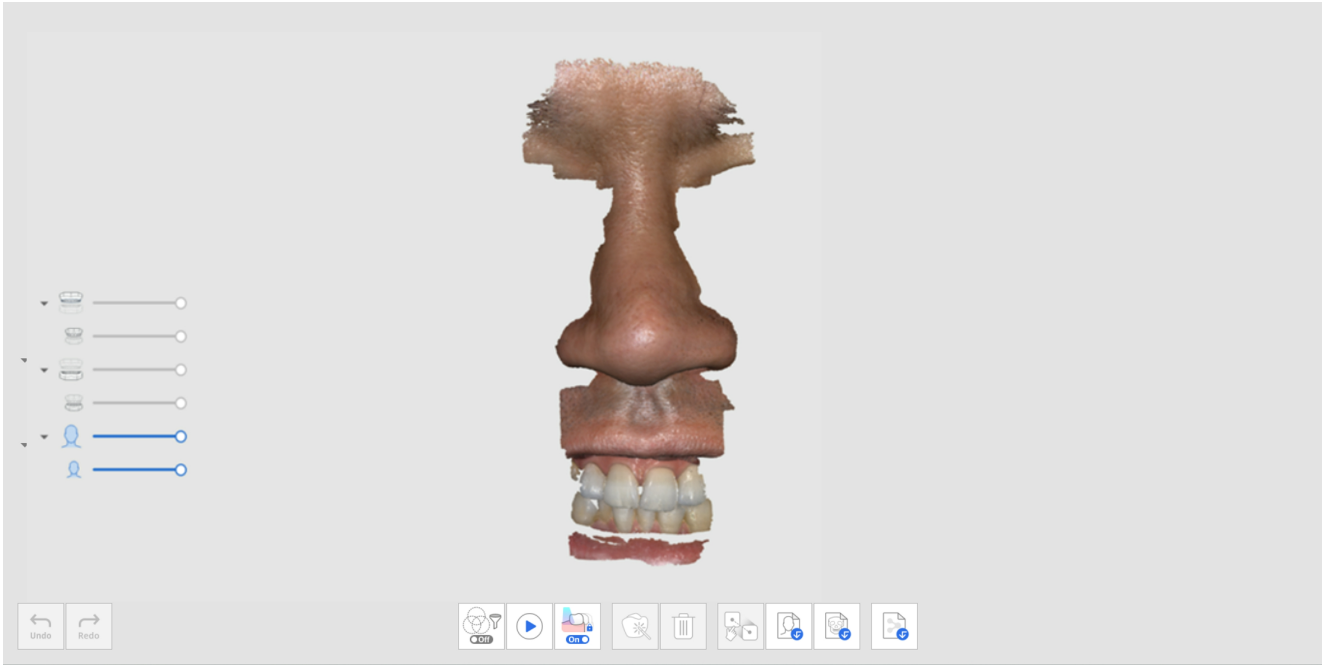


# 顔面

## 顔面工程

> ⚠️**注意**
>
> 顔面スキャンは、シミュレーション、診断や治療などの医療目的のために使用できません。技工所での補綴製作の参照データに限定して使用されなければなりません。

| | |
|---|---|
|  | 歯、口、鼻などのスキャンデータを取得します。 |



## 顔面工程用の追加ツール

各工程の画面下部に表示されるツールの詳しい使用方法については、スキャン工程ツールを参照してください。

| | | |
|---|---|---|
|  | 顔面データを整列 | 整列させるためにデータと各データの選択点を選びます。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 3D顔面データをインポート | 外部で取得した顔面データをインポートします。 |
|  | 3D骨格データをインポート | CTスキャンで撮影された3D顔面データをインポートします。<br>* DICOMファイルはサポートされていません。 |

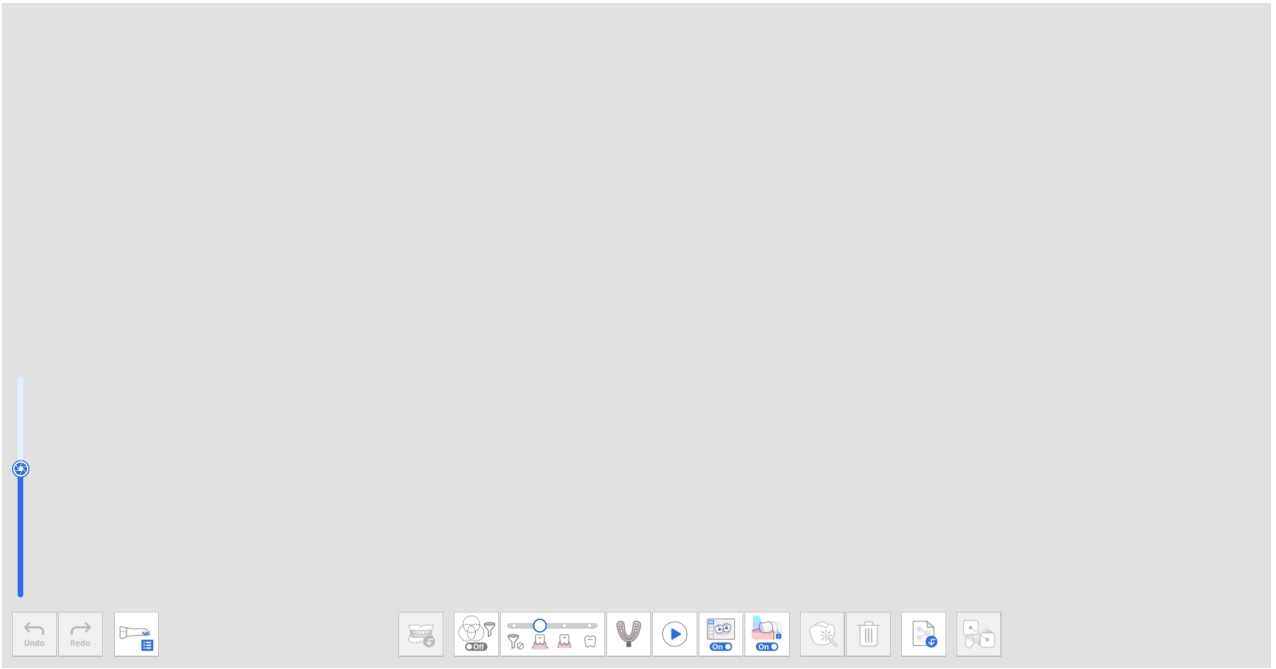
# 追加データ

## 追加データ工程

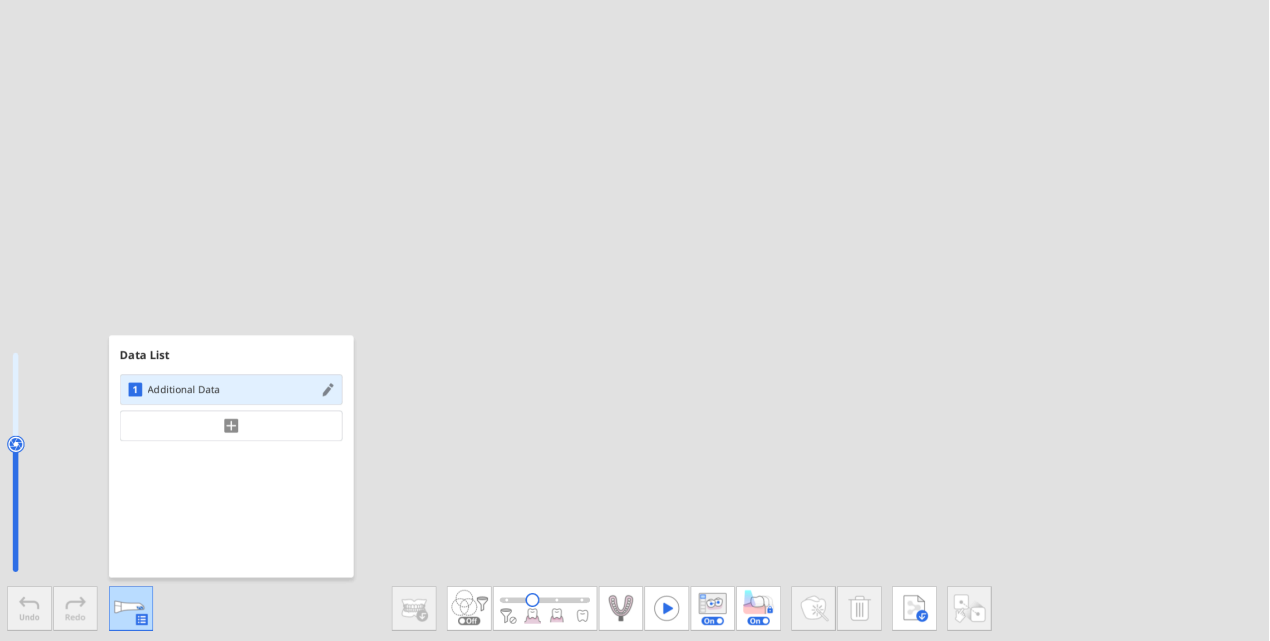
| | |
|---|---|
|  | ケースで必要なあらゆる追加データを取得します。患者の既存の補綴物、仮補綴物等をスキャンできます。 |

ケース用に患者の既存の義歯や仮歯の表面をスキャンできます。

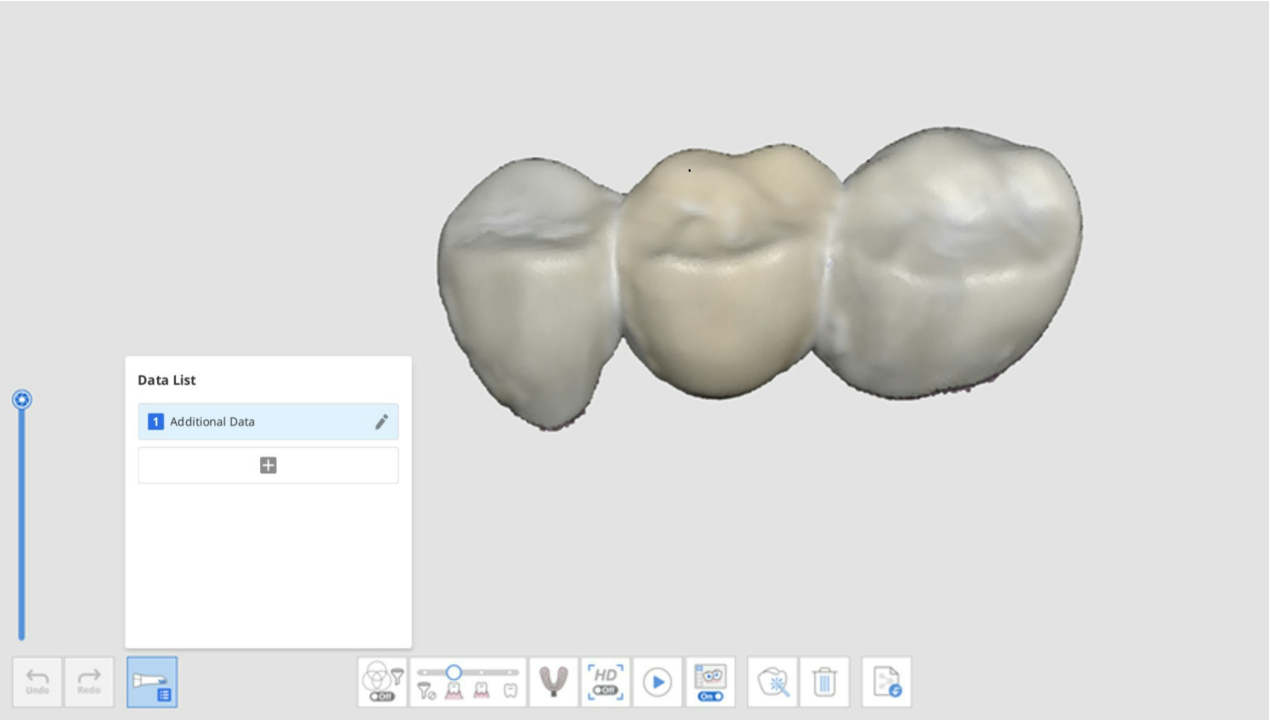
1. 工程管理から追加のデータ工程を追加します。



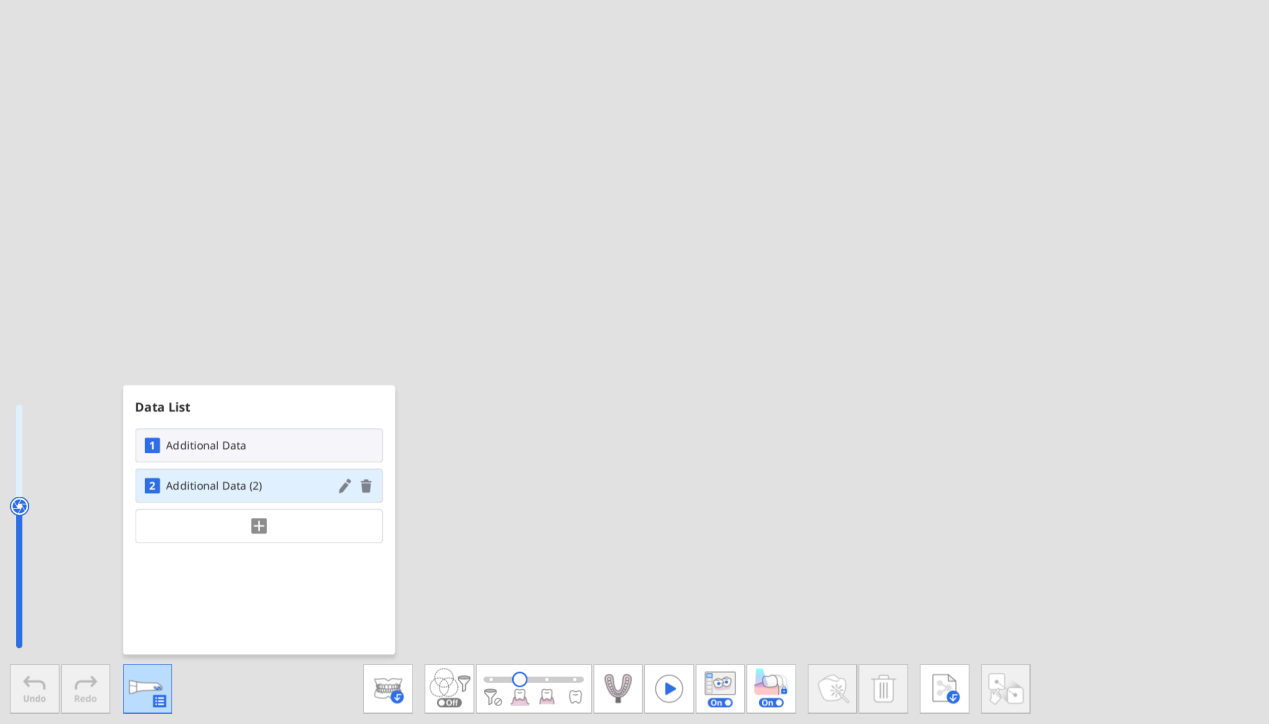

2. 下部にある「追加データグループ」アイコンをクリックします。 追加データ管理ダイアログのリストに新規データを追加し、追加データを削除または名前の変更ができます。



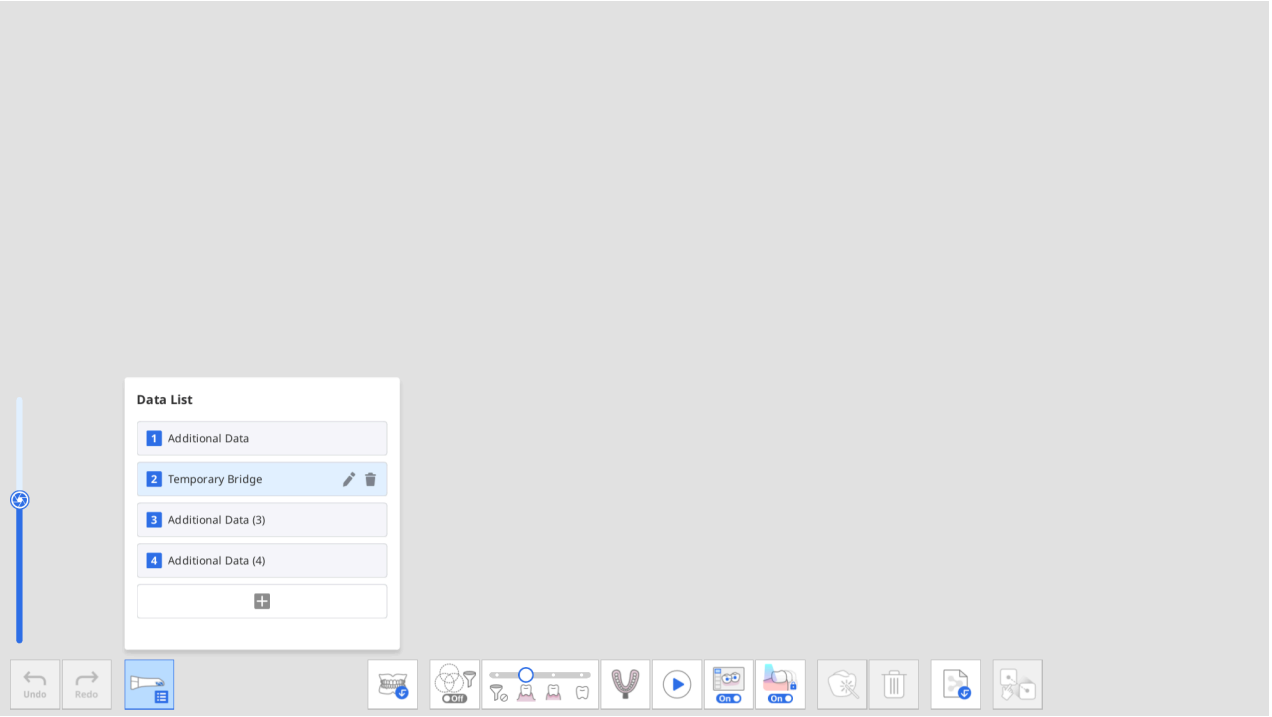

3. 最初の追加データを取得します。



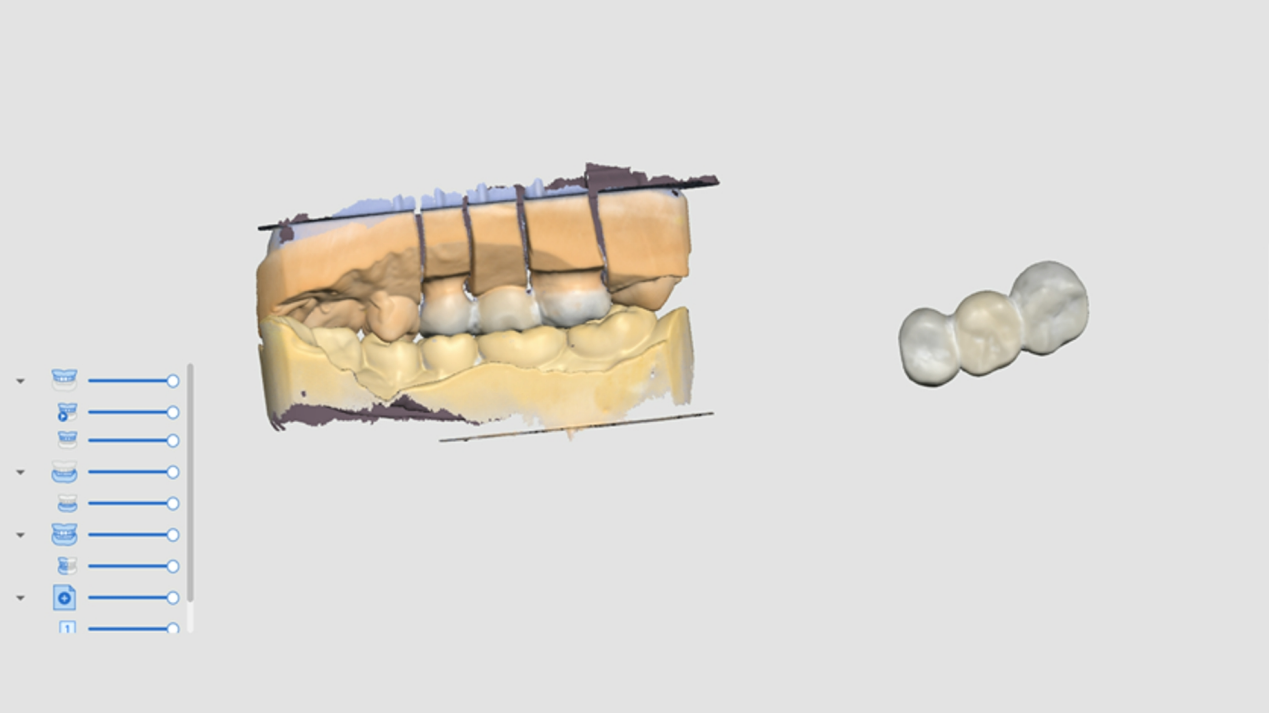

4. 追加データ管理ダイアログの「＋」ボタンをクリックし、追加したデータの別のスキャンデータを取得します。




5. 最大7個の追加データを追加できます。 また、リストの既存の追加データを削除または名前の変更ができます。




6. 概要のデータツリーで追加済み追加データを確認できます。



# スマートスキャン確認

## スマートスキャン確認工程

> 🔎**注意**
>
> - スマートスキャン確認工程を有効または無効にし、設定 > スキャンデータ分析 > スマートスキャン確認で詳細オプションを設定できます。
> - スマートスキャン確認工程は、デフォルトUIと簡易UIの両方で利用可能です。

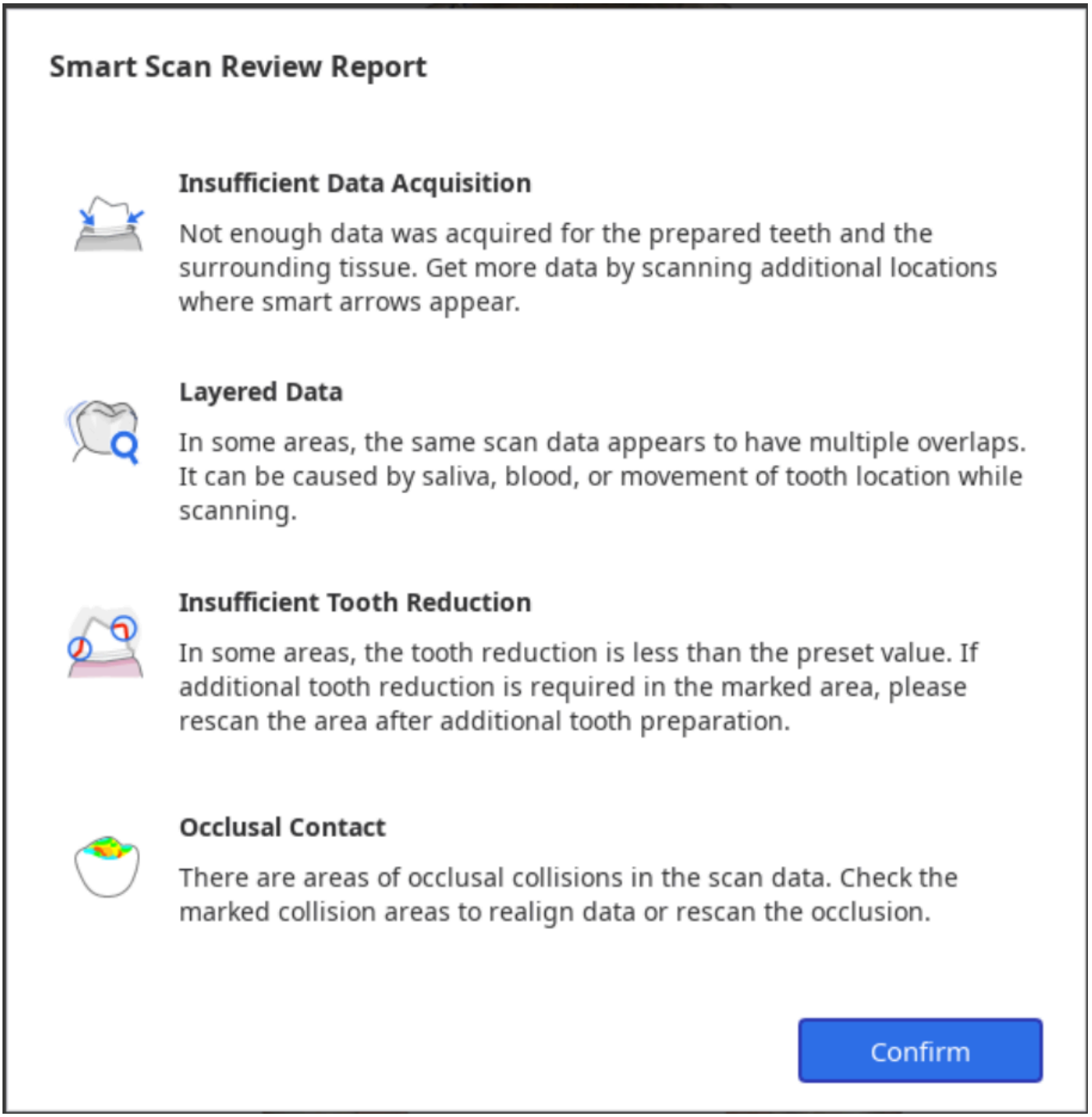
| | |
|---|---|
|  | 取得したスキャンデータを処理する前に、データの正確性について最終確認を行います。 |

スマートスキャン確認処理は以下の手順に従います。

| | |
|---|---|
| 咬合面との位置合わせ | 咬合面にデータを配置できます。 後続の歯番の結果に影響を与える可能性があるので、咬合面にスキャンデータを揃えることが推奨されます。 |
| 歯の領域選択 | プログラムはクラウンとその隣在歯の支台歯を自動検知します。 下部にある選択ツールを使用して、追加する領域を手動で選択、または選択済み領域を修正できます。 |
| レポート作成 | 支台歯とその隣在歯の選択済み領域に関するレポートを確認できます。 歯の領域選択手順で選択されている場合、インプラント治具の領域を確認することもできます。 |

## スマートスキャン確認レポート

スマートスキャン確認レポートでは、以下のことを確認できます。




| | |
|---|---|
| 不十分なデータ取得 | 支台歯とその隣在歯でのスキャンが不十分な領域を特定します。 |
| 重複データレイヤー | 唾液や血液のためにスキャン中に複数のデータレイヤーが作成された場合に、その領域をマークします。 |
| 不十分な歯の削除 | 支台歯を確認して、クラウンやコーピングなどの補綴物のためにさらに歯の削除が必要な領域をマークします。 |
| 咬合の接触 | 咬合干渉または上顎と下顎が接触していない場合に領域をマークし、咬合データの両側が取得されたかどうかを確認します。 |

# スマートスキャン確認のツール

> 🔎**注意**
>
> 支台歯確認ツールは、フォーム情報がMedit Link > フォーム > 歯タブに登録されている場合にのみ有効にできます。

データを確認するために画面の下部で以下のツールが提供されます。

| | | | |
|---|---|---|---|
| データ確認ツール | スマート矢印 |  | データ取得が不十分な箇所をスマート矢印が示します。 |
| | 重複データレイヤー |  | 唾液や血液、または歯の動きが原因でスキャンデータに複数の重なりがある領域をマークします。 |
| | 重複データレイヤーを削除 |  | 重複データレイヤーのマークがついている領域を削除します。 |
| | 支台歯確認 |  | 支台歯がプリセット値の範囲内にあるかどうかを確認し、設定範囲値内にない領域をマークします。 |
| | 削除が不十分なデータを削除 |  | 不十分な歯の削除のマークがついている領域を削除します。 |
| | 咬合分析 |  | 上顎と下顎間の干渉を分析し、カラーマップで分析結果を表示します。 |
| 切替表示 | |  | 開口状態と閉口状態で表示を切り替えます。 |
| レポートの表示 | |  | スマートスキャン確認の結果を再度表示します。 |

# スマートスキャン確認処理

1. 上顎、下顎、咬合の各工程のスキャンデータを取得し、咬合データを整列します。

   > **スマートスキャン確認工程は、以下のような状況で有効になります。**
   >
   > - 咬合スキャンデータが存在し、咬合データがスキャンデータと整列している。
   > - 施術前の上顎データまたは施術前の下顎データが存在している場合、施術前データは上顎または下顎データに整列する必要がある。

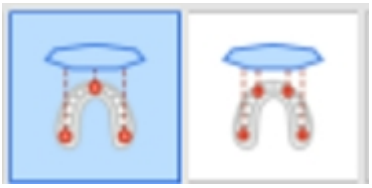
2. 「スマートスキャン確認」工程をクリックします。




3. プログラムは、咬合面に揃える手順でデータを咬合面に自動で揃えます。 画面の右側で異なる3方向からのデータを確認でき、データの位置を手動で調整できます。




- 整列に失敗した場合、咬合面に3点または4点をクリックして、対象のデータを咬合面に手動で揃えることができます。

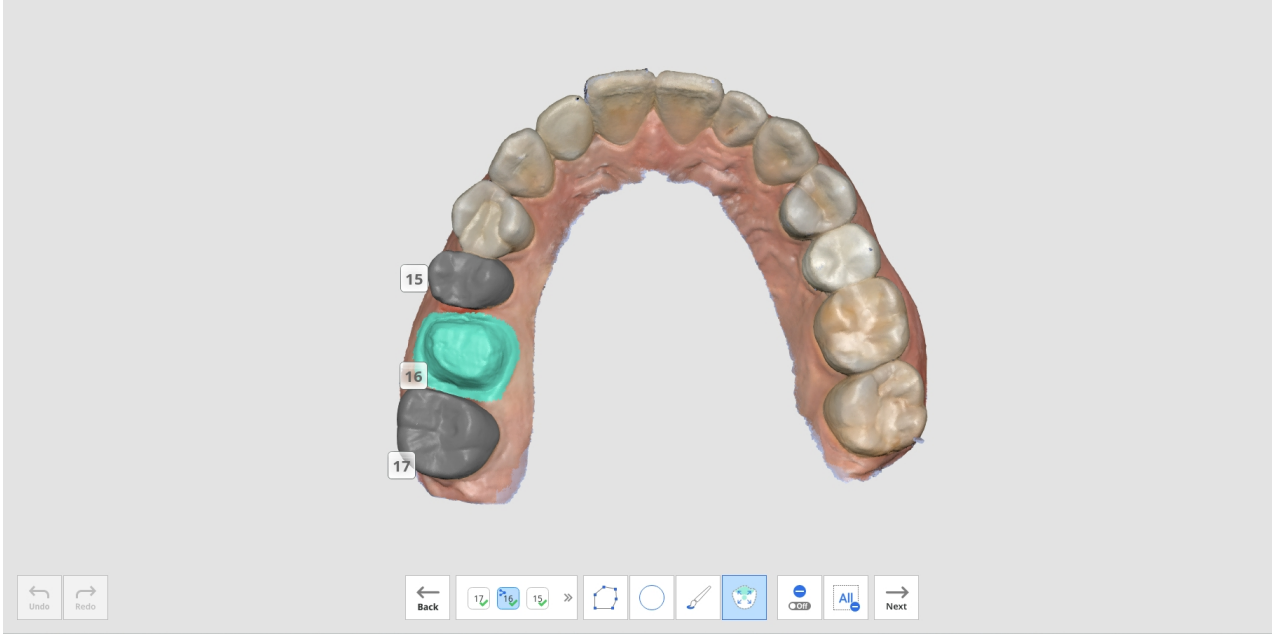


- 半アーチを咬合面に揃えるためには、「半アーチ整列」機能を選択します。

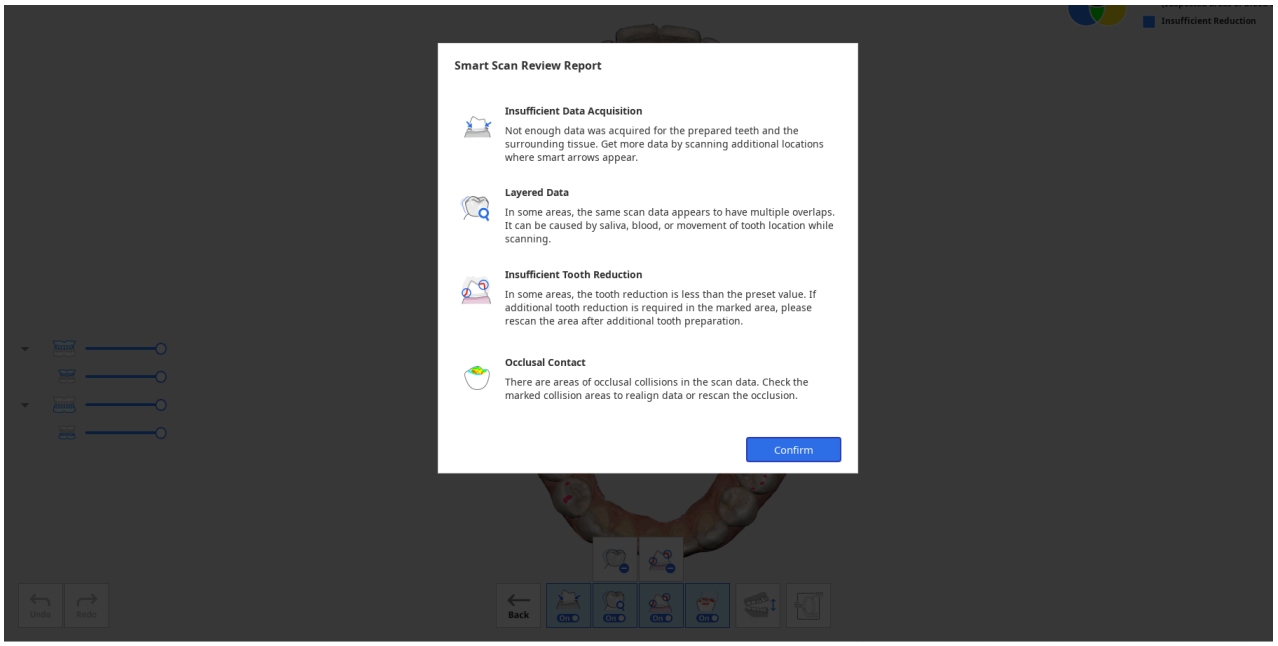


4. データが咬合面に揃えられたら、「次へ」をクリックし、歯の領域選択手順に移動します。

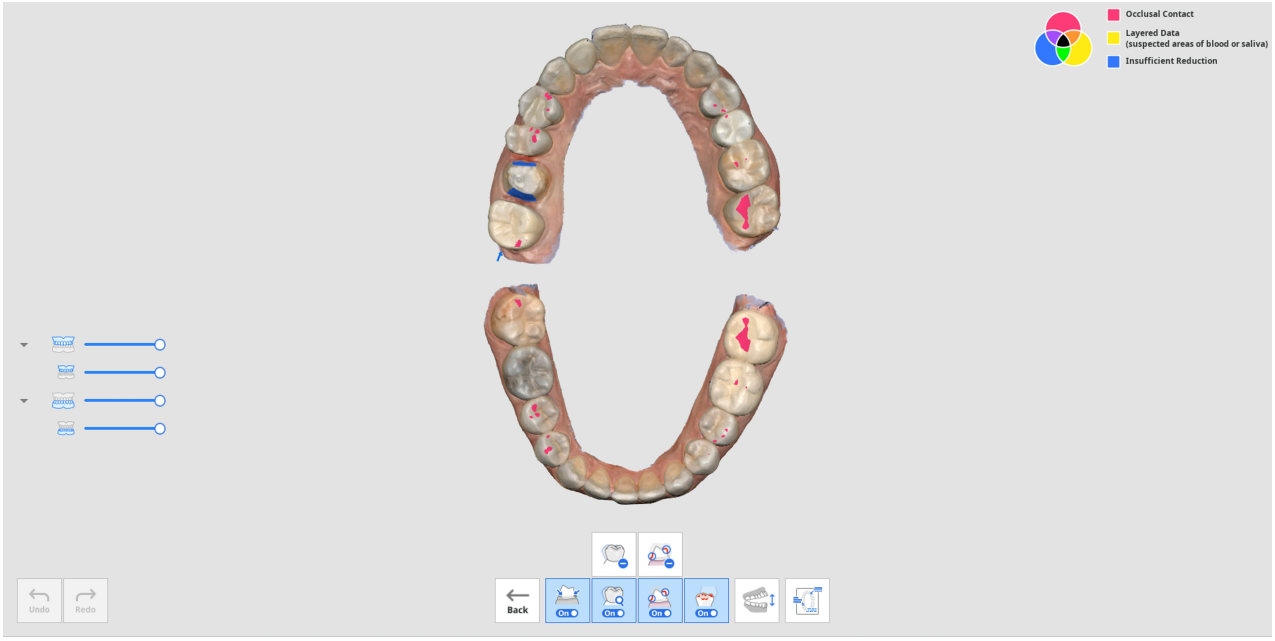
5. プログラムが、支台歯（Medit Linkフォームに登録された製品用）とその隣在歯の領域を自動的に選択します。 さらに領域を選択、または提供されている選択ツールを使用して選択を修正できます。




6. すべての支台歯領域を選択後に有効になったら、「次へ」ボタンをクリックします。
7. 次の4項目の分析結果を含むスマートスキャン確認レポートがポップアップ表示されます：不十分なデータ取得、重複データレイヤー、不十分な歯の削除、咬合の接触



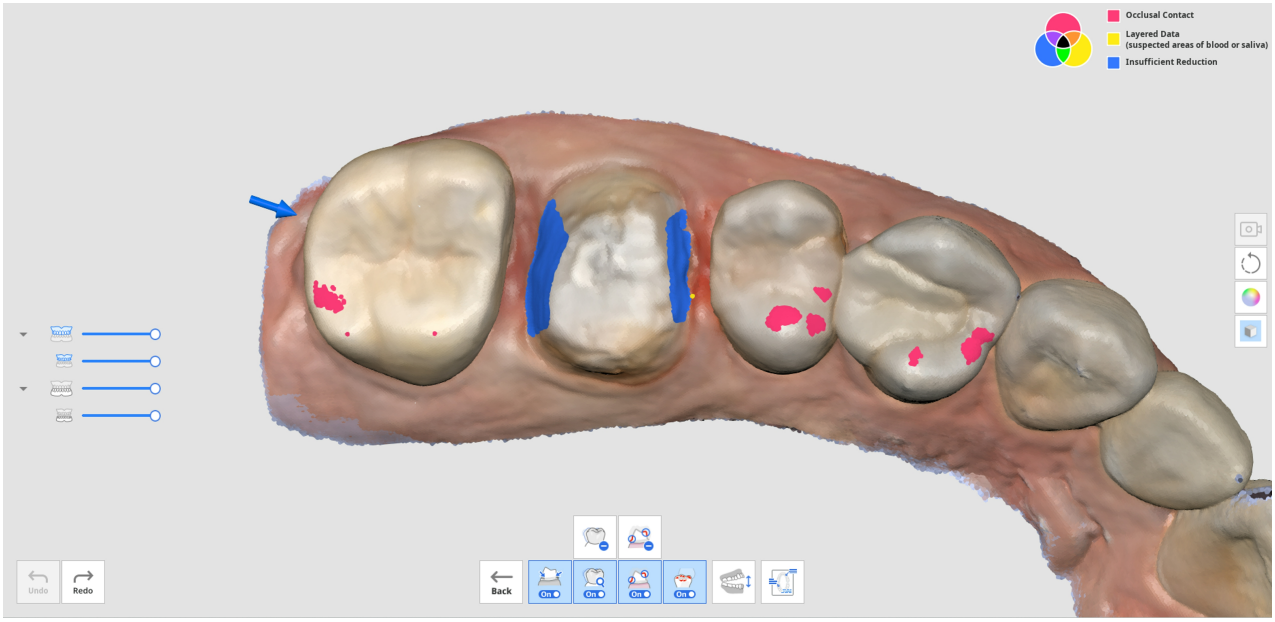

8. レポートを確認後、「確認」ボタンをクリックして、レポートを終了します。
9. 画面の下に提供された各確認ツールによって分析された結果が異なる色でマークされたスキャンデータで確認できます。



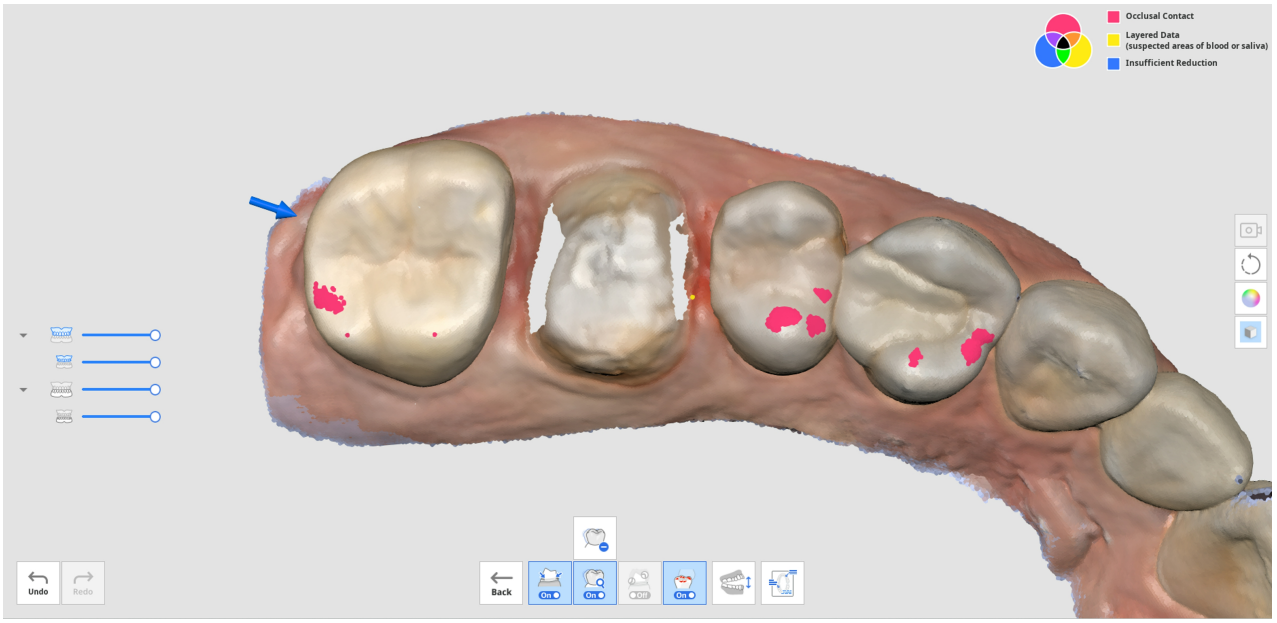

- 開口状態と閉口状態の間で表示を切り替えることができます。
- 画面の下にある「レポートの表示」をクリックして、再度レポートを確認できます。
- 画面の右上隅のカラー情報により、問題が生じている領域を各機能ごとに異なる色で確認できます。




10. 画面の右上にあるカラー情報を参照して、色付きデータの箇所を確認します。




11. 「重複データレイヤーを削除」または「削除が不十分なデータを削除」ツールを使用して、重複データレイヤーまたは不十分な歯の削除のマーク付き領域を削除できます。
12. 必要があれば、追加データをスキャンまたはトリミングして再度スキャンするために他のスキャン工程に戻ることもできます。

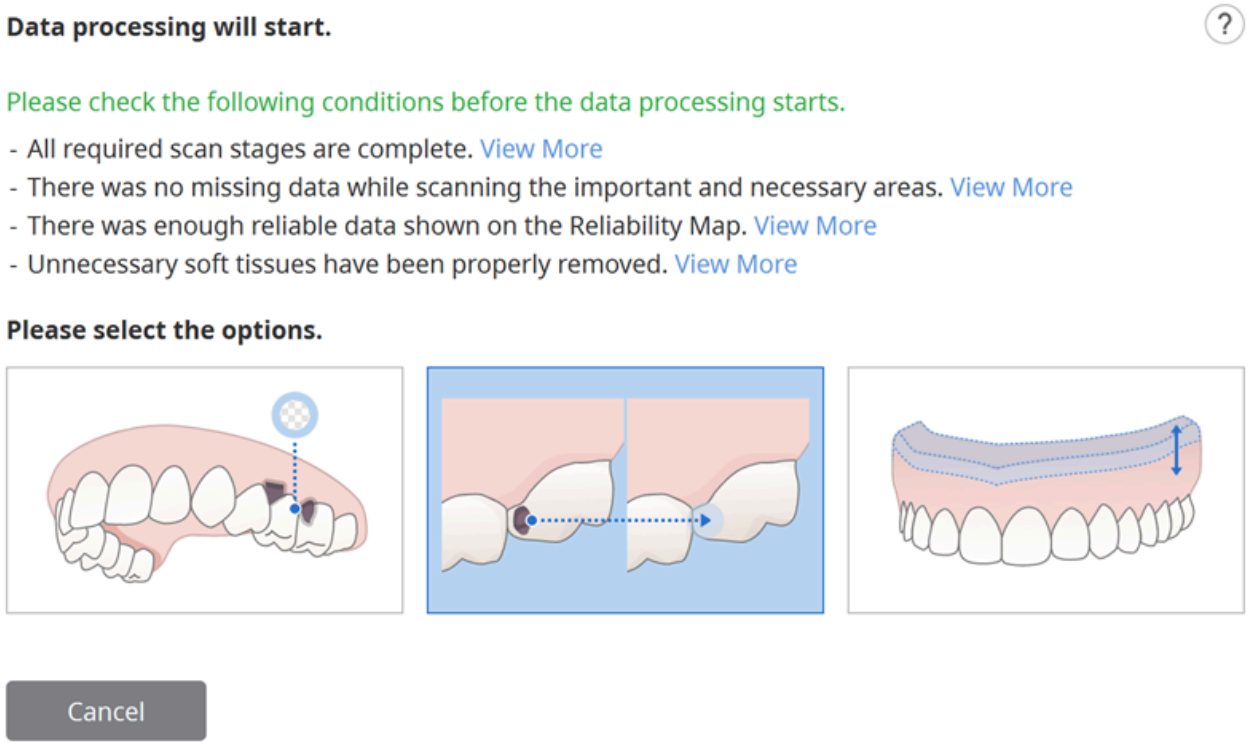

Occlusal Contact
Layered Data
(suspected areas of blood or saliva)
Insufficient Reduction
Undo
Redo
Back

# 完了

## 仕上げ工程

| | |
|---|---|
|  | スキャンを完了し、結果データを生成します。 |

仕上げ工程アイコンをクリックすると、データ処理方法を選択するために次のダイアログが表示されます。

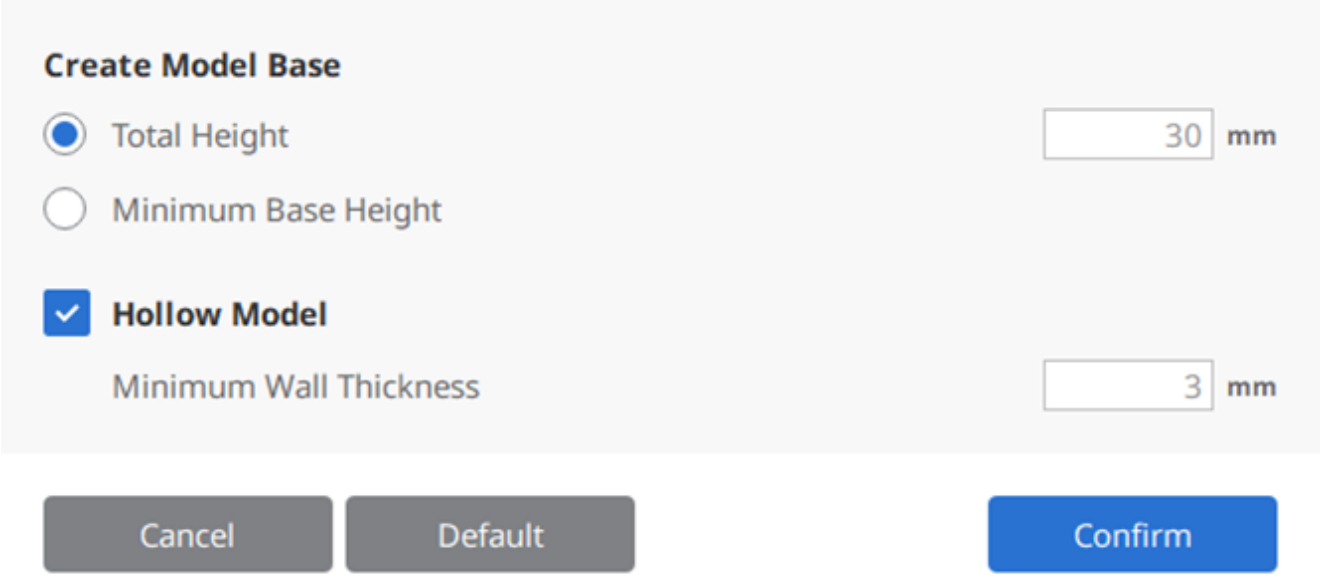



以下のオプションから一つを選択します。

| | | |
|---|---|---|
|  | データを処理する（そのまま） | 最適化された3Dデジタル模型を作成します。<br>ノイズは部分的に削除され、データが不足している領域は空きスペースのままになります。<br>必要があれば、設定でファイルサイズおよび表面の粗さを調調整できます。 |
|  | 主な穴を充填 | このオプションを使用すると、スキャンデータ中の主な穴をすべて充填します。<br>信頼性マップに基づき、十分な信頼性があるデータを延長してデータが取得されていない領域のデータを生成します。 |
|  | 3Dプリント可能な模型を作成 | このオプションを使用すると、3Dプリント用の模型を作成します。<br>3Dプリント用の平らな底部の模型を製作するために厚さを加えるために最大限に拡大されます。<br>必要があれば、設定でファイルサイズおよび表面の粗さを調整できます。 |

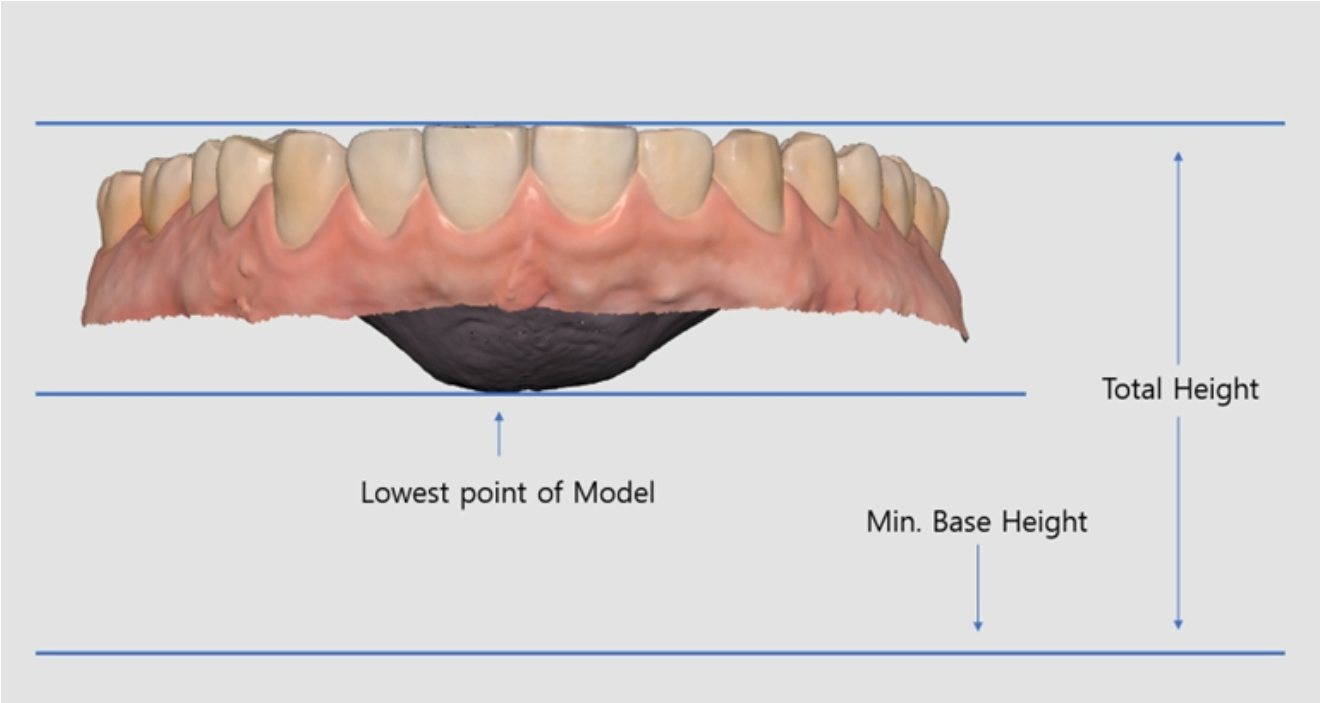
| | | |
|---|---|---|
|  | 複製義歯データを作成 | 3D複製義歯に最適化された模型を作成するには、このオプションを使用します。<br>ノイズは部分的に削除され、データが不足している領域はスペースは空いたままになります。<br>必要があれば、設定でファイルサイズと表面の粗さを調整できます。 |

「3Dプリント可能な模型を作成」を選択すると、次のダイアログが表示されます。




以下の表と画像を参照して、高さおよび厚さの値を入力してください。

| | |
|---|---|
| 全体の高さ | ベースを含めた模型全体の高さ |
| ベースの高さの最小値 | ベースの底から模型の一番下の点までの高さ |
| 壁の厚さの最小値 | 模型内側の壁の最小の厚さ |



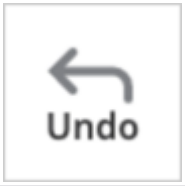
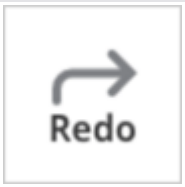
# スキャン工程ツール

以下のツールは各スキャン工程の下部で提供されます。




# 基本スキャンツール

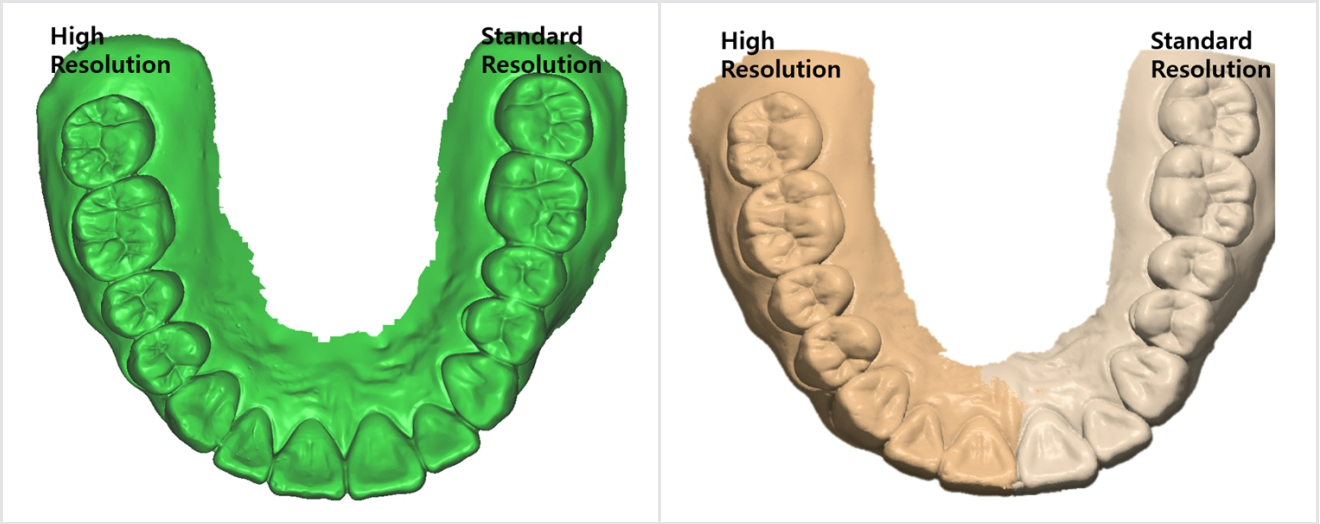
| | | |
|---|---|---|
|  | 開始 | スキャンを開始します。<br>スキャナーのスキャンボタンを押して、スキャンを開始することもできます。 |
|  | 停止 | スキャンを停止します。<br>スキャナーのスキャンボタンを押して、スキャンを停止することもできます。 |
|  | 最適化 | より正確にスキャンするために3D画像を最適化します。<br>最適化によりすべてのノイズデータが削除されます。 |
|  | 高解像度スキャン | スキャンデータの全部または一部の高解像度スキャンデータを取得します。<br>高解像度と標準解像度のスキャンデータは、後処理でスムーズに結合されます。<br>* i600では利用できません。 |
|  | スキャンデータをインポート | Medit Linkから3Dデータをインポートします。 |
|  | 削除 | 現在の工程のスキャンデータを削除します。<br>現在の工程に関連するすべてのデータを削除できます。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 元に戻す | 一つ前のスキャンをキャンセルします。 |
|  | やり直す | キャンセルしたスキャンを復元します。 |

## 高解像度スキャン

* i600では利用できません

以下の高解像度と標準解像度のスキャンデータの比較を参照してください。




> 🔎**注意**
>
> 設定 > 後処理 > 高解像度データ処理に移動して設定で高解像度データ処理のオプションを設定できます。
>
> - HDスキャンデータのみか、SDとHDスキャンの両方のデータに高解像度データ処理を適用するか選択できます。
> - 支台歯データに高解像度データ処理を適用するように設定できます。

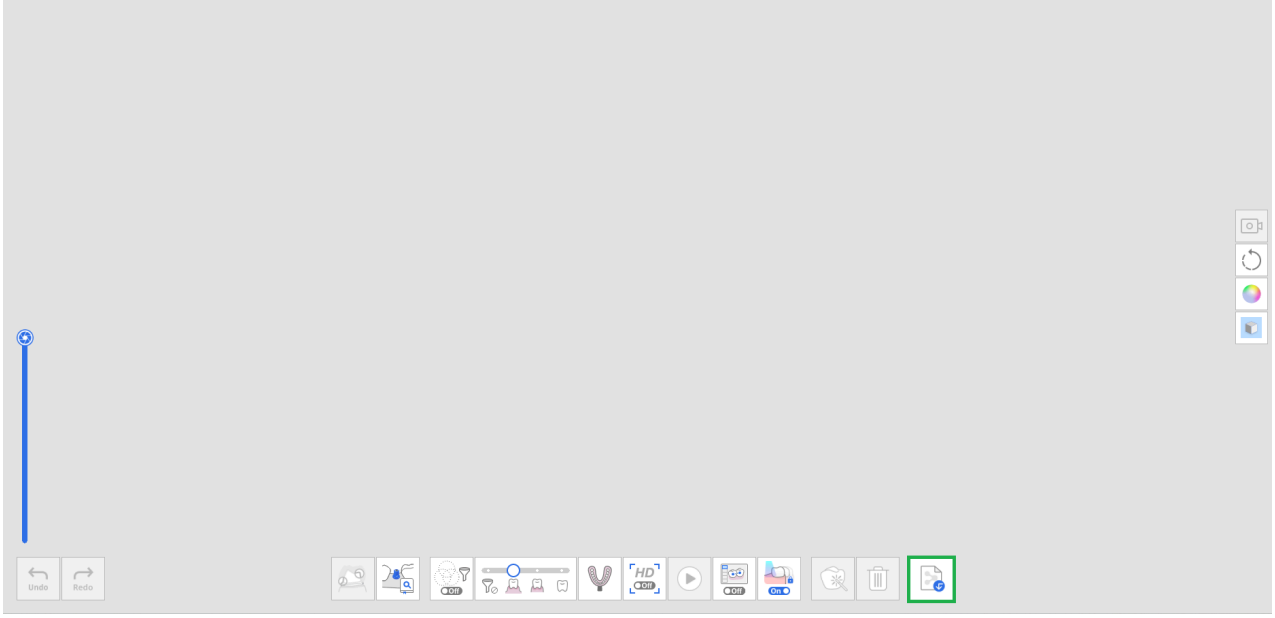
## スキャンデータをインポート

この機能を使用すると、サードパーティ製スキャナーで取得したスキャンデータをインポートできます。データを編集したり、インポートしたデータで追加のスキャンを実行したりできます。

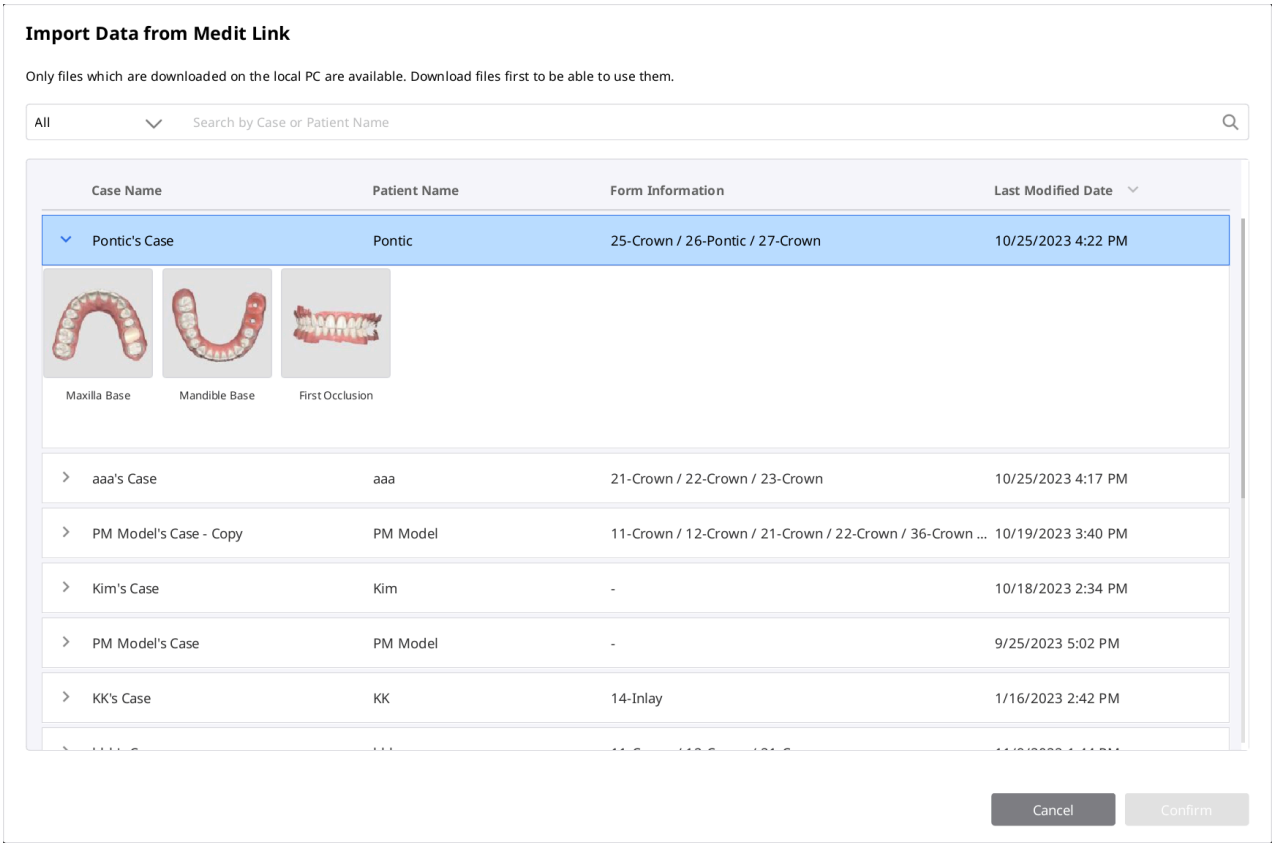
> 🔎**注意**
>
> - Medit Linkのケースから以前にスキャンしたファイルをインポートできます。

- サードバーティ製スキャンファイルをインポートする場合、処理する前にMedit Linkのケースをそのスキャンファイルに添付するようにします。
- スキャン処理を開始する前または次の工程に移動する前にファイルをインポートできます。

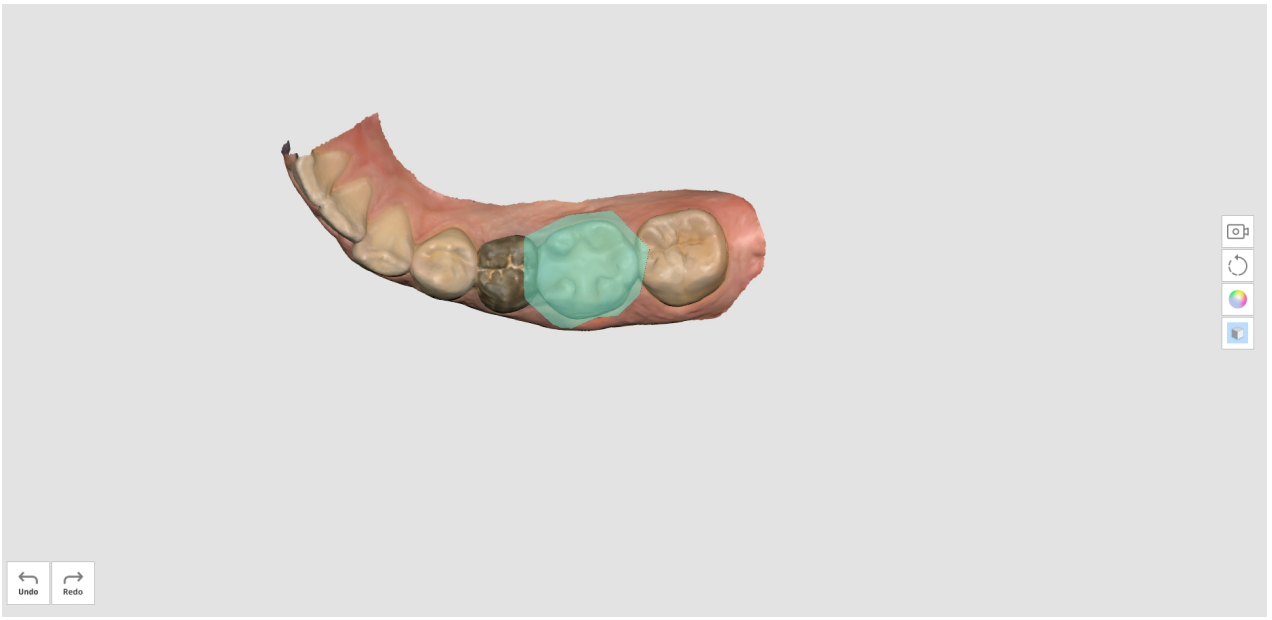
1. 「スキャンデータのインポート」アイコンをクリックします。



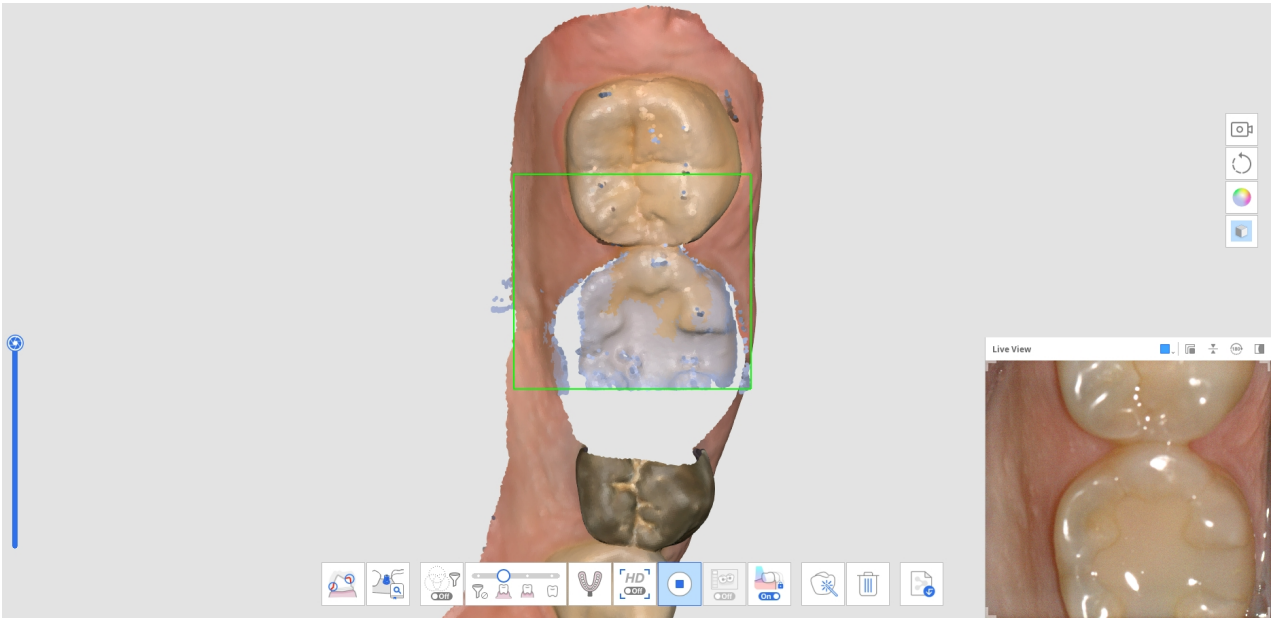

2. Medit Linkケースからファイルを選択します。




3. 再スキャンが必要な部分をトリミングします。




4. 追加のスキャンを実行します。




# フィルタリングツール

| | | |
|---|---|---|
|  | スマートスキャンフィルタリング | スキャン中に不要な軟組織データをフィルタリングします。<br>スマートスキャンフィルタリング用に3つのフィルタリングを利用できます。<br>• フィルタリングなし<br>• 歯+歯肉<br>• インテンスな歯+歯肉<br>• 歯 |

| | | |
|---|---|---|
|  | スマートカラーフィルタリング | スキャンされた特定の色をフィルタリングします。<br>フィルタリングする色を追加し、管理できます。 |
|  | スマートステッチ | スキャン方法に関わらず、スキャンデータを自由に取得し、整列します。<br>スキャン中にデータは自動的に整列され、スキャンの停止後に手動で整列できます。 |

## スマートスキャンフィルタリング

この機能を使用して、選択したフィルタリングにより、スキャン中に不要な軟組織を削除できます。必要に応じて、3つのフィルターを利用できます。

| | | |
|---|---|---|
|  | フィルタリングなし | 軟組織はそのままにします。<br>このオプションは石膏模型ケースの場合に役に立ちます。 |
|  | 歯+歯肉 | スキャンに干渉する軟組織を削除し、必要な歯と歯肉だけを残します。<br>このオプションは一般的なスキャンのほとんどの場合に使用できます。 |
|  | インテンスな歯+歯肉 | スキャンに干渉する軟組織を削除し、必要な歯と歯肉だけを残します。<br>このオプションでは、歯から一定の距離内にある歯肉データのみを取得し、歯から離れているその他の軟組織を除きます。また無歯顎スキャンの場合にも効果的です。 |
|  | 歯 | すべての軟組織と歯肉を取り除き、歯のみを残します。<br>最初のスキャンに「歯+歯肉」フィルタリングを使用した後、追加のスキャンとして歯のみをスキャンする場合にこのオプションは効果的です。 |

# スマートカラーフィルタリング

「スマートカラーフィルタリング」では、材料の色を登録することで口腔内環境の異物材料（例：手袋など）のスキャンを防止できます。色が登録されると、オプションがオンになり、スキャン処理中に色が自動フィルタリングされます。

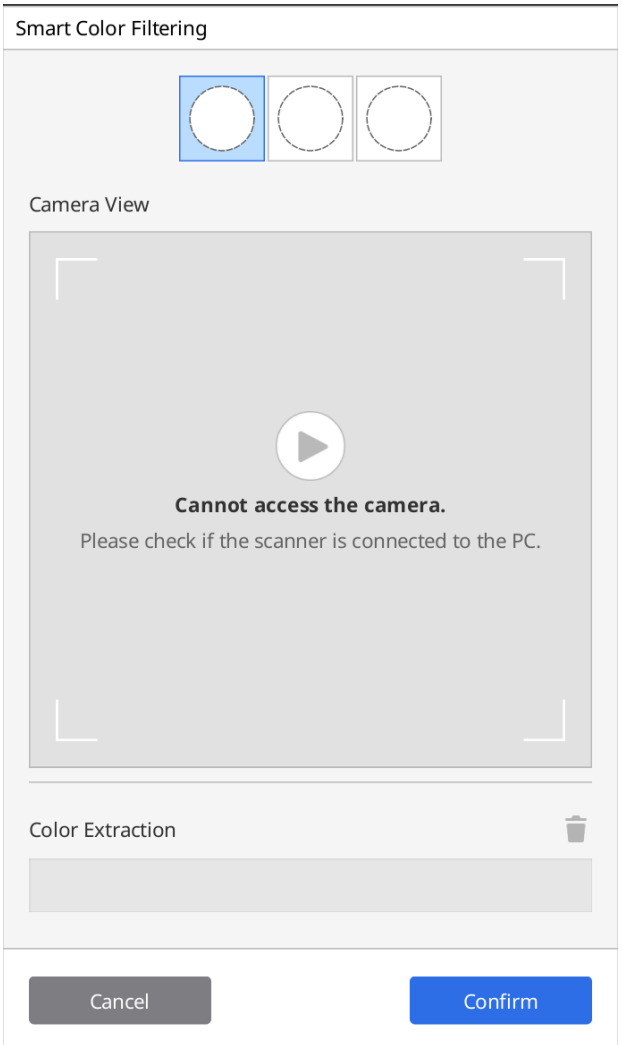
1. 下部の「スマートカラーフィルタリング」をクリックして、フィルタリングをオンにします。



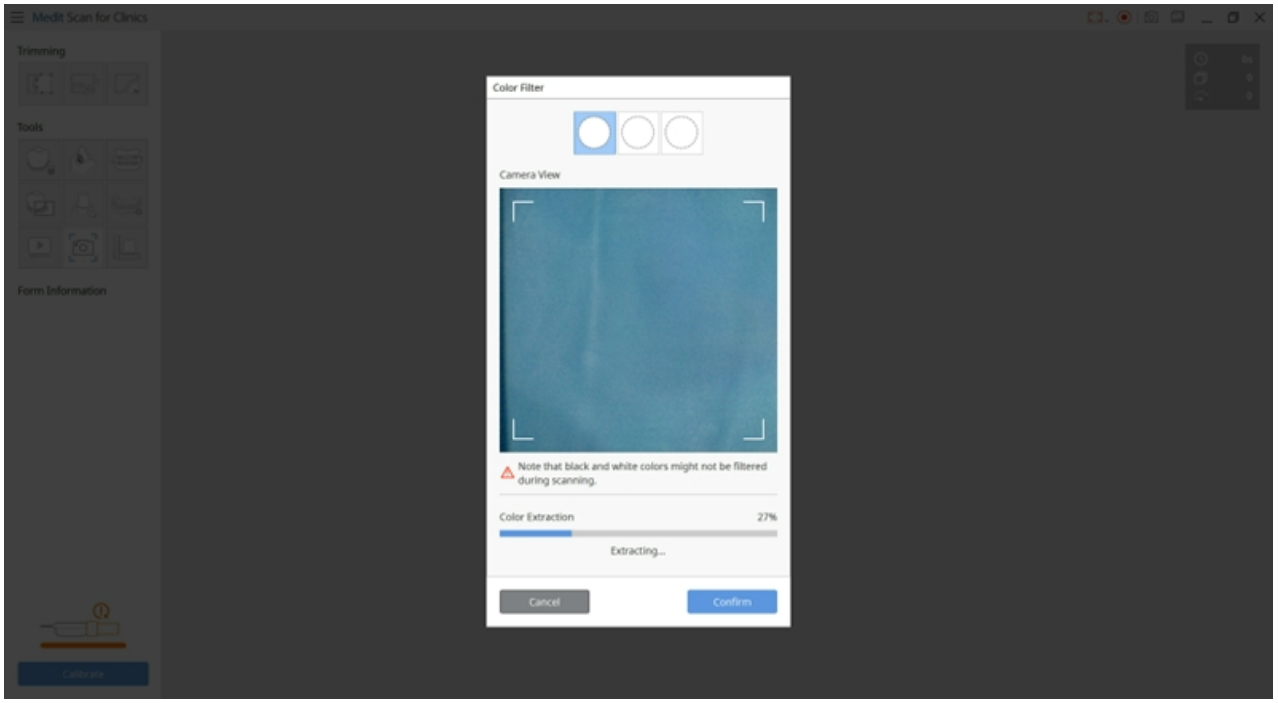

2. 新規の色を登録するには、「色を追加」アイコンをクリックします。



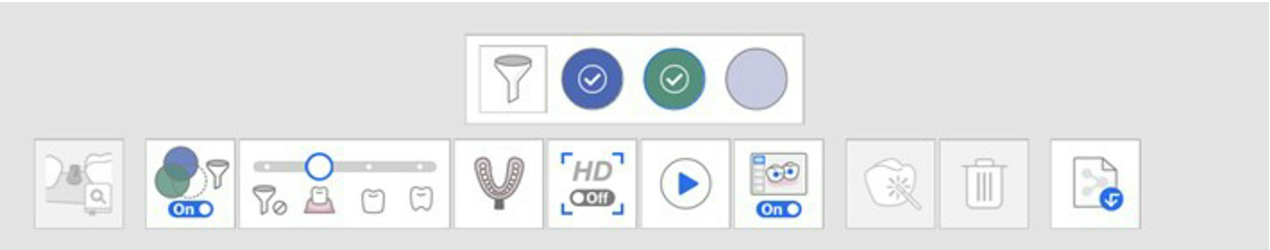
3. スマートカラーフィルタリングダイアログが表示されます。




4. 材料を準備し、フィルタリングします。スキャナーのスキャンボタンを押し、色識別プロセスを開始します。




5. 「確認」をクリックし、色の登録をし、色の識別を完了させます。
6. 色アイコンをクリックして各色フィルターをオンまたはオフにできます。




7. 登録済みの色は、アイコンに表示され、色の変更をしない限り、すべてのスキャン工程用に保存されます。




# スマートステッチ

> 🔎**注意**
>
> - スマートステッチは、上顎施術前、下顎施術前、上顎、下顎の各工程でのみサポートされています。
> - スマートステッチは、アバットメントライブラリマッチング、印象スキャン、裏装義歯スキャンのツールでは利用できません。
> - アバットメントライブラリマッチングとスキャンボディマッチング機能を使用後または咬合整列後にはスマートステッチを使用できません。
> - スマートステッチはスキャンアシストが有効になっている時にはサポートされません。

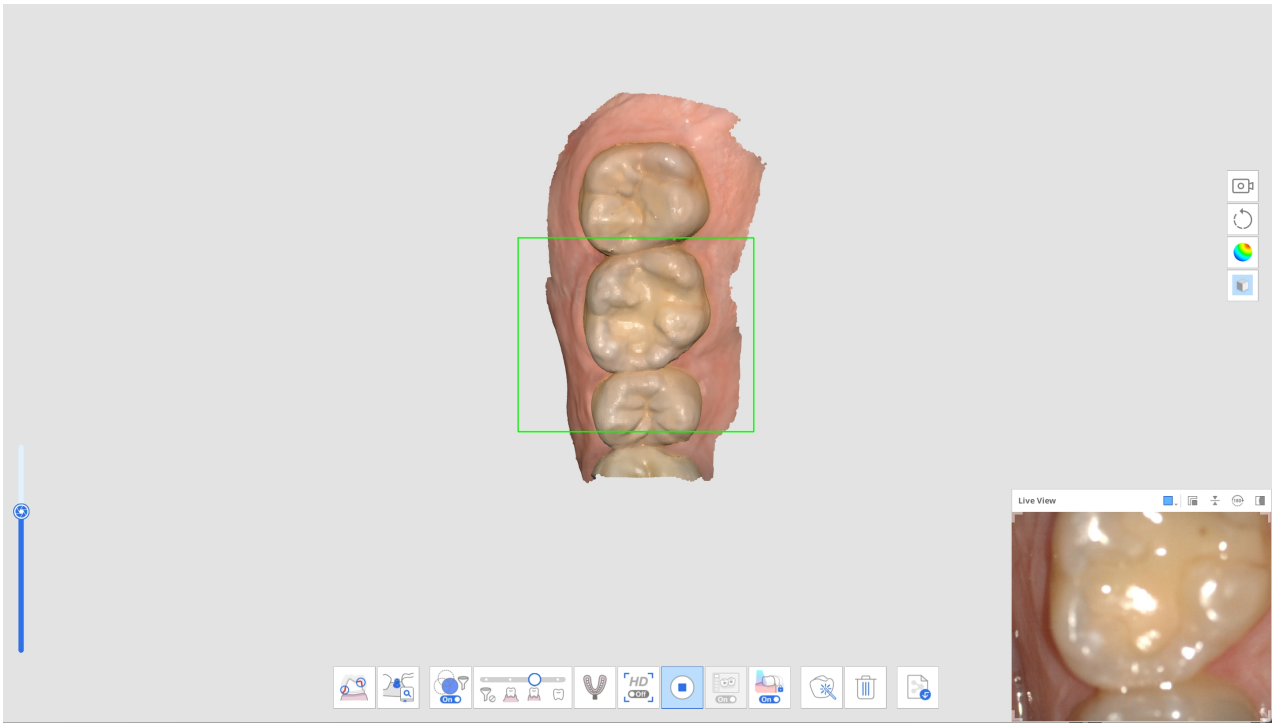
動画録画メソッドを使用して3Dスキャンをする場合、連続的にスキャンを行うことが重要です。連続スキャンにより、スキャンデータ取得中に焦点がずれることはありません。

この処理は、ユーザーのスキルや患者の口腔内の状態に非常に左右されますが、スマートステッチがサポートするスキャンメソッドは、この点を削除できます。

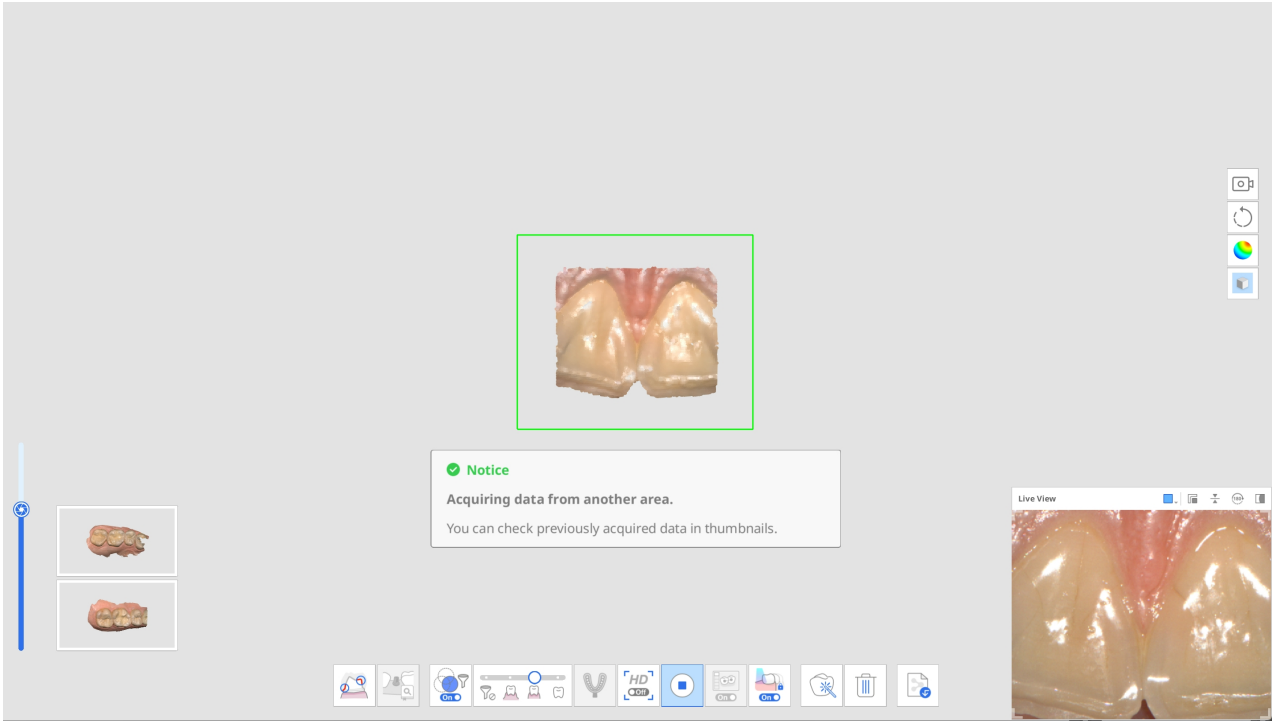
1. 下部の「スマートステッチ」アイコンをオンにします。



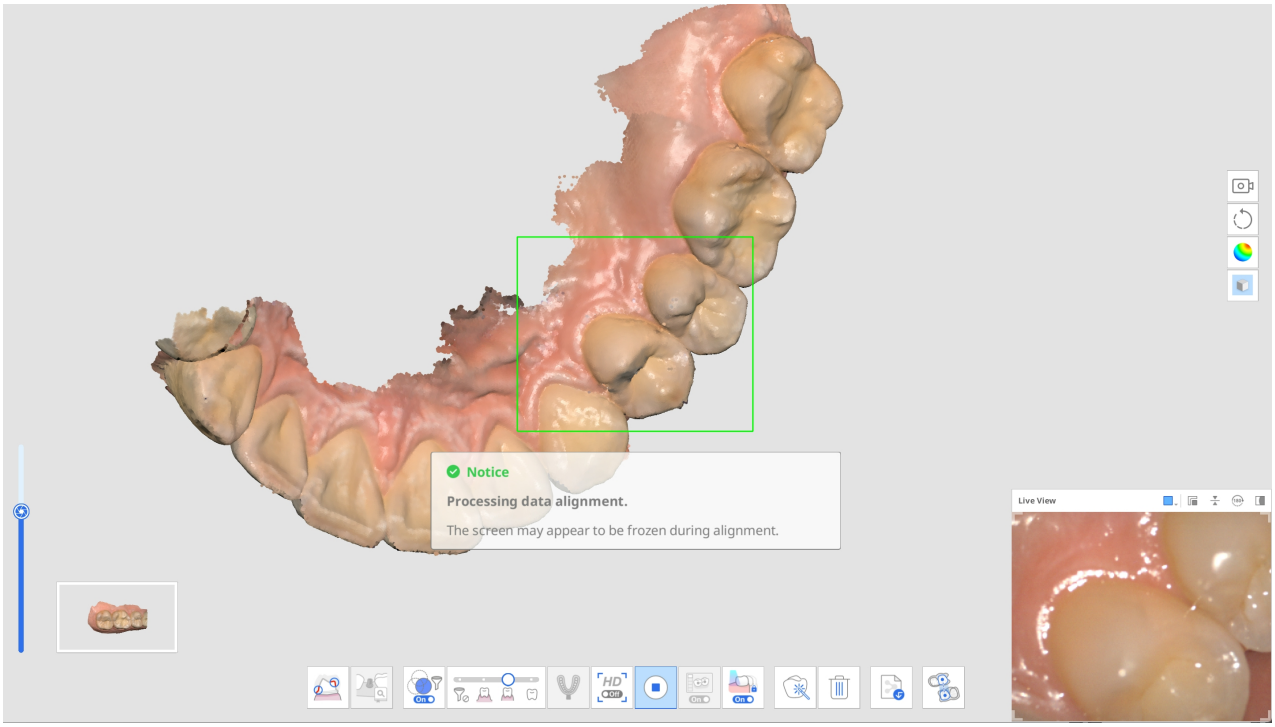

2. スマートステッチ、施術前をサポートする工程のスキャンを開始します。



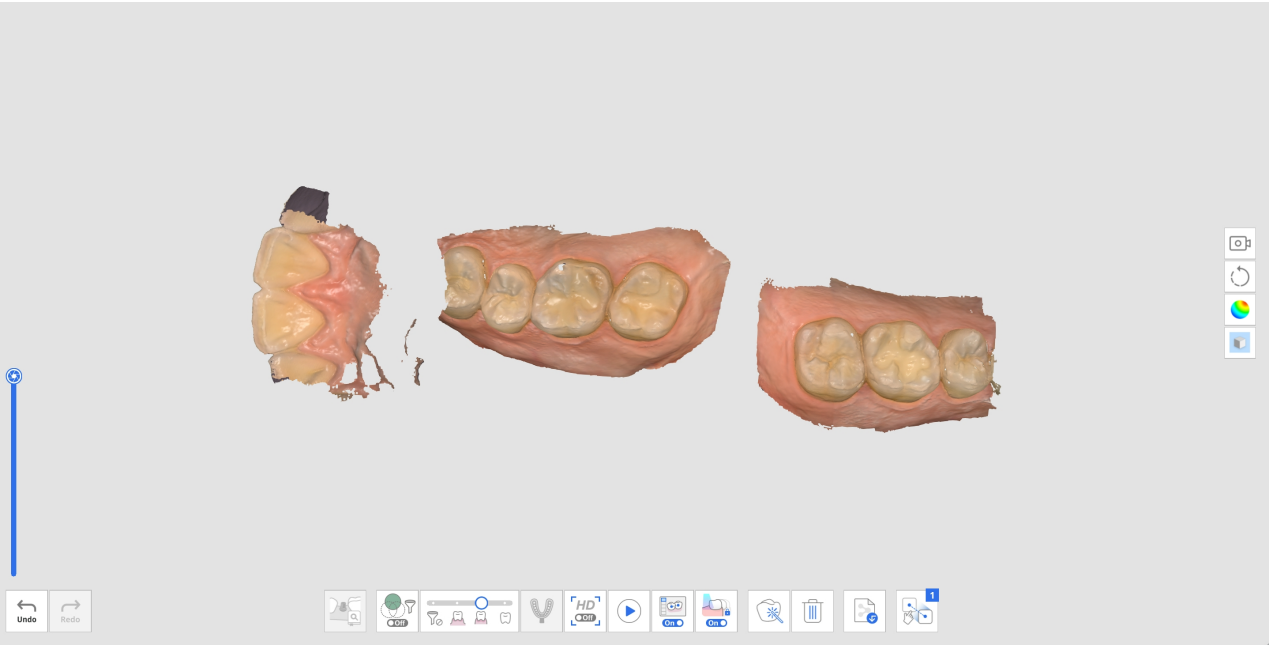

3. スキャナーを移動して、別の連続していない領域をスキャンする場合、スキャンデータの新しい別の部分が作成されます。この場合、以前にスキャンされたデータ部分は画面の左下隅にサムネイルとして表示されます。



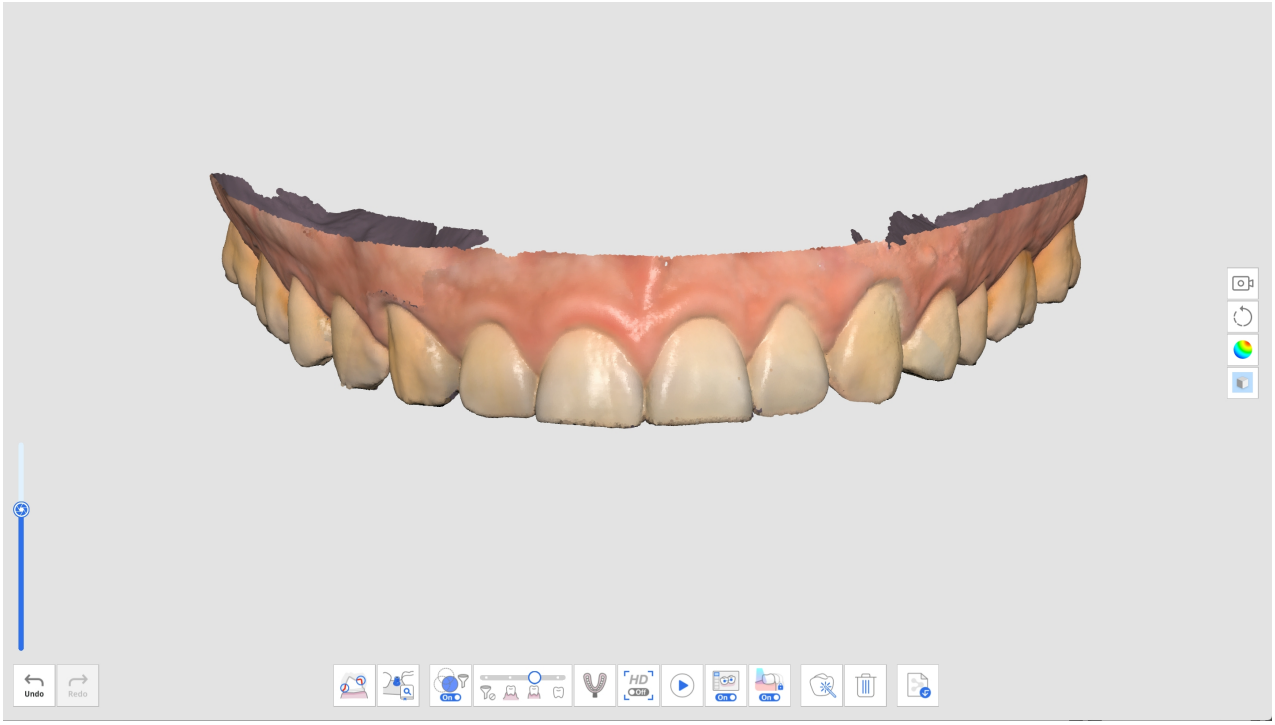
4. スキャン中、整列されていないスキャンデータ領域で新規データをスキャナーが取得した場合、自動的に整列され、整列済みデータのサムネイルは消えます。



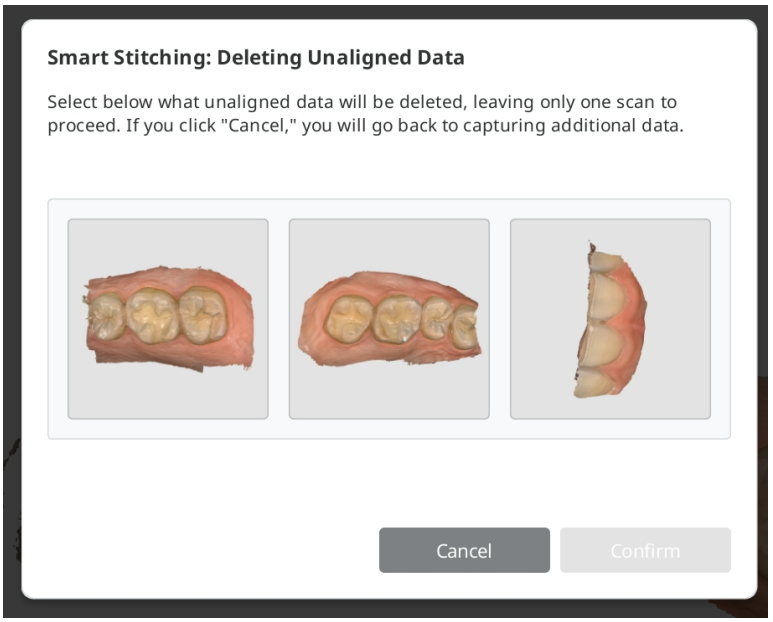

5. 別々の取得したデータ部分をすべて確認するために一時停止すると、メイン画面にまとめられます。別のスキャン工程に移動する前に、取得されたすべてのデータ部分は一つのスキャンに整列させる必要がありますので、ご注意ください。



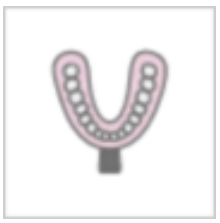

6. すべてのスキャンデータを整列するには、以下のいずれか一つを実施します。
   - 追加データをスキャンして、自動整列用にもっとデータを取得します。
   - 手動整列ツールを使用して、データを整列させます。
7. 下に示されているように、すべての不整列なスキャンデータが整列されるとデータ取得が完了します。




8. 別のスキャン工程に移動する前に、整列されていないデータが検知されると、ユーザーはスキャンデータの1セットのみを残して整列されていないデータを削除するように促されます。




# 高機能ツール

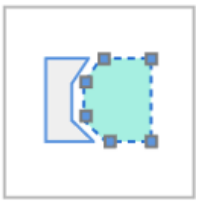
| | | |
|---|---|---|
|  | インプレッションスキャン | 口腔内および印象のスキャンデータを結合してシームレスにスキャンができます。<br>口腔内と印象のスキャンデータを統合されたスキャンで簡単に結合させます。<br>* ツールの詳細な使用法についてはケースおよびワークフローの例 |

| | | |
|---|---|---|
| | | > 印象スキャンを参照してください。 |
|  | アバットメントライブラリマッチング | カスタムアバットメントライブラリを管理します。<br>このライブラリデータは、届きにくい領域をスキャンする必要性を最小限に抑え、スキャンデータと自動的に揃えられます。<br>* ツールの詳細な使用法についてはケースおよびワークフローの例 > アバットメントライブラリマッチングを参照してください。 |
|  | スキャンボディライブラリマッチング | プリセットおよびカスタムのスキャンボディライブラリを管理します。<br>このライブラリデータは、届きにくい領域をスキャンする必要性を最小限に抑え、スキャンデータと自動的に揃えられます。ライブラリデータは設計など、今後の処理で共有できます。<br>* ツールの詳細な使用法についてはケースおよびワークフローの例 > スキャンボディライブラリマッチングを参照してください。 |
|  | 下顎運動 | 患者の下顎運動を録画・再生します。<br>* ツールの詳細な使用法については、スキャン工程 > 咬合> 咬合工程用の追加ツール > 下顎運動を参照してください。 |
|  | 支台歯確認 | 支台歯がプリセット値の範囲内にあるかどうか確認します。<br>挿入パスと距離の測定で支台歯データを確認できます。<br>* ツールの詳細な使用法については、ケースとワークフローの例 > 支台歯確認を参照してください。 |

# メインツールバーツール

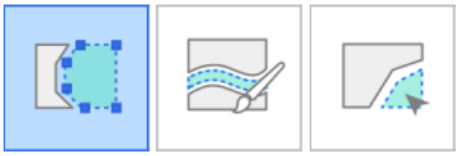
## トリミングツール

トリミングツールで、データのノイズを編集・削除できます。

| | | |
|---|---|---|
|  | 多角形トリミング | 画面上で描いた多角形内のすべてのものを削除します。 |
|  | ブラシトリミング | 画面上に手書きで描かれたパス上のものをすべて削除します。<br>前面のみが選択されます。<br>ブラシは異なる3つのサイズがあります。 |
|  | クイックトリミング | 簡単に残りのデータから切り離したデータを削除します。 |

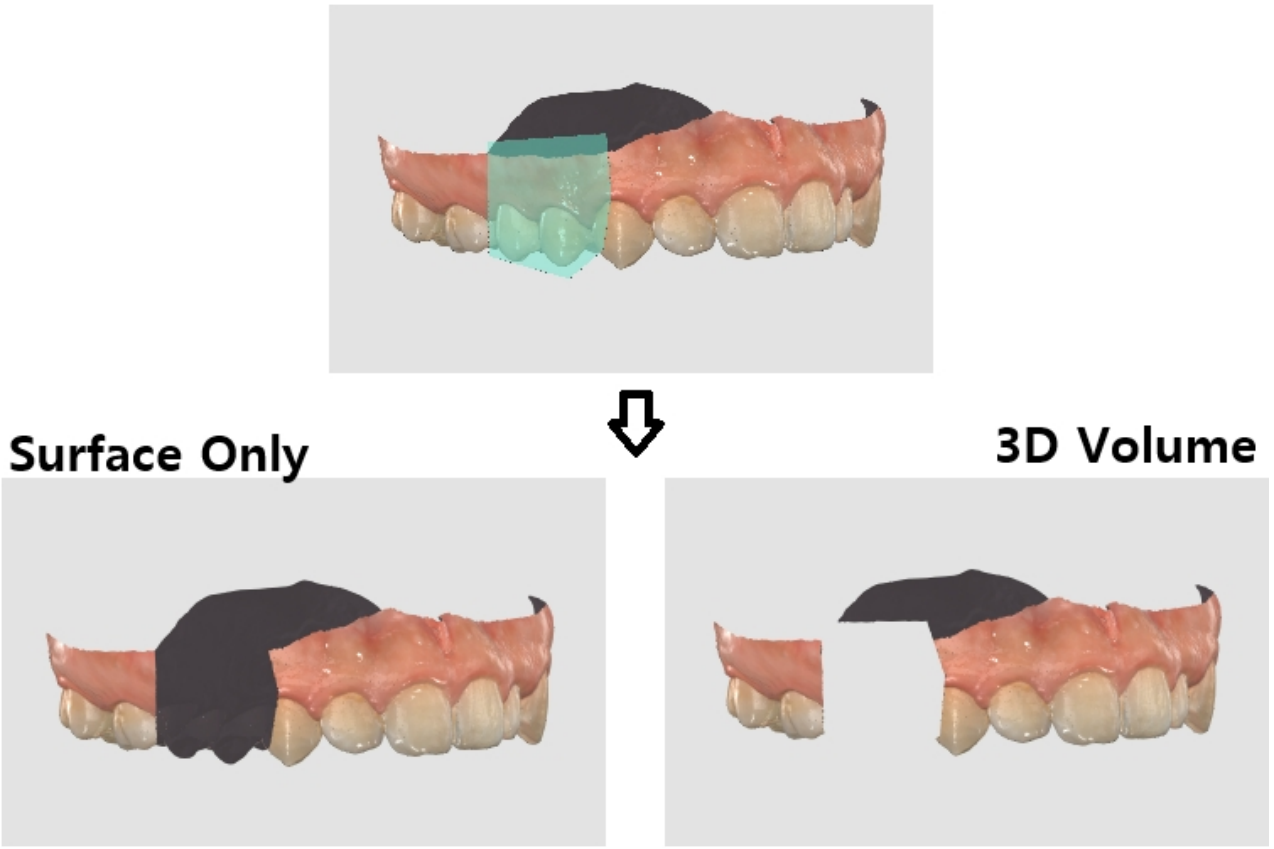
## 多角形トリミング

1. 左側のメインツールバーの「多角形トリミング」を選択します。

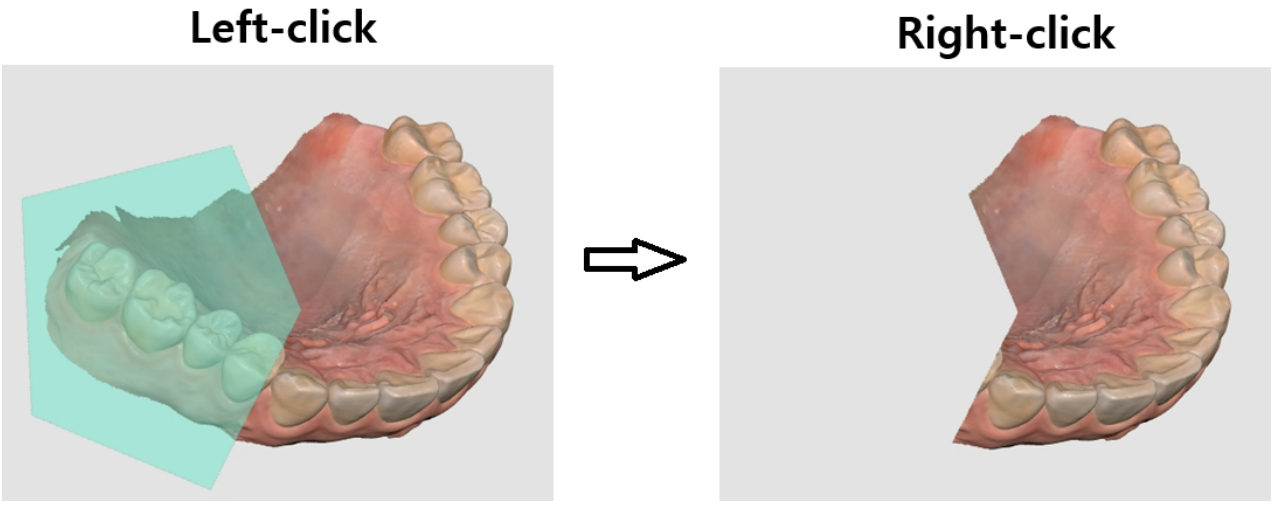


2. 画面下部のいずれかのトリミングモードを選択：「表面のみ」または「3Dボリューム」「表面のみ」では、現在の画面で見えているデータのみを削除し、「3Dボリューム」では、選択されている領域内の3D形状全体を

削除します。

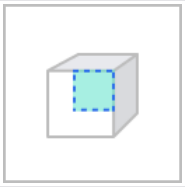
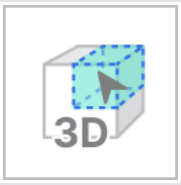



3. 左クリックし、削除したい領域を多角形で線を描き、右クリックして、その囲まれた形状内のデータを削除します。




## ブラシトリミング

ブラシトリミングを使用して、画面の手書きで描かれたパス上のすべてのものを削除できます。以下のツールは、ブラシトリミングツールを選択時に画面の下に提供されます。

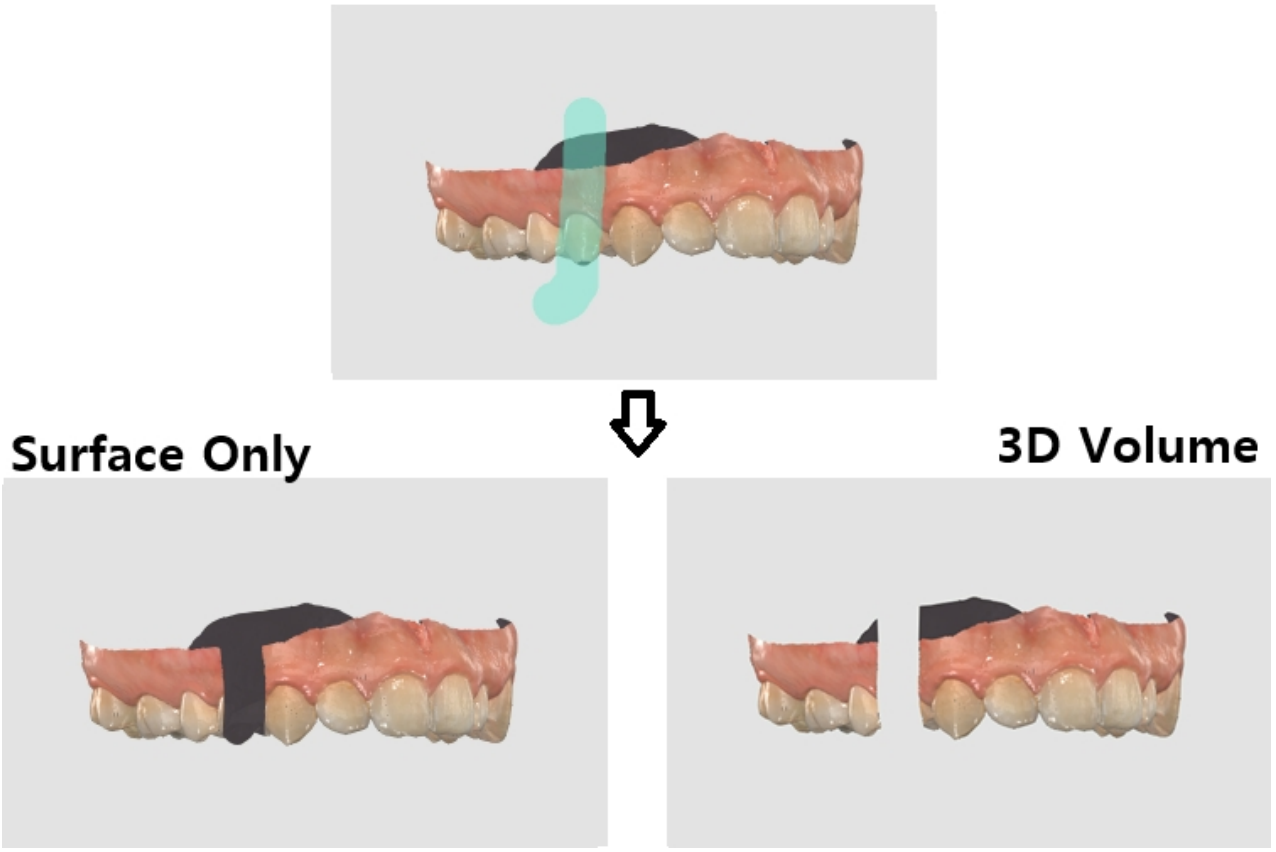
| | | |
|---|---|---|
|  | 表面のみ | 表示されている表面のみに基づいてトリミングします。 |
|  | 3Dボリューム | 選択した3D領域に基づいてトリミングします。 |
|  | ブラシサイズ | ブラシサイズを設定します。ブラシは異なる3つのサイズがあります。 |
|  | ノイズの手動トリミング | ブラシで選択した領域の不要なノイズデータを削除します。 |
|  | ノイズの自動トリミング | 見ている方向に従って不要なノイズデータを自動的に削除します。 |

1. 左側のメインのツールバーから「ブラシトリミング」を選選択します。



2. 画面下部のいずれかのトリミングモードを選択：「表面のみ」または「3Dボリューム」「表面のみ」では、現在の画面で見えているデータのみを削除し、「3Dボリューム」では、選択されている領域内の3D形状全体を

削除します。




3. ブラシサイズを選択します。 3つのブラシサイズを利用できます。次に、削除したい領域をクリックしてドラッグします。

## ノイズの手動トリミング

不要なノイズデータを手動で削除できます。

> 🔎**注意**
>
> - このオプションがオフの場合、ブラシで領域を選択できますが、その領域を削除することはできません。
> - この機能は、「3Dボリューム」が選択されている場合には使用できません。

1. 下部の「ノイズの手動トリミング」ツールアイコンをクリックします。




2. 下部でブラシサイズを選択します。



3. ノイズをトリミングする領域を選択します。
4. 選択済み領域は、マウスを使用して該当する領域を選択後に自動的に削除されます。

## ノイズの自動トリミング

唇、頬、舌などの不要な軟組織を自動トリミングできます。

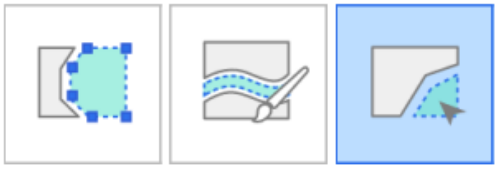
1. 下部の「ノイズの自動トリミング」ツールアイコンをクリックします。



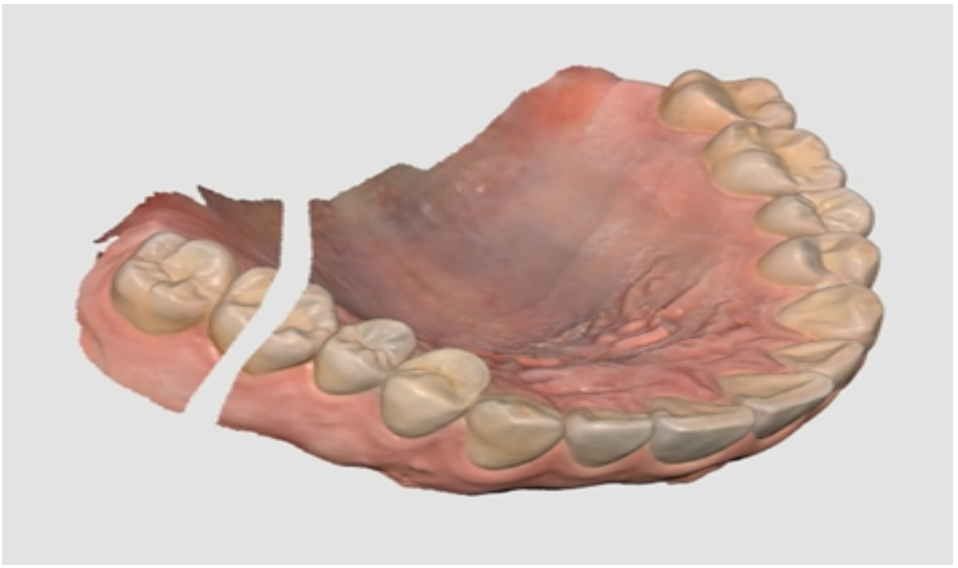

2. プログラムは不要な軟組織が自動的に削除します。

# クイックトリミング

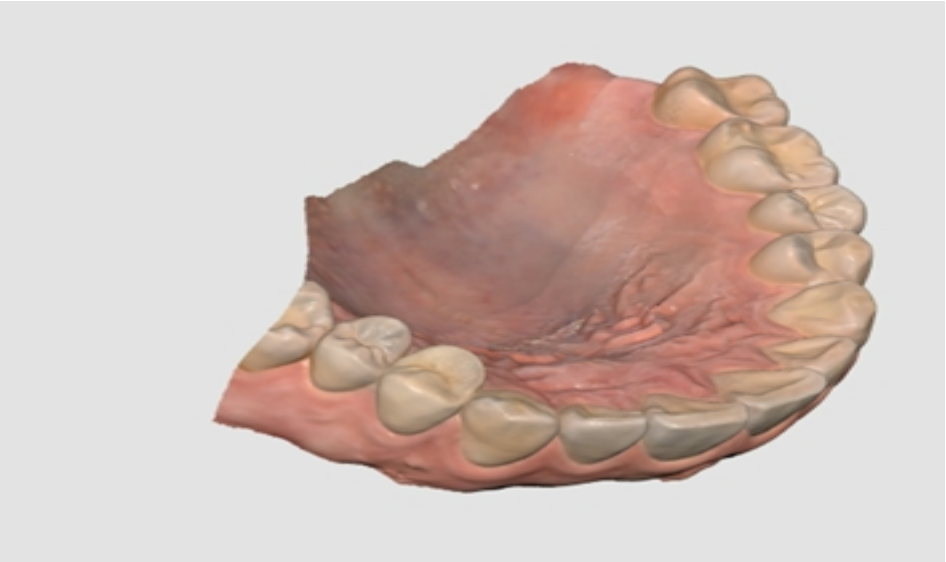
1. メインツールバーのトリミングツールから「クイックトリミング」をクリックします。



2. スキャンデータの残りから切り離されたデータをクリックします。



3. クリックした分離されている領域は以下のように削除されます。



# 機能ツール

| | | |
|---|---|---|
|  | 領域をロック | 選択ツールを使用して特定の領域をロックします。 |
|  | アンダーカット分析 | 挿入方向に基づいてアンダーカット領域を分析します。 |
|  | 上顎/下顎の切り替え | 上顎と下顎のスキャンを交換します。<br>これは、誤って間違った顎をスキャンした場合に有用です。 |
|  | 結果プレビュー | 選択した領域のプレビュー結果を表示して、実際に処理する前にデータの質を確認します。 |
|  | マージンライン | マージンラインを自動または手動で作成します。<br>マージンライン情報は、設計プログラムにインポートすることもできます。 |
|  | スマートデータクリーニング | 信頼性マップを使用して信用度の低いデータを削除して、軟組織データをフィルタリングします。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | スキャン再生 | スキャンプロセスを再生します。 |
|  | HD カメラ | 3D模型データで2D画像を撮影し、技工所と画像を共有します。 |
|  | アバットメント登録 | アバットメントをスキャンまたはインポートして、ライブラリのアバットメントを登録します。<br>登録されると、アバットメントライブラリマッチングのために使用できます。 |
|  | スマートシェードガイド | スマートシェード推奨を提供します。 |

メインツールバーの上記の機能ツールのうちの一つを選択する場合、以下の選択ツールが該当の機能で動作する下部に表示されます。

| | | |
|---|---|---|
|  | 多角形選択 | 画面上で描いた多角形内のすべてのものを選択します。 |
|  | 円形の選択 | 円形領域内のすべてのものを選択します。 |
|  | ブラシ選択 | 画面上に手書きで描かれたパス上のすべてのものを選択します。<br>ブラシは異なる3つのサイズがあります。 |
|  | スマートシングルトゥース選択 | 1回クリックして、1本の歯の領域を自動選択します。歯の上をクリックまたはドラッグできます。<br>* このツールは、領域をロック、マージンライン、支台歯確認、スマートスキャン確認で便利です。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 選択 | 上記の選択ツールを使用して領域を選択するように選択モードを有効にします。 |
|  | 選択解除 | 上記の選択ツールを使用して領域を選択解除するように選択解除モードを有効にします。 |
|  | すべての選択を消去 | すべての選択を消去します。 |
|  | 確認 | 選択済みツールによる結果を適用します。 |

# 領域をロック

選択ツールを使用して特定の領域をロックできます。これにより、その後のスキャンはロック済み領域の色を除く形状に影響することはありません。

> 🔎**注意**
> この機能は、コード削除後の取り消されたスキャン済み歯肉データを維持する場合に役に立ちます。

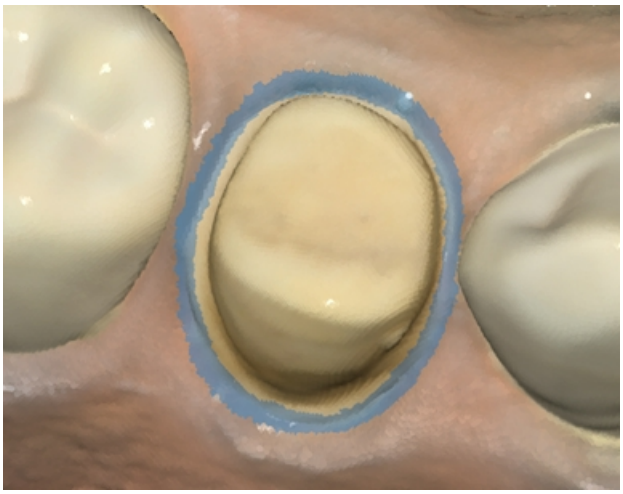
1. メインツールバーから「領域をロック」をクリックします。



2. 領域選択ツールで領域を選択します。



3. ロックする領域を選択します。選択済み領域は、異なる色で表示されます。



以下の1つを実行することで、ロック済み領域をロック解除できます。

1. 「選択解除」ツールアイコンをクリックして、選択解除モードに切り替え、選択ツールを選択し、ロック解除する領域を覆います。




2. 「すべての選択範囲を解除」ツールアイコンをクリックして、すべてのロック済み領域をロック解除します。




# アンダーカット分析

挿入方向に基づいてアンダーカット領域を分析します。自動方向または手動方向によって、挿入方向を決定することができます。

| | | |
|---|---|---|
|  | 自動方向 | アンダーカット領域が最小化される方向を自動的に計算します。次に、ビュー画面上にアンダーカット領域が表示されます。 |
|  | 手動方向 | ユーザーのビューに基づき、システムはアンダーカット領域を計算します。<br>データを移動させたり、回転させたりして表示方向を変更できます。次に、ビュー画面上にアンダーカット領域が表示されます。 |

## 自動方向でアンダーカット分析

1. メインツールバーから「アンダーカット分析」ツールアイコンをクリックします。



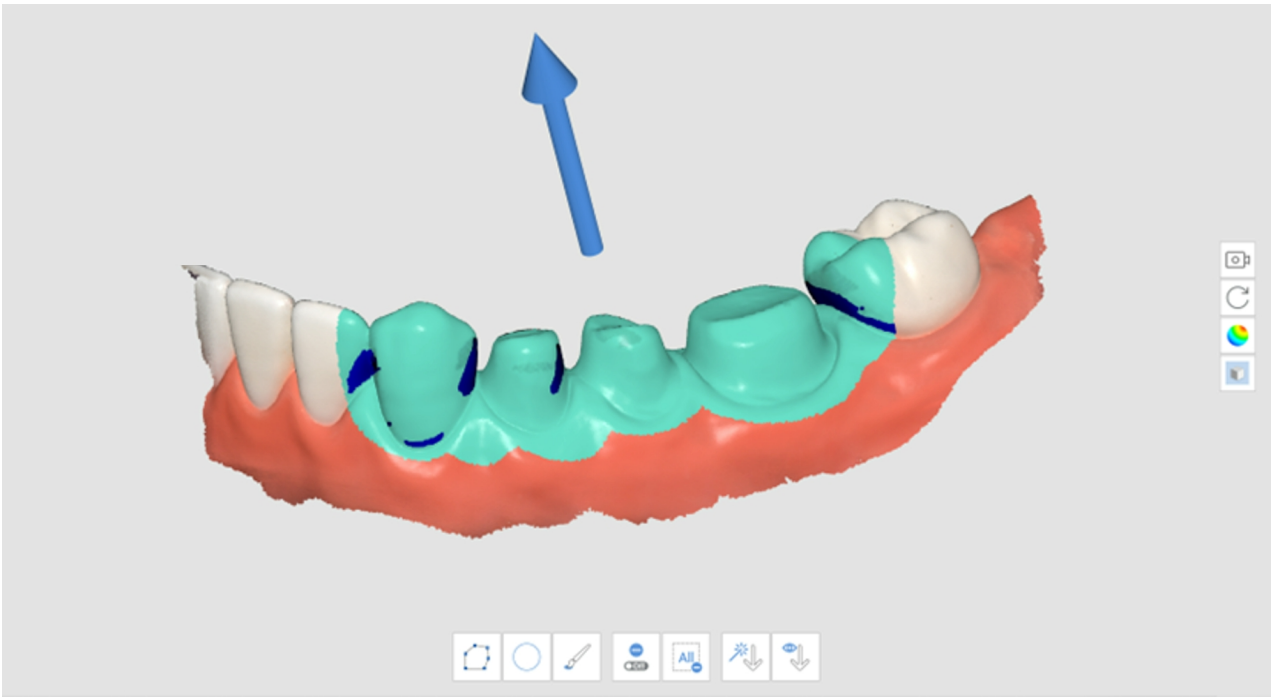
2. 領域選択ツールを使用して、アンダーカット領域を計算するために関心のある領域を選択します。



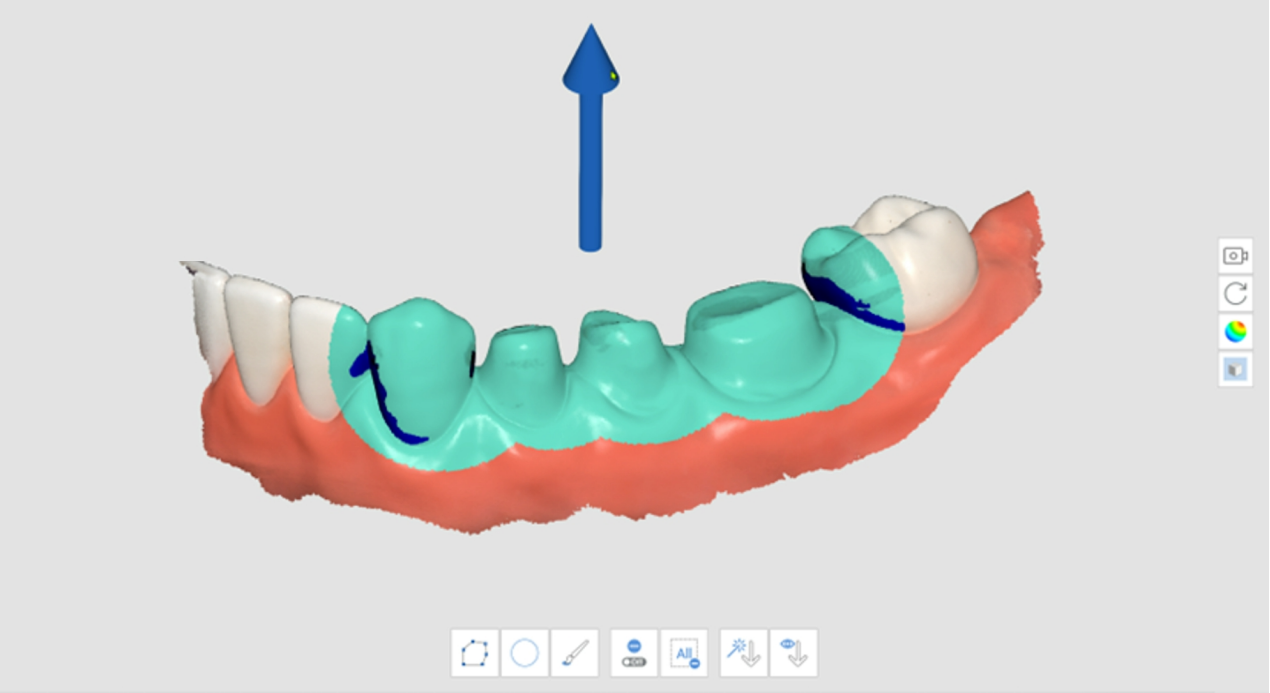
3. いずれの領域も選択されていない場合には、プログラムがデータ表示領域の3D模型全体のアンダーカット領域を計算します。
4. 下部の「自動方向」アイコンをクリックします。



5. 挿入パス矢印は、アンダーカット領域が最小化された方向に表示され、アンダーカット領域は濃い青色で表示されます。



6. 矢印を左クリックしてドラッグすると、挿入パスの方向を変更できます。



## 手動方向でアンダーカット分析

1. メインツールバーから「アンダーカット分析」ツールアイコンをクリックします。



2. 領域選択ツールを使用して、アンダーカット領域を計算するために関心のある領域を選択します。
3. サイドツールバーの「移動」「回転」「ズームイン」「ズームアウト」ツールを使用して、模型の方向を変更します。
4. 下部の「手動方向」アイコンをクリックします。



5. 挿入パスの矢印は、ユーザーの視点からの方向で表示されます。
6. 矢印を左クリックしてドラッグすると、挿入パスの方向を変更できます。

# 上顎/下顎の切り替え

誤って、下顎が上顎スキャン工程（またはその逆）でスキャンされた場合、この機能を使用して修正できます。

1. メインツールバーから「上下顎の交換」ツールアイコンをクリック



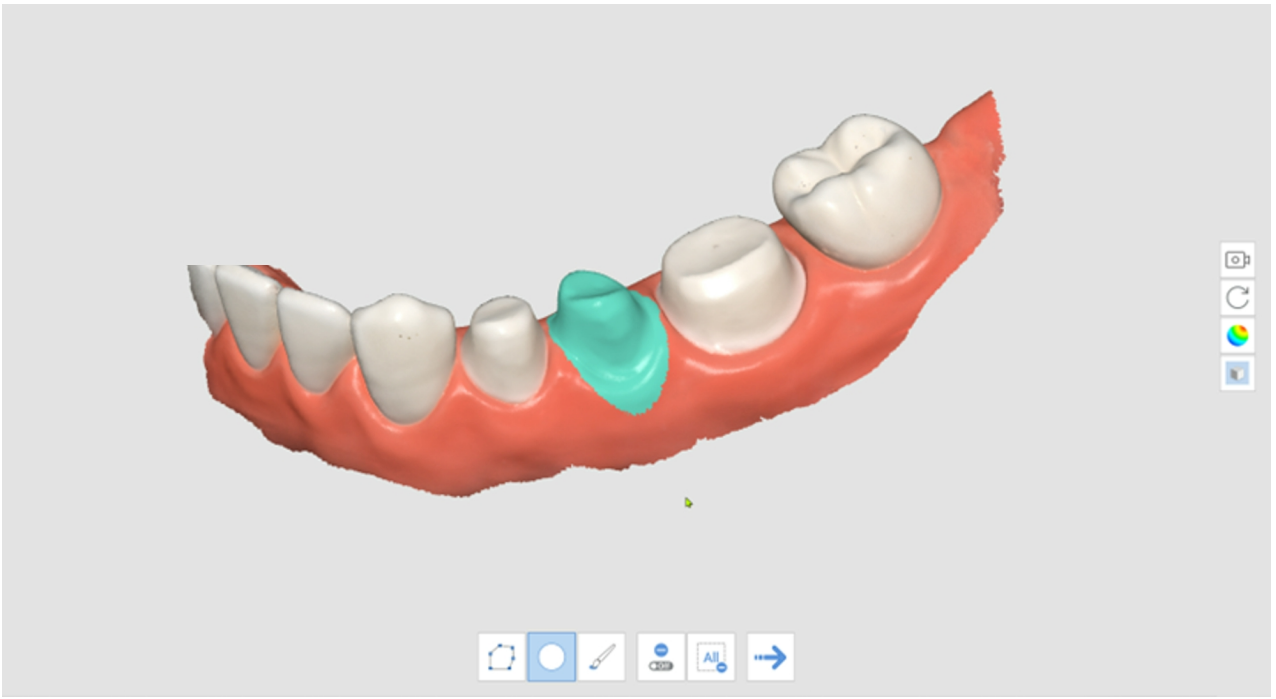
2. 上顎と下顎工程の現在のデータは交換されます。

# 結果プレビュー

1. メインツールバーから「結果プレビュー」ツールアイコンをクリックします。



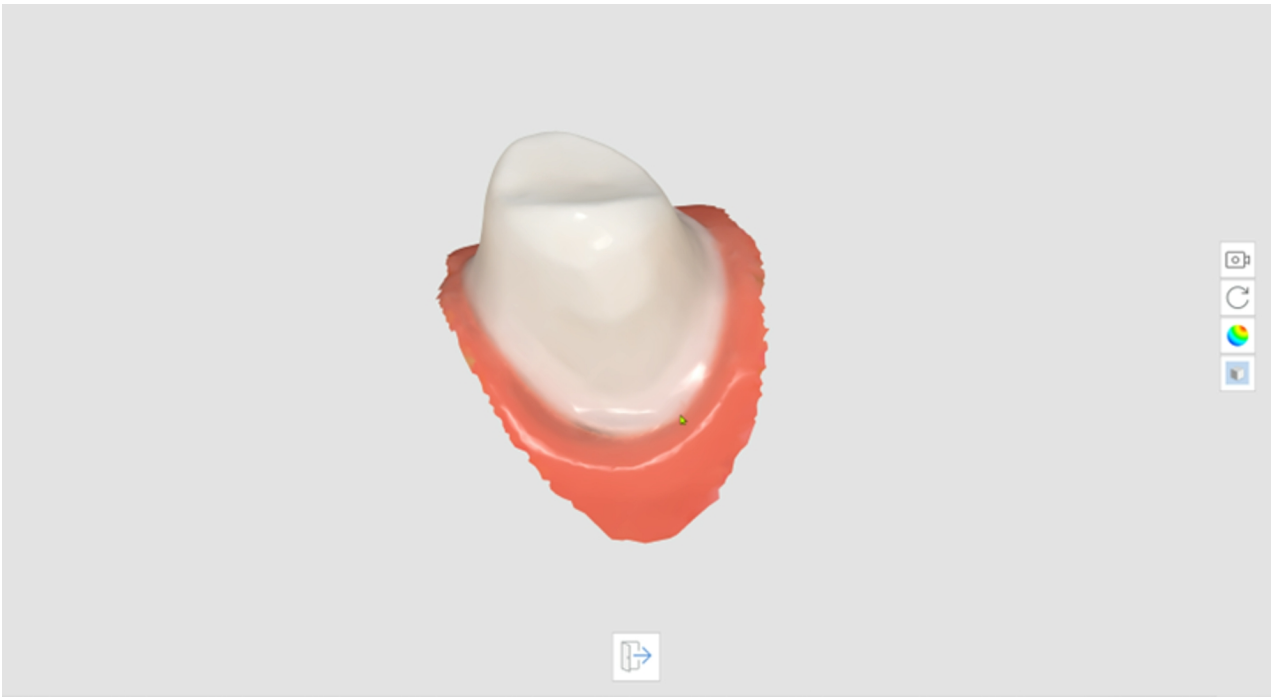
2. 領域選択ツールでプレビューする領域を選択します。



3. 「次のステップへ」をクリックし、結果を表示します。



4. 結果をプレビューします。

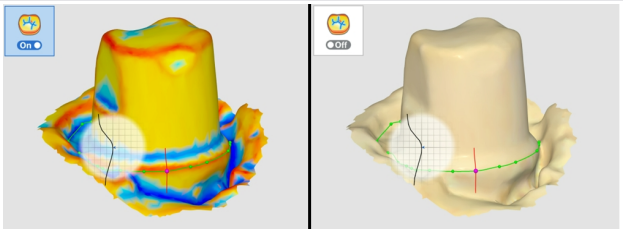
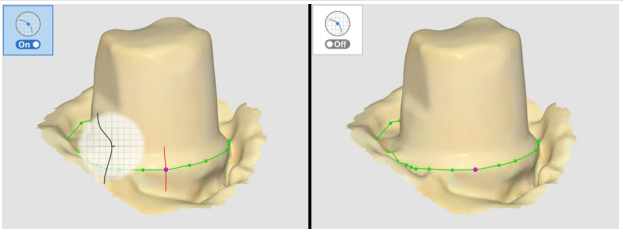


5. 下の「終了」をクリックして、前のステップに戻ります。

# マージンライン

以下のツールはマージンライン機能で提供されます。

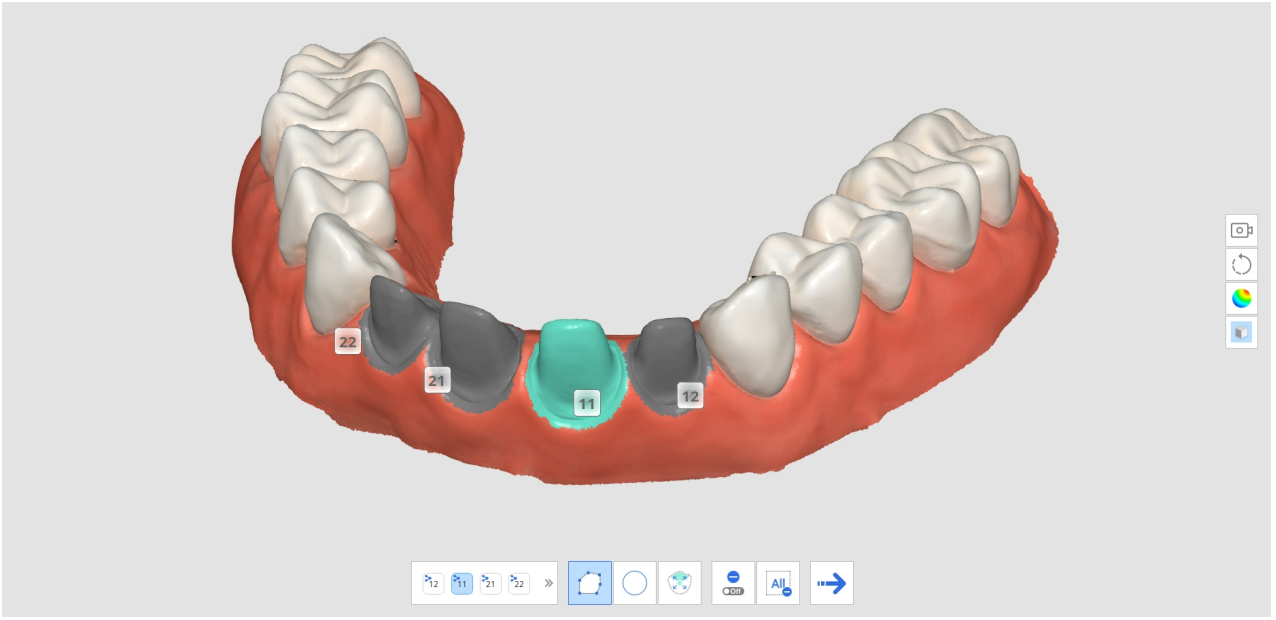
| | | |
|---|---|---|
|  | 自動作成 | ユーザーが選択した点に基づいて、マージンラインを自動的に作成します。<br>複数の点を選択することで、閉じたマージンラインが作成されます。 |
|  | 動的表示の変更 | このオプションをオンにして、表示方向に従ってデータを自動的に回転させます。 |
|  | 手動作成 | ユーザーが選択した点に沿って手動でマージンラインを作成します。<br>コントロールポイントを手動で追加して閉じたカーブを完成させたら、マージンラインが作成されます。 |
|  | 編集 | マージンラインの編集が有効になります。ユーザーは、マージンラインのコントロール用の点を追加、移動、削除できます。 |
|  | 削除 | マージンラインを削除します。 |
|  | 曲率表示モード | データの表面曲率を測定し、カラーマップに異なる色でデータを表示します。 |
|  | 区画表示 | マウスが配置されている領域の横断面を表示します。 |

| 曲率表示モード | 区画表示 |
| --- | --- |
|  |  |
| 色が赤っぽい場合、もっと浮き上がり、色が青っぽい場合は、もっと凹んでいます。色表示スライダーを使用して、色の範囲を調整できます。 | 近くにズームインした際にどの領域も隠されることがないようにし、拡大されたマージンをもっと注意深く確認できます。 |

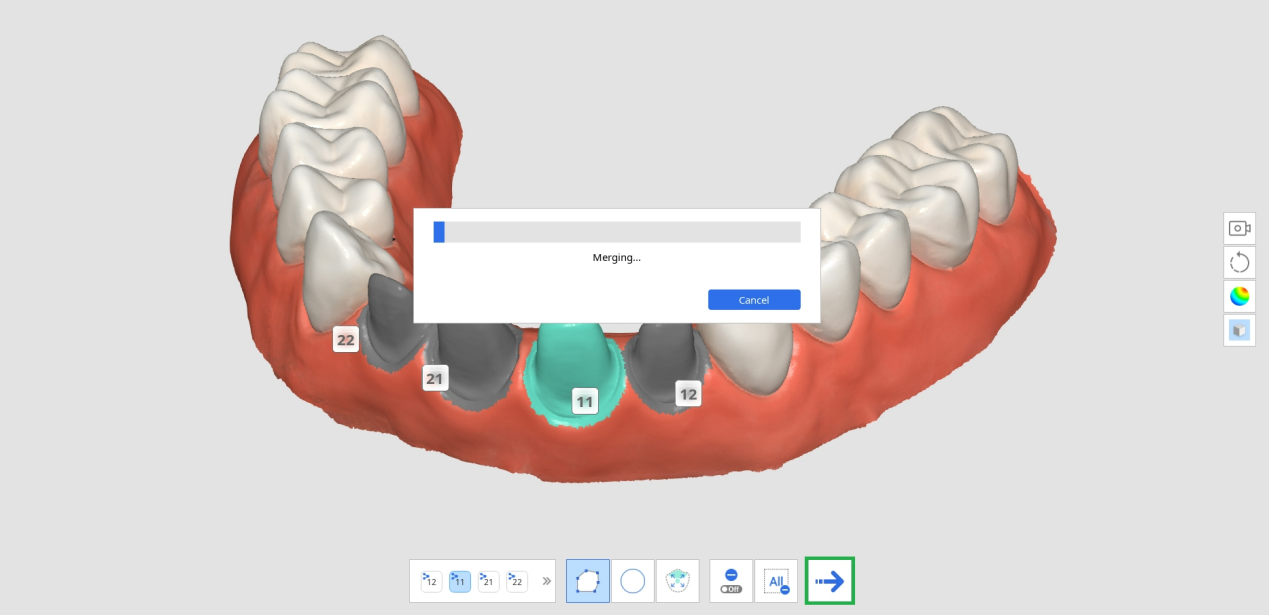
1. メインツールバーから「マージンライン」ツールアイコンをクリックします。



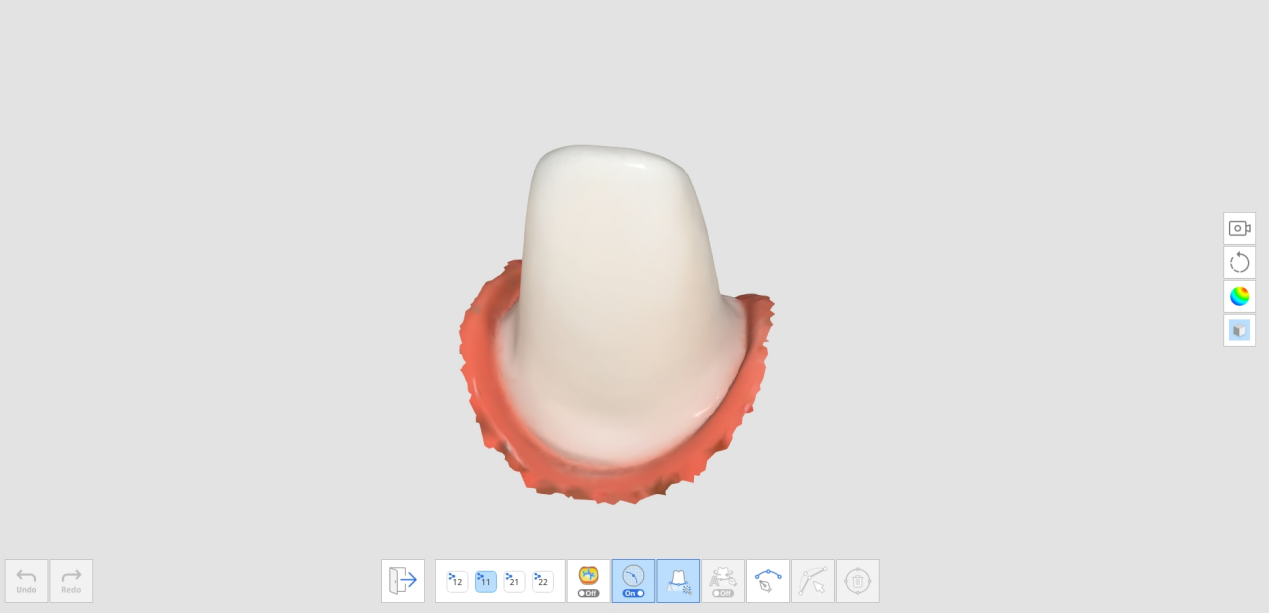
2. 上顎または下顎の工程を選択します。
3. 歯番を選択します。
4. 領域選択ツールを使用して選択済み歯番の領域を選択し、「次のステップへ」アイコンをクリックします。



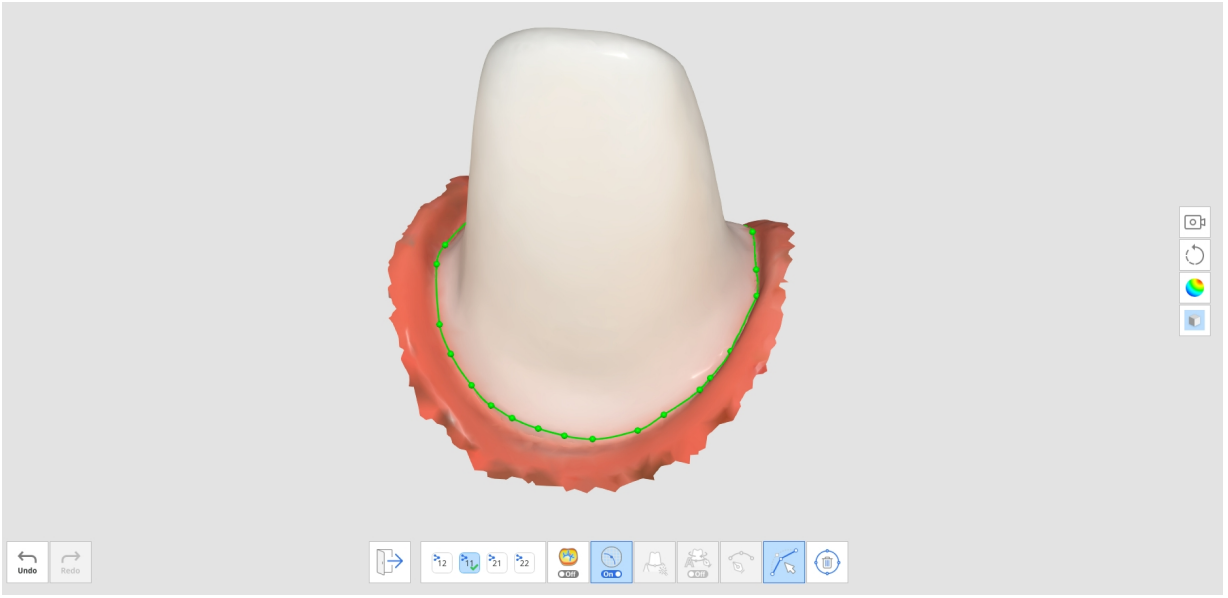

5. 「次のステップへ」アイコンをクリックします。



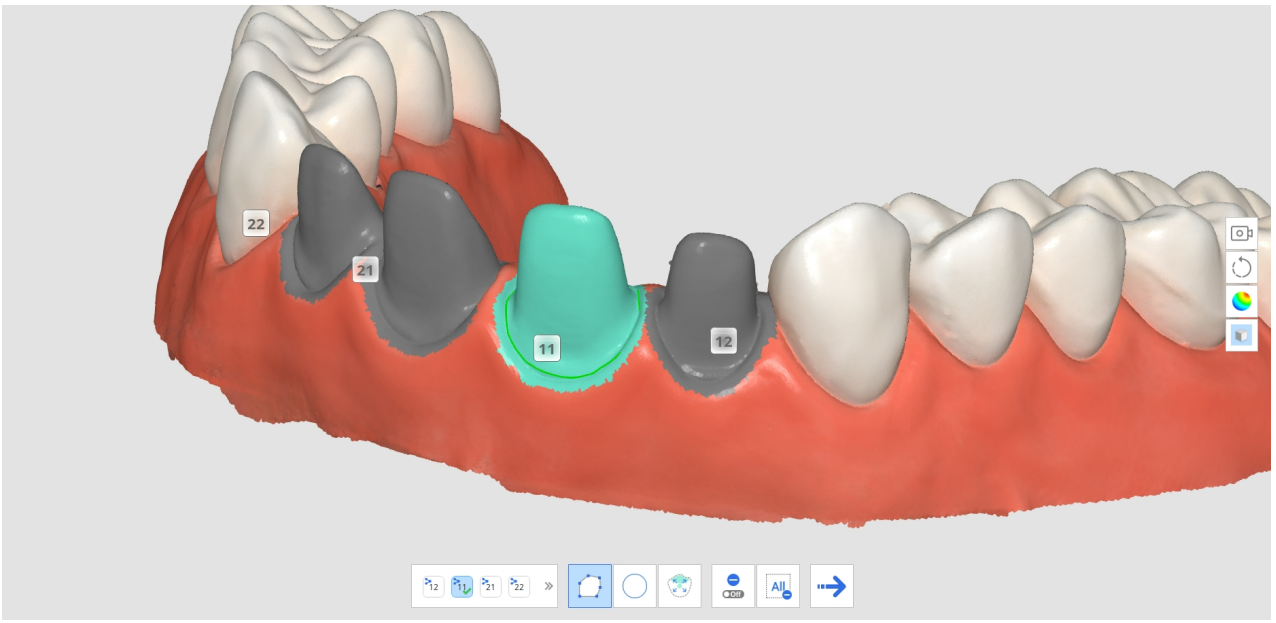

6. システムは、選択済み領域で一時的な結果を生成します。この結果データを使用してマージンラインを作成できます。



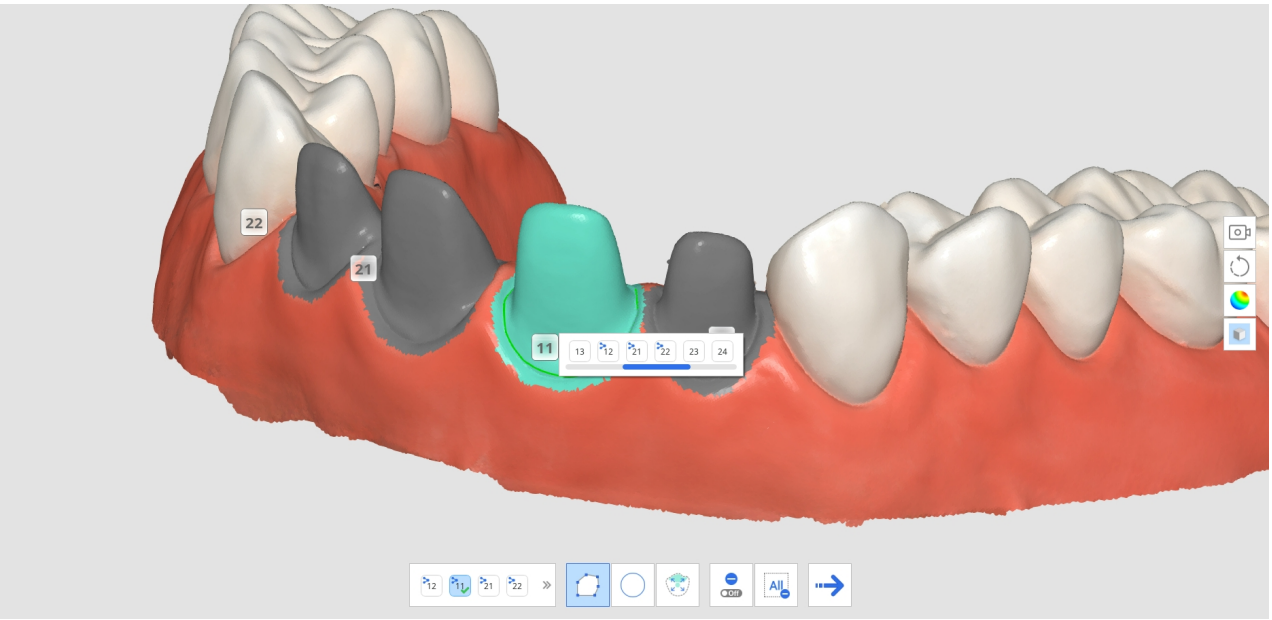
7. 「自動作成」または「手動作成」アイコンをクリックし、マージンラインを描きます。
   a. 自動作成：「自動作成」アイコンをクリックし、点を選択します。次にマージンラインは、選択済みのコントロール用の点に基づき自動作成されます。
   b. 手動作成：「手動作成」アイコンをクリックし、次の点に繋げるために左マウスボタンを使用してマージンラインに沿って点をマークします。区画表示の点の位置を調整するためにマウスを押したまま動かします。



8. 「編集」アイコンをクリックして、調整できます。
   - コントロール用の点を追加：マージンラインを左クリック
   - コントロール用の点を削除：コントロール用の点を右クリック
   - 3D模型のコントロール用の点を移動：コントロール用の点を左クリックしドラッグ
   - セクションのコントロール用の点を移動：コントロール用の点を左クリックし、1秒押さえ、ドラッグ
9. 「終了」をクリックすると、歯番付きのマージンラインが表示されます。



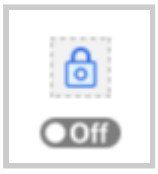
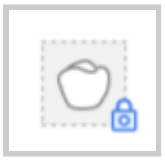
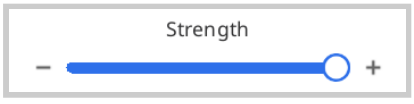

10. 3D模型ビューの歯番をクリックし、ポップアップウィンドウから対象の番号を選択して、マージンラインの歯番を変更できます。

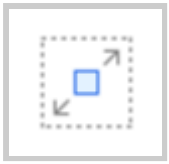
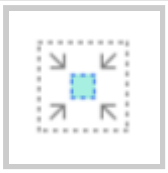
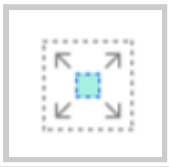
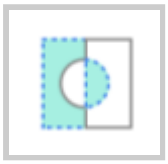



11. 手順3～9を繰り返し、他の歯のマージンラインを描きます。

# スマートデータクリーニング

以下のツールはスマートデータクリーニング機能で提供されます。

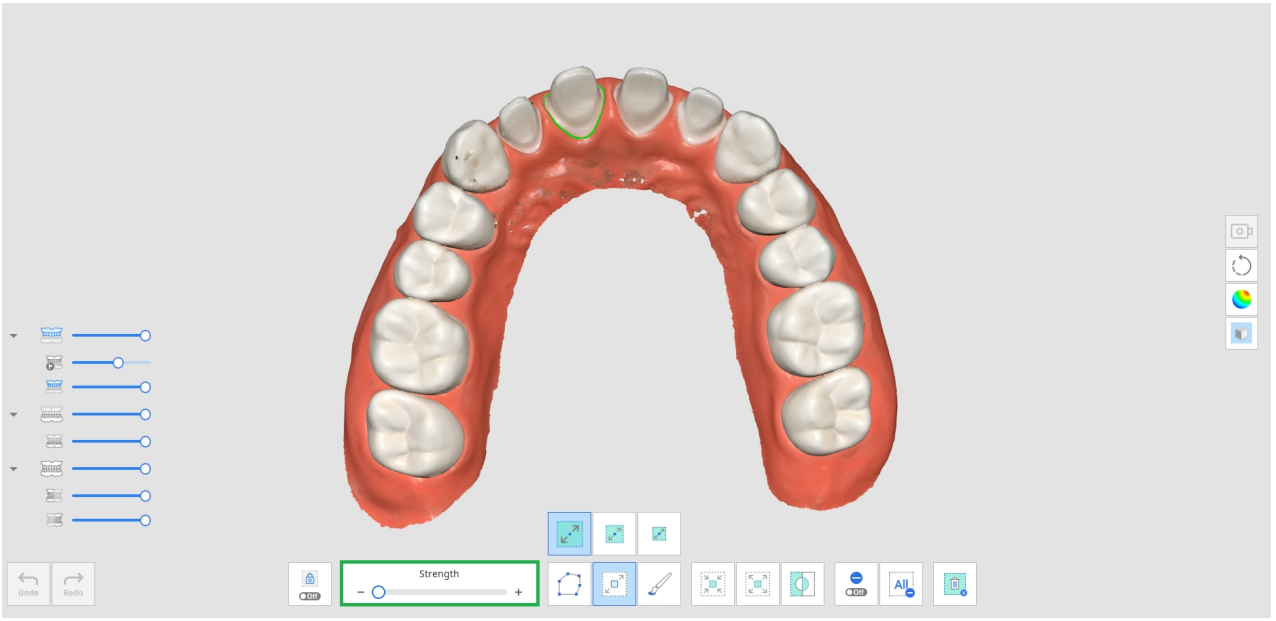
| | | |
|---|---|---|
|  | 領域の編集を保護 | ユーザーは編集を避けたい領域を選択できます。<br>• オンの場合、選択済み領域は削除を避けられます。<br>• オフの場合、選択済み領域は削除の対象となります。 |
|  | 歯の領域を選択 | スキャンデータの歯の領域のみを選択します。<br>* このオプションは、領域の編集を保護オプションがオンの場合のみ有効です。 |
|  | 強度 | スライダーバーを使用してデータを選択します。信頼性マップを使用して軟組織を簡単に選択し、削除できます。<br>• 強度を上げると選択済み領域が広がります。<br>• スライダーバーを調整して、リアルタイムで選択済み領域を変更します。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 塗りつぶし選択 | つながった領域のすべてのデータを選択します。 |
|  | 選択領域の縮小 | ユーザーがボタンを押すたびに選択済み領域が縮小されます。 |
|  | 選択した領域を開く | ユーザーがボタンを押すたびに選択済み領域が拡大されます。 |
|  | 選択した領域を反転 | 選択領域を反転します。<br>選択済み領域は選択解除され、前に選択されていなかった領域が選択されます。 |
|  | 選択された領域を削除 | 選択済み領域のデータを削除します。 |

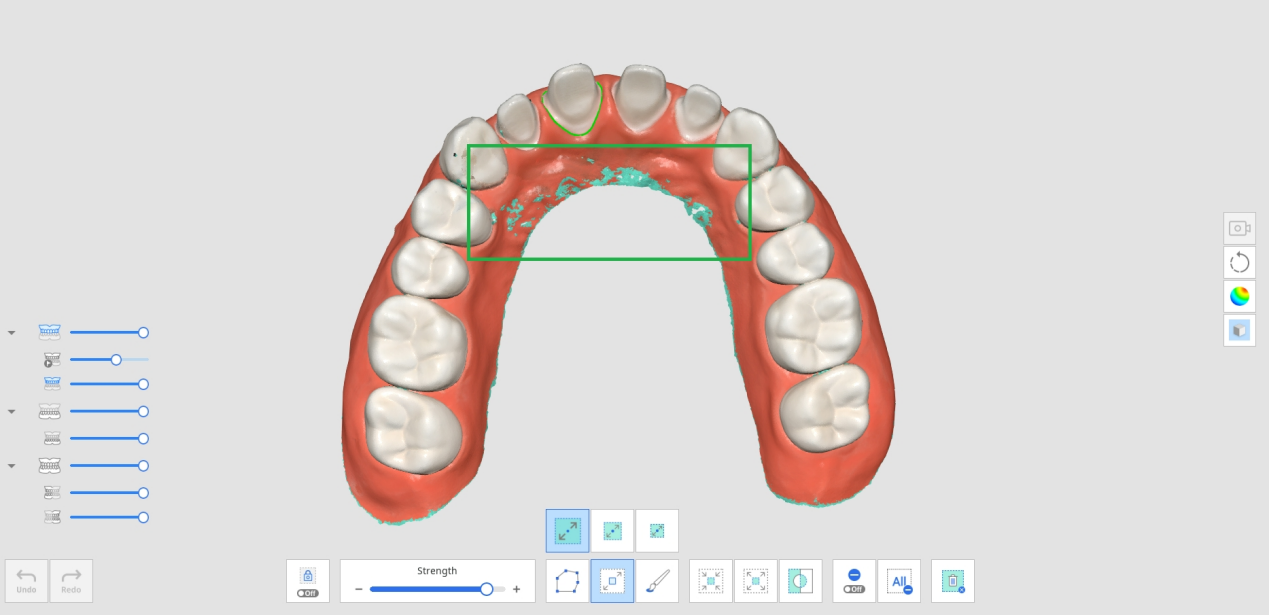
1. メインツールバーから「スマートデータクリーニング」ツールアイコンをクリックします。



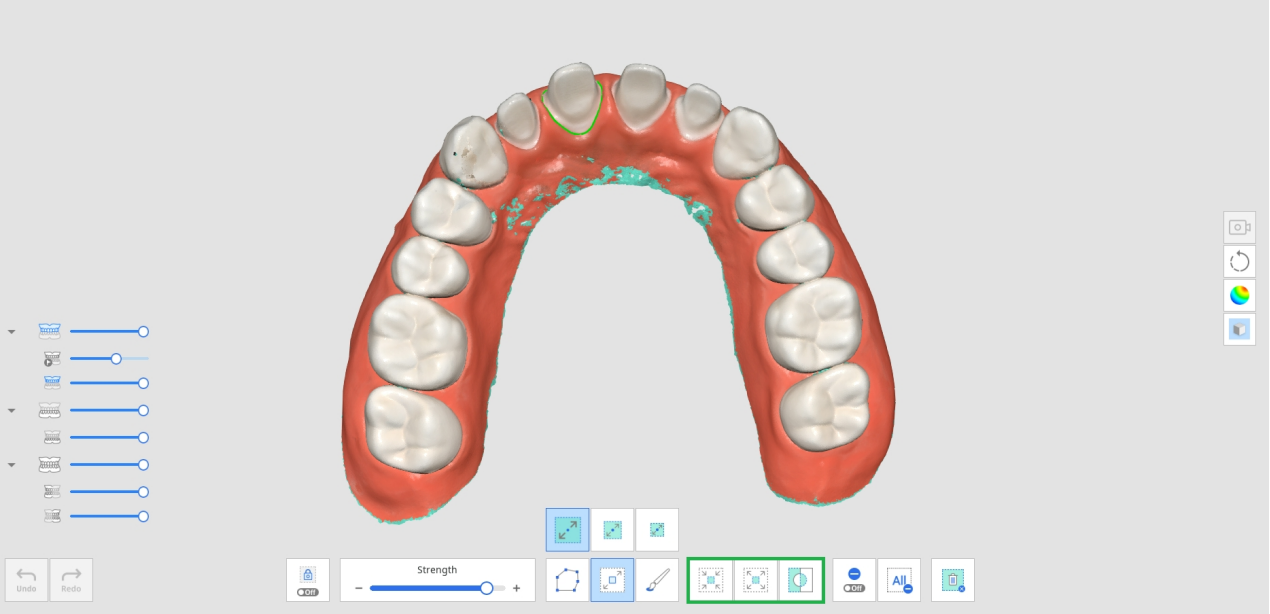
2. 「強度」スライダーバーを調整し、削除するために信頼度の低いデータ量を選択します。システムは、信頼性マップに基づきデータを選択し、スライダーバーを調整中にリアルタイムで表示します。



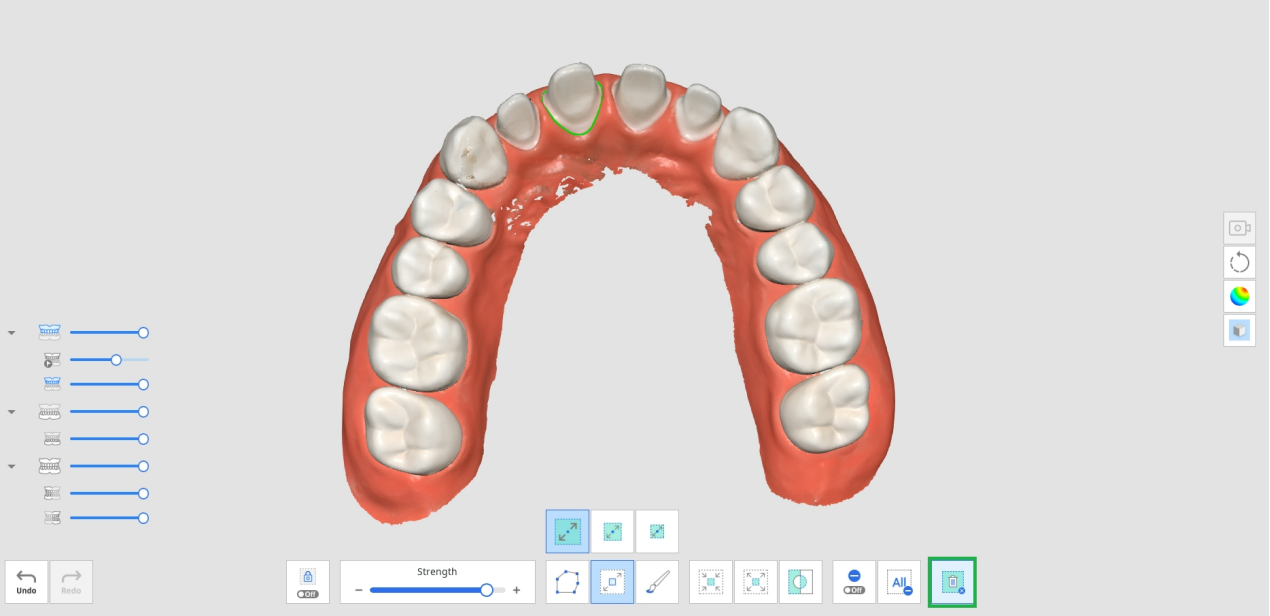

3. 強度を上げると選択済み領域が広がります。




4. さまざまな選択ツールを使用して削除する領域を選択します。




5. 「選択した領域を削除」アイコンをクリックし、すべての選択済み領域を削除します。



# スキャン再生

Medit Scan for Clinicsでデータをスキャン後にスキャンプロセスを再生できます。この機能は、スキャン環境やユーザーの癖を確認するのに役立ちます。

以下のツールはスキャン再生機能で提供されます。

| | | |
|---|---|---|
|  | スキャナーチップ | 再生中にスキャナーチップを表示または非表示にします。 |
|  | スキャン領域 | 再生中にスキャン領域を表示または非表示にします。 |
|  | チップ方向を逆にする | 再生中にチップの方向を変更します。<br>* i500、i900では利用不可 |

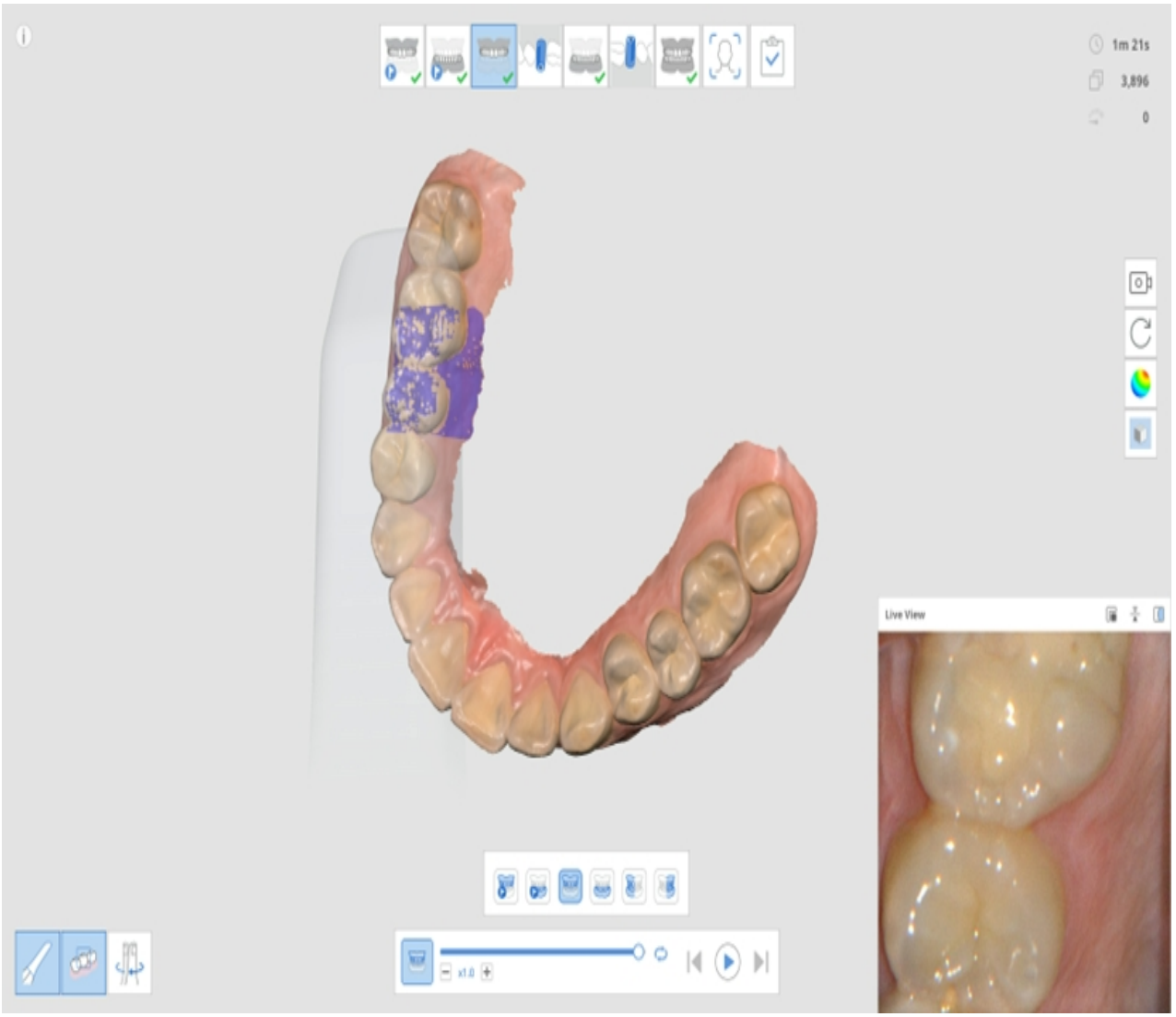
1. メインツールバーから「スキャン再生」ツールアイコンをクリックします。



2. 画面に下左隅にあるスキャン再生オプションを選択します。選択により、スキャナーチップやスキャン領域が動画に表示されます。



3. 「再生」ボタンをクリックし、再生を開始します。




4. 選択済み工程は連続的に再生されます。



5. 動画をコントロールするために提供されているさまざまなツールを使用できます。

| | | |
|---|---|---|
|  | スライダーバー | 関心のある動画を開始します。 |
|  | 動画速度 | 速度（0.5倍速、1倍速、3倍速）を変更します。 |
|  | 繰り返す | 繰り返して再生します。 |
|  | 前のスキャン再生 | 前の工程のスキャンを再生します。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 再生 | スキャンの再生を開始します。 |
|  | 停止 | スキャン再生を停止します。 |
|  | 次のスキャン再生 | 次の工程のスキャンを再生します。 |

## HD カメラ

1. HD カメラ機能は、スキャナーを使用して高解像度画像を撮影します。
2. メインツールバーから「HD カメラ」ツールアイコンを選択します。



3. HD カメラダイアログが表示されます。
4. 関心のある領域にスキャナーチップを配置します。
5. ハンドピースのスキャンボタンを押し、撮影します。




6. 画像をクリックし、新しい名前を入力して、画像の名前を変更できます。
7. ダイアログの下部で提供されている以下のツールを使用して、画像を共有、エクスポート、削除できます。

| | |
|---|---|
|  | 選択済みファイルをローカルコンピュータにエクスポートします。 |

| | |
|---|---|
|  | 選択済み画像を共有または、画像の共有を中止します。 |
|  | 選択した画像を削除します。 |
|  | サムネイルの表示スタイルを変更します。 |

8. 変更を保存後、Medit Scan for Clinicsを終了すると、撮影された画像は、添付ファイルとしてMedit Linkに保存されます。

# アバットメント登録

技工所の卓上スキャナーで作成されたカスタムアバットメントファイルを受け取るか、アバットメントをスキャンし、「アバットメントライブラリマッチング」で適切な使用が難しい3Dデータを作成するために不要なケースを作成する必要さえありました。

アバットメント登録機能を使用すると、患者のケースに直接その患者のアバットメントをスキャンでき、ライブラリとして登録できます。患者の口にインプラントの治具を配置する前に、まずアバットメントをスキャンし、ライブラリとして登録します。次に「アバットメントライブラリマッチング」を使用し、スキャンデータをライブラリデータと交換します。

> 🔎**注意**
>
> 登録したアバットメントの詳細な使用法については、ケースおよびワークフローの例 > アバットメントライブラリマッチングを参照してください。

以下のツールはアバットメント登録機能で提供されます。

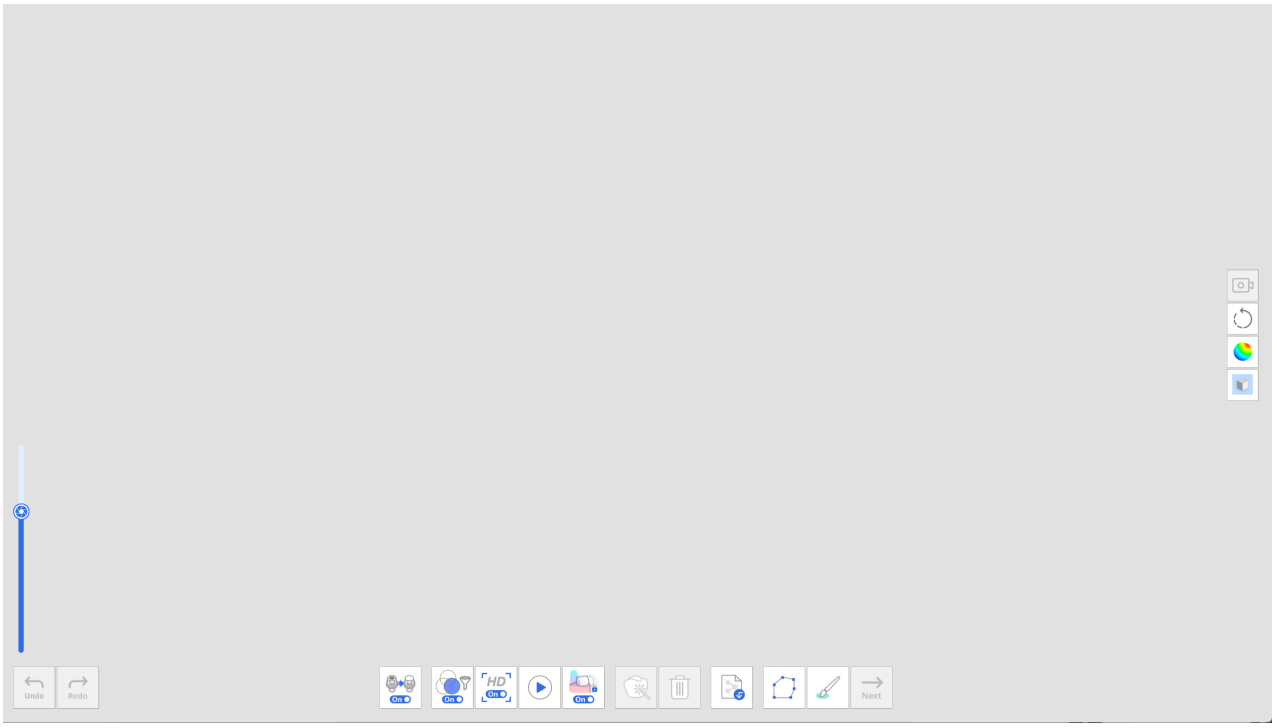
| | | |
|---|---|---|
|  | 追加 | アバットメントの追加。<br>スキャンまたはインポート経由で追加できます。 |
|  | アバットメントの穴の充填オン／オフ | オンとオフで切り替え、結合中にアバットメントの穴を充填します。 |
|  | アバットメントの結合 | スキャン済みまたはインポート済みのアバットメントを結合します。 |

| | | |
|---|---|---|
|  | 自分の視点から充填 | 自分が見ている方向からアバットメントの穴を充填します。 |
|  | アバットメントをリセット | アバットメントへのすべての変更を元に戻すためにリセットします。 |
|  | ライブラリに登録 | ライブラリに結合済みアバットメントを登録します。<br>ボックスにチェックを入れた場合、その特定のケースのみが使用されます。 |

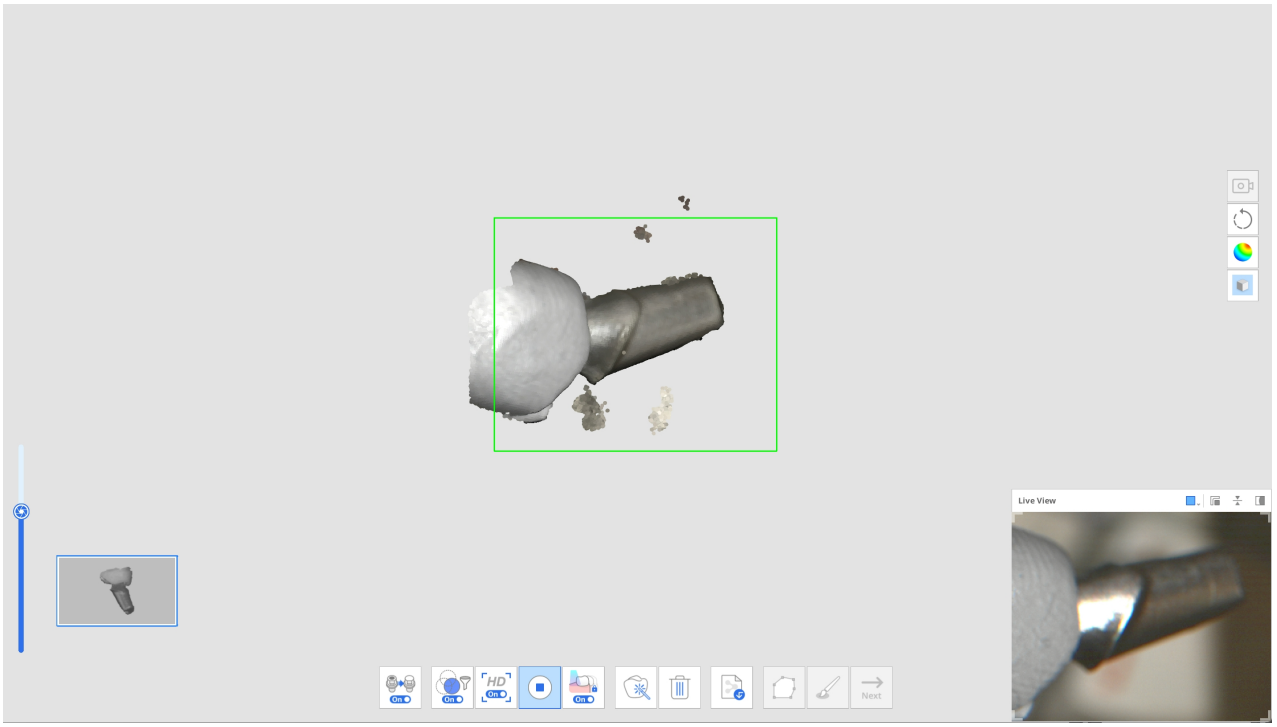
1. メインツールバーの「アバットメント登録」ツールアイコンをクリックします。



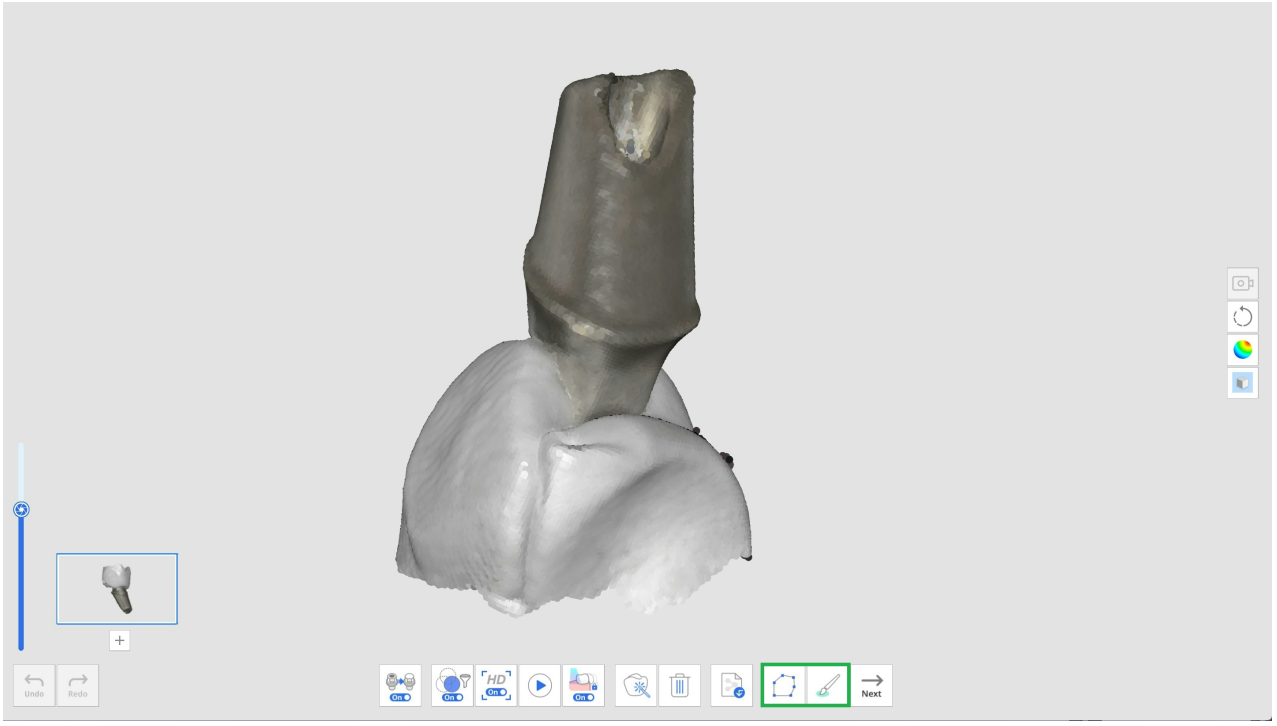
2. 上記で説明されているツールは画面下で確認できます。

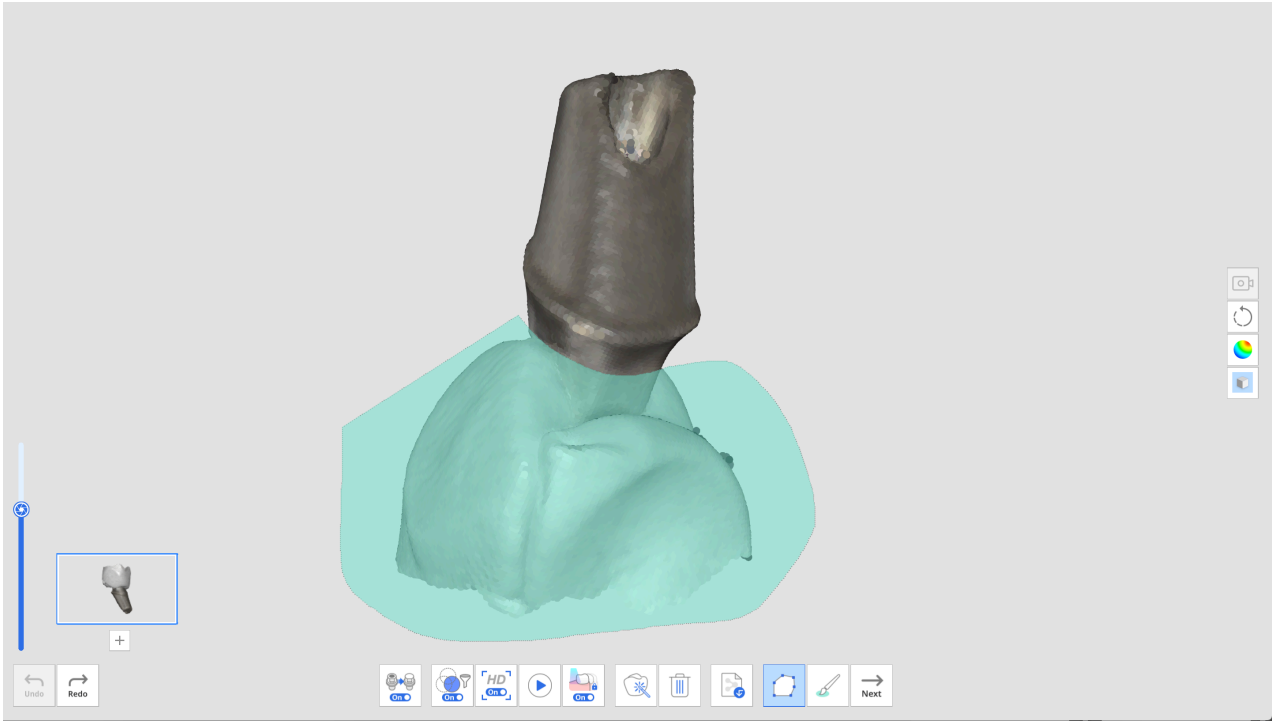


3. アバットメントのスキャン

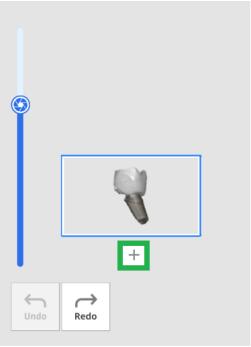



4. スキャンが停止したら、多角形トリミングとブラシトリミングツールでデータを編集できます。

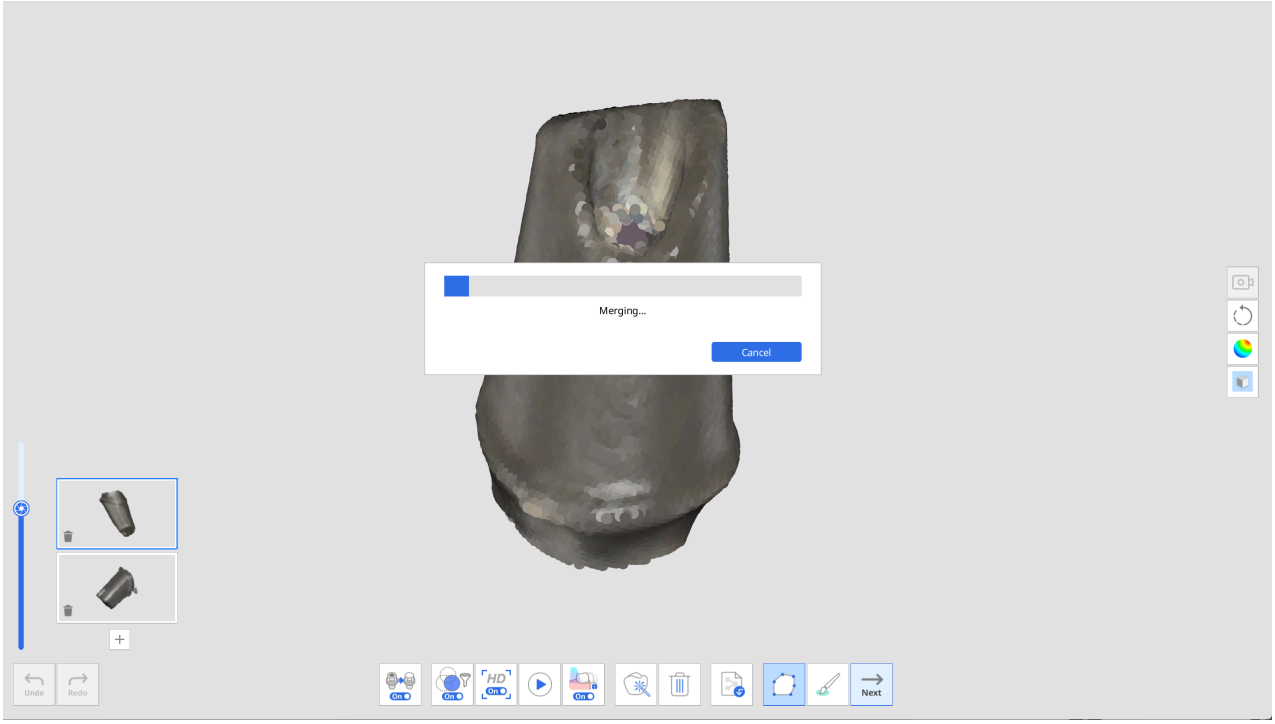





5. アバットメントサムネイルの下にある「＋」をクリックして、別のアバットメントをスキャンします。最大6個のアバットメントをスキャン・登録できます。



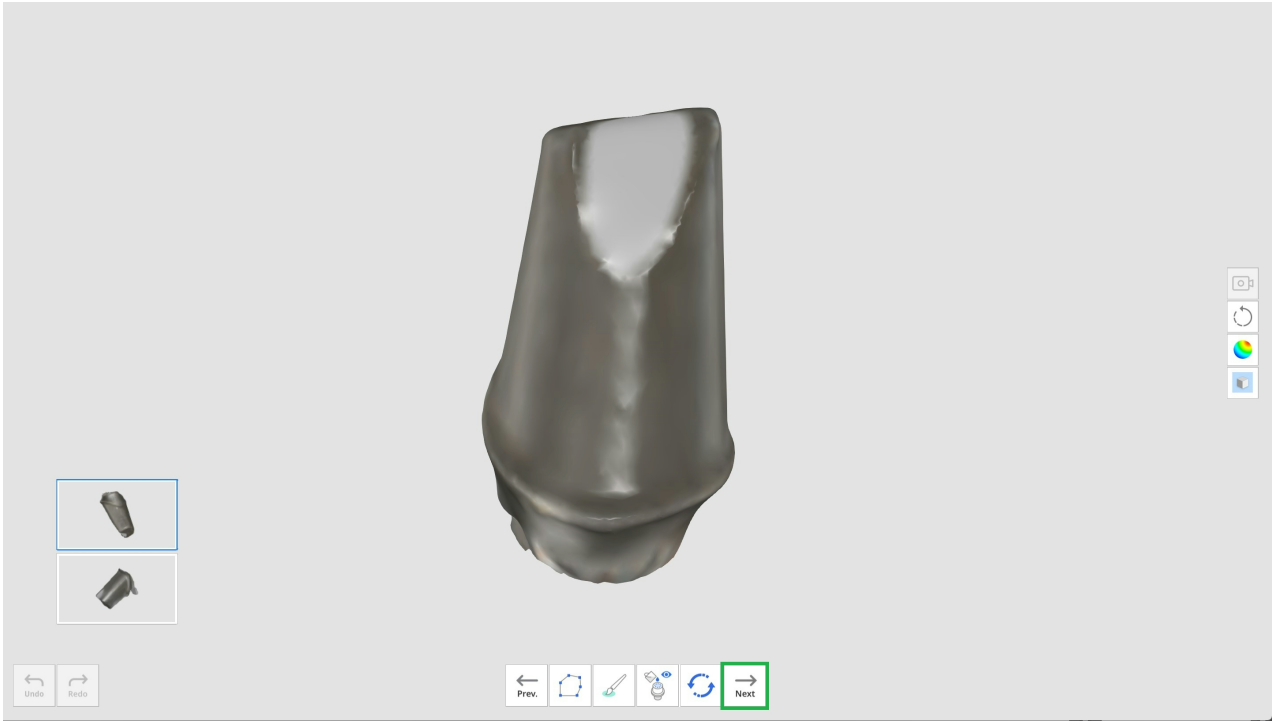

6. すべてのアバットメントをスキャン後、「アバットメントの結合」ボタンをクリックし、ライブラリ登録のためにアバットメントデータを結合します。



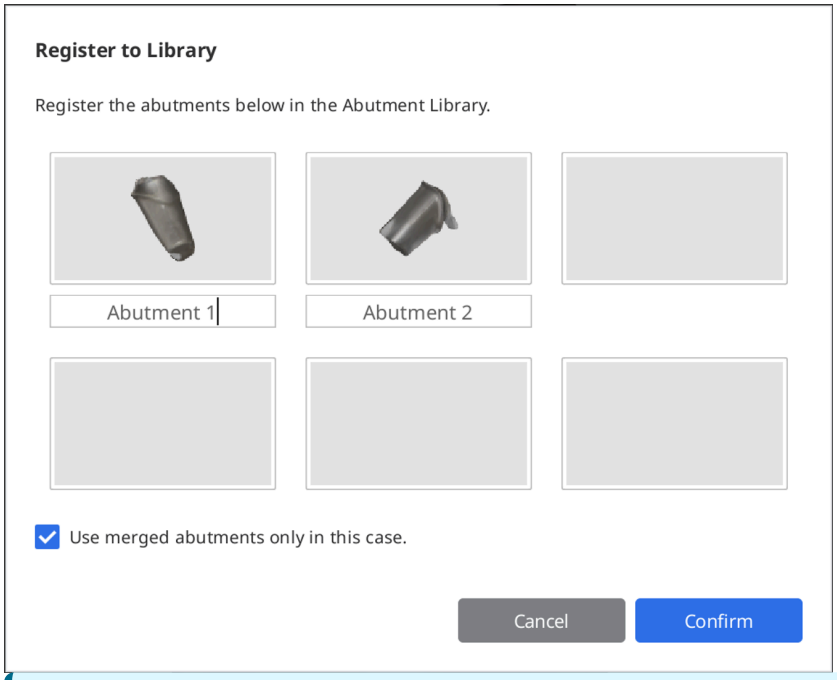
7. 結合が完了したら、アバットメントが画面上に表示されます。必要があれば、自動充填された穴を削除したり、多角形ツールとブラシトリミングツールを使用してアバットメントデータを編集できます。




8. 編集が完了したら「次へ」ボタンをクリックします。




9. 結合したそれぞれのアバットメントの名前を入力し、「確認」をクリックします。

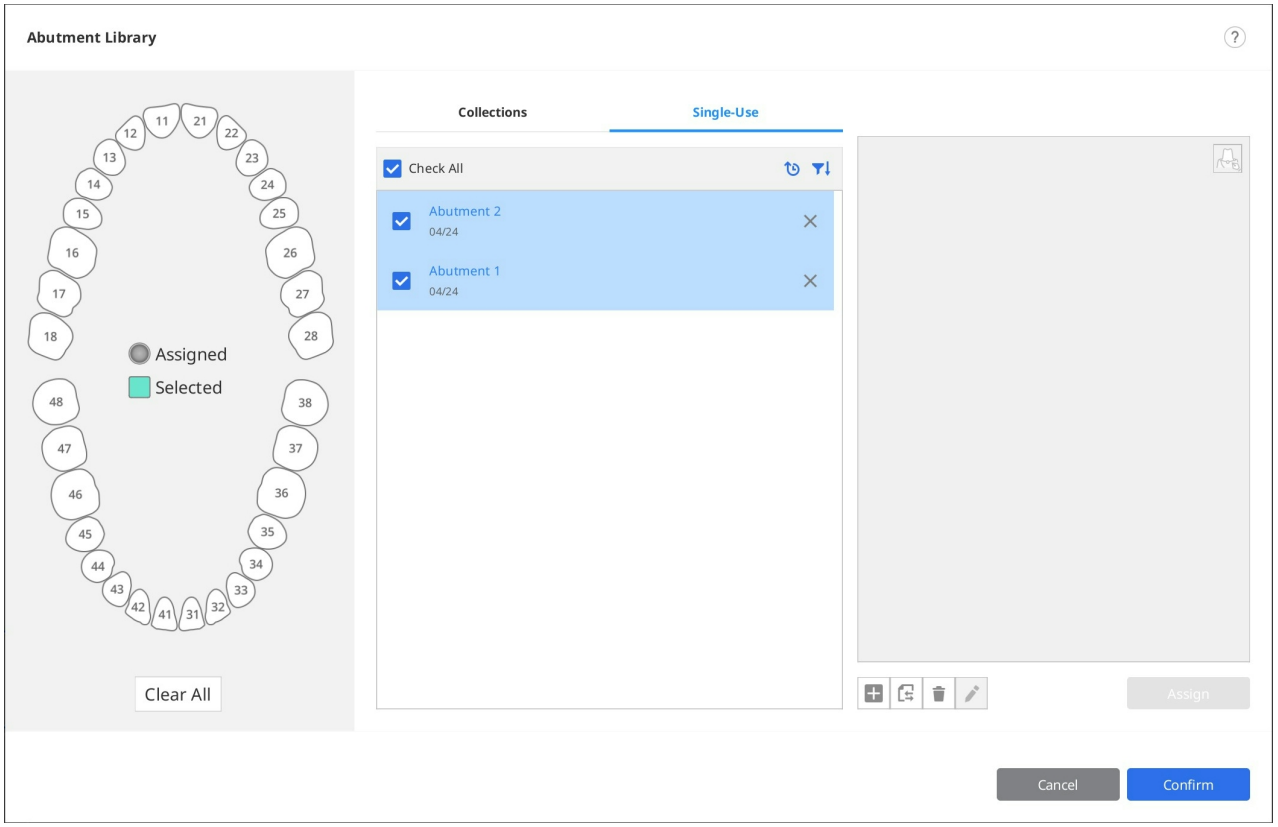



**🔎注意**

他のケースでアバットメントライブラリを維持して使用する場合には、「このケースでのみ結合アバットメントを使用」のチェックボックスのチェックを外します。

次に、アバットメントライブラリの画面上の使い捨てタブの代わりにコレクションタブでライブラリが登録されるので、必要に応じて他のケースでそれらを保存し使用できます。

10. アバットメントライブラリダイアログが表示されたら、アバットメントがライブラリに追加されたかどうか確認します。




11. 「確認」をクリックし、ダイアログを閉じます。

# スマートシェードガイド

> 🔎**注意**
>
> この機能は、i500とiEのスキャナーで取得したデータでは利用できません。

スマートシェードガイドは、データ分析を使用して最も近いシェードを推奨します。

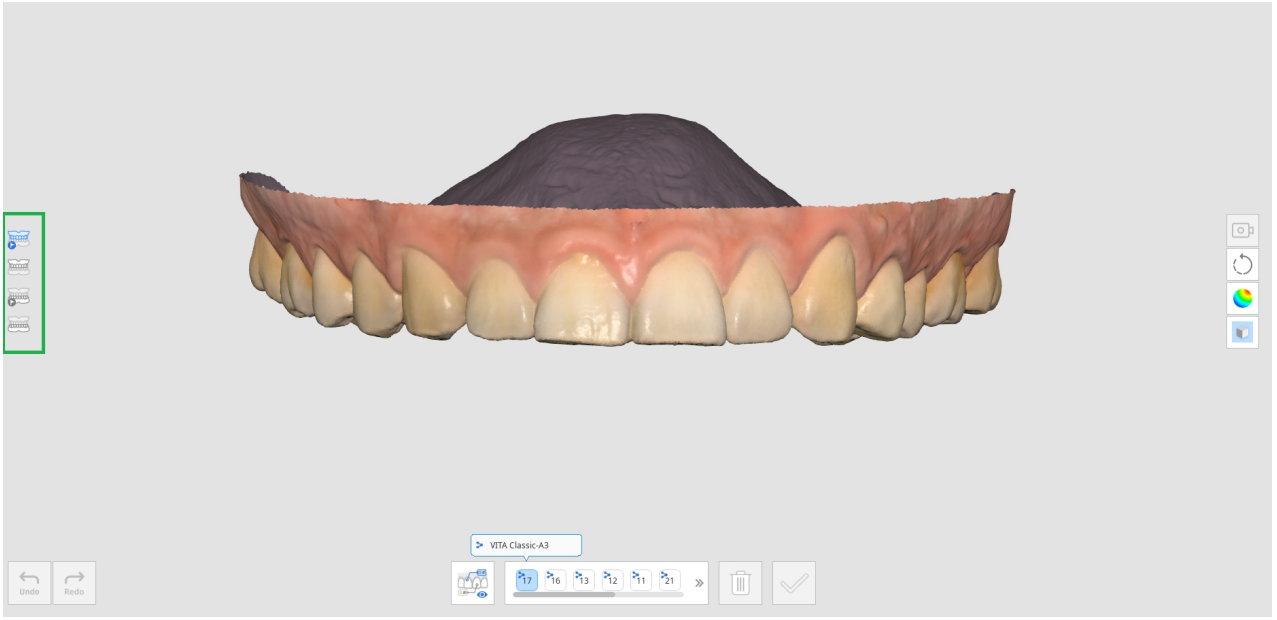
以下のシェードガイドをサポートしています。

- VITA Classical
- Vita 3D-Masterシェードガイド

1. スキャンデータ取得後、メインツールバーの「スマートシェードガイド」ツールアイコンをクリックします。

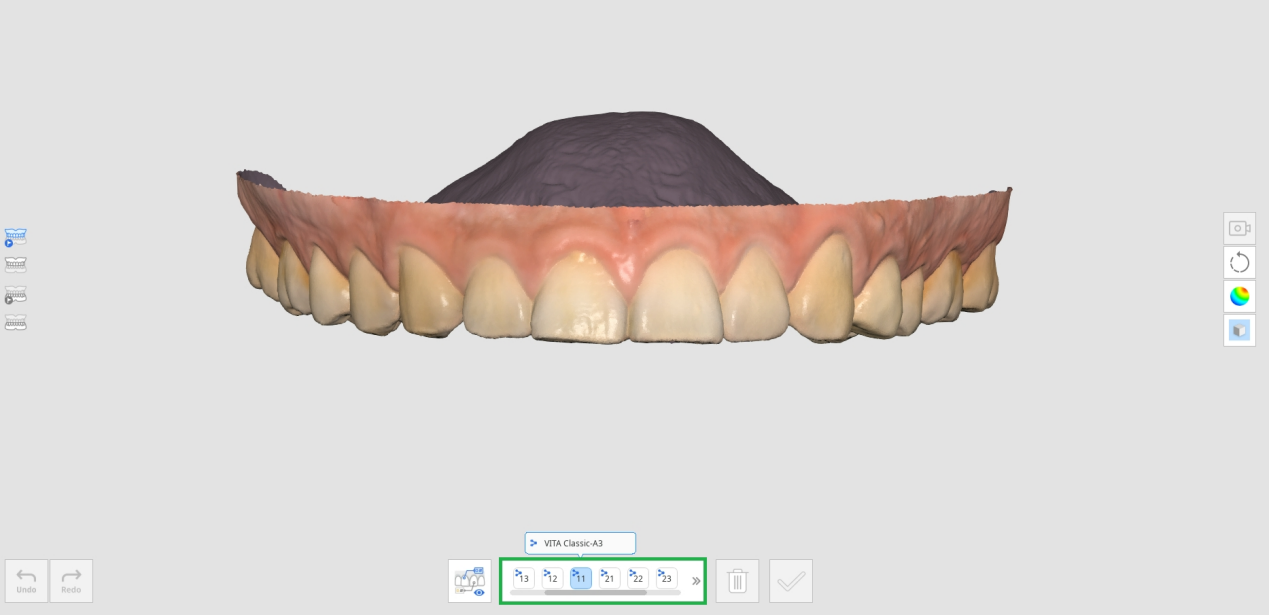


2. 画面左側のスキャン手順アイコンをクリックし、測定する領域を選択します。

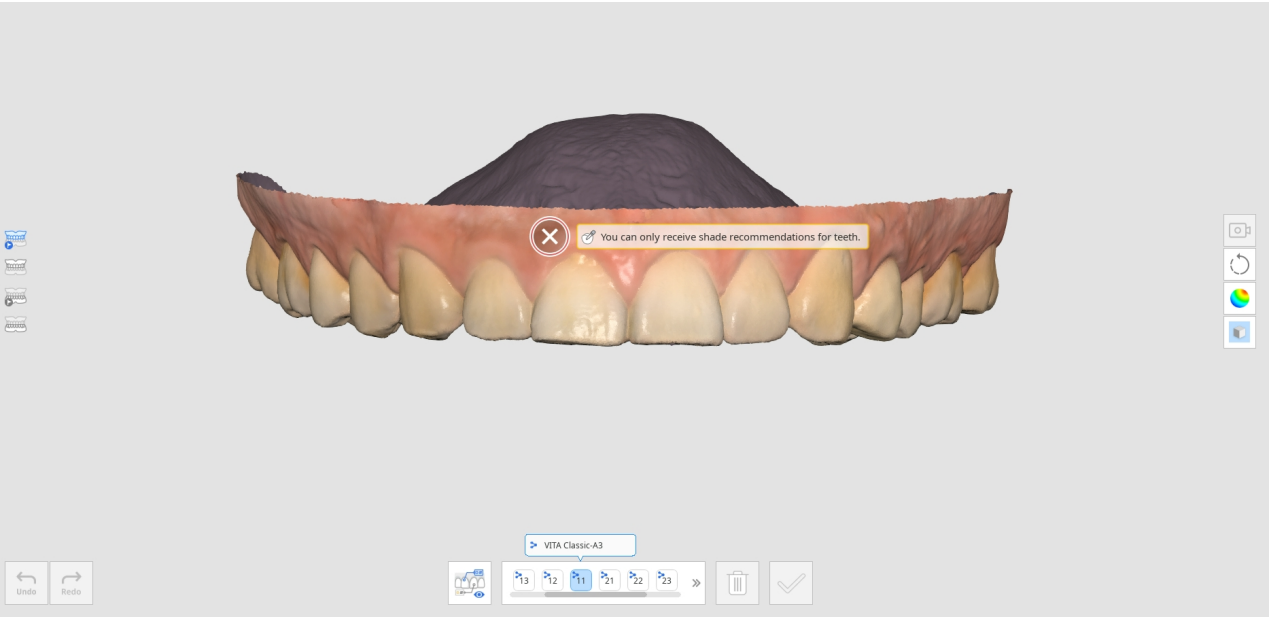



   - 施術前上顎
   - 施術前下顎
   - 上顎
   - 下顎
   - 上顎義歯
   - 下顎義歯

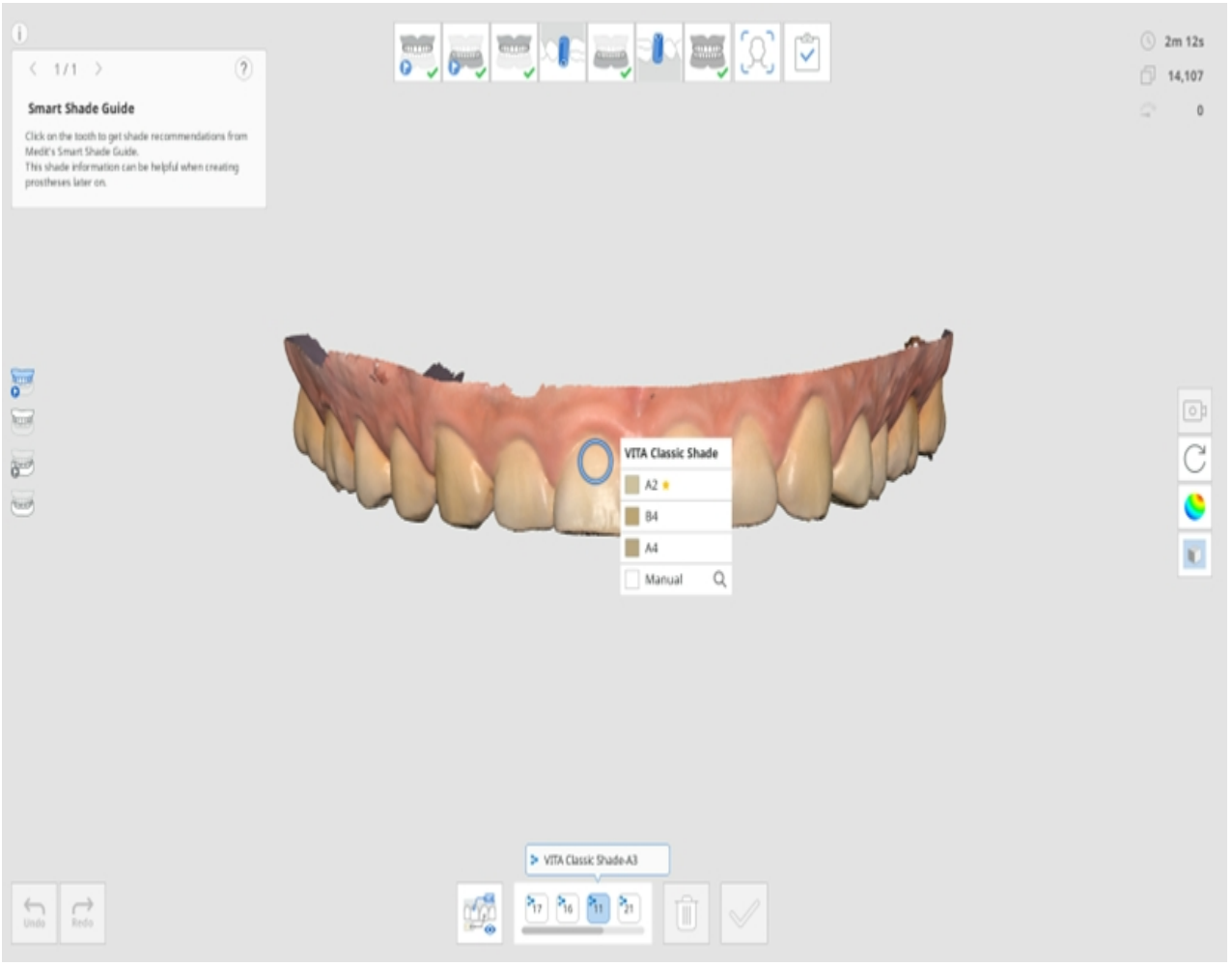
3. 下部にある歯番リストから歯番を選択します。歯番をクリックすると、Medit Linkに登録されているシェード情報が表示されます。



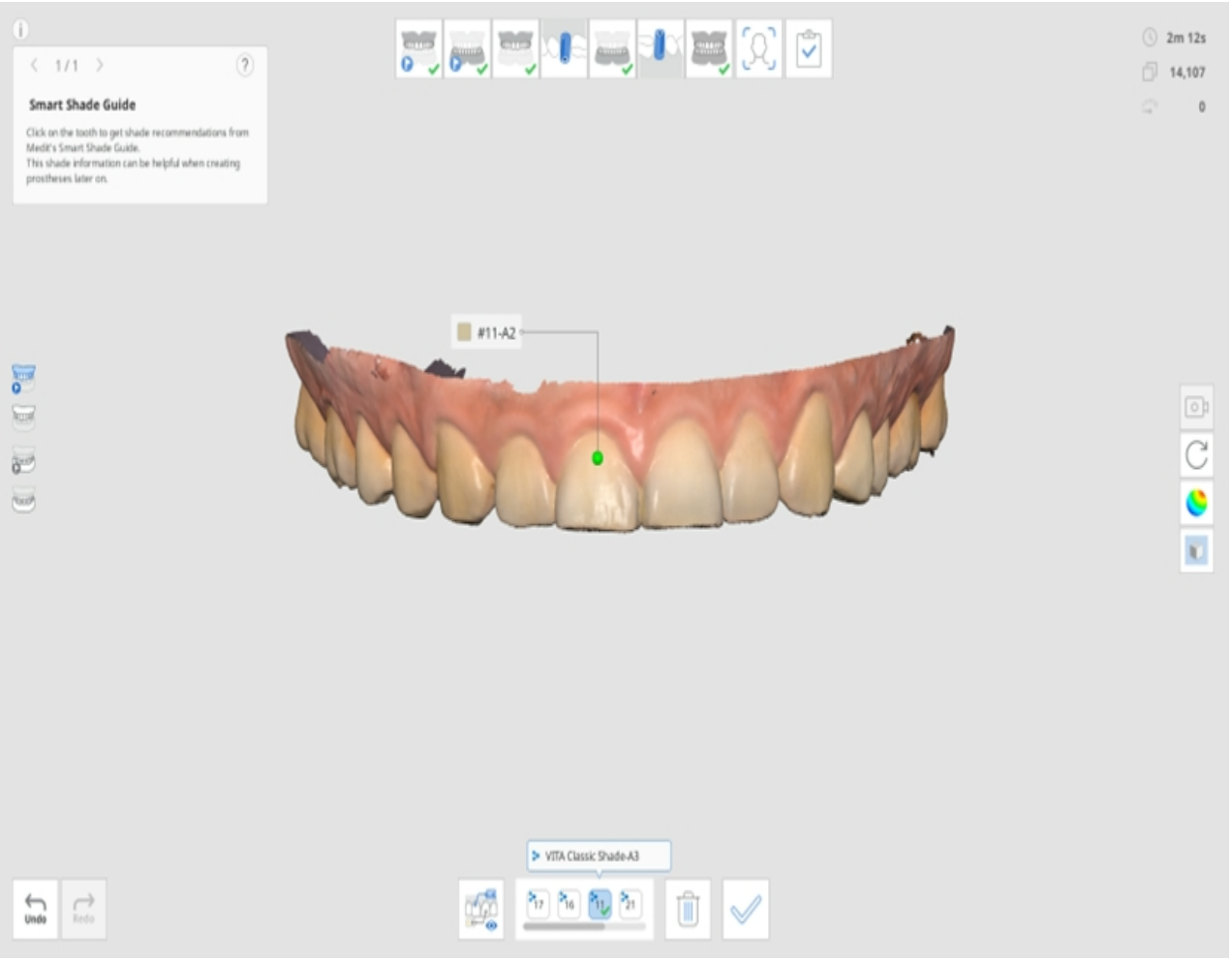

4. 歯についてのスキャンデータ上にマウスを動かすと、カーソルは推奨シェードの形に変更します。測定できない領域にマウスを動かすと、測定不能と表示されます。



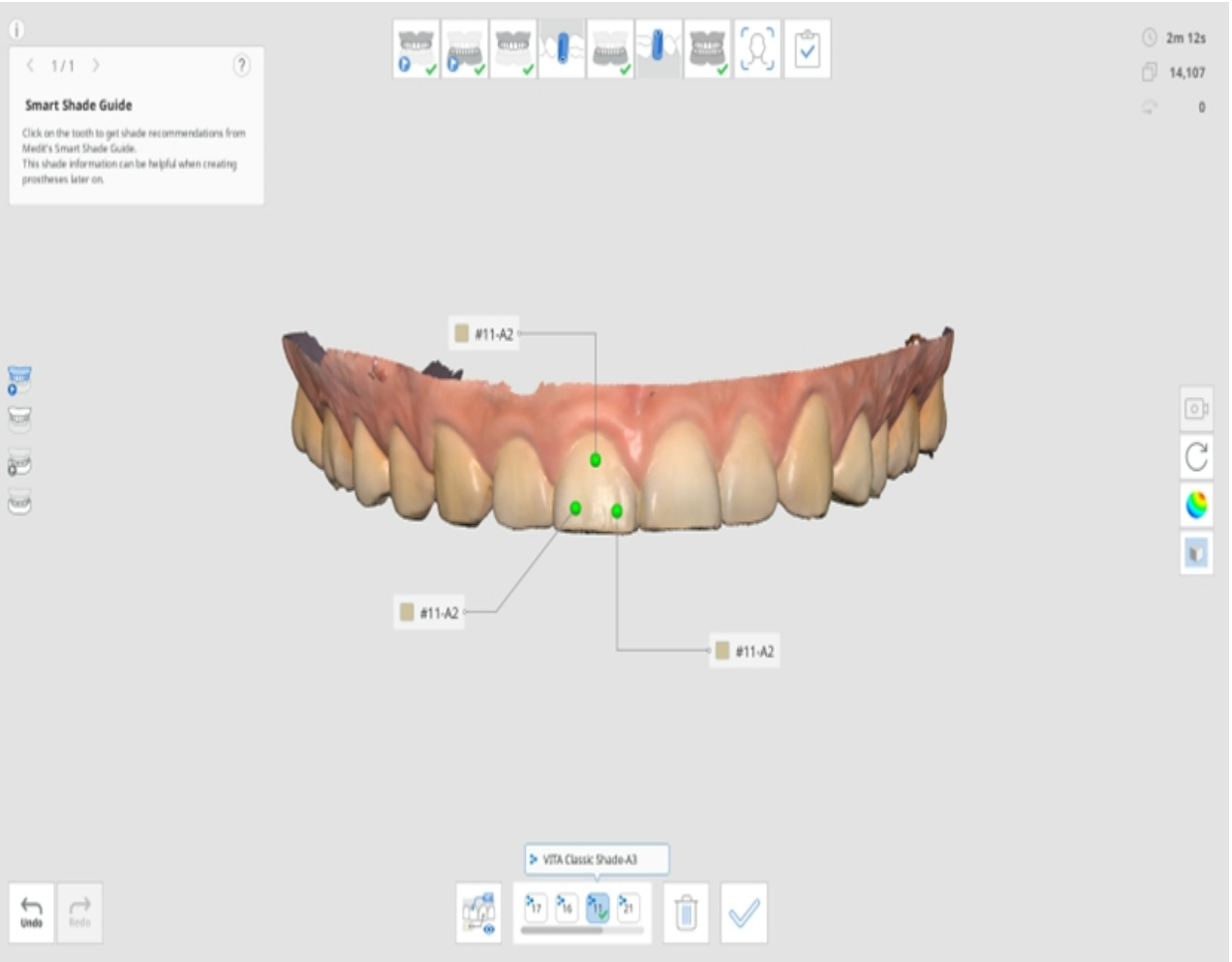

5. 歯の領域を左クリックすると、推奨シェードが表示されます。一番一致するシェードが星アイコンで表示されます。
6. 推奨シェード以外のシェードを指定する場合は、「手動」をクリックし、リストから希望するシェードを選択します。



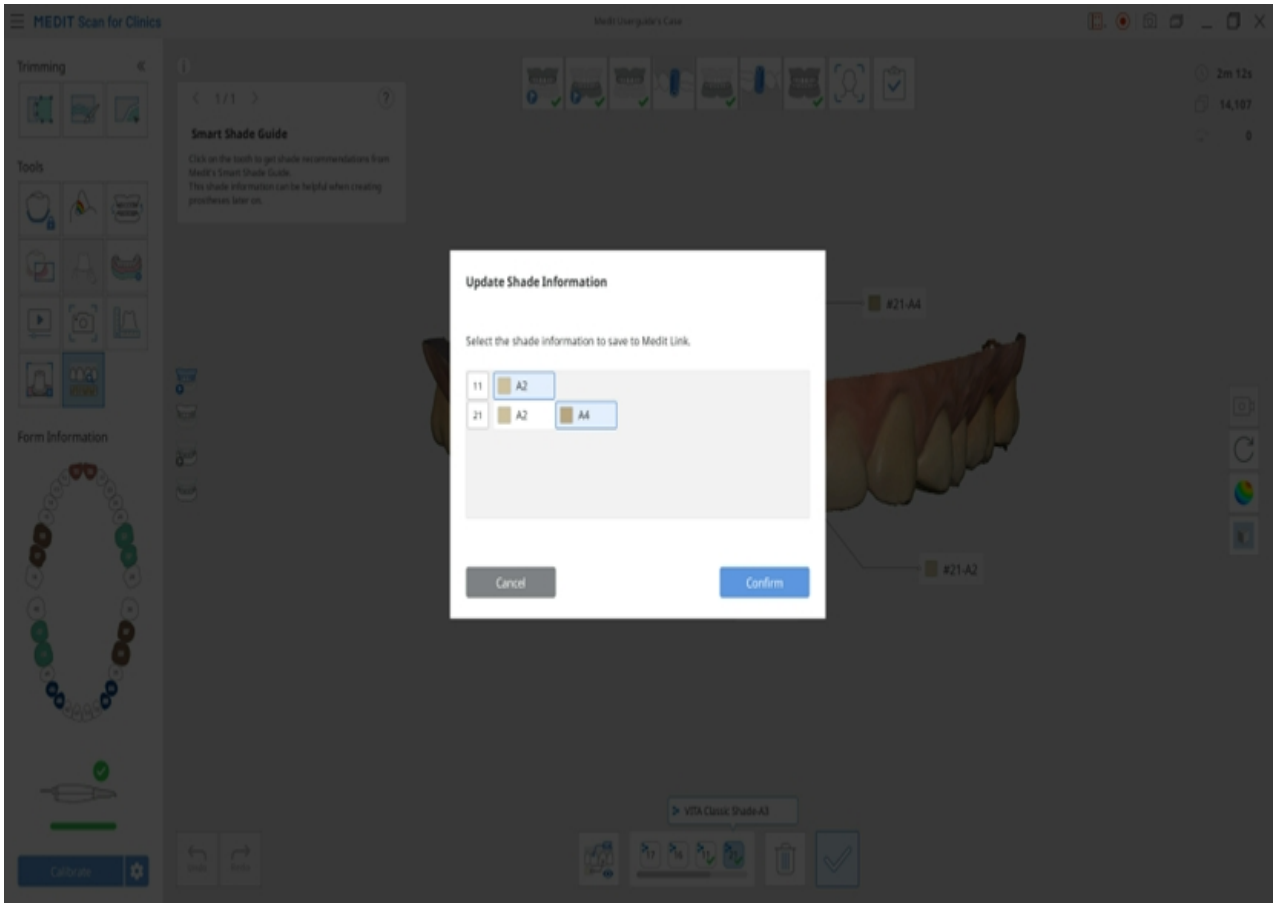

7. リストから希望するシェードをクリックします。



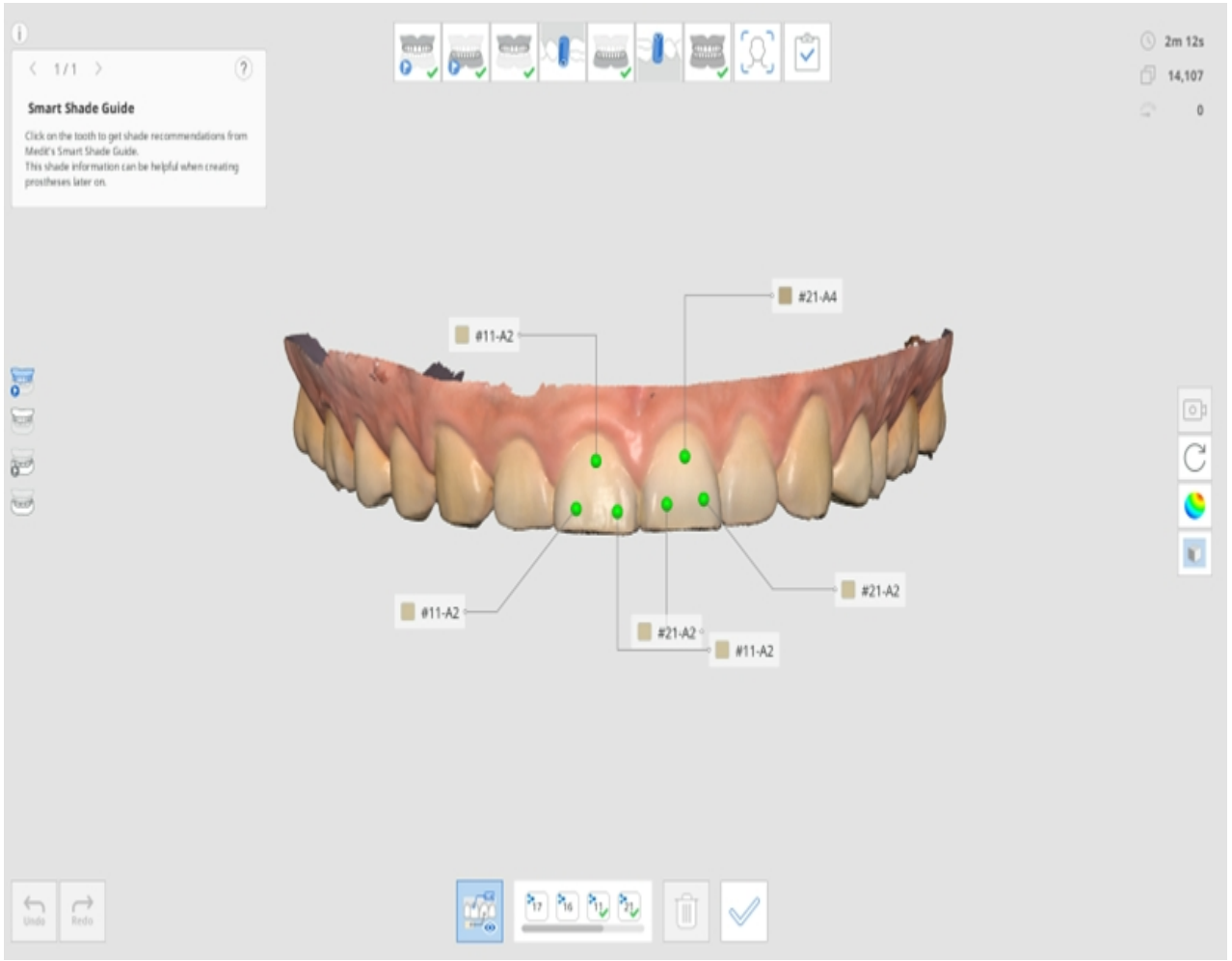

8. 歯ごとに最大5つのシェードを保存できます。



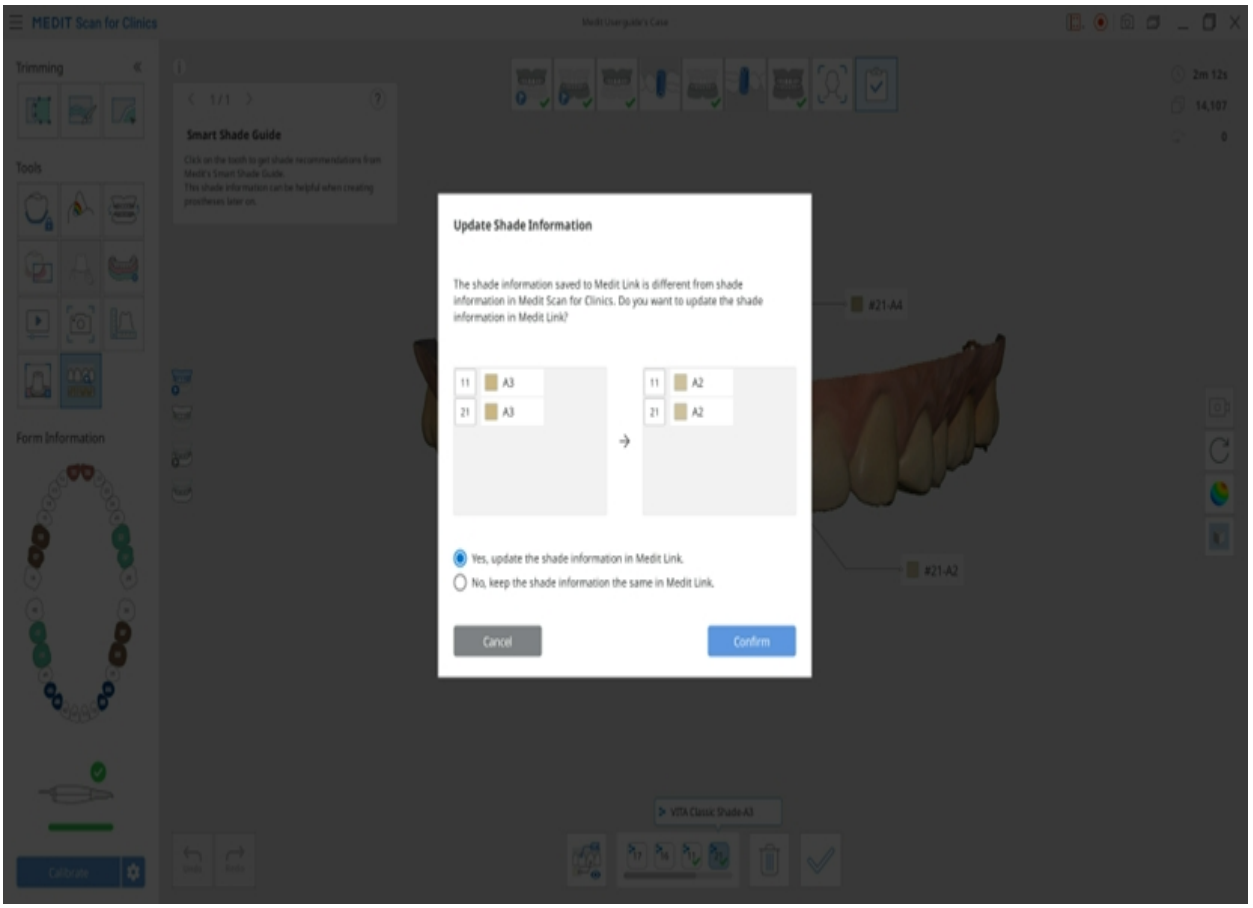

9. すべてのシェードを選択後、下部にある「シェードを確定」をクリックします。
10. 各歯用に選択したシェードは、シェード情報の更新ダイアログ上に表示されます。
11. Medit Linkに保存する見本のシェードを選択します。




12. 「すべて表示」をクリックし、すべてのシェード情報を表示します。

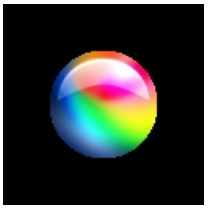


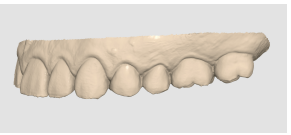
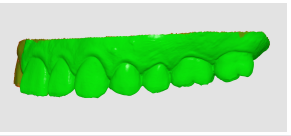
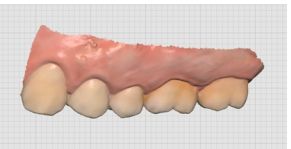
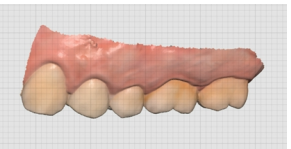
13. 完了時に、Medit Linkのフォーム情報の更新方法を選択します。



# サイドツールバーツール

> 🔎**注意**
> 設定>プログラム設定情報>インターフェースに移動し、「画面操作ボタン展開」オプションを有効にして、パン、拡大/縮小、ズームフィットアイコンを表示させます。

| | | | |
|---|---|---|---|
|  | カメラ ビュー モード | | カメラビューモードを「動的ビュー」または「固定ビュー」に変更します。 |
|  | パン | | 模型を移動します。 |
|  | 回転 | | 模型を回転させます。 |
|  | 拡大/縮小 | | 模型を拡大/縮小します。 |
|  | ズームフィット | | 画面中央に模型を配置します。 |
|  | データ表示モード | 光沢あり | 光沢ありの仕上げでカラーでデータを表示します（PBRレンダリング）。 |
|  | | 光沢なし | 光沢なしの仕上げでカラーでデータを表示（Phongレンダリング）。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
|  | | モノクロ | 単色でデータを表示。 |
|  | | 信頼性マップ | スキャンデータの信頼度を表示するために模型に赤色、黄色、緑色を適用します。<br>* 緑色は信頼度が高く、赤色は信頼度が低いことを示しています。 追加でのスキャンを行うと、信頼度の低い領域を軽減できます。 |
|  | | 光沢なし + 信頼性マップ | スキャン中と簡単なシェードを確認もしながら信頼性マップを参照できることで、より良い結果を取得できる助けとなります。 |
|  | グリッド設定（mm） | グリッドオン | 背景にグリッドを表示します。 |
|  | | グリッドオフ | 背景のグリッドを非表示にします。 |
|  | | オーバーレイオン | 模型上にグリッドをオーバーレイします。 |

# 義歯スキャン

義歯のシーケンスは、患者の現行の義歯、仮歯、ワックスリムのために活用できます。

> 🔎**注意**
>
> Medit Linkでフォームがアーチ（総義歯、複製義歯、インプラントサポート義歯）として登録されている場合、上顎／下顎の義歯工程が表示されます。

- 唇／頬側および口蓋／舌の表面を含む、義歯のすべての側面が十分にスキャンされていることを確認します。
- 上顎の場合、口蓋ヒダや上顎結節部を含む口蓋領域がスキャンされていることを確認します。
- 下顎の場合、臼後三角をスキャンするように確認します。
- スキャン中にカメラが消失した場合は、口蓋の最も目立つ部分（口蓋ヒダや残遺歯槽堤など）から再開してください。

## 総義歯

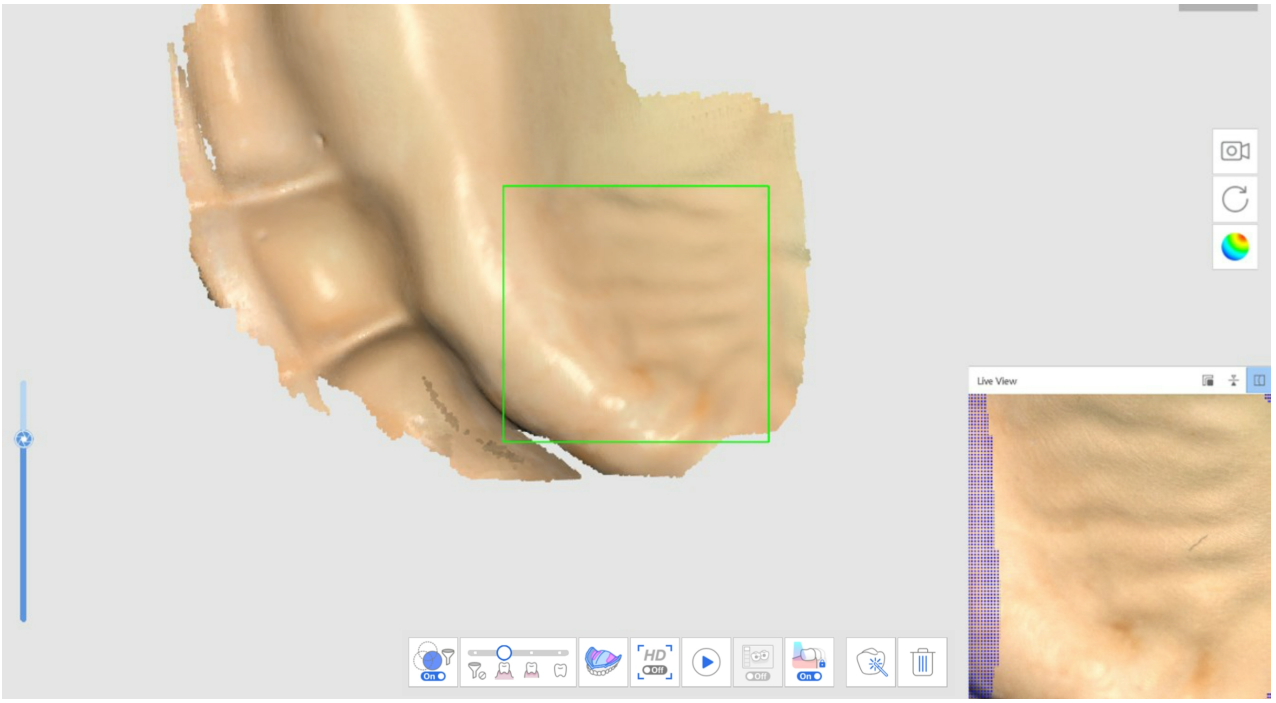
総義歯のワークフローは以下のように表示されます。



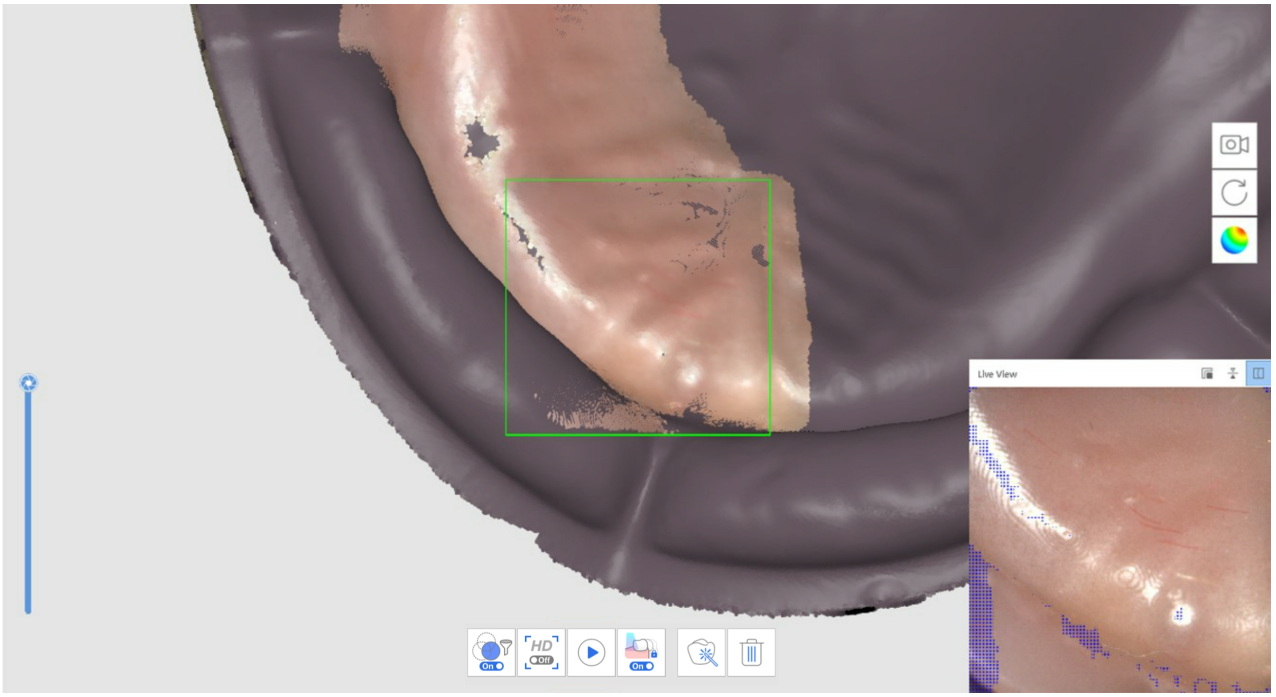
## 無歯顎スキャンデータの取得

上顎無歯顎／下顎のスキャン工程での上顎／下顎の無歯顎および上顎／下顎の義歯工程での義歯データをスキャンします。

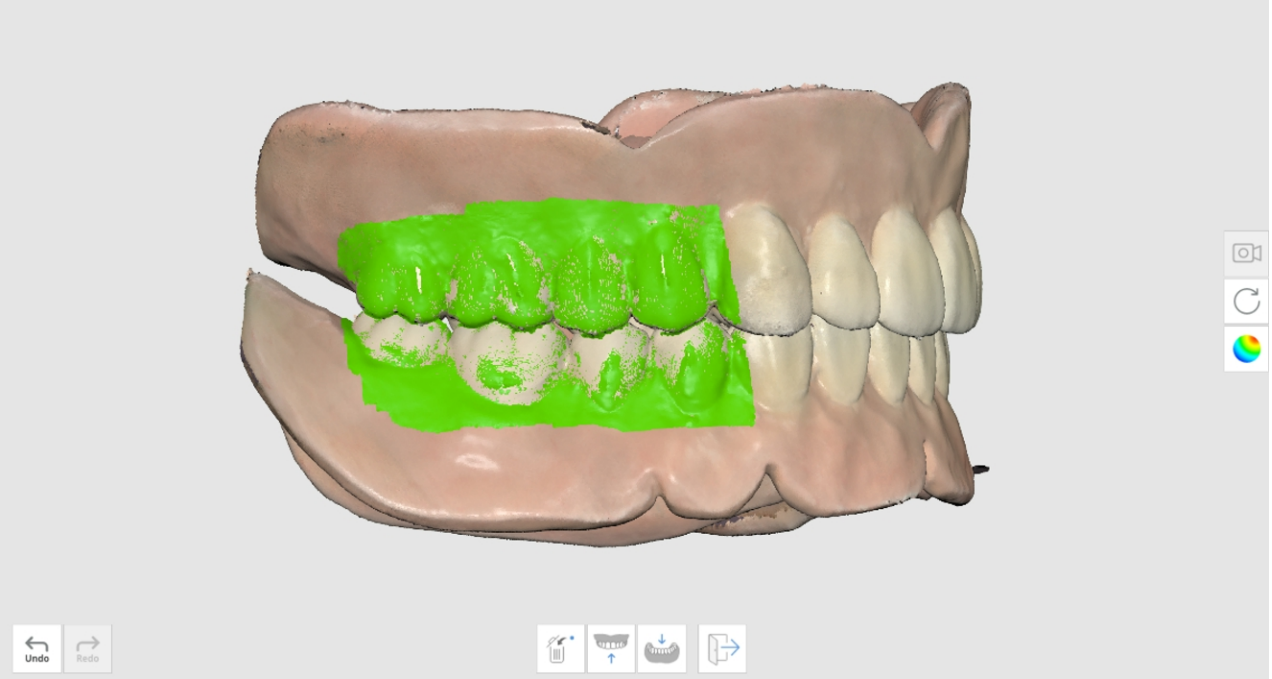
1. 上顎の無歯顎表面をスキャンします。




2. 最初のスキャン工程（上顎無歯顎）で取得した無歯顎データは、次のスキャン工程での義歯整列のベースとして反転され、使用されます。



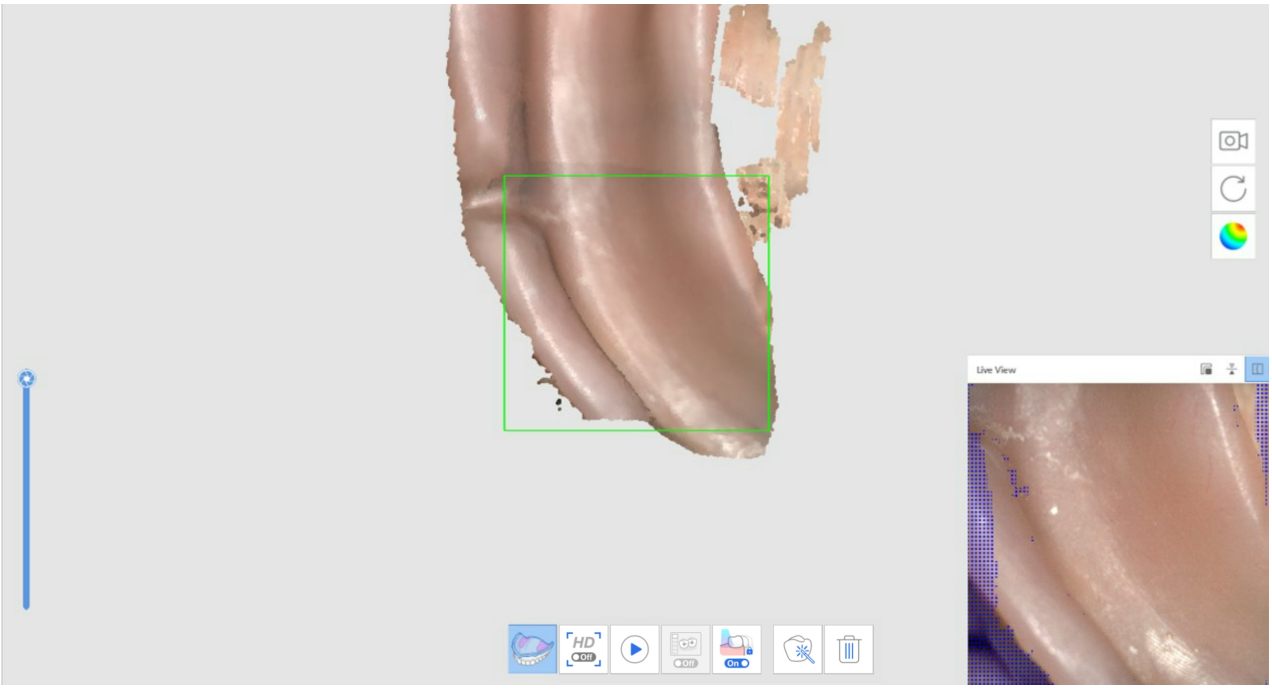

3. 次の順序で義歯データをスキャンします。装着面>境界>研磨面と人工歯
4. 下顎用に手順を繰り返します。
5. 咬合スキャン工程で義歯の咬合をスキャンします。 データはCADで活用できます。




# 裏装義歯スキャン

患者からの口腔内データを取得せずに義歯をスキャンします。 下顎無歯顎スキャン工程で義歯の装着面および義歯工程で外面をスキャンします。

1. 下顎無歯顎スキャン工程で、「裏装義歯スキャン」をクリックし、反転モードでスキャンします。

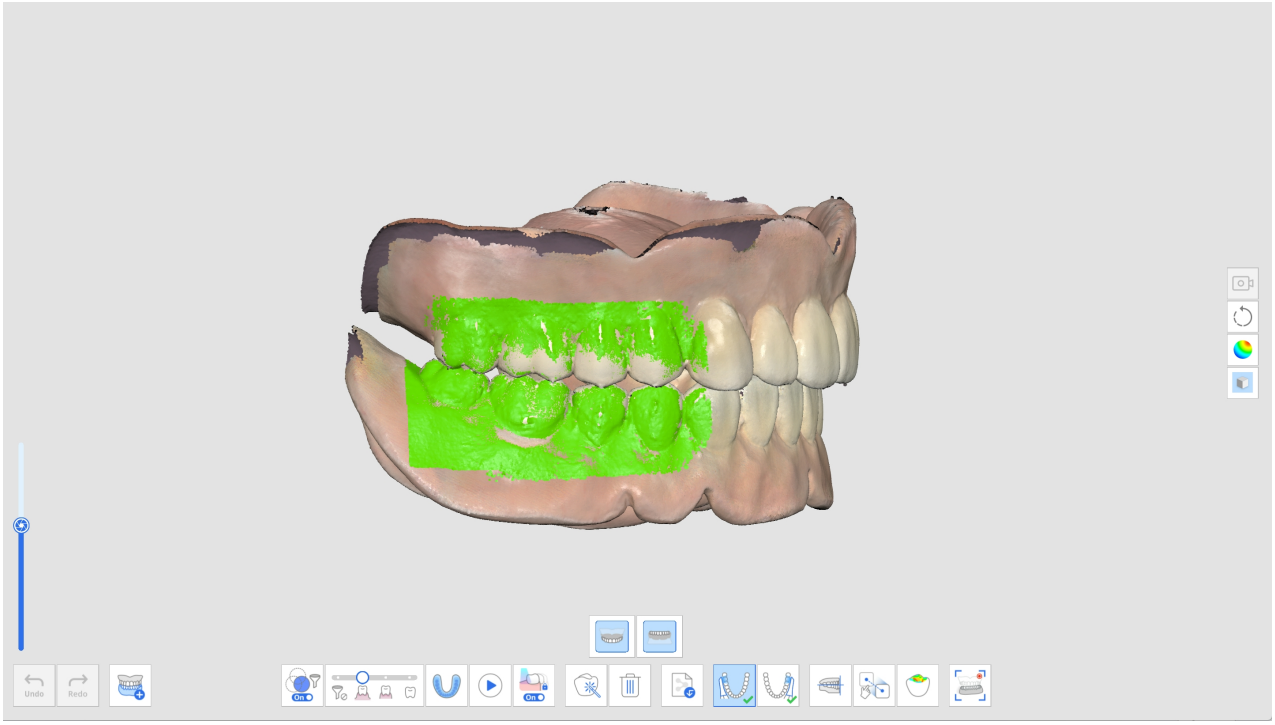





2. 次の工程へ移動後、義歯の外側をスキャンします。 前の工程のデータは、コピーされ反転し、義歯整列のベースとして使用されます。
3. 上顎用に手順を繰り返します。

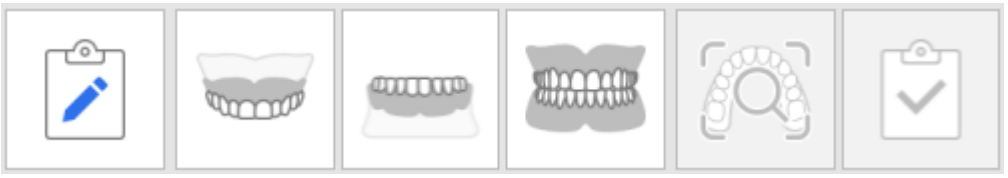



4. 咬合スキャン工程で義歯の咬合をスキャンします。 データはCADで活用できます。



# 複製義歯

以下は複製義歯のワークフローです。上顎義歯 > 下顎義歯 > 咬合



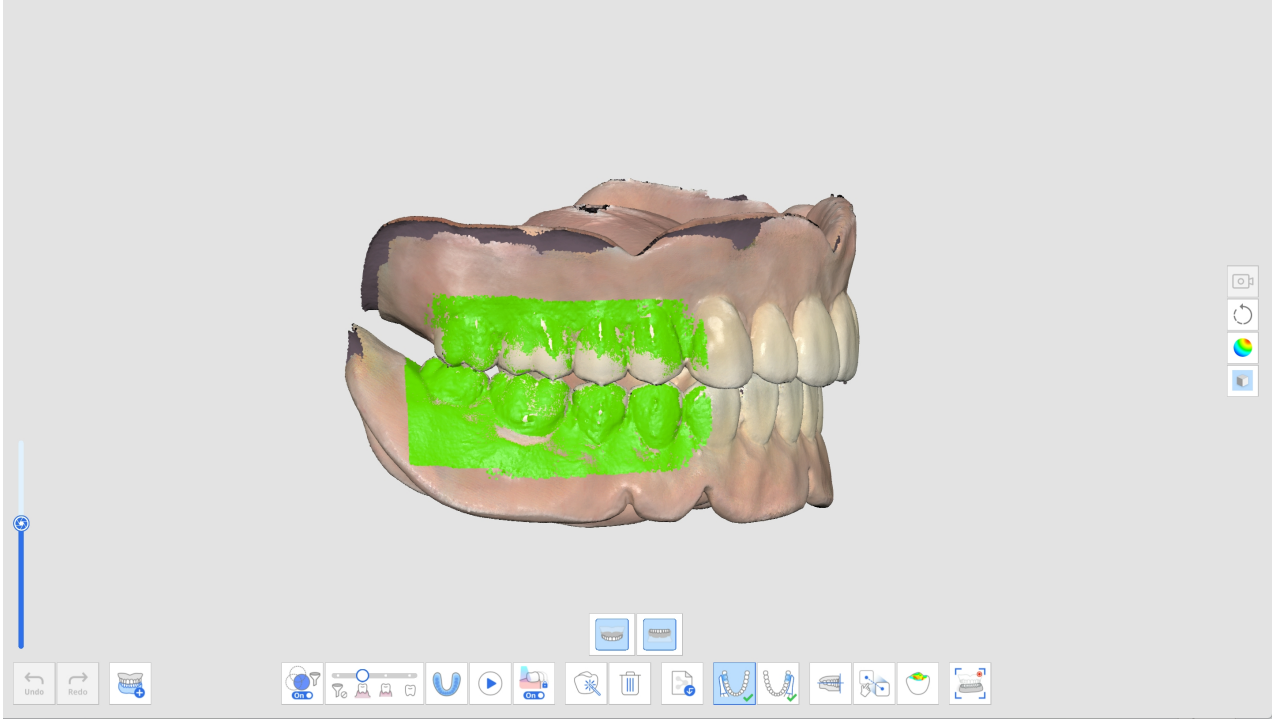
1. 上顎義歯をスキャンします。



2. 下顎義歯をスキャンします。




3. 次の順序で義歯データをスキャンします。装着面>境界>研磨面と人工歯
4. 咬合スキャン工程で義歯の咬合をスキャンします。 データはCADで活用できます。




# インプラントオーバーデンチャー

以下はインプラントサポート義歯のワークフローです。上顎無歯顎 > 上顎義歯 > 下顎無歯顎 > スキャンボディ > 下顎義歯 > 咬合

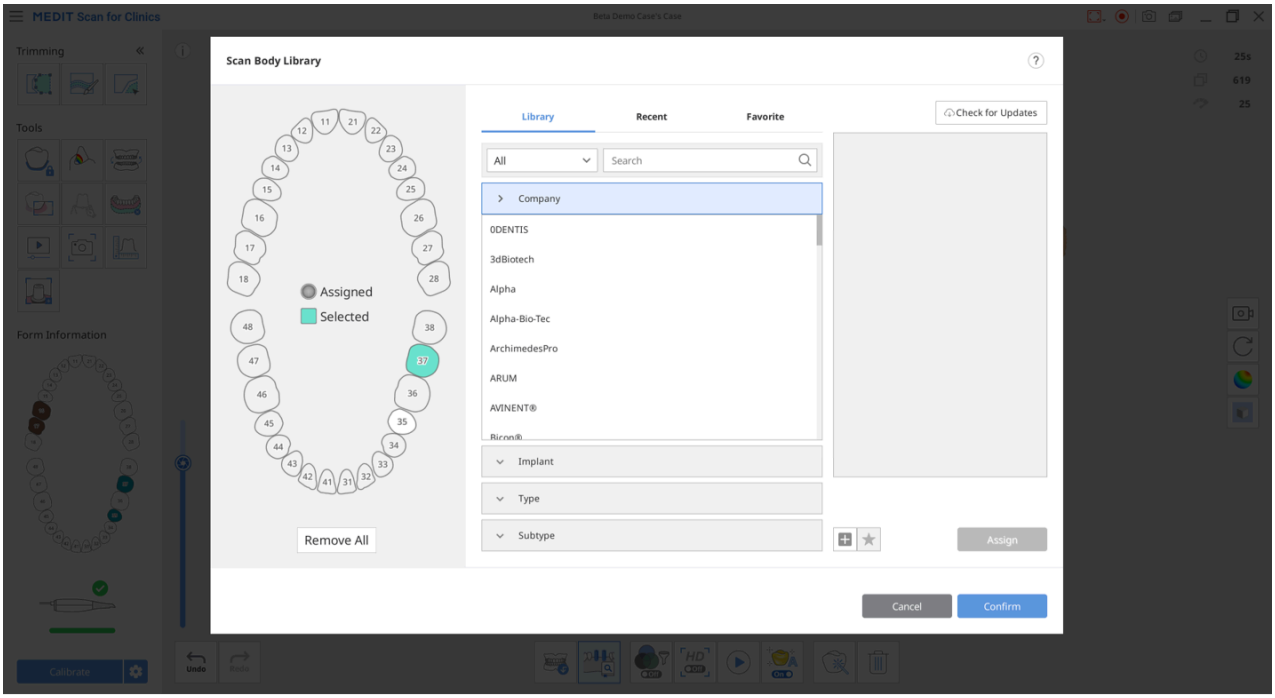


1. 無歯顎スキャン工程用のデータを取得します。
2. 対応するスキャンボディのスキャン工程でスキャンボディをスキャンします。

> 「スキャンボディライブラリマッチング」ツールを利用して、プリセットのライブラリから正確なスキャンボディデータを取得します。




3. 歯番を選択し、ライブラリの対応するスキャンボディデータを探し、「確認」をクリックします。




4. 咬合スキャン工程で義歯の咬合をスキャンします。 データはCADで活用できます。

# 施術前スキャン

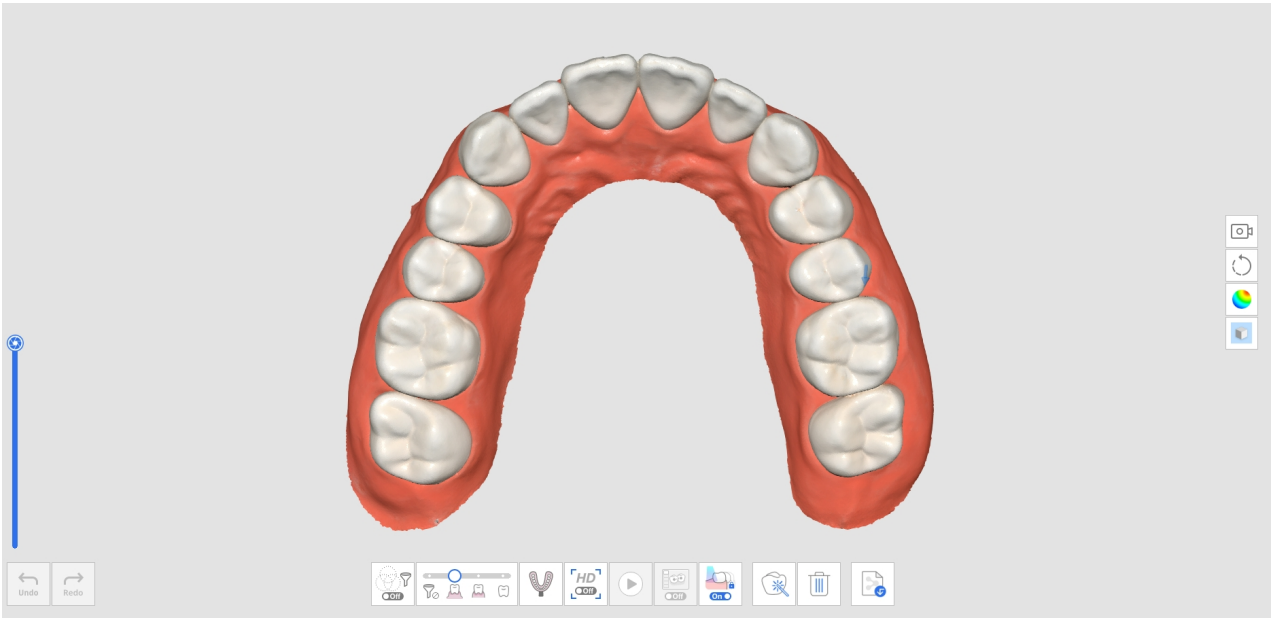
後で補綴物を作成するために今後の参照データとして、施術前工程から施術前歯データを使用できます。

施術前上顎または施術前下顎の工程でデータを取得またはインポートしたら、データは次の工程に移動する際に、上顎または下顎工程に自動的に複製されます。

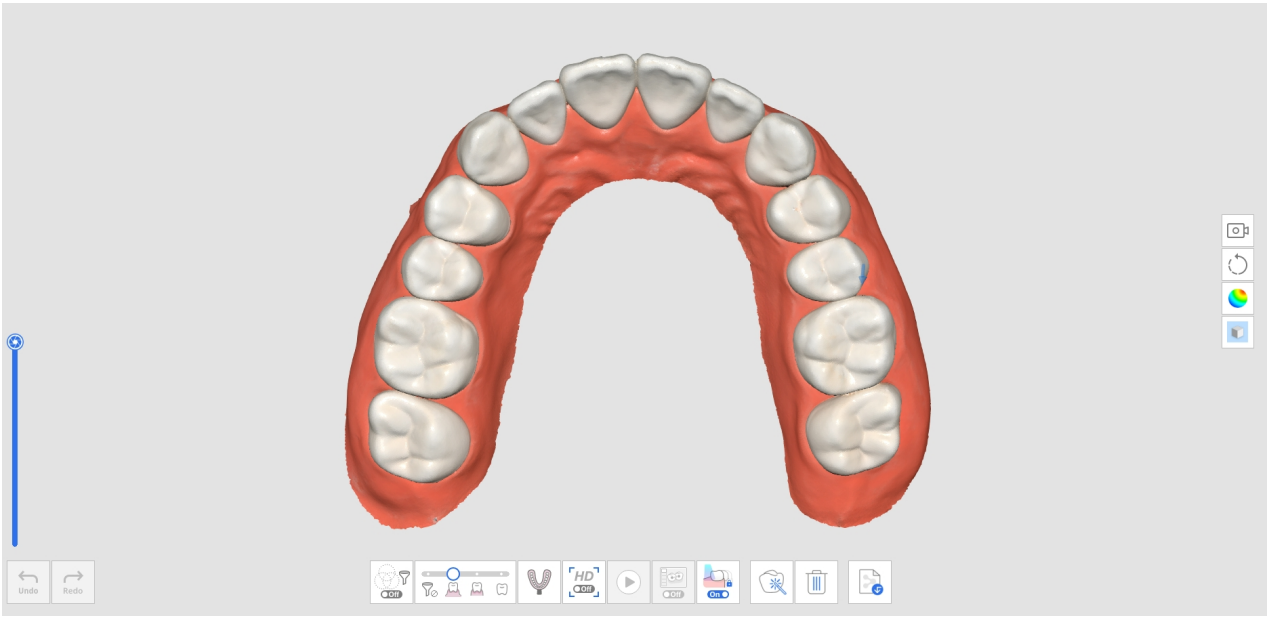
複製された施術前データを利用して、支台歯データを取得、または支台歯データを削除し、新規にスキャンします。

# 施術前スキャンの活用方法

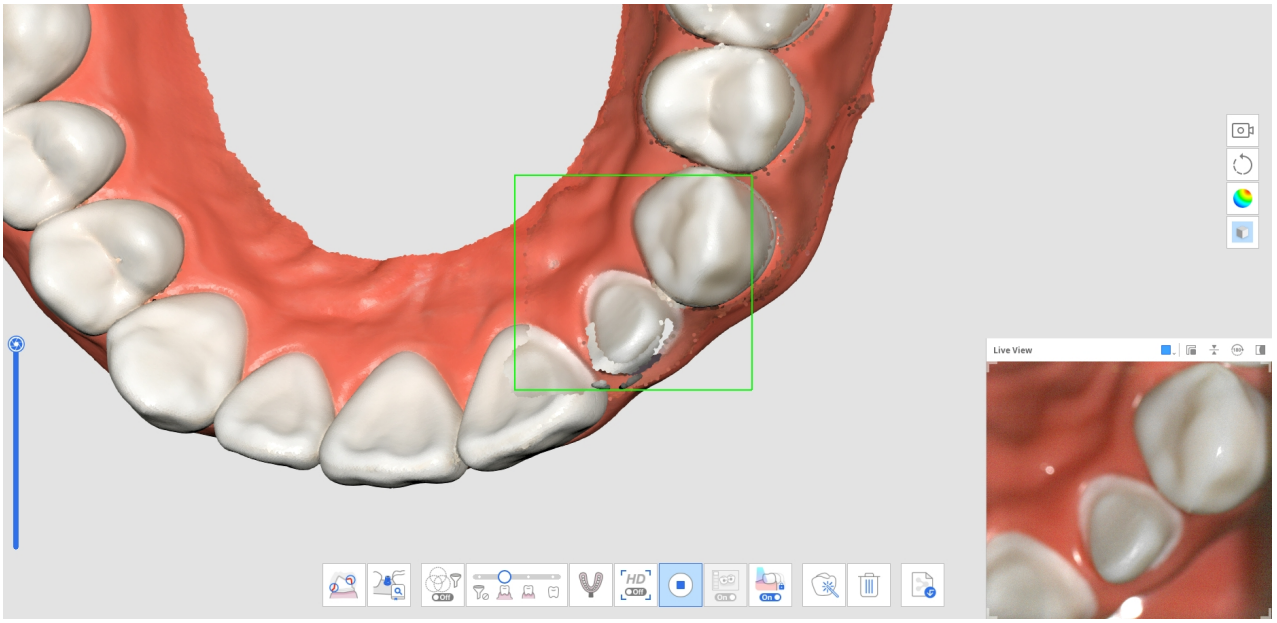
1. 施術前下顎（または施術前上顎）スキャン工程で支台歯の前に下顎（または上顎）をスキャンします。



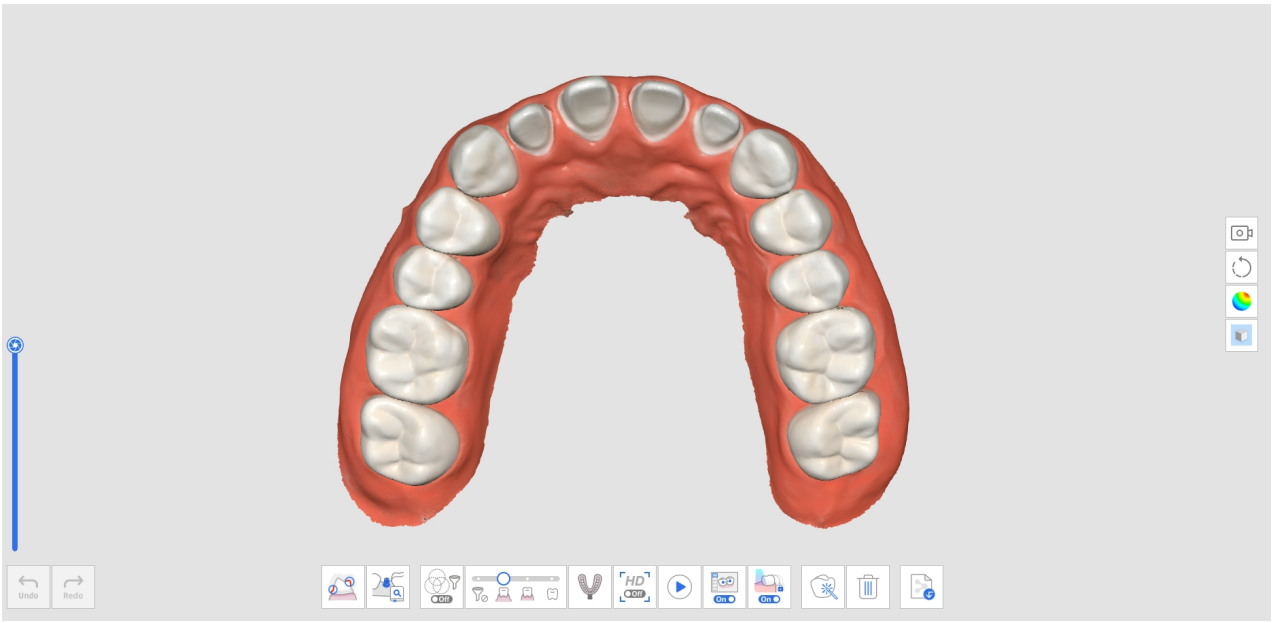
2. 下顎（または上顎）スキャン工程に移動します。 次に、施術前下顎（または施術前上顎）工程で取得したデータはこの工程で複製されます。



3. 支台歯の後に下顎をスキャンします。 支台歯のない領域からスキャンを開始し、既存のデータに交換するために支台歯へと続けてスキャンします。

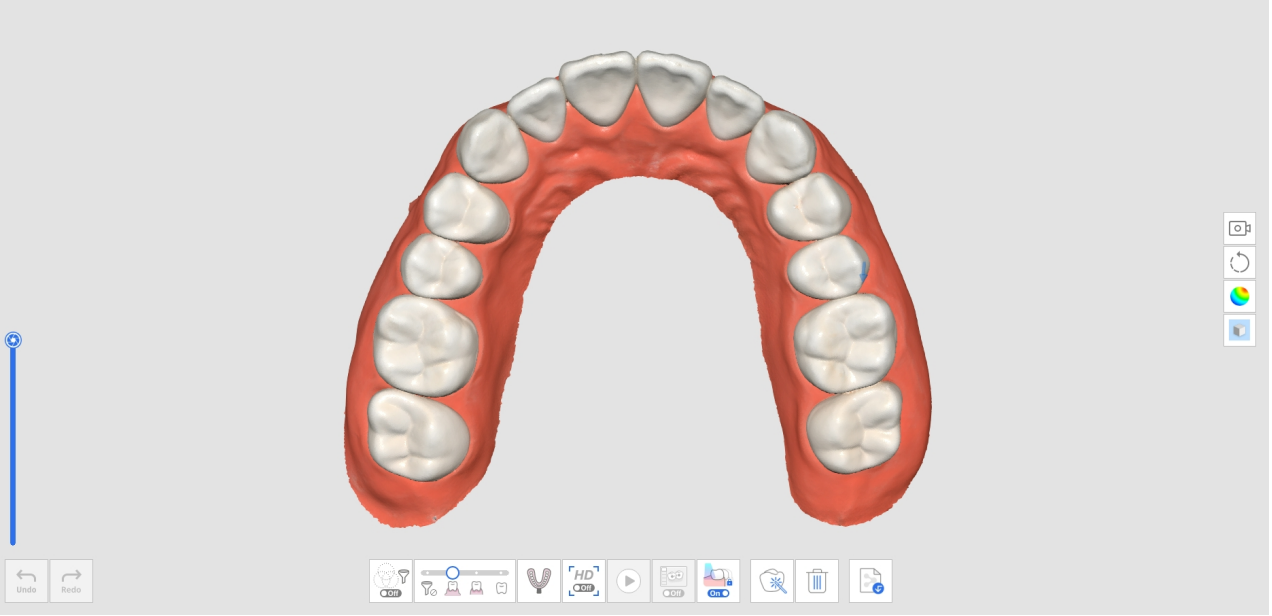



4. 以下の画像はスキャンが完了した様子です。

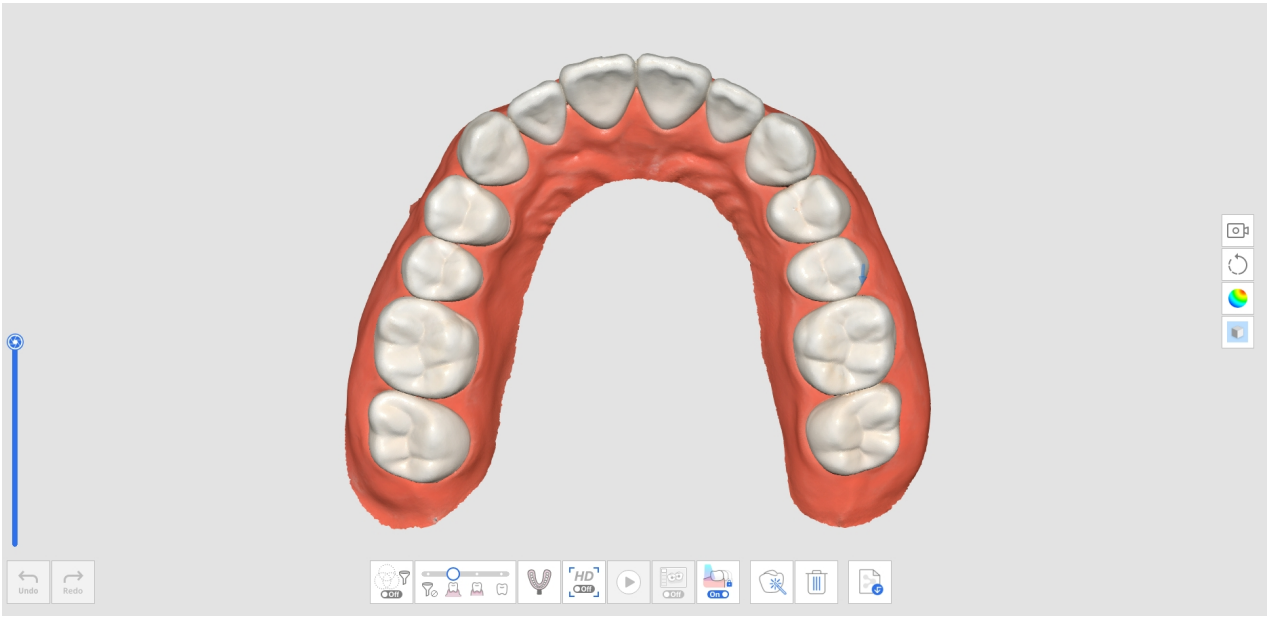


# トリミングツールで施術前スキャンを活用する方法

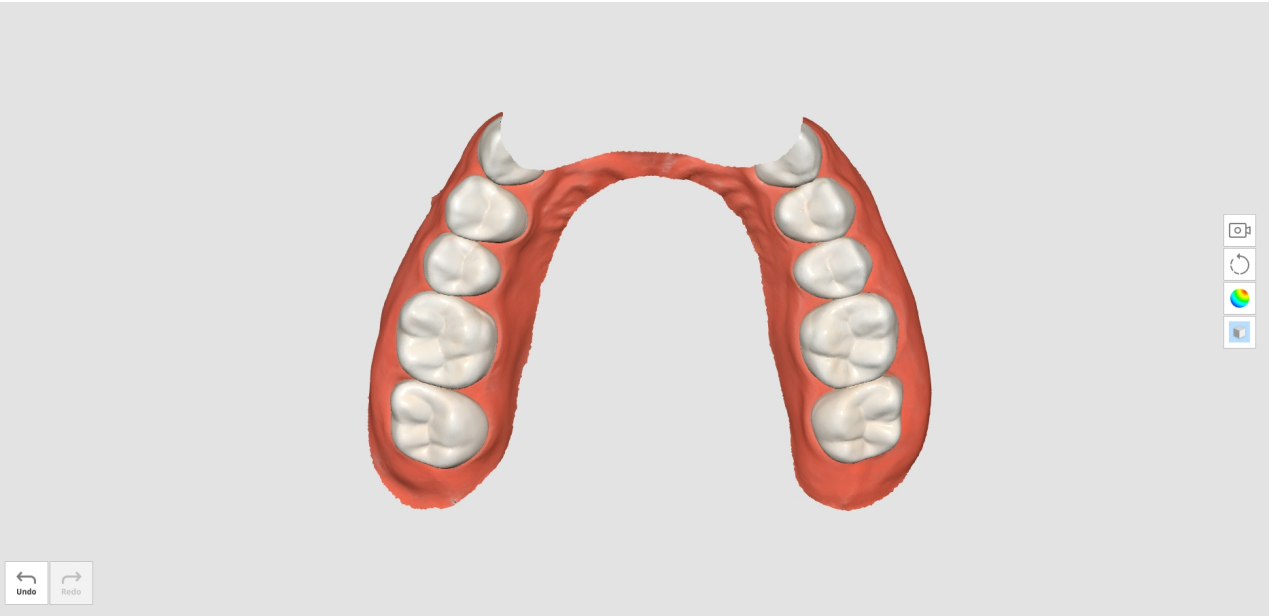
1. 施術前下顎（または施術前上顎）スキャン工程で支台歯の前に下顎（または上顎）をスキャンします。



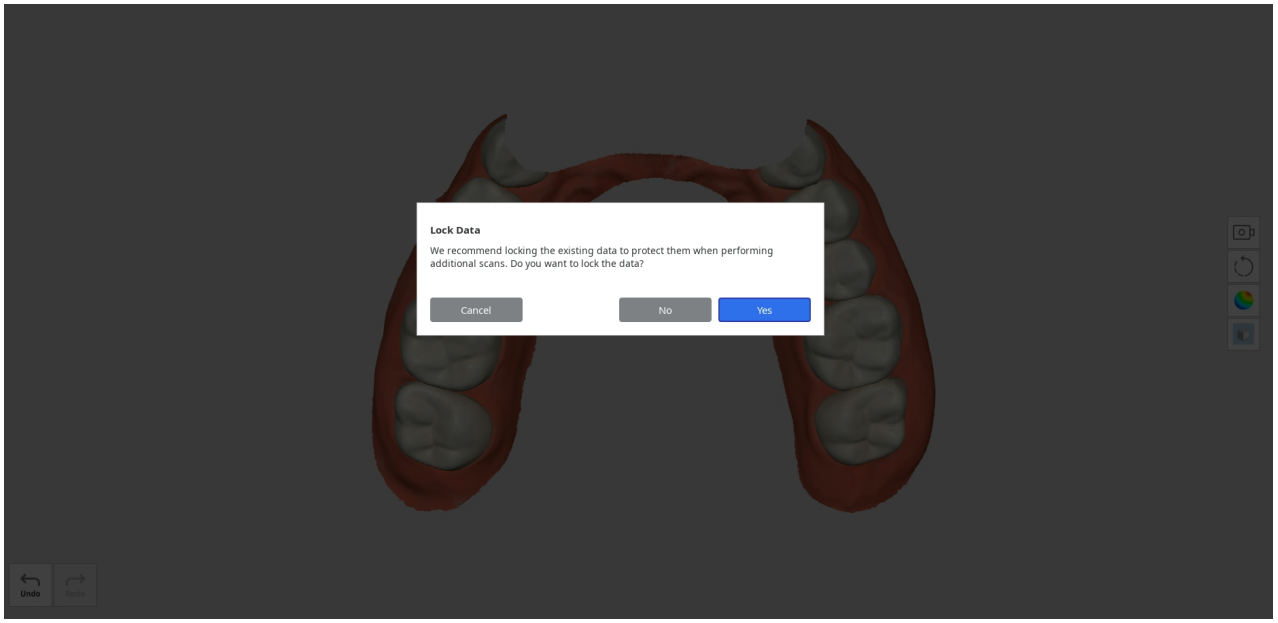
2. 下顎（または上顎）スキャン工程に移動します。 次に、施術前下顎（または施術前上顎）工程で取得したデータが複製されます。



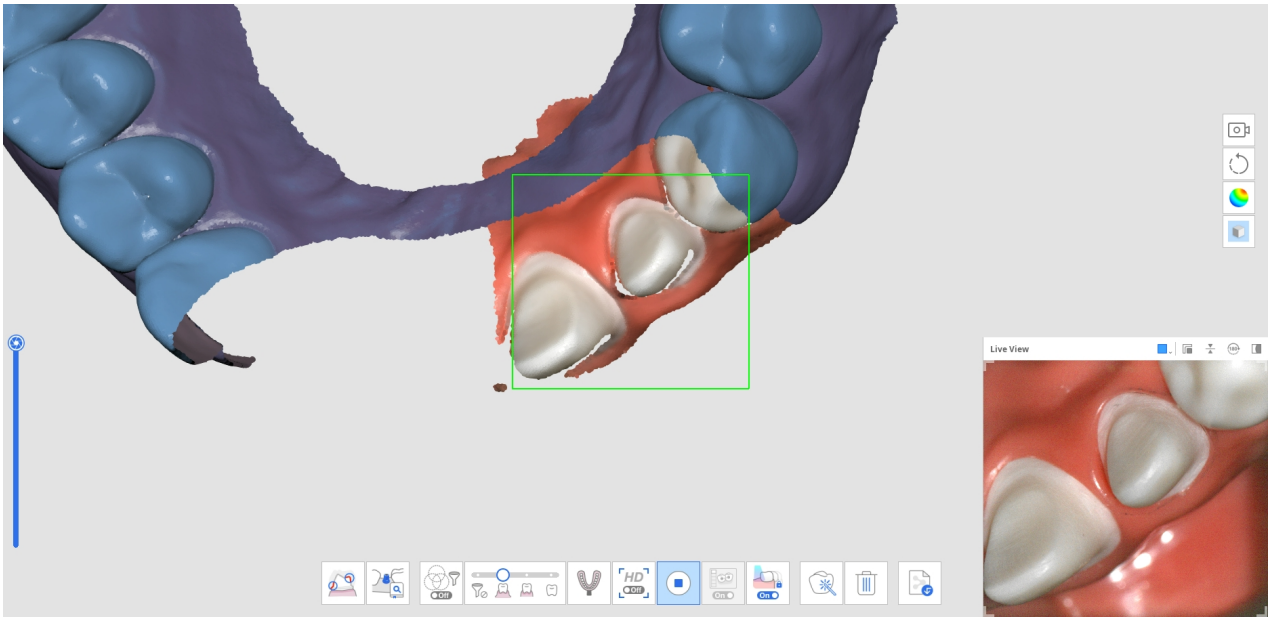
3. トリミングツールを使用して、支台歯が位置する箇所のデータを削除します。



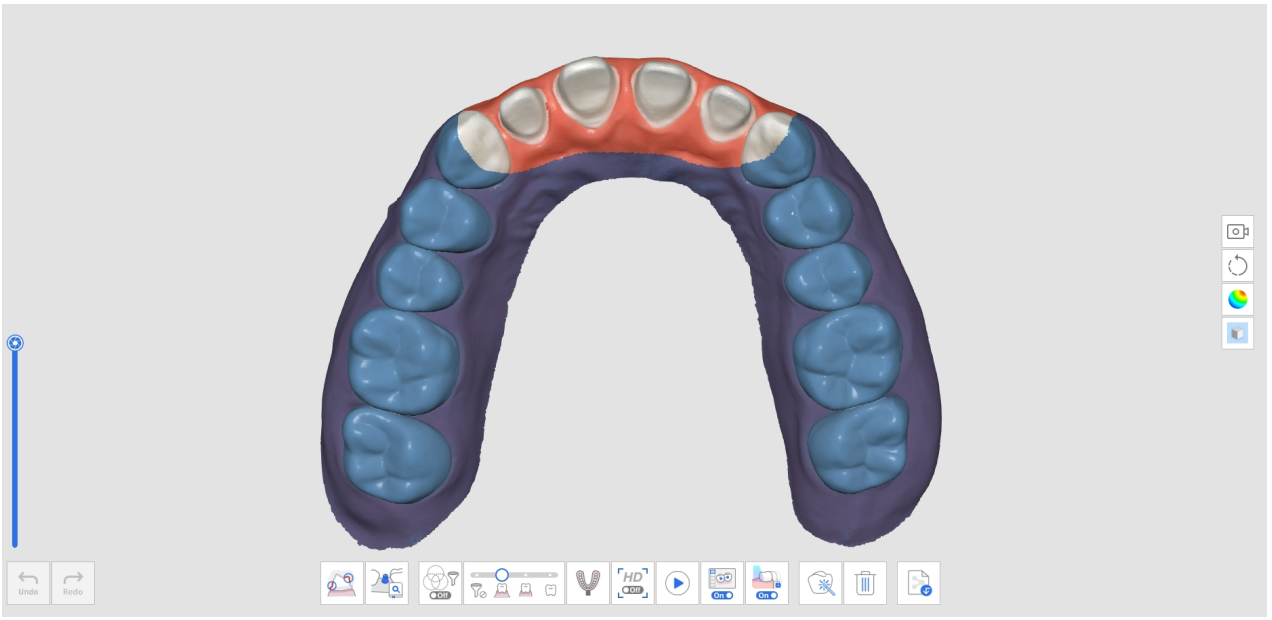
4. トリミングツールを終了しようとすると、データをロックするよう求められます。「はい」をクリックすると、追加のスキャン中にデータを保護するために既存のデータをロックします。




5. ロックされたデータは、別の色で表示され、不要な変更がされないように保護されます。
6. 支台歯領域の追加スキャンデータを取得します。

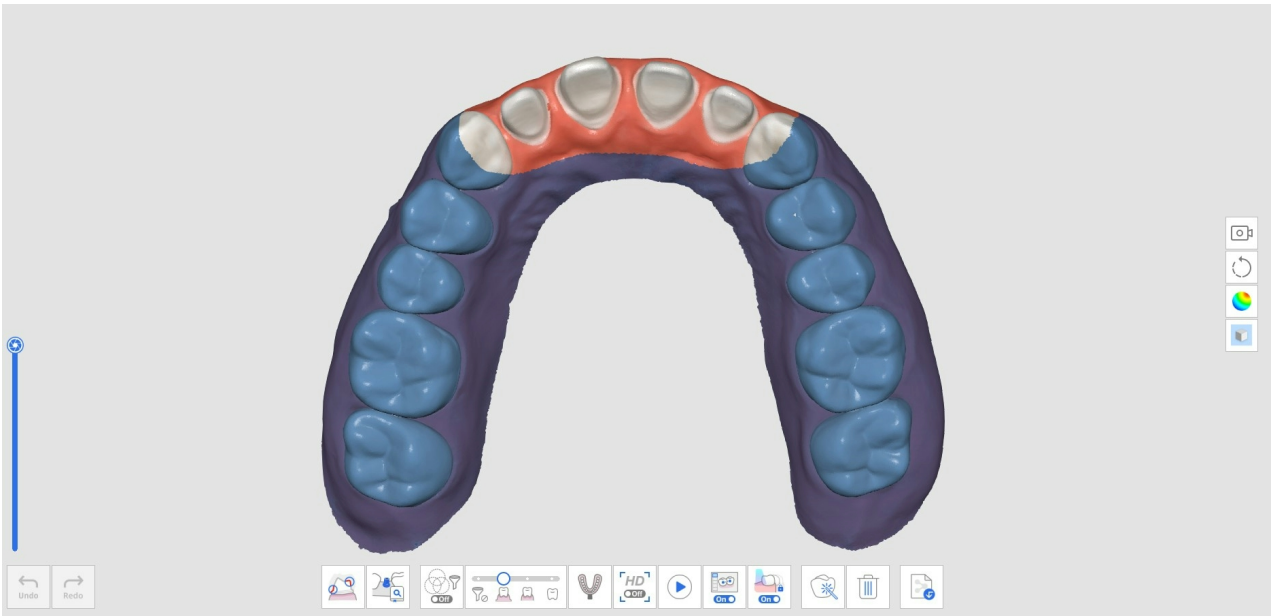



7. 以下の画像はスキャンが完了した様子です。

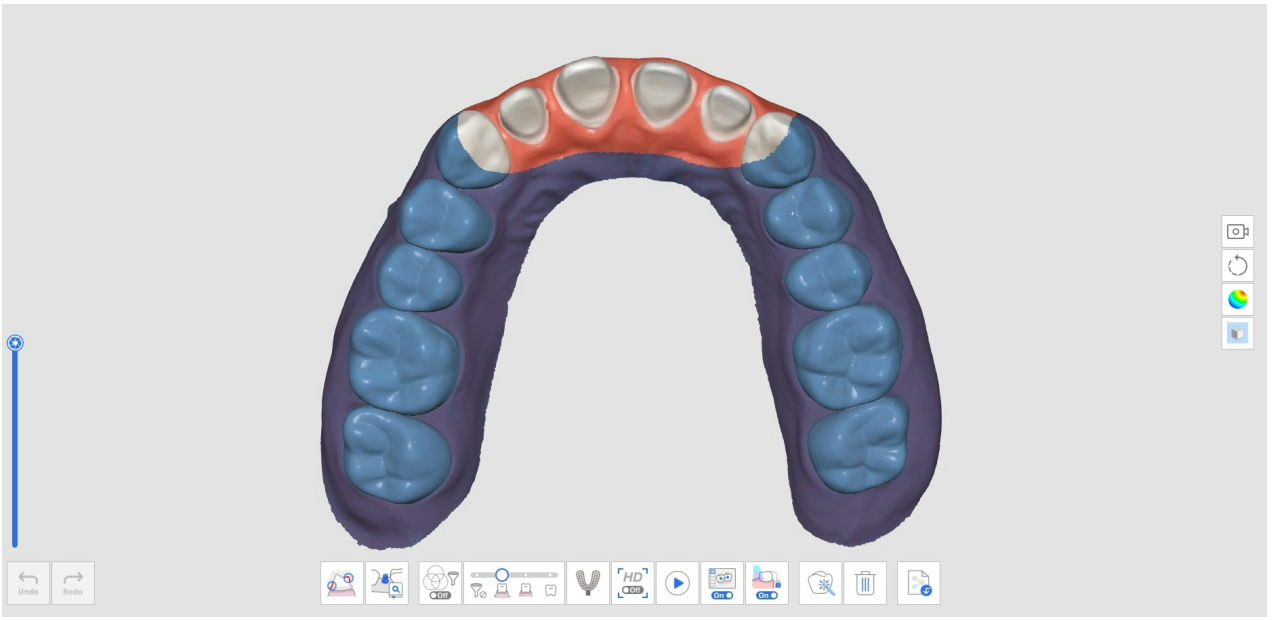


# 施術前スキャンおよび新規データスキャンの複製を削除する方法

1. 施術前下顎（または施術前上顎）スキャン工程で支台歯の前に下顎（または上顎）をスキャンします。



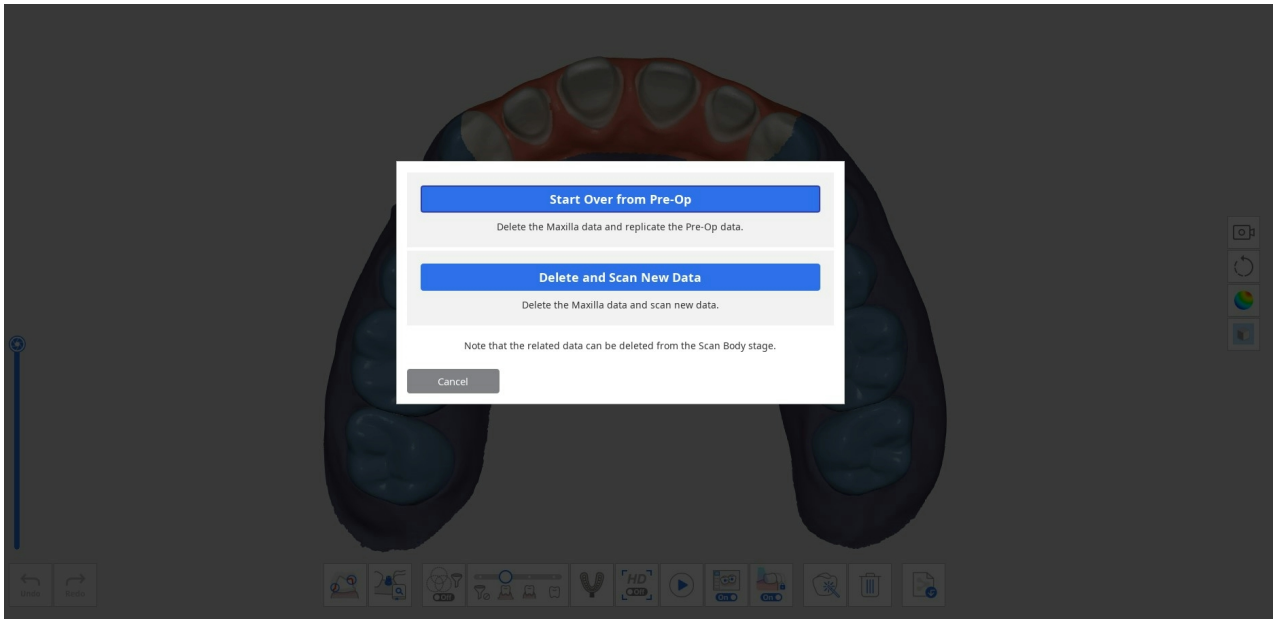
2. 下顎（または上顎）スキャン工程に移動します。 次に、施術前下顎（または施術前上顎）工程で取得したデータが複製されます。



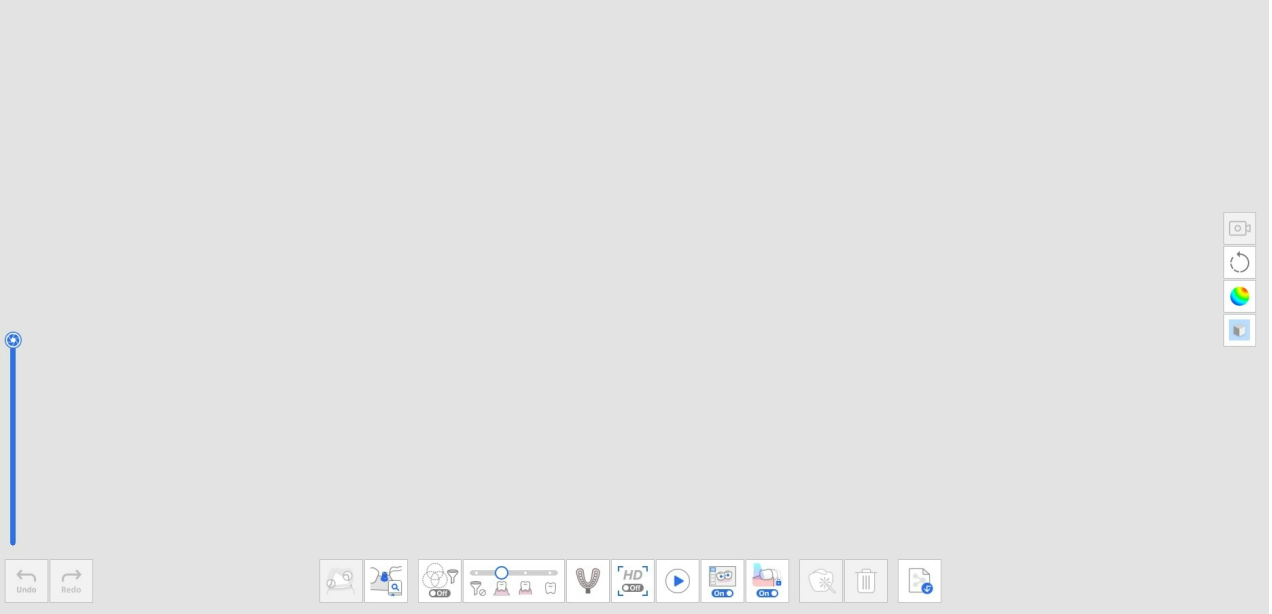
3. 下部にある「削除」アイコンをクリックします。



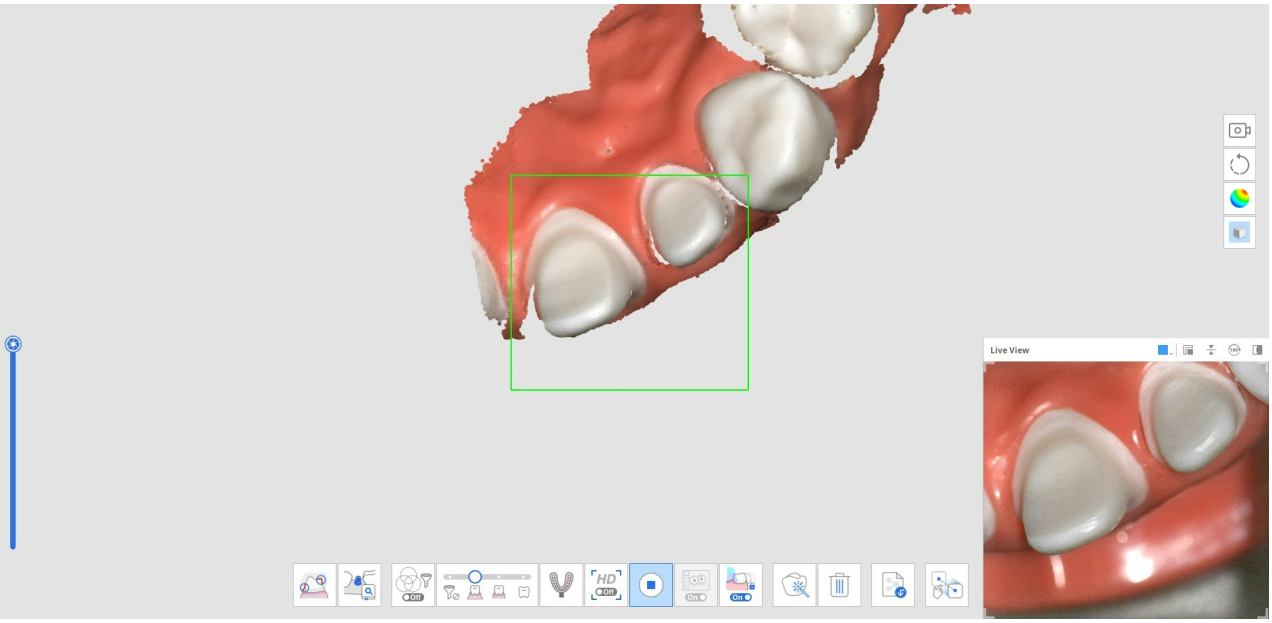
4. 「削除し新規にスキャン」ボタンをクリックします。



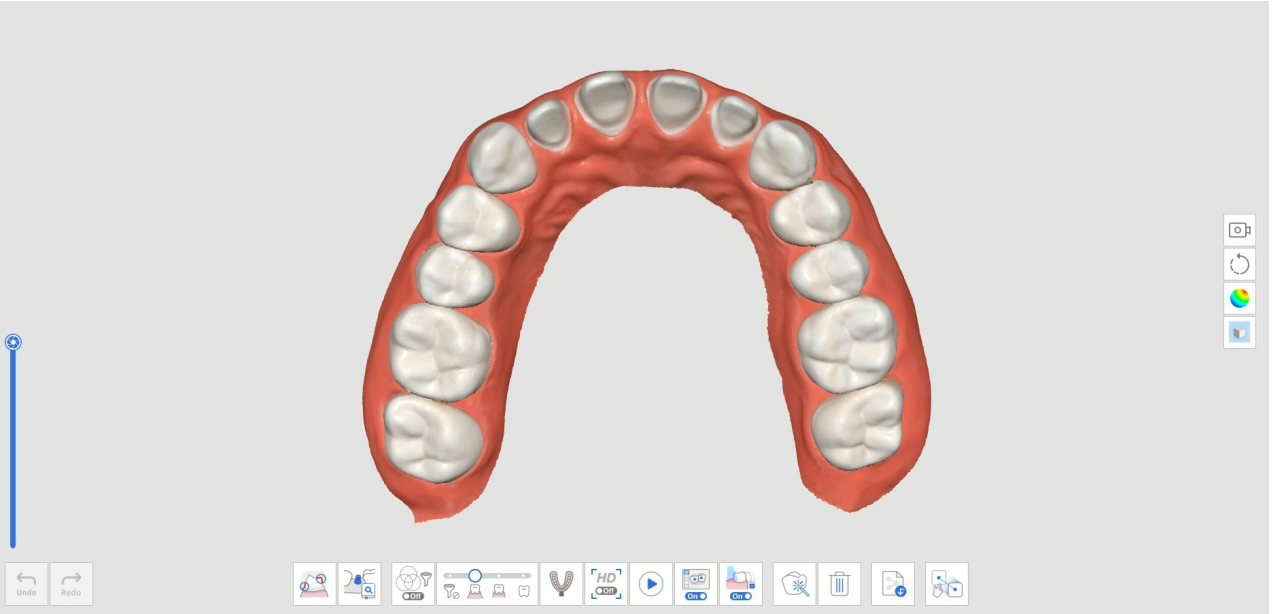

5. データは下のように削除されます。



6. 支台歯データをスキャンできるようになりました。



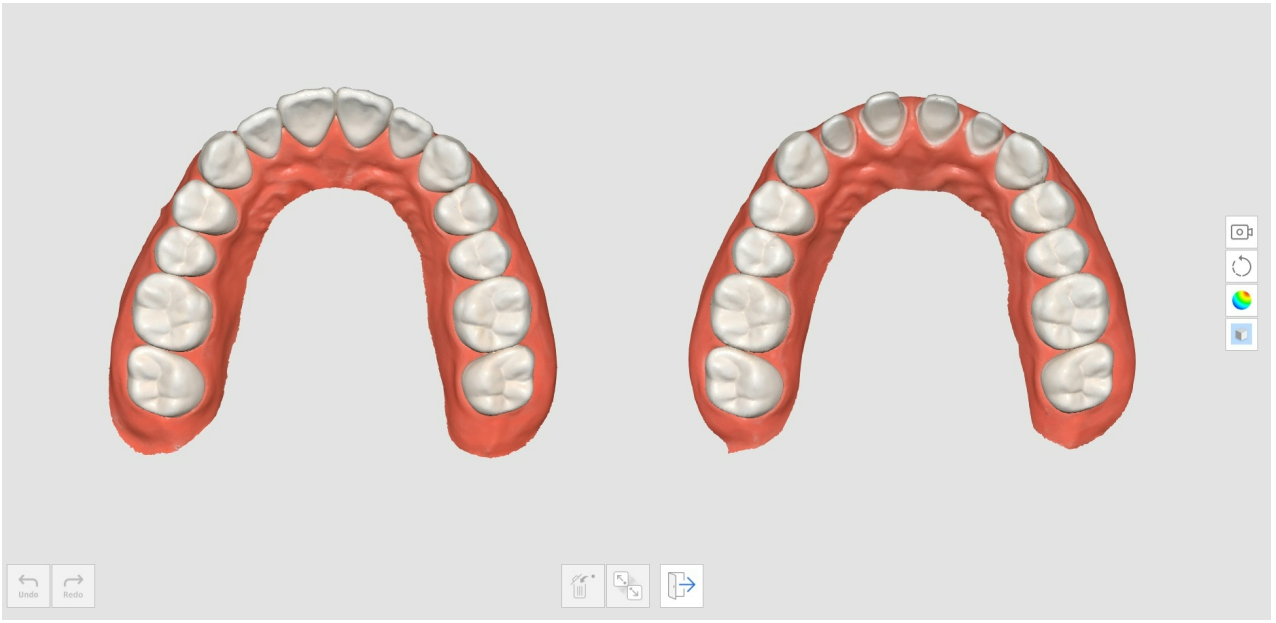

7. 以下の画像はスキャンが完了した様子です。



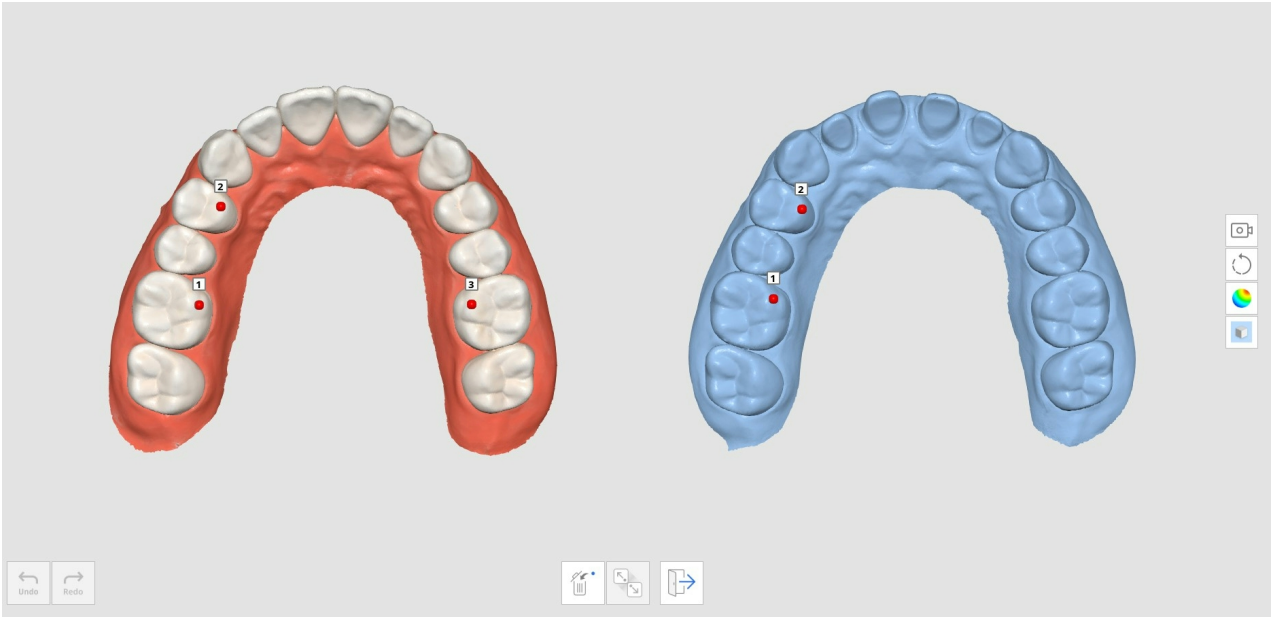
8. 下部にある「手動整列」アイコンをクリックし、下顎（または上顎）データに施術前下顎（または施術前上顎）データを手動で揃えます。



9. データ表示領域で施術前と支台歯データの両方を確認できます。



10. 最大3点を配置して、データを揃えます。




11. 以下の画像はスキャンが完了した様子です。


Undo
Redo

# 印象スキャン

印象スキャンでは、口腔内スキャンと印象スキャンを組み合わせて、スムーズなスキャンを提供します。

統合されたスキャンで、口腔内およびインプレッションのデータを簡単に結合できます。

# インプレッションスキャンの取得方法

1. 上顎または下顎工程で口腔内スキャンデータをスキャンします。



2. 下部にある「インプレッションのスキャン」アイコンをクリックします。



3. 口腔内データをインプレッションデータに入れ替える領域をマークします。

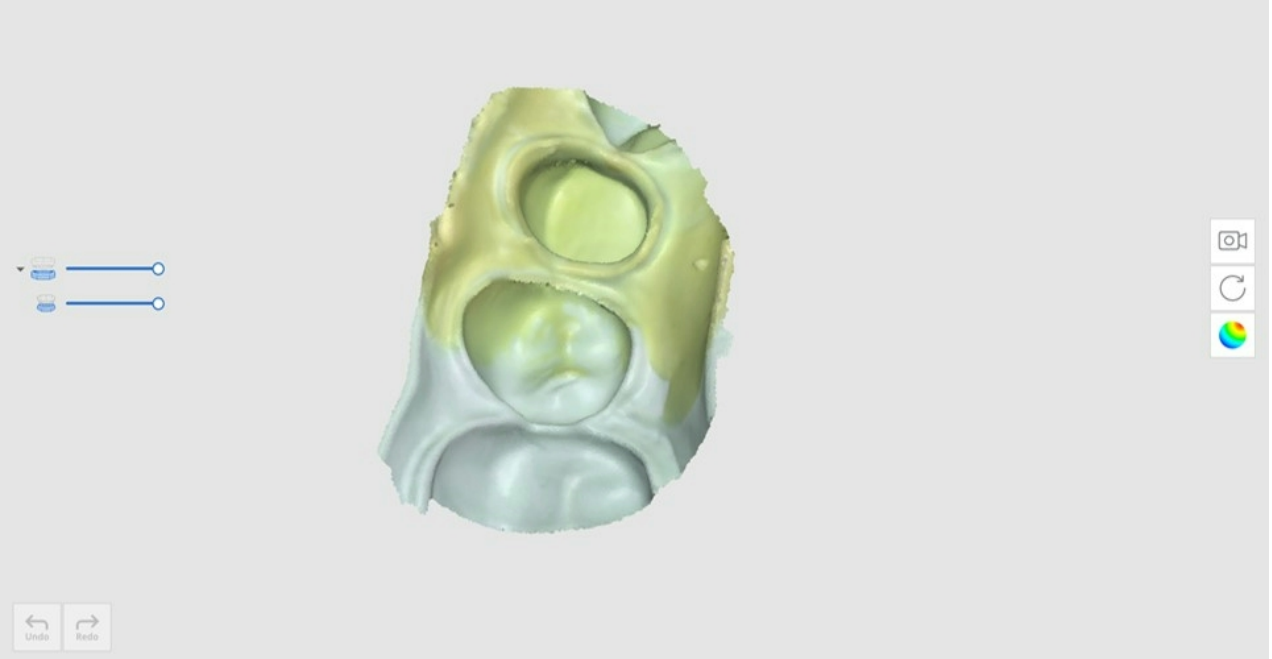
> 🔎**注意**
> この機能は、入れ替える領域を制限するのに便利です。
>
> マークしなかった場合、データ全部がインプレッションデータで入れ換えられます。




4. マーク済み領域用にインプレッション模型をスキャンします。 インプレッションデータは、口腔内データと自動整列されます。




5. 「インプレッションのスキャン」機能をオンにすると、トリミングツールを使用して、インプレッションデータだけを表示します。




6. インプレッションデータ中の不要な領域を削減します。

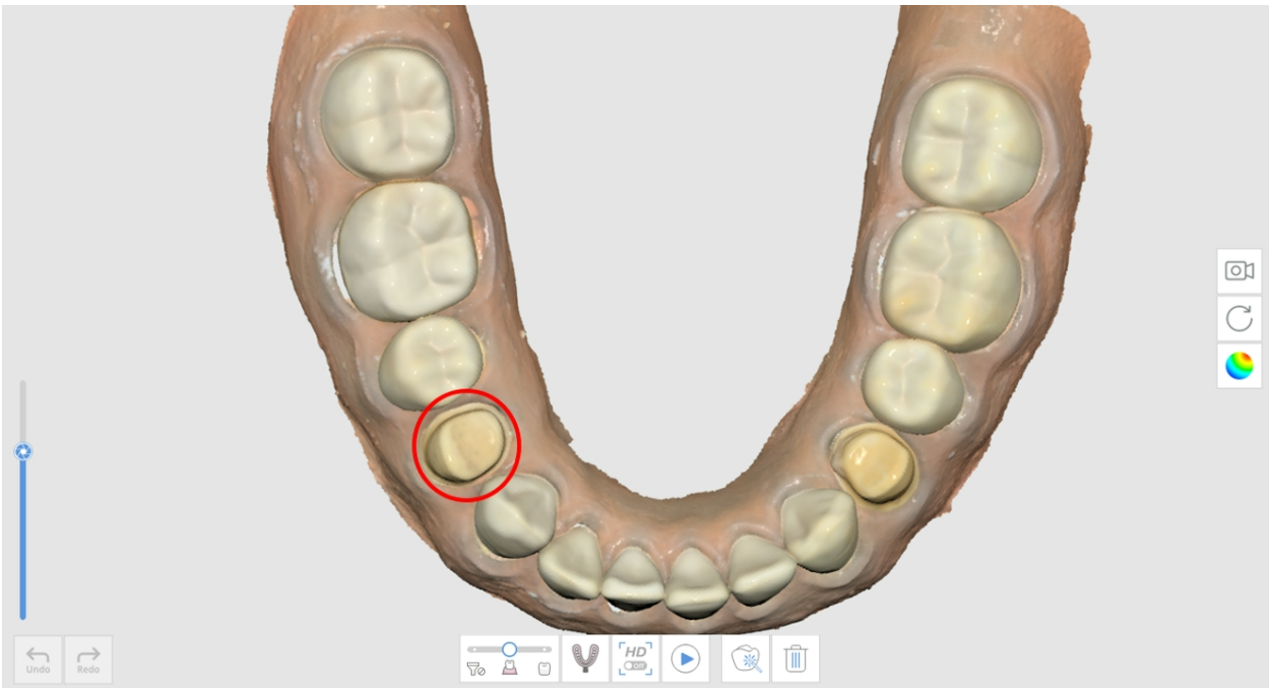



7. 結果は、以下のように表示されます。



# マージン用インプレッションスキャンの活用方法

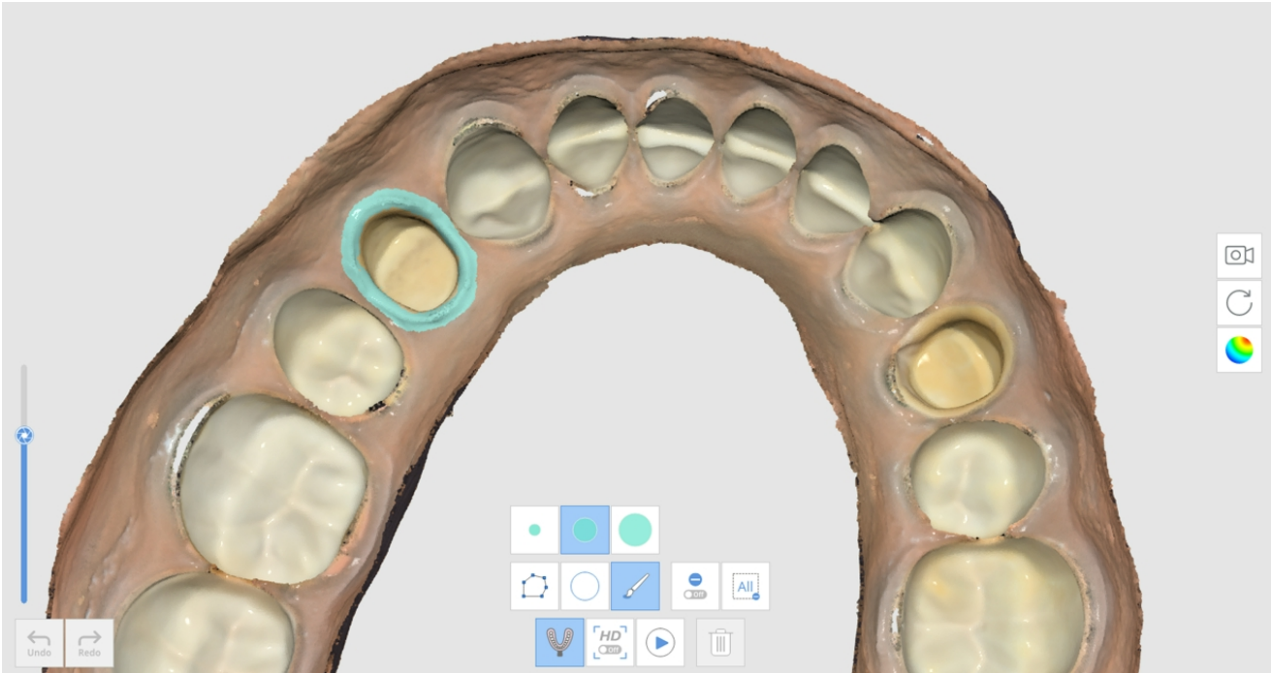
1. 上顎または下顎の工程で口腔内スキャンデータをスキャンします。



2. 下部にある「インプレッションのスキャン」アイコンをクリックします。



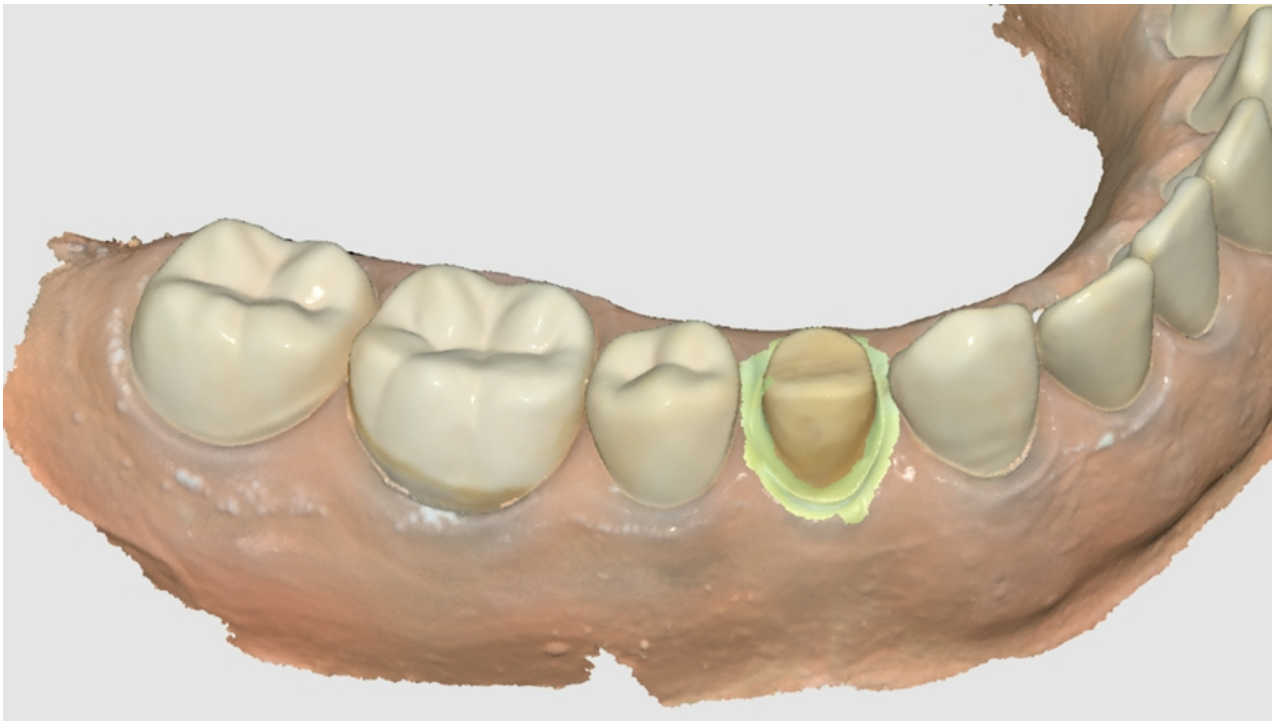
3. トリミングツールを使用して、マージン領域をマークします。



4. インプレッションをスキャンします。




5. 結果は、以下のように表示されます。

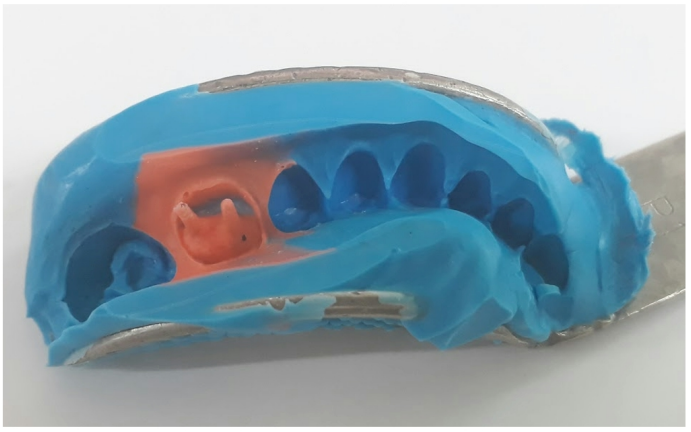


# ポスト&コアケース用インプレッションスキャンの活用方法

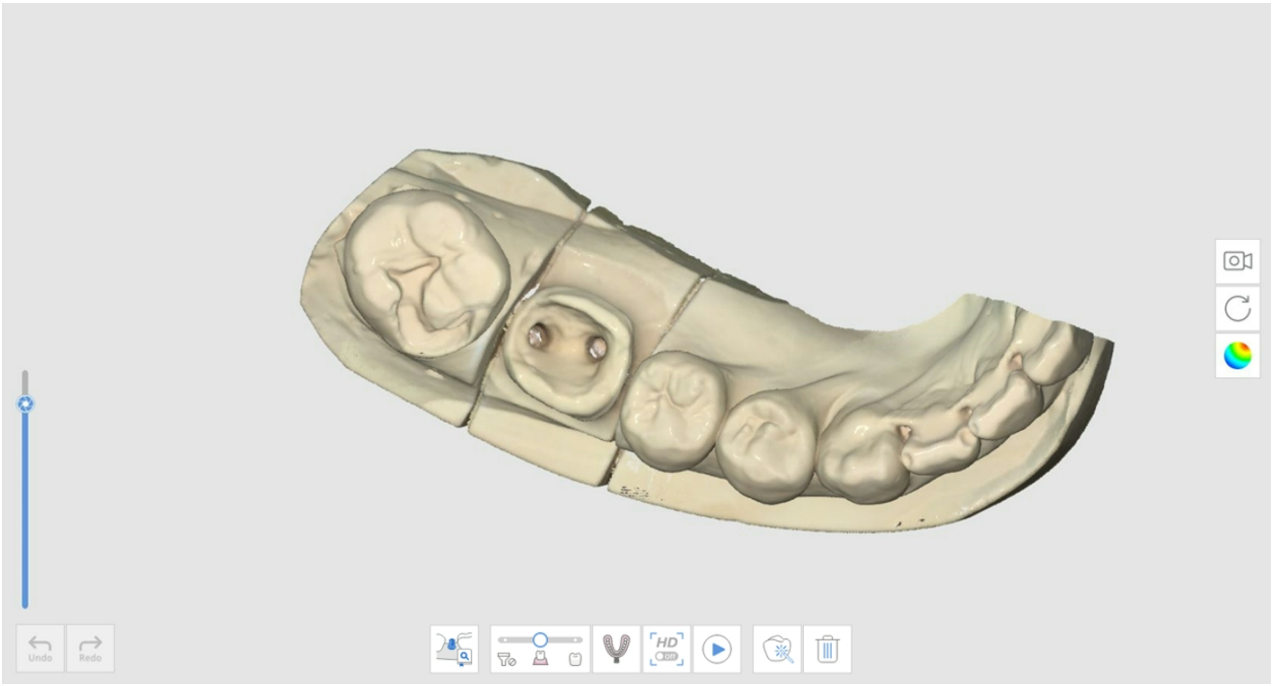
ポスト&コアのいくつかのケースでは、領域がとても深いためにポスト領域用のデータを取得するのがとても難しく、スキャンが困難です。 そのようなケースで「インプレッションのスキャン」機能は役に立ちます。

1. ベースの模型およびポストのインプレッションを準備します。

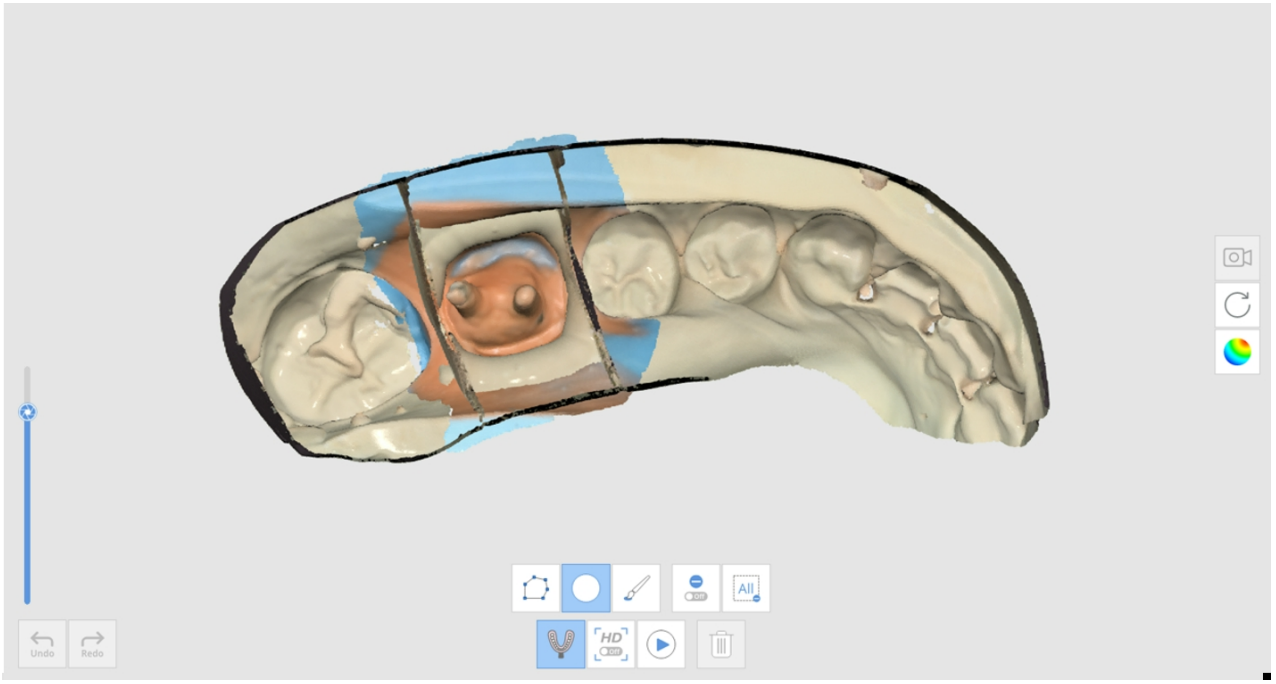




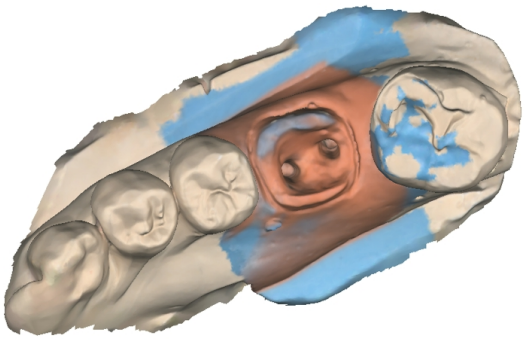
2. ベースの模型をスキャンします。 ポスト領域が深く、十分にスキャンされていないことが確認できます。

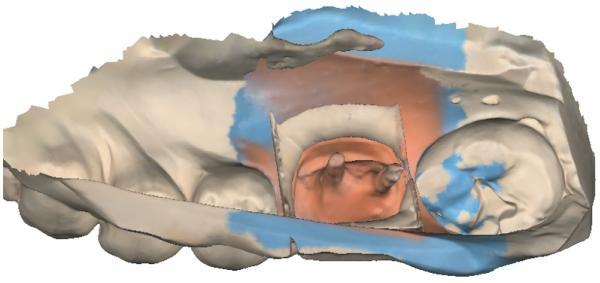



3. 「インプレッションのスキャン」アイコンをクリックし、インプレッションの模型をスキャンします。




4. 結果は、以下のように表示されます。





# 咬合ケース用インプレッションスキャンの活用方法

咬合の整列のために「インプレッションのスキャン」機能を使用できます。

1. インプレッションの模型を準備します。

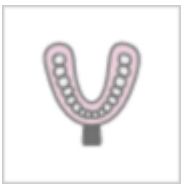




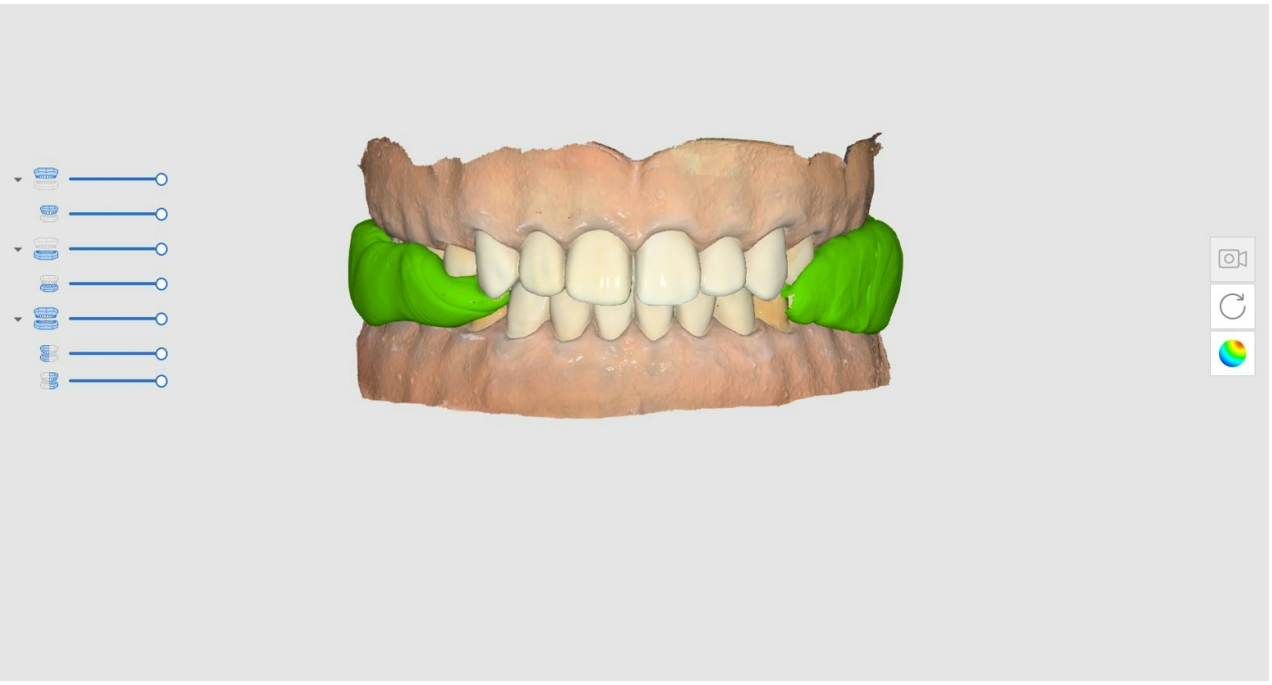
2. 上顎と下顎の各工程で上顎と下顎をスキャンします。



3. 咬合工程で「インプレッションのスキャン」アイコンをクリックします。



4. インプレッションの模型を使用して咬合データを取得します。 このケースでは、インプレッションは各咬合につき360°の全方向でスキャンする必要があります。

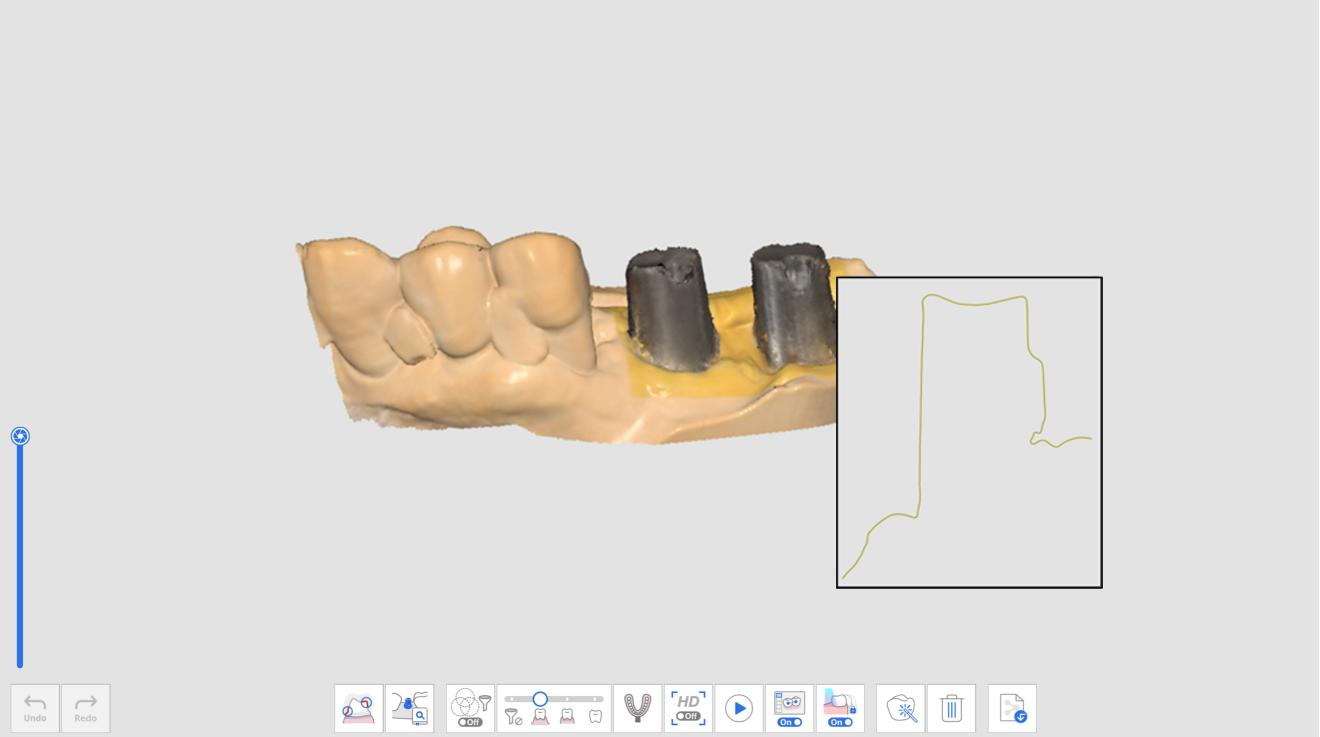


> 🔎**注意**
>
> インプレッションスキャンでは高解像度スキャン機能を利用できます。
>
> インプレッションデータが高解像度で取得された場合、模型表示モードが「テクスチャオフ」で設定されていると異なる色で表示されます。

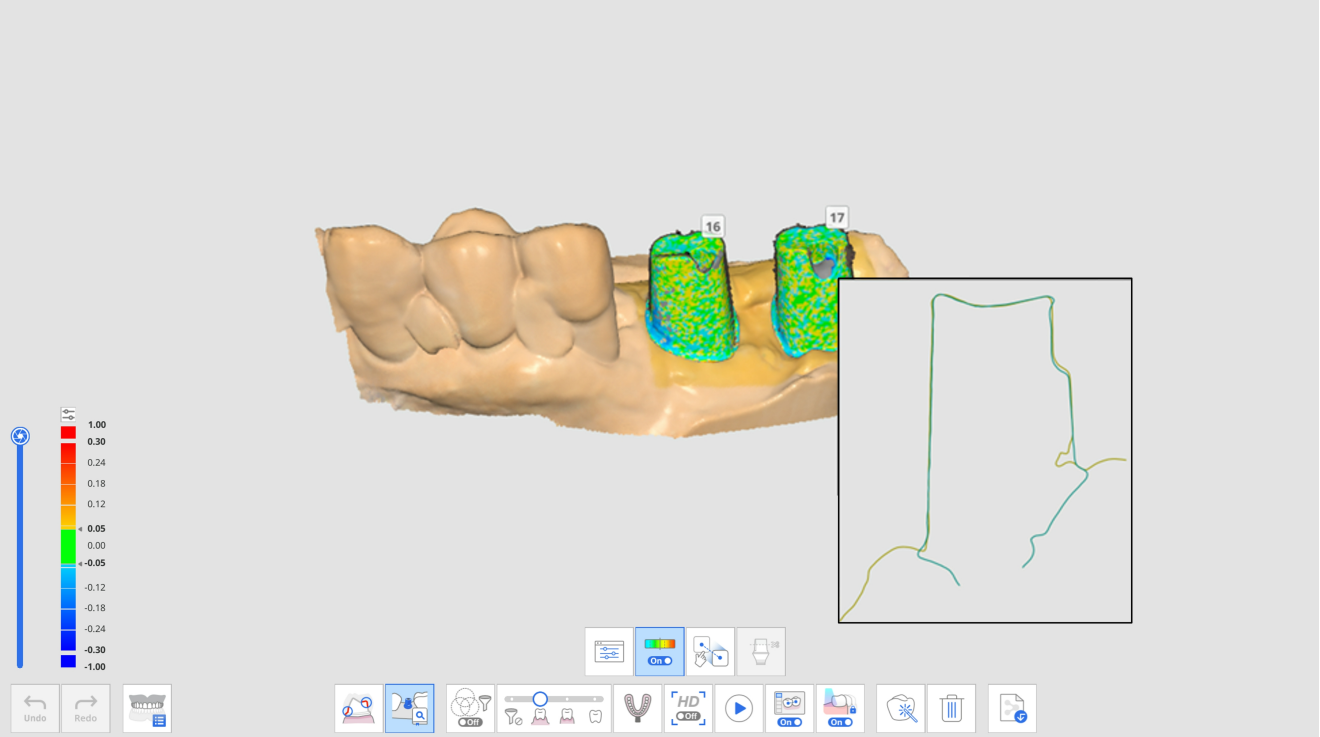
# アバットメントライブラリマッチング

> 🔎**注意**
>
> ライブラリにアバットメントを登録する方法については、ツールおよび機能 > メインツールバーツール > 機能ツール > アバットメント登録を参照してください。
>
> 調整した長さ、角度などでカスタムまたは既製のアバットメントを登録できます。

歯肉下に位置するアバットメントのマージン領域や隣在歯に近すぎる領域など、届きにくい領域のデータを取得する代わりにライブラリを使用できます。 この方法でより正確で簡単にアバットメントのスキャンデータを取得できます。

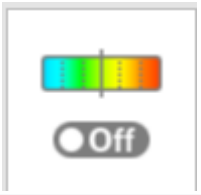


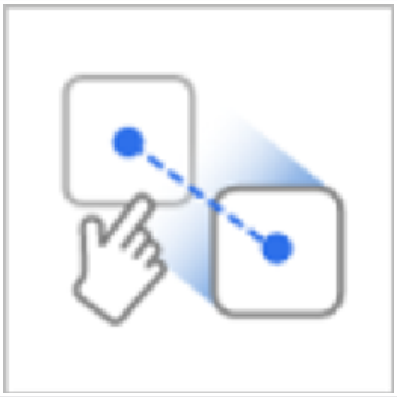

**スキャン済みアバットメントデータ**




**アバットメントライブラリマッチング後のアバットメントデータ**

以下のツールはアバットメントライブラリマッチング機能で提供されます。

| | | |
|---|---|---|
|  | 歯番 | 取得ターゲットのデータ用の各歯番を選択できます。 |
|  | アバットメントライブラリ | 各歯にライブラリデータを割り当て、ライブラリデータを管理します。 |
|  | 偏位の表示/非表示 | カラーマップを使用して整列されたデータ間の誤差を表示または非表示にします。 |

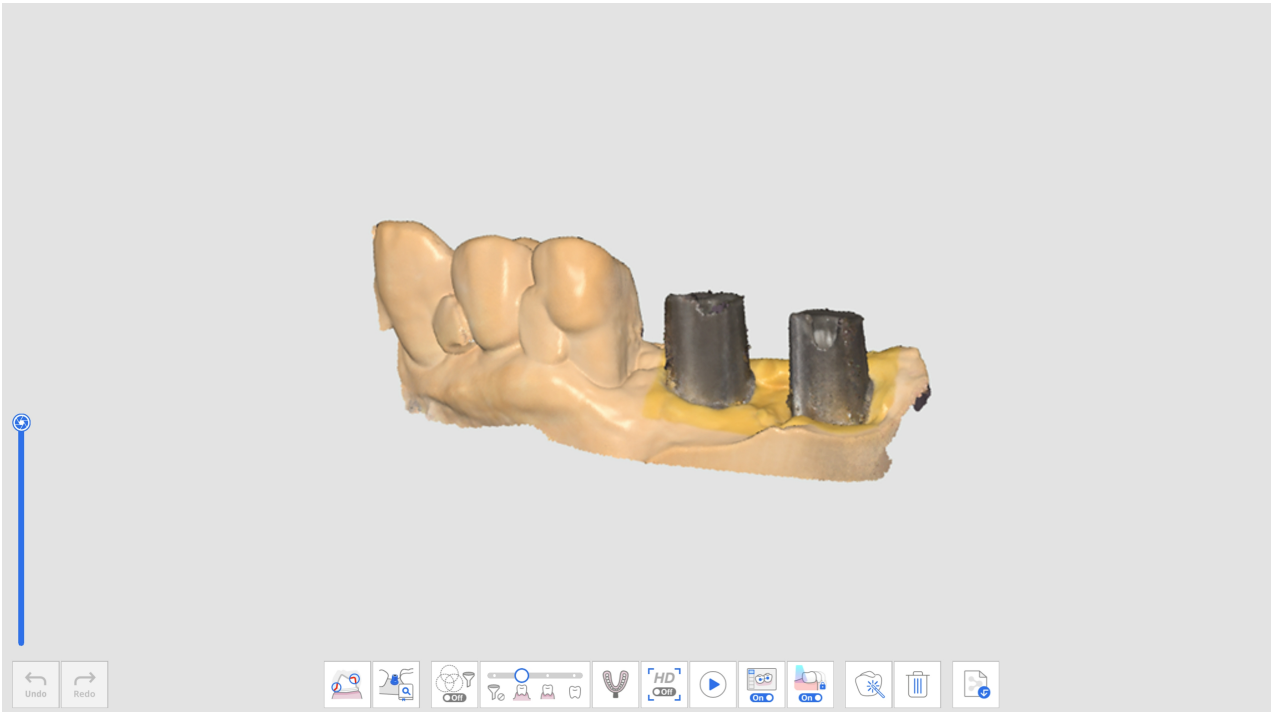
| | | |
|---|---|---|
|  | 手動整列 | ライブラリデータおよびスキャンデータを手動で揃えることができます。<br>1または3点を使用してデータを整列できます。 |
|  | アバットメントの高さを調節 | アバットメントの高さを手動調整し、切ります。 |

# アバットメントライブラリマッチングの使用方法

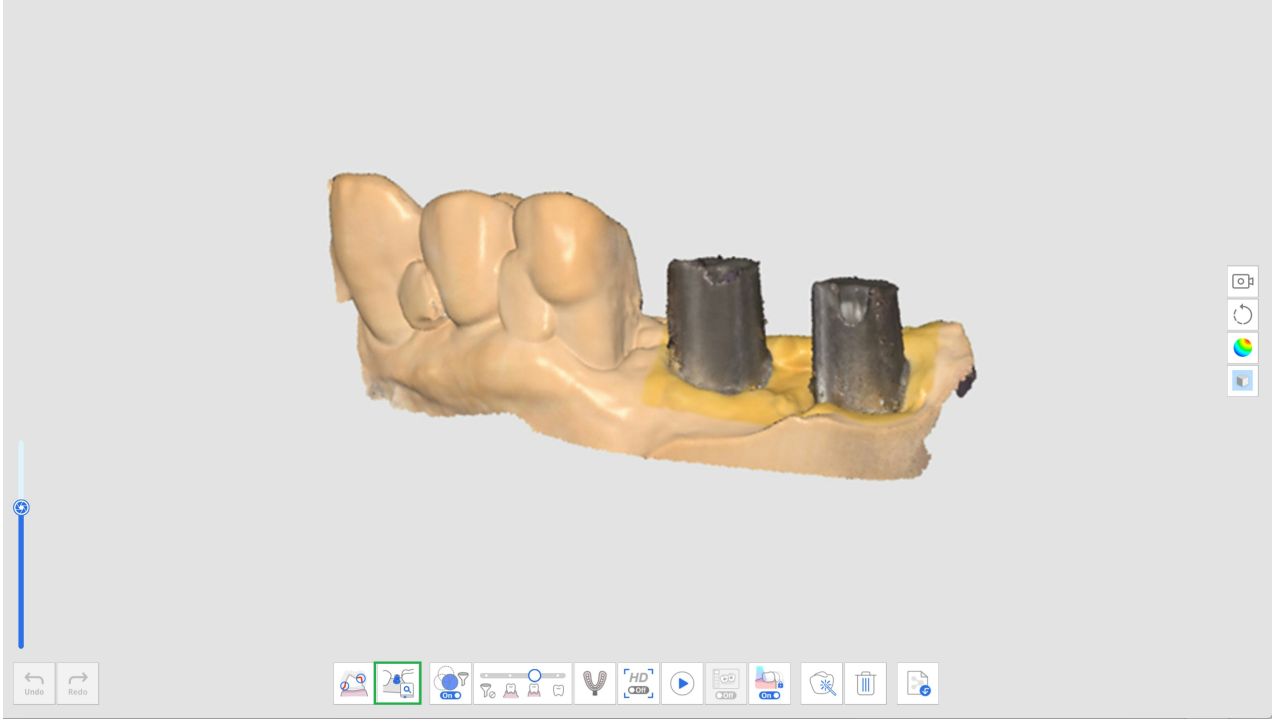
## アバットメントライブラリの割り当て

アバットメントデータをスキャンする前に、希望するライブラリを各歯番に割り当てる必要があります。

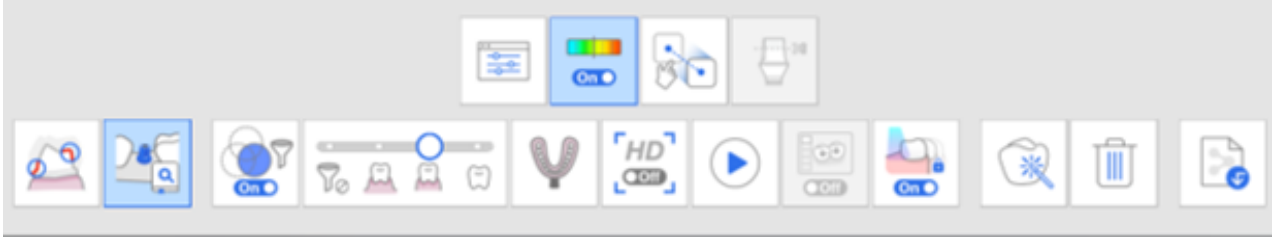
1. 上顎または下顎工程でデータを取得します。



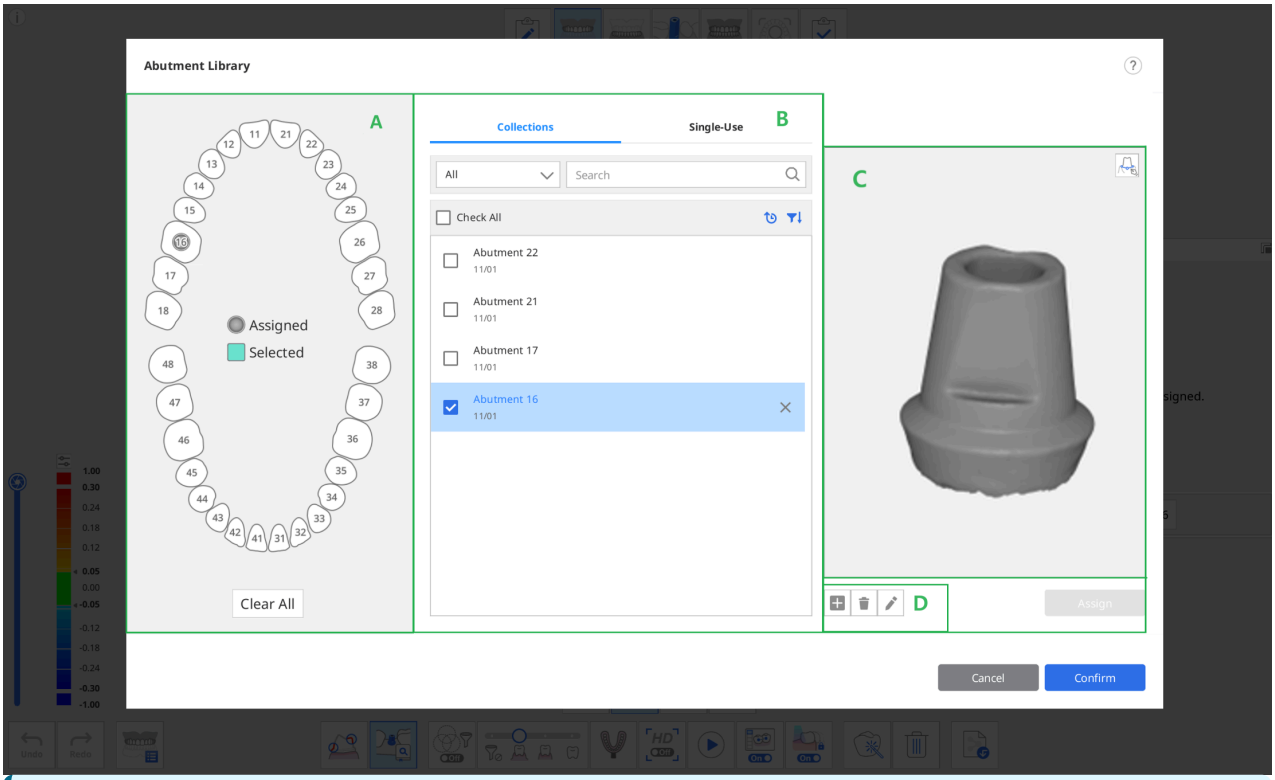

2. 上顎または下顎工程の下部にある「アバットメントライブラリマッチング」ツールアイコンをクリックします。



3. 「アバットメントライブラリ」アイコンをクリックします。



4. 各歯のアバットメントライブラリを定義するために以下のようなダイアログが表示されます。

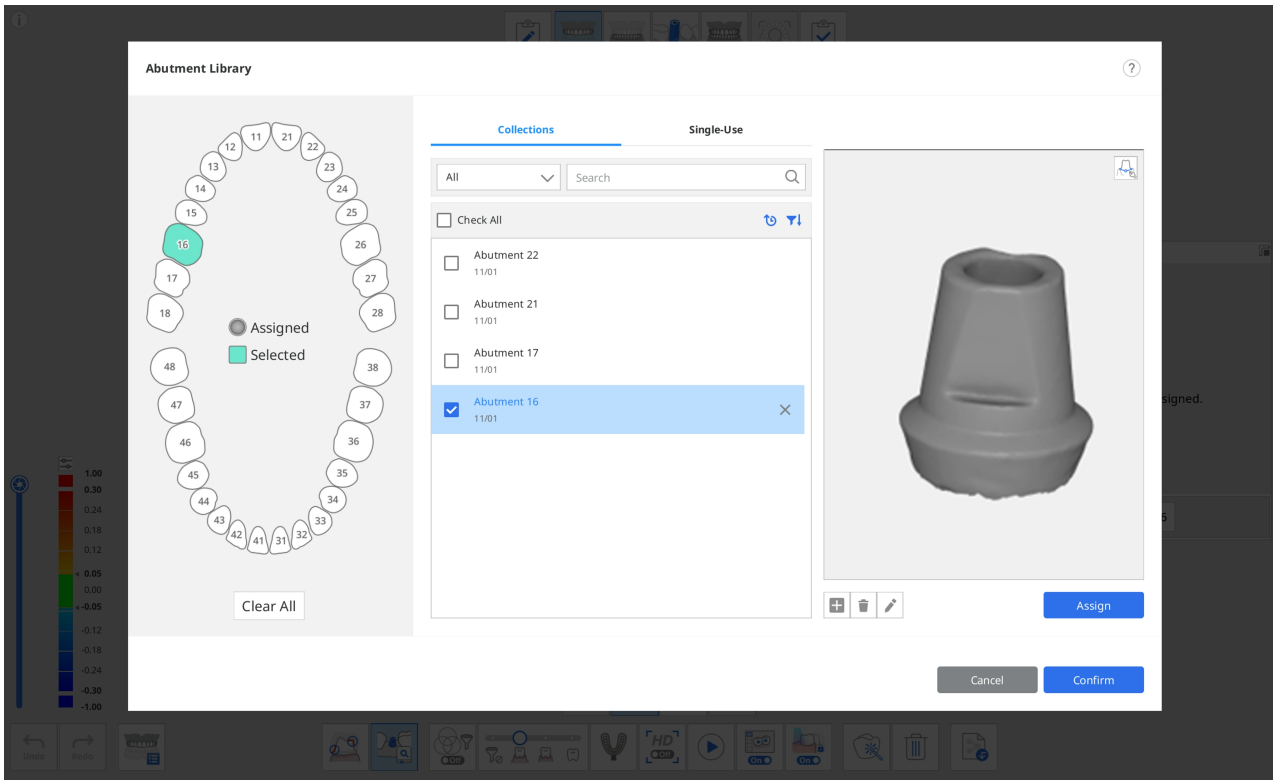



以下の2個のタブは、アバットメントライブラリ選択のためのセクションBで提供されます。

- コレクション：アバットメントライブラリのリストがコレクションとして登録されると、複数のケースで使用を継続できます。

- 1回使用：アバットメントライブラリのリストは1回使用として登録されると、該当のケースでのみ使用できます。

5. 歯を1本または複数の歯をセクションAから選択し、セクションBのライブラリを選択します。
   - プレビュー画像の下にある「＋」ボタンをクリックして新規ライブラリを追加できます。 登録に対応しているファイル形式は、STL、OBJ、PLYです。
   - 画像の下にある「削除」または「編集」をクリックして、選択したケースを削除、またはケース名を編集できます。
6. セクションCの3Dプレビューにある選択済みライブラリを確認します。回転、移動、ズームイン、ズームアウトを実行できます。




7. プレビューの右上部にあるマージンラインアイコンをクリックして、マージンラインと一緒にアバットメントを登録することもできます。

> 🔎**注意**
>
> マージンの引き方についての詳細情報については、ツールおよび機能 > メインツールバーツール > 機能ツール > マージンラインを参照してください。

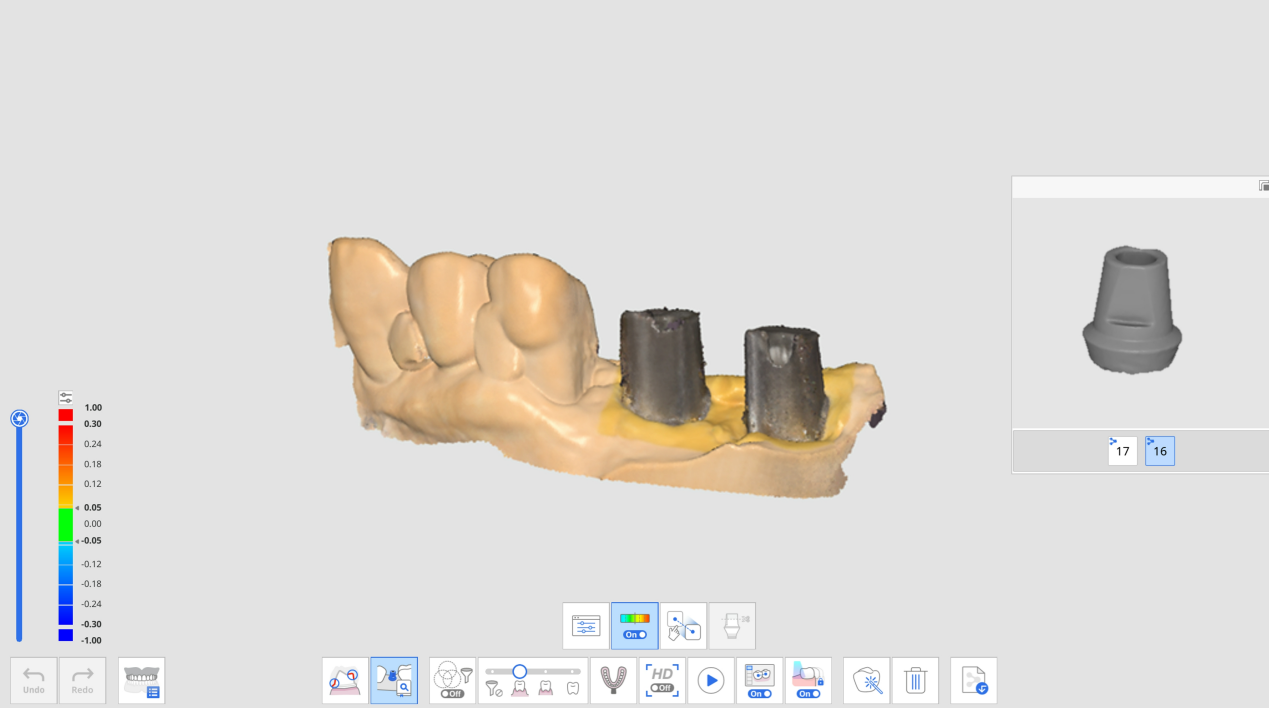
8. 「割り当てる」をクリックし、選択したアバットメントを選択した歯番に割り当てます。
9. すべての必要なライブラリを割り当てたら、「確認」をクリックします。

# アバットメントライブラリの整列

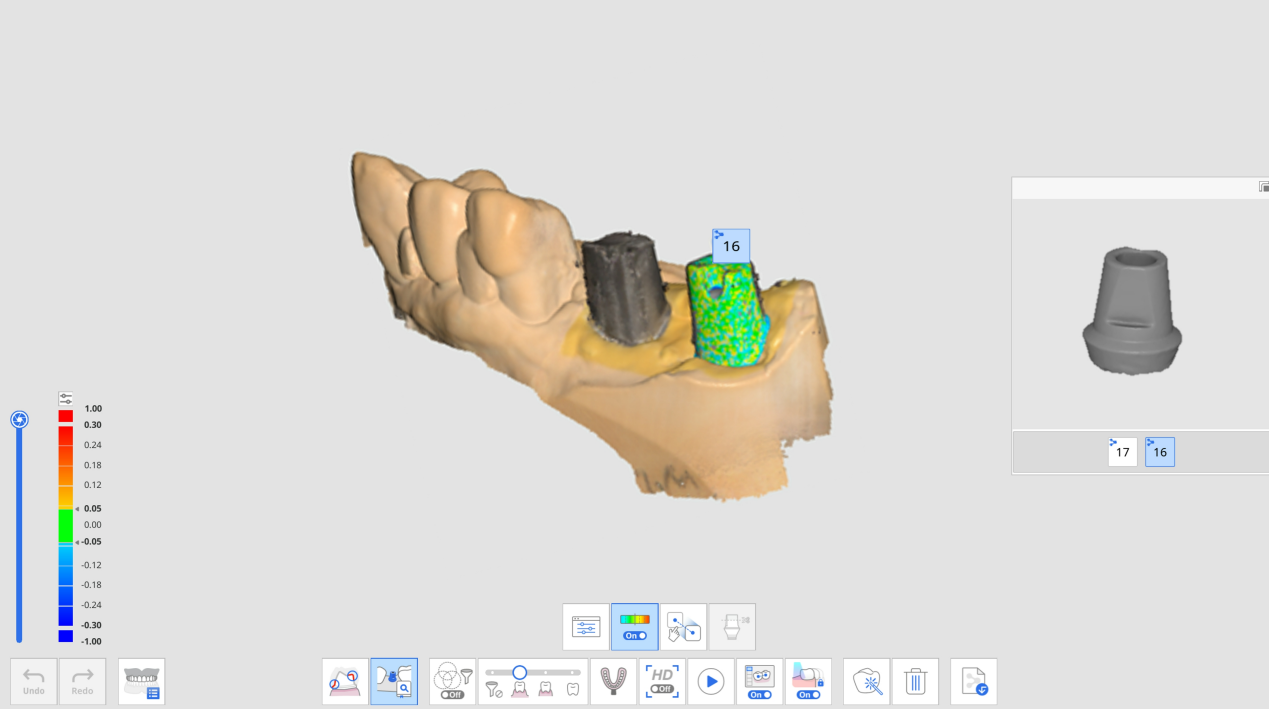
ライブラリを歯番に割り当てると、アバットメントライブラリマッチングはスキャン中にライブラリをスキャンデータに自動で割り当てます。

1. 画面下の「アバットメントライブラリマッチング」ツールをオンにします。

2. データをスキャン中、プログラムは歯番に割り当てたライブラリを取得済みスキャンデータに自動的に揃えようとします。



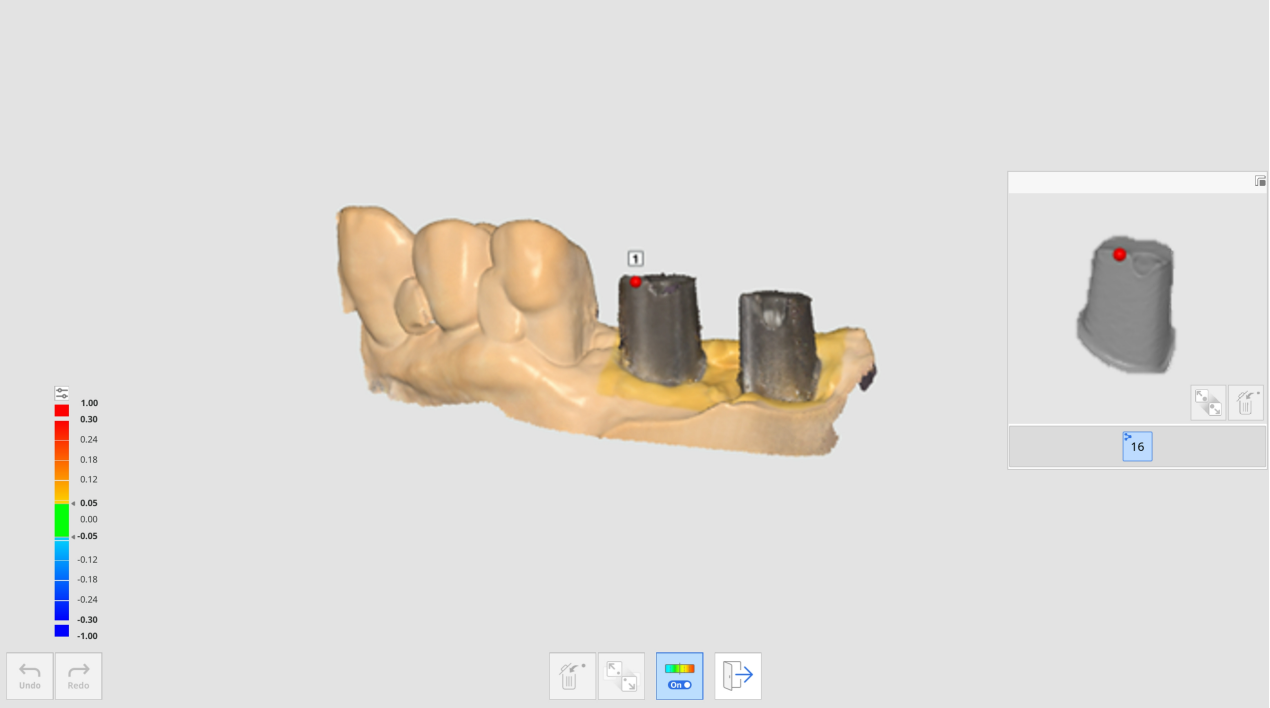

3. アバットメントライブラリが整列されると、カラーマップを通してスキャンデータとライブラリの偏位を確認できます。




4. もっとアバットメントライブラリを整列ためには、プレビューの別の歯番を選択して繰り返します。
5. スキャン後に、スキャン中に自動整列されていたいずれのライブラリも手動で揃えることができます。
6. 「手動整列」アイコンをクリックします。



7. ライブラリプレビューとスキャンデータの選択した歯番のライブラリデータ上の対応する整列点を1〜3個クリックします。

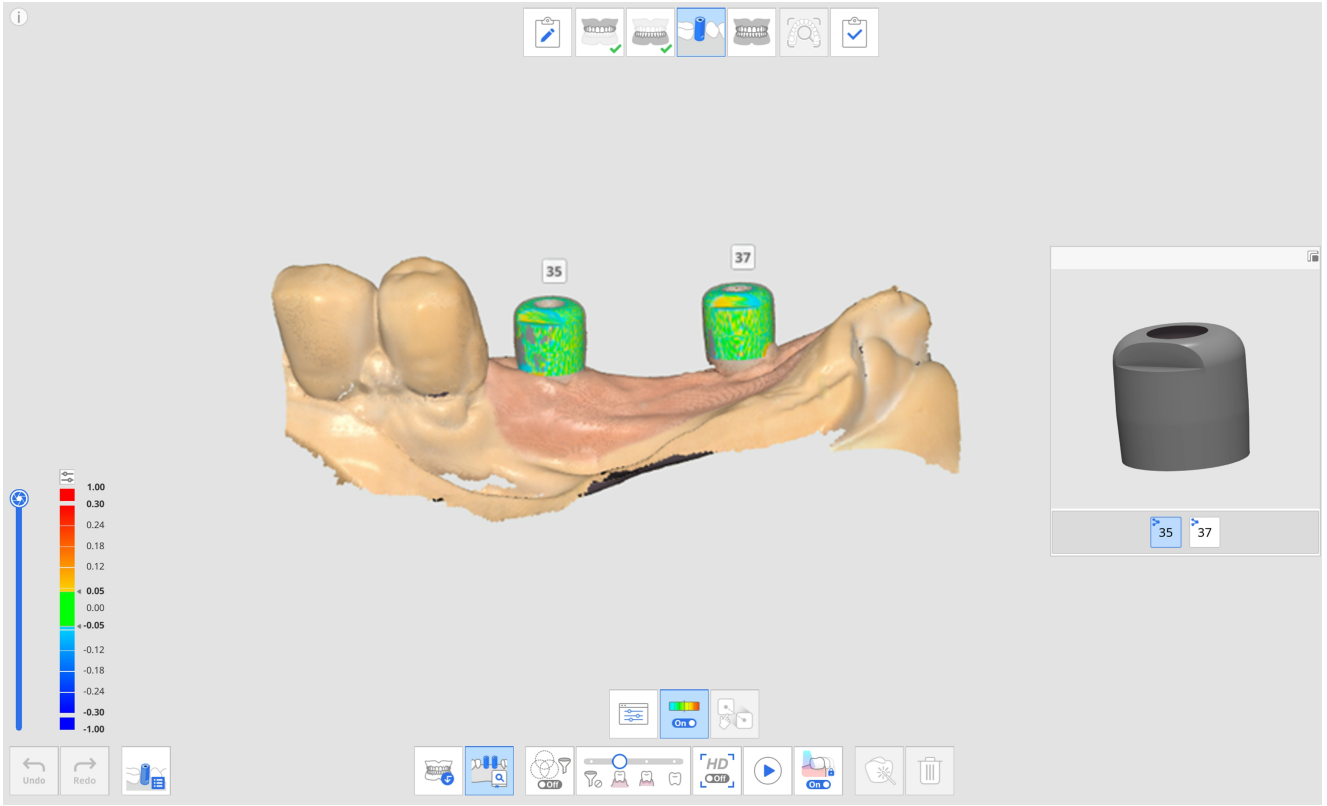



8. 手動整列が完了したら、「終了」をクリックして、整列したライブラリを確認します。
9. 一緒に固定したときに各アバットメントが接触している場合、下部にある「ライブラリ整列用のデータグループ」アイコンを使用できます。 この機能を使用して、スキャンデータを取得して新しいデータグループを作成し、各歯番に割り当てられたアバットメントライブラリを整列できます。

# スキャンボディライブラリマッチング

スキャンボディライブラリマッチング機能は、狭いインプラント領域や金属スキャンボディの材料などのスキャンがしづらい領域がある場合に便利です。

インプラント治具に固定してスキャンボディをスキャンすることで、インプラントの位置と方向を正確に再現するようにスキャンボディデータをライブラリデータと入れ替えることができます。




以下のツールはスキャンボディライブラリマッチング機能で提供されます。

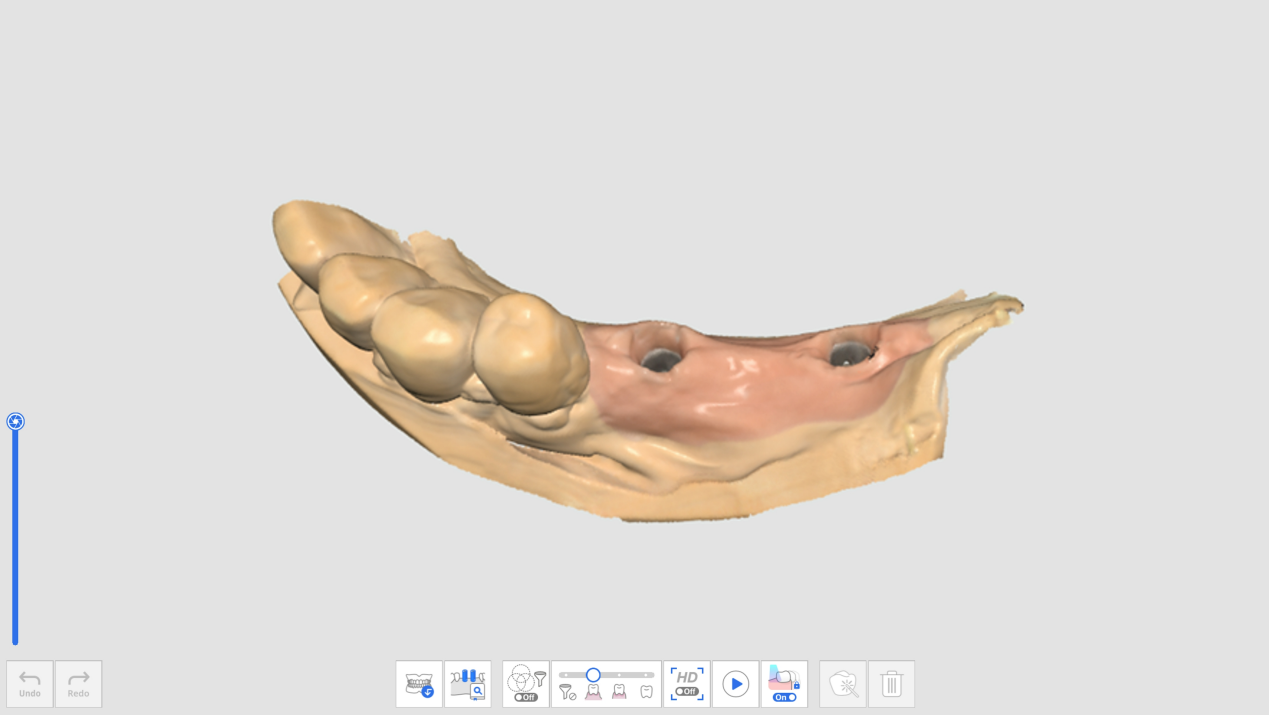
| | | |
|---|---|---|
|  | 歯番 | 取得ターゲットのデータ用の各歯番を選択できます。 |
|  | スキャンボディライブラリ | 各歯にライブラリデータを割り当て、ライブラリデータを管理します。 |
|  | 偏位の表示/非表示 | カラーマップを使用して整列されたデータ間の誤差を表示または非表示にします。 |
|  | 手動整列 | ライブラリデータおよびスキャンデータを手動で揃えることができます。<br>1または3点を使用してデータを整列できます。 |

# スキャンボディライブラリマッチングの使用方法

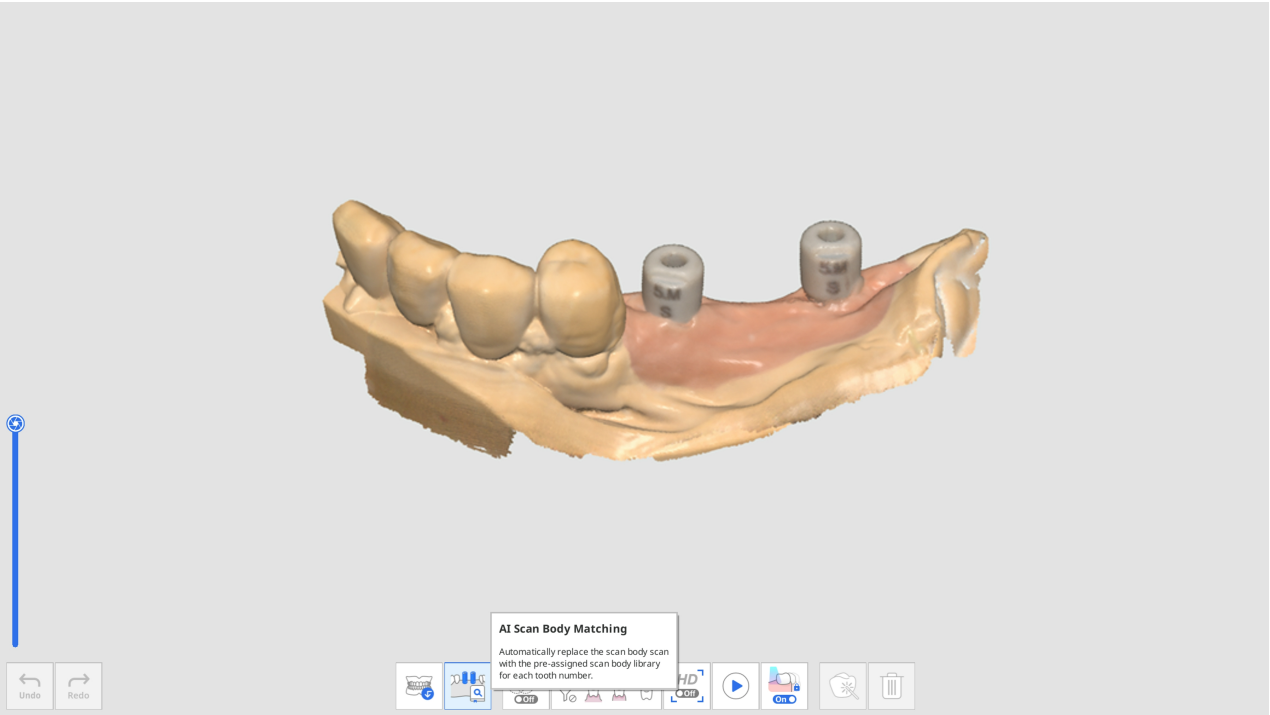
## スキャンボディライブラリを割り当てる

スキャンボディデータをスキャンする前に、希望するライブラリを各歯番に割り当てる必要があります。

1. スキャンボディを固定する前に上顎または下顎工程のデータを取得します。



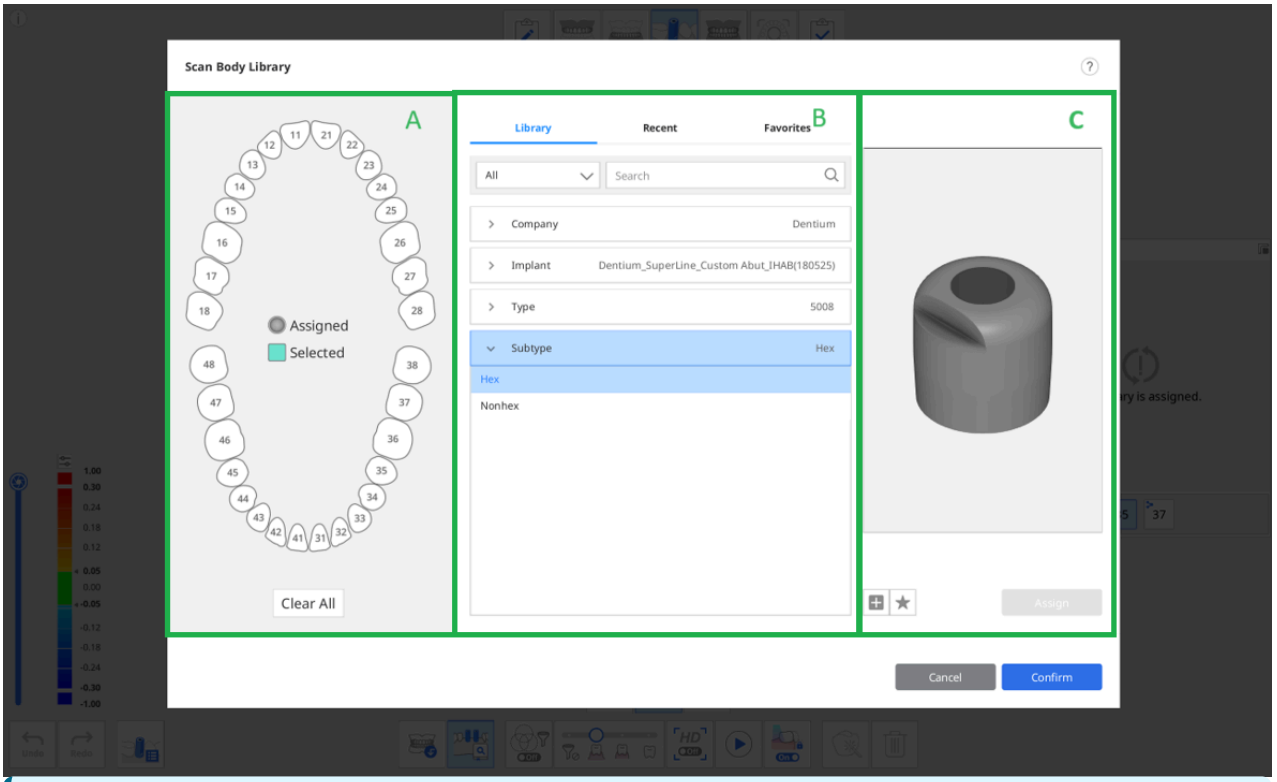

2. スキャンボディ工程に移動し、スキャンボディを固定後にスキャンデータを取得します。
3. 画面下の「スキャンボディライブラリマッチング」ツールアイコンをクリックします。




4. 「スキャンボディライブラリ」アイコンをクリックします。



5. 各歯のスキャンボディライブラリを定義するために以下のようなダイアログが表示されます。



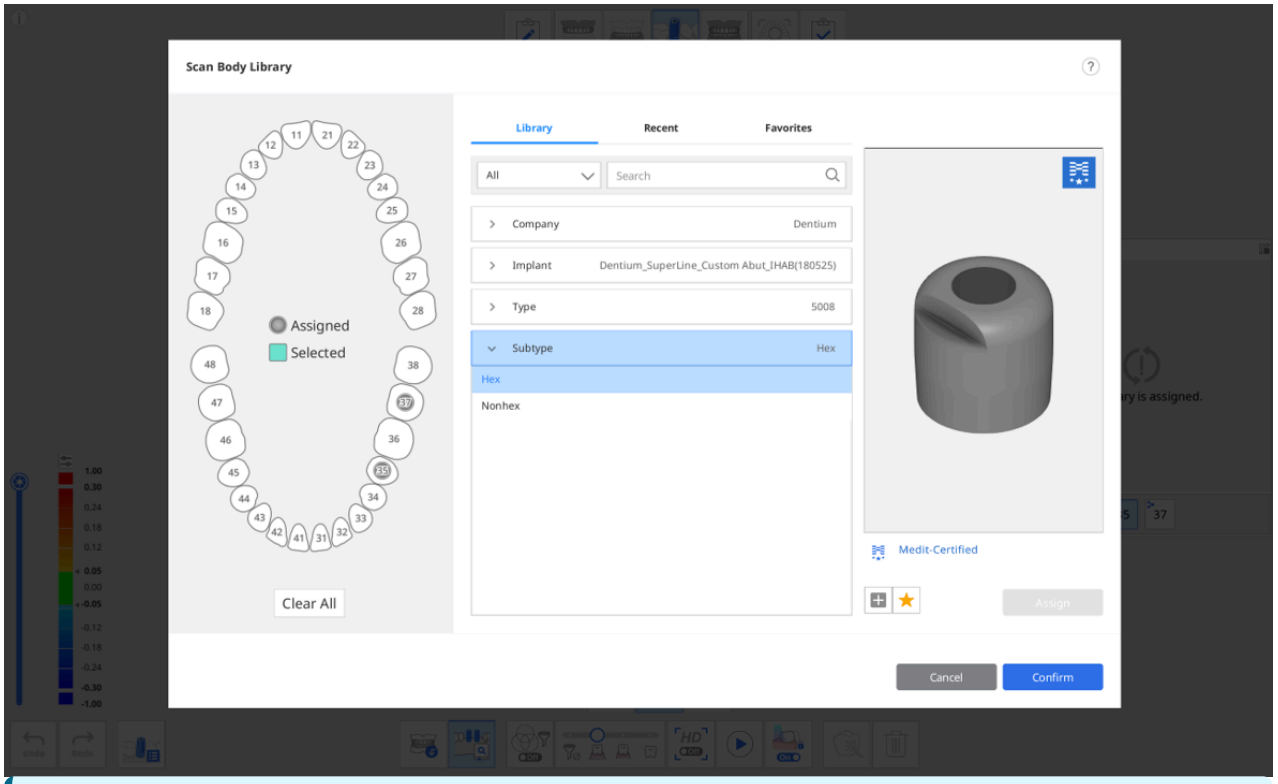

以下の3個のタブは、スキャンボディライブラリ選択のためのセクションBで提供されます。

- ライブラリ：登録されたすべてのスキャンボディライブラリには、会社名、インプラント、タイプ、サブタイプが記載されています。 スキャンボディライブラリの名前を入力して検索できます。
- 最終：最後に使用したスキャンボディライブラリには使用日が表示されます。
- お気に入り：星印付きでスキャンボディライブラリが表示されます。 プレビュー画像の下にある「お気に入りに追加」をクリックすると、簡単にお気に入りタブにスキャンボディライブラリを追加できます。

6. 1本または複数の歯をセクションAから選択し、割り当てるためにセクションBのライブラリを選択します。

下の「＋」ボタンをクリックして、新しいライブラリを追加して画像をプレビューできます。 登録に対応しているファイル形式は、STL、OBJ、PLYです。

7. 3Dプレビューで選択したライブラリを確認します。 回転、移動、拡大、縮小できます。




**Medit認定済み**

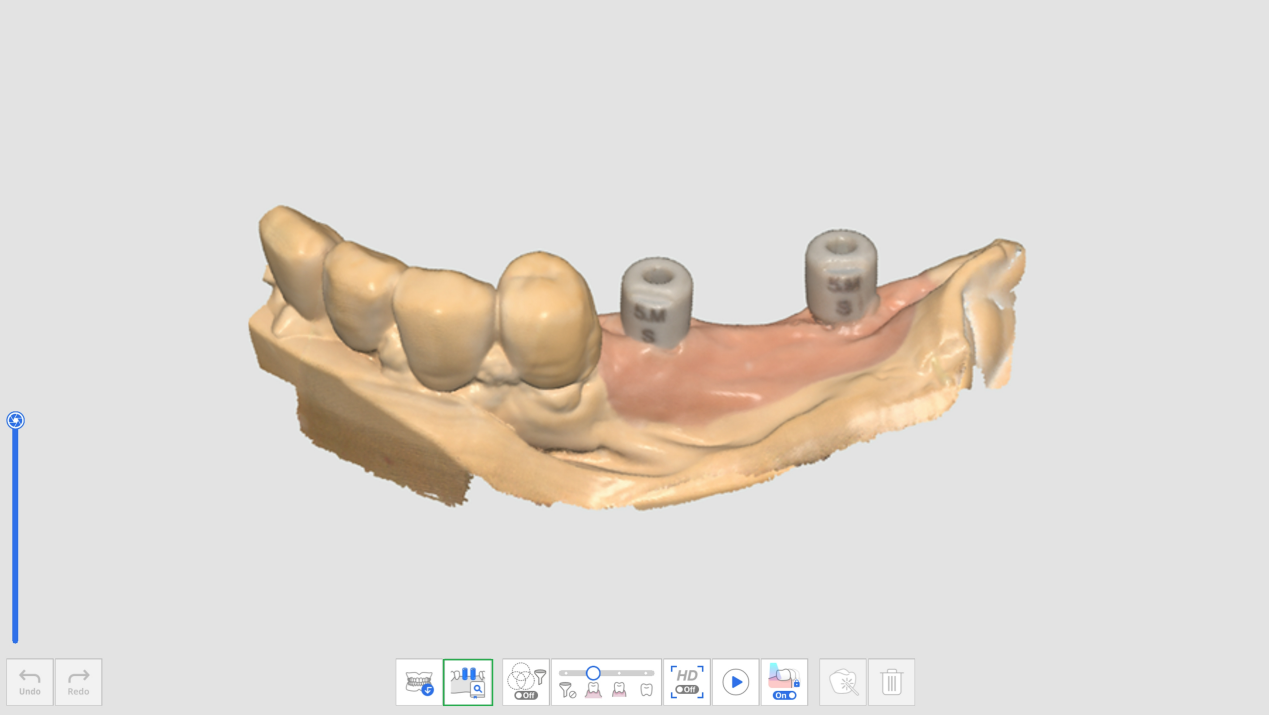
右上隅にMeditロゴが記されたスキャンボディライブラリは、スキャンボディ製造者の処理や材料が原因のスキャンエラーの影響を最小限に抑えるためにスキャンボディライブラリ整列用に最適なアルゴリズムが適用されています。

8. 「割り当てる」をクリックし、選択したスキャンボディを歯番に割り当てます。
9. すべての必要なライブラリを割り当てたら、「確認」をクリックします。

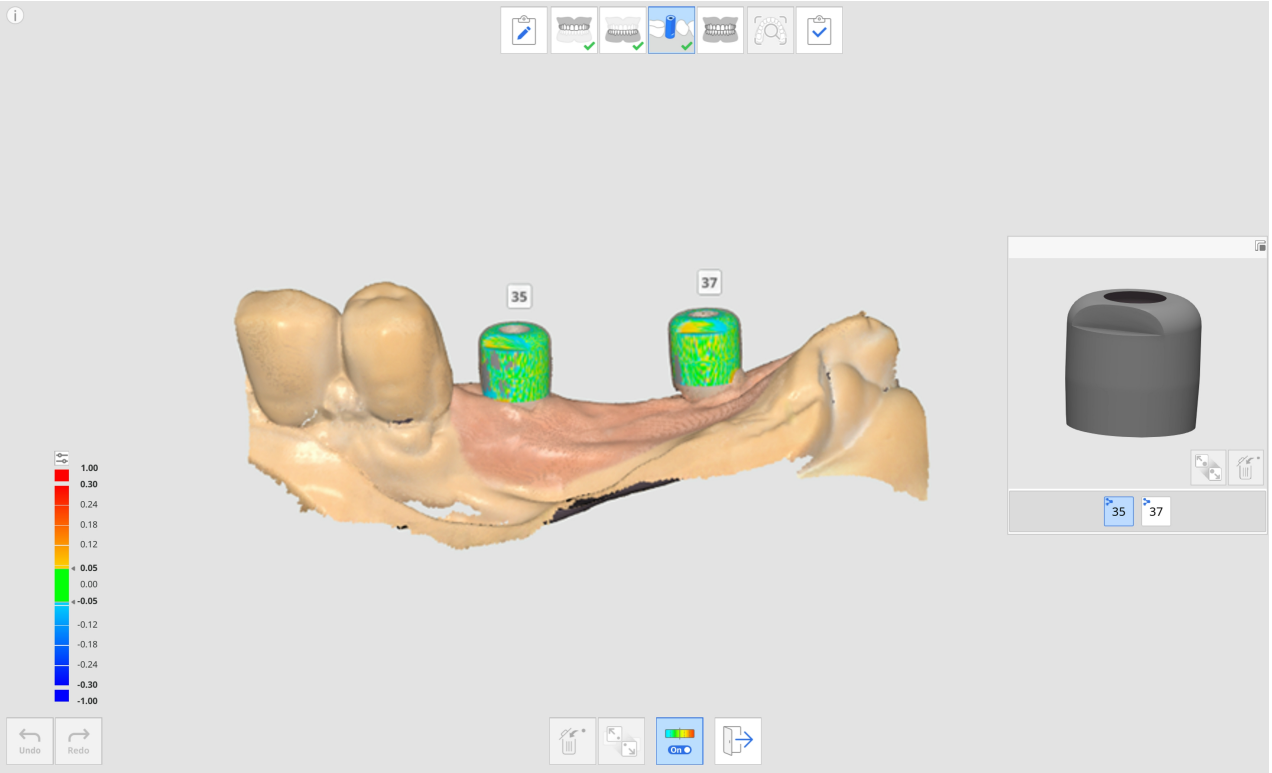
## スキャンボディライブラリ揃える

ライブラリを歯番に割り当てると、スキャンボディライブラリマッチングはスキャン中にライブラリを取得済みデータに自動で揃えます。

1. 画面下の「スキャンボディライブラリマッチング」ツールをオンにします。



2. スキャンボディデータをスキャン中、プログラムは歯番に割り当てたライブラリを取得済みスキャンデータに自動的に揃えようとします。
3. スキャンボディライブラリが整列されると、カラーマップを通してスキャンデータとライブラリの偏位を確認できます。




4. もっとスキャンボディライブラリを整列するためには、プレビューの別の歯番を選択して繰り返します。
5. スキャン後に、スキャン中に自動整列されていたいずれのライブラリも手動で揃えることができます。
6. 「手動整列」アイコンをクリックします。



7. ライブラリプレビューとスキャンデータの選択した歯番のライブラリデータ上の対応する整列点を1〜3個クリックします。
8. 手動整列が完了したら、「終了」をクリックして、整列したライブラリを確認します。
9. 一緒に固定したときに各スキャンボディが近すぎる場合、下部にある「ライブラリ整列用のデータグループ」アイコンを使用できます。 この機能を使用して、スキャンデータを取得して新しいデータグループを作成し、各歯番に割り当てられたスキャンボディライブラリを揃えることができます。

# 支台歯確認

以下の製品がMedit Linkフォームに登録されている場合のみ、「支台歯確認」アイコンが表示されます。

- クラウン
- ポンティック
- ポスト & コア
- インプラントクラウン
- ポスト & コアとクラウン
- ポスト & コアとコーピング

支台歯確認アイコンは、上顎と下顎工程の下部に位置し、各工程で十分なスキャン画像が取得されている場合に有効となります。



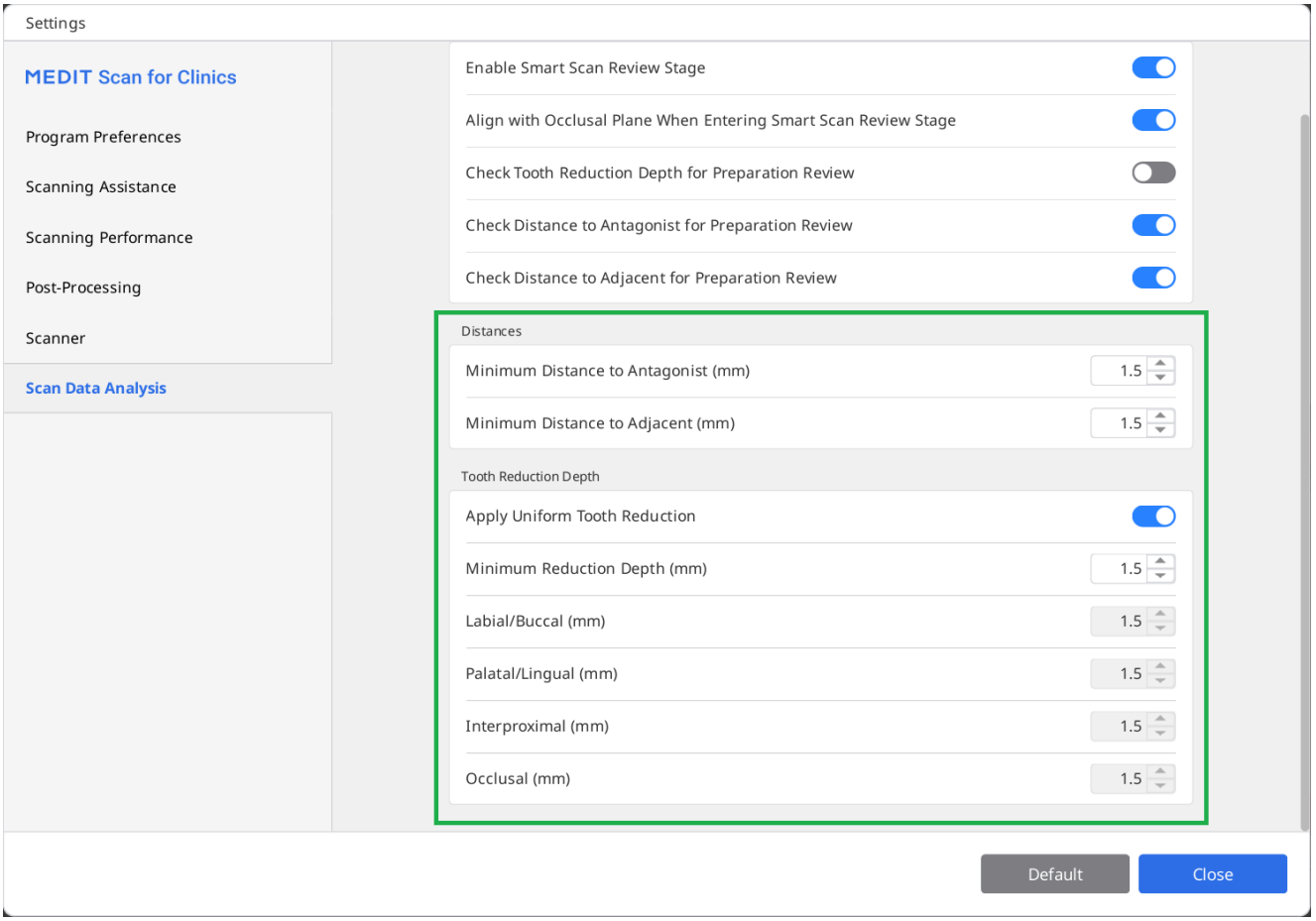
以下のツールは、支台歯確認機能で利用できます。

| | | | |
|---|---|---|---|
|  | 支台歯確認の設定 | | 支台歯確認用のオプションを設定します。 これにより、歯の削除が不十分な場合、決定するために基準値を入力できます。 |
|  | 挿入パス | | 支台歯データで選択した領域用に挿入パスを計算します。 |
|  | 埋入方向を自動で設定 | | アンダーカット領域が最小化される方向を自動的に計算して表示します。 |
|  | 埋入方向を手動で設定 | | ユーザーの視点からの方向で挿入パスを計算し、表示します。 |
|  | 距離 | | 設定値と比較して歯の削除が不十分な領域をマークします。 |
| |  | 歯の削除深度 | 施術前データと比較して歯の削除量を表示します。<br>* このツールを使用するには、施術前データが存在し、支台歯データと整列されている必要があります。 |
| |  | 対合歯までの距離 | 咬合整列データに基づいて支台歯とその対合歯間の距離を表示します。<br>* このツールを使用するには、対合歯と咬合データが存在し、咬合データが整列されている必要があります。 |
| |  | 隣接歯までの距離 | 支台歯とその対合歯間の距離を表示します。<br>* このツールは支台歯データでのみ利用できます。 |

# 支台歯確認ツールの使用法

## 支台歯確認の設定

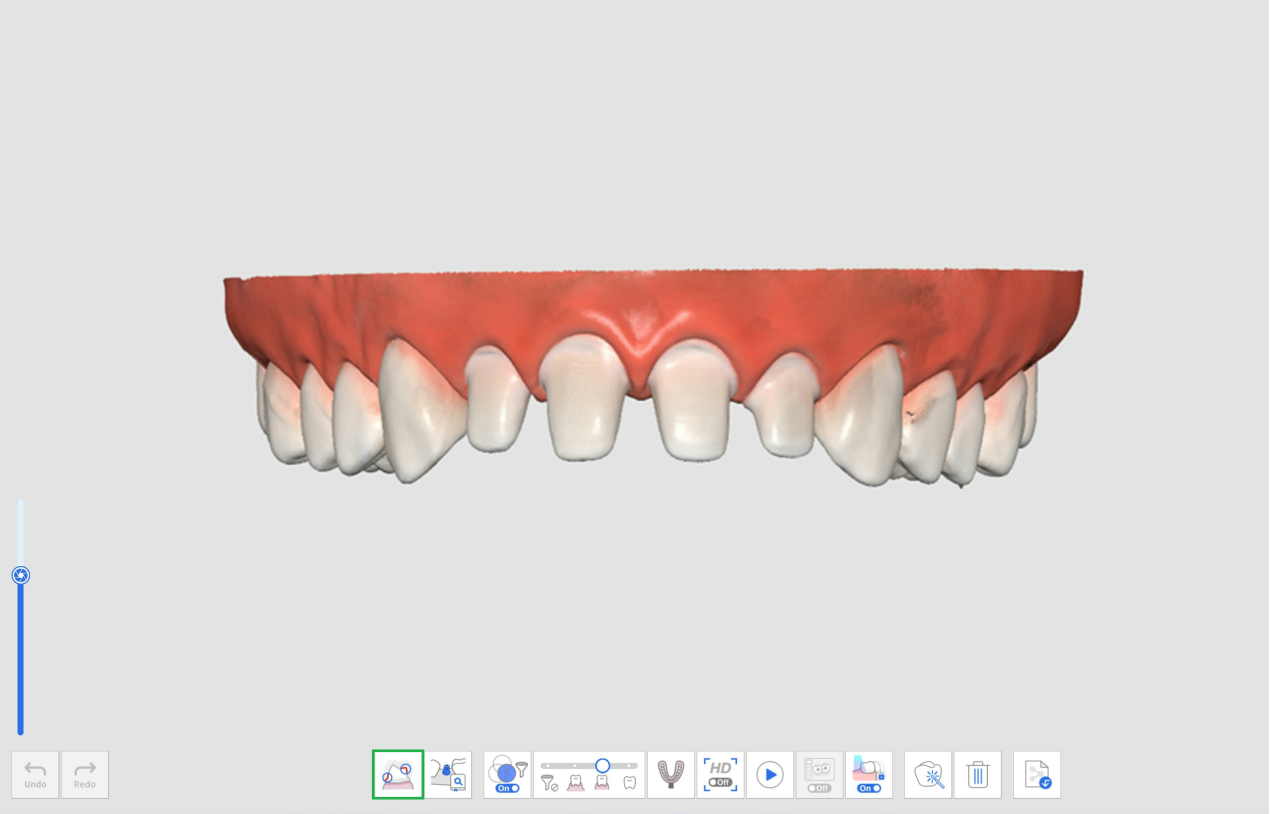
支台歯確認を開始する前に、支台歯確認の設定での機能のためにオプションと基準値を設定できます。



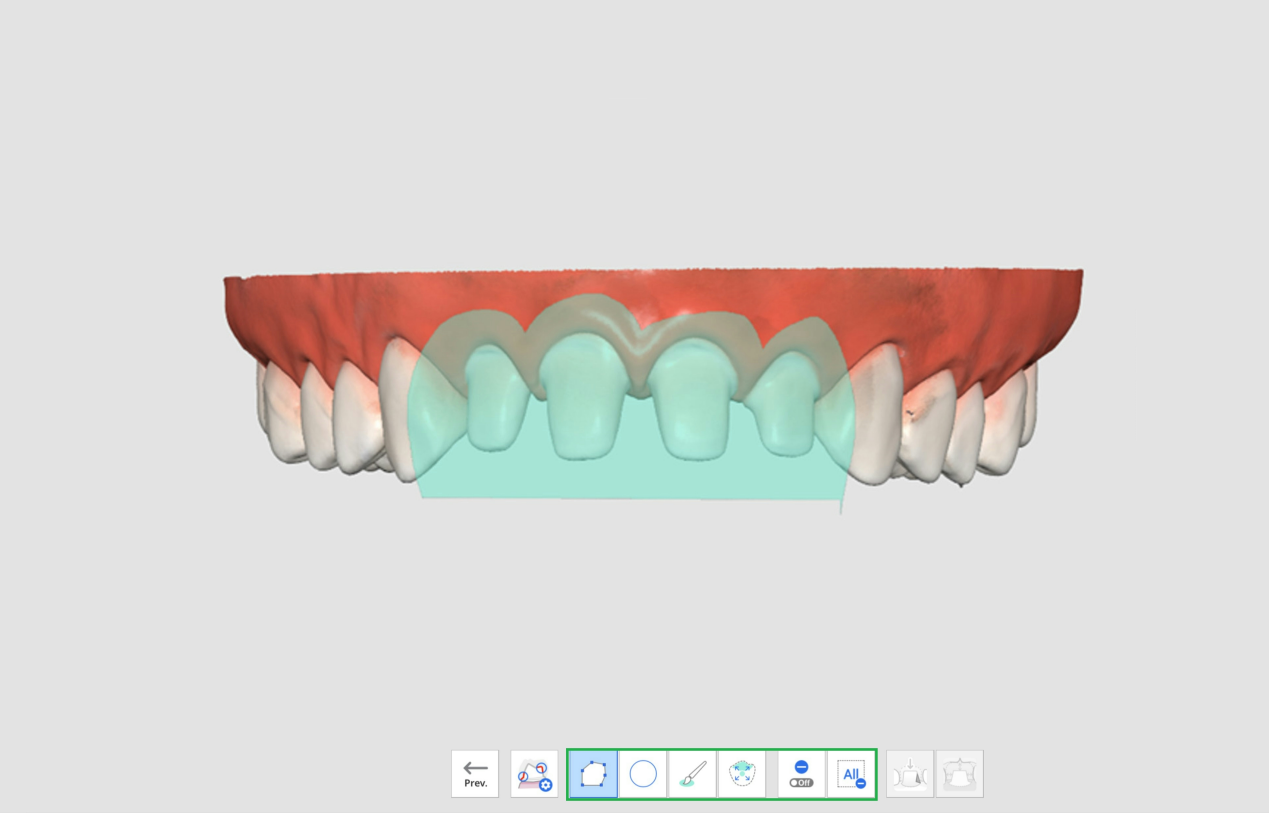

設定ダイアログでは、対合歯までの距離、隣在歯までの距離、歯の削除深度の最小値を入力でき、治療や補綴物製作のための支台歯の基準値を設定できるようにします。

## 支台歯確認ツールの活用

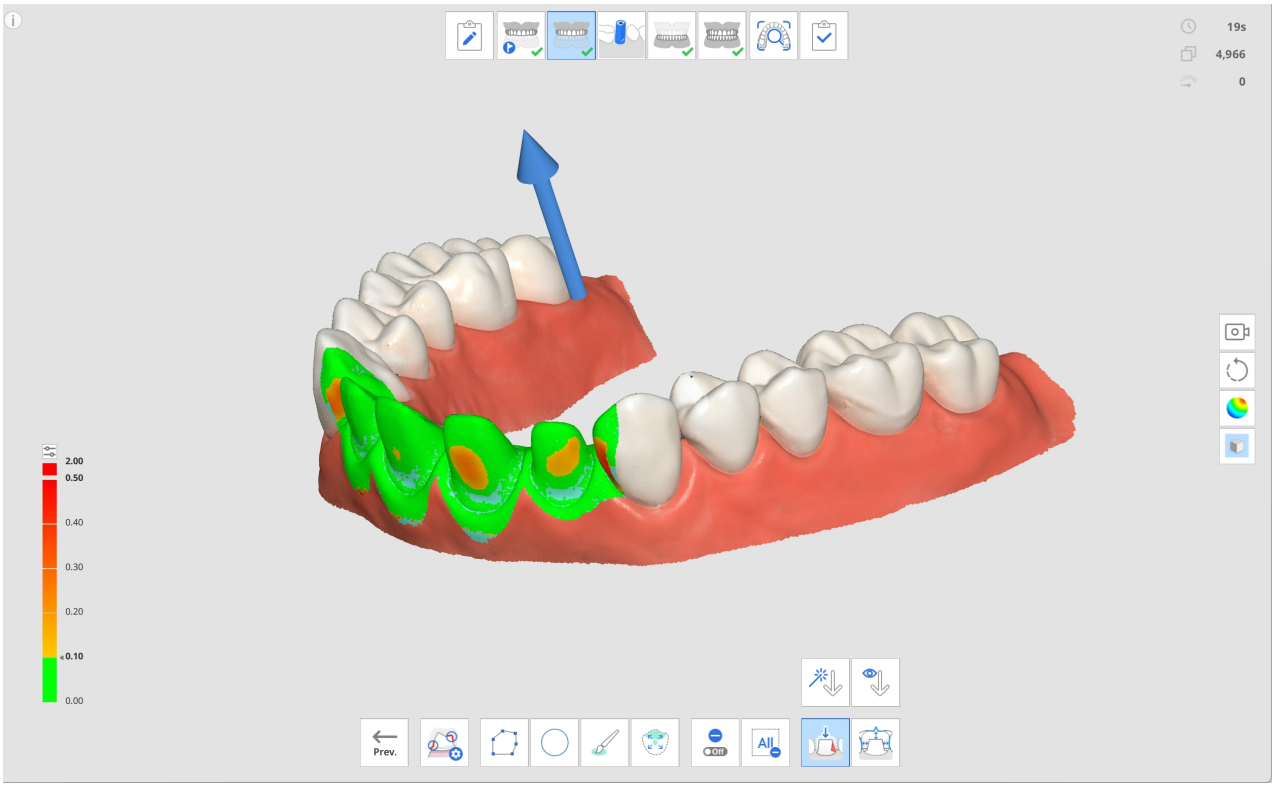
1. 上顎または下顎工程でスキャンデータを取得し、支台歯確認アイコンをクリックします。



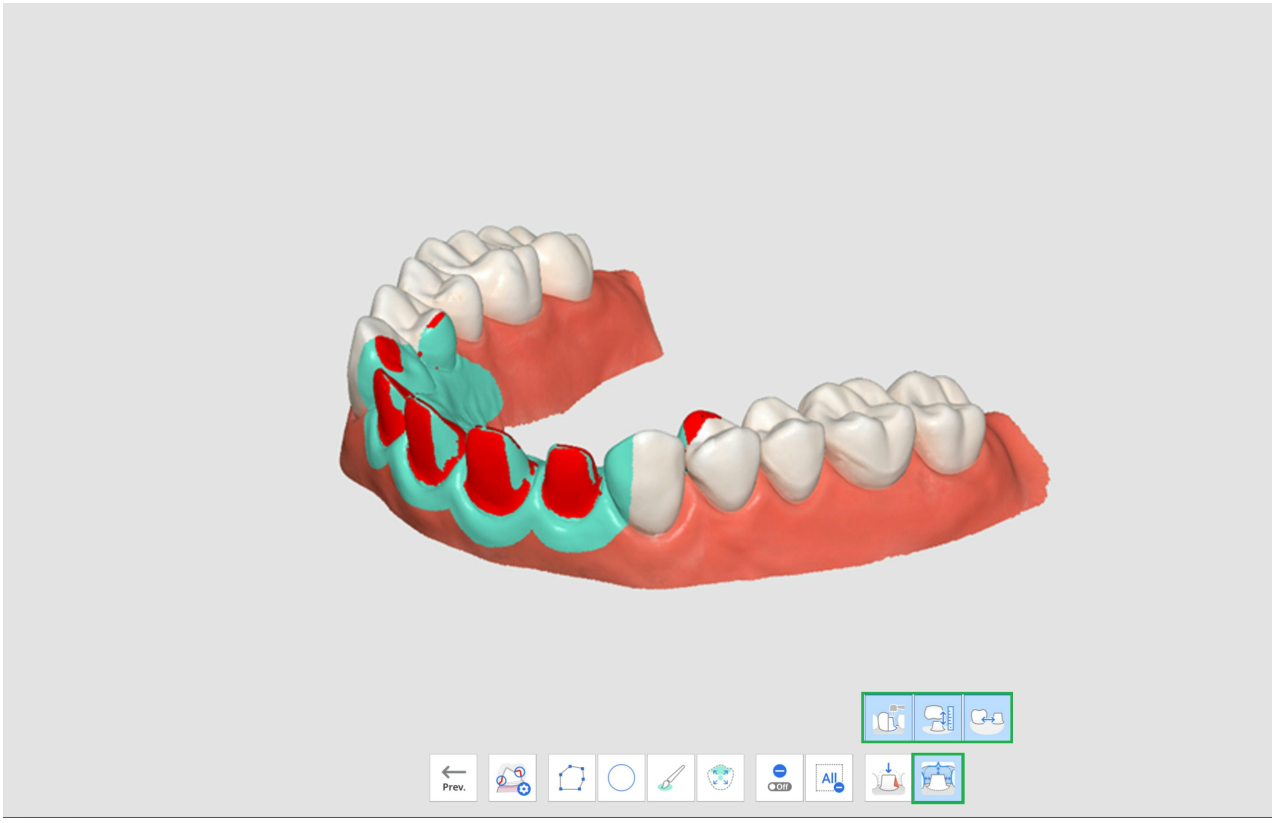

2. 領域選択ツールを使用して支台歯データ上の領域を選択します。



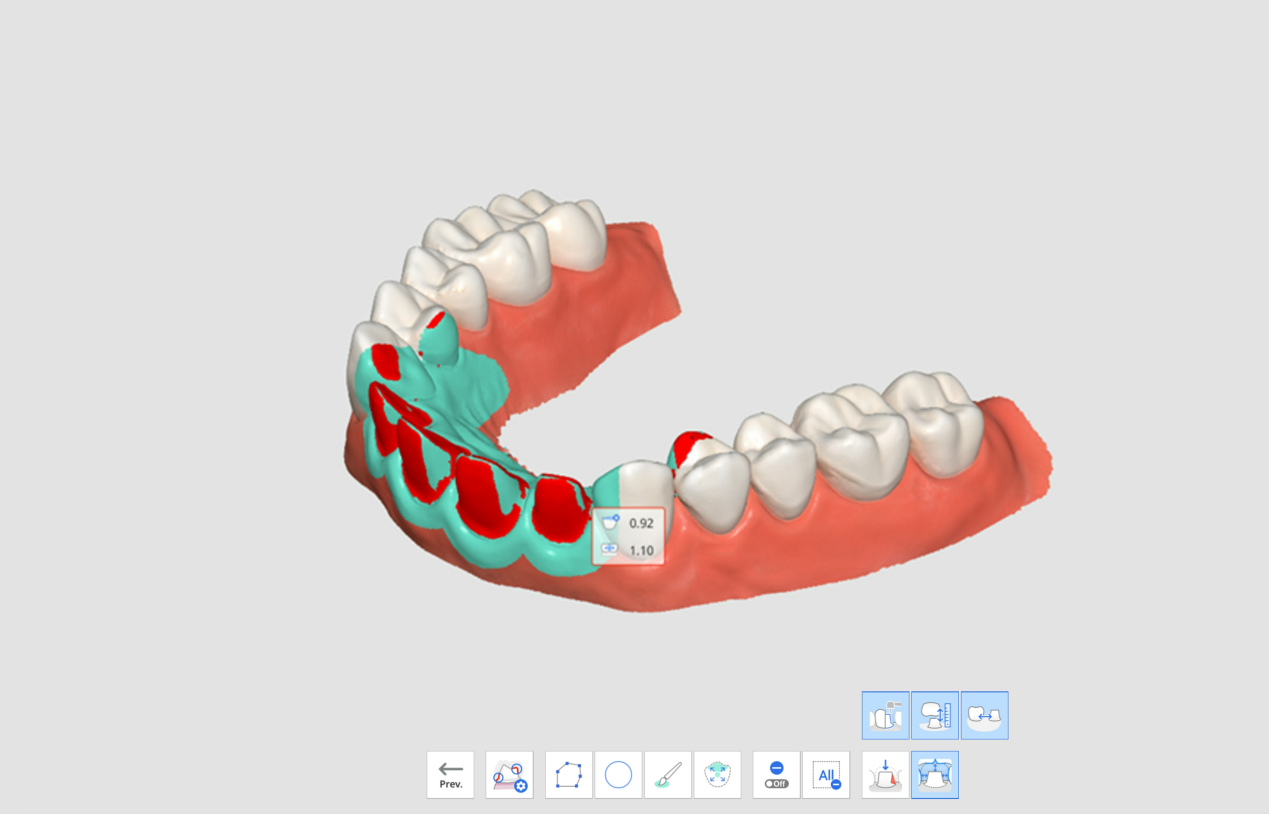

3. 挿入パスアイコンをクリックすると、挿入パスは、アンダーカット領域が最小限になる方向で自動作成されます。



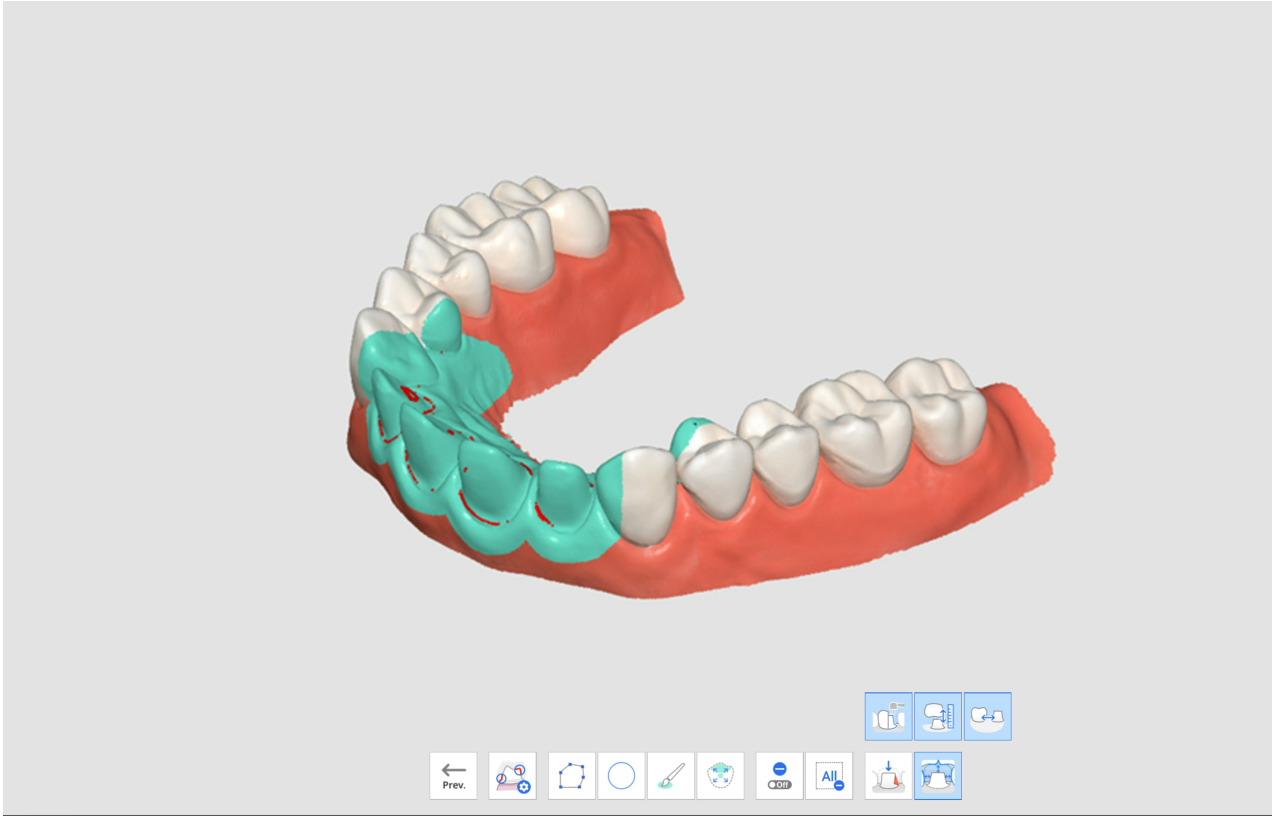

4. 矢印をクリック・ドラッグ、または手動の方向ツールを使用して、挿入方向を変更できます。 挿入パスに基づき、アンダーカット領域はデータ上に表示されます。
5. 距離アイコンをクリックし、以下のツールのうち一つを選択します。
    - 歯の削除深度
    - 対合歯までの距離
    - 隣接歯までの距離
6. スキャンデータ中の歯の削除が不十分な領域は赤色で表示されます。




7. 赤色の領域にマウスを合わせると、不十分な部分の画像とその値が表示されます。

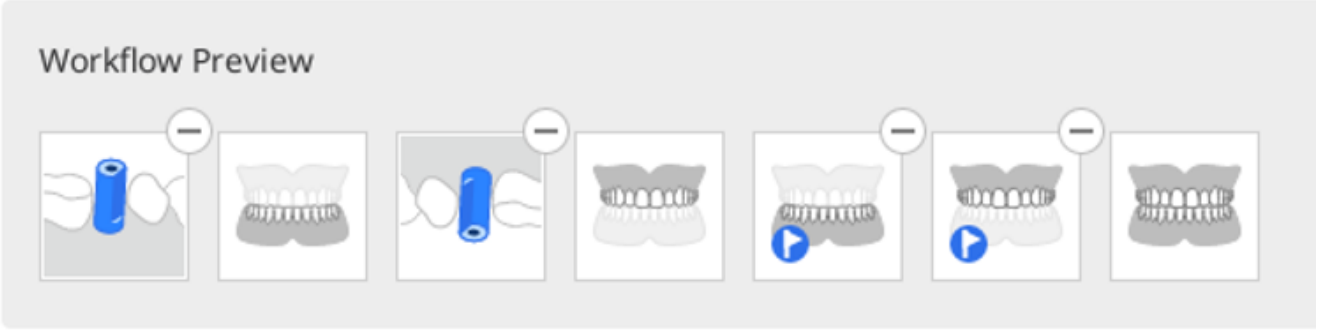



8. 表示されている値を使用して、追加の支台歯が必要かどうか、どの程度削除するかどうかを計画できます。
9. 支台歯追加後に、領域をトリミングし、追加のスキャンデータを取得できます。 次に、最終確認のために再度、支台歯確認を行うことができます。



# Medit SmartXワークフロー

Medit SmartXワークフローは、オールオンX治療ケースのスキャン処理の効率化と最適化のために設計された連続するスキャン工程です。オールオンX治療ケースでは、完全な無歯顎の患者の限られた数のインプラントの土台の配置や補綴物の追加製作が必要になります。デフォルトのワークフローでは、スキャンボディとアーチのスキャンから下に示されているような施術前データと咬合データまでユーザーをガイドします。

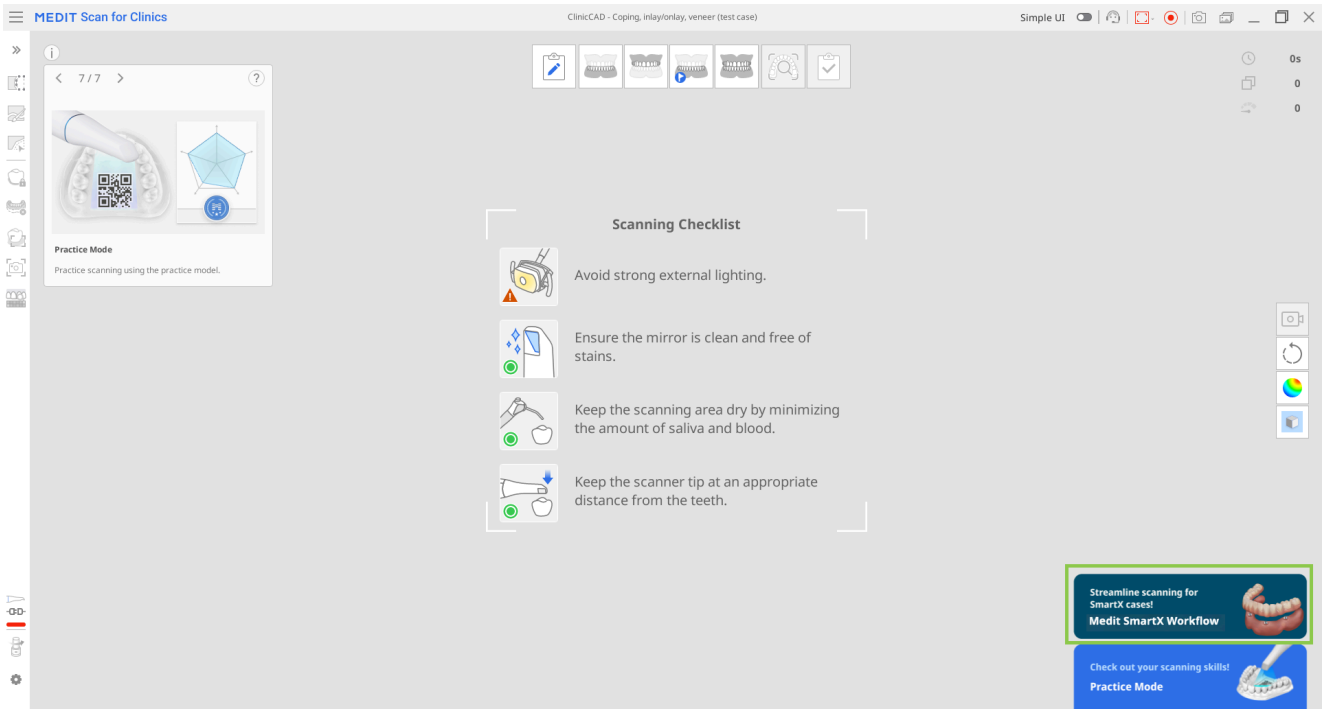



- デフォルトのワークフローが推奨されますが、必要に応じて、工程を並べ替えたり、削除したり、置き換えたりしてカスタマイズできます。
- Medit SmartXワークフローは、簡易UIモードでも使用できます。

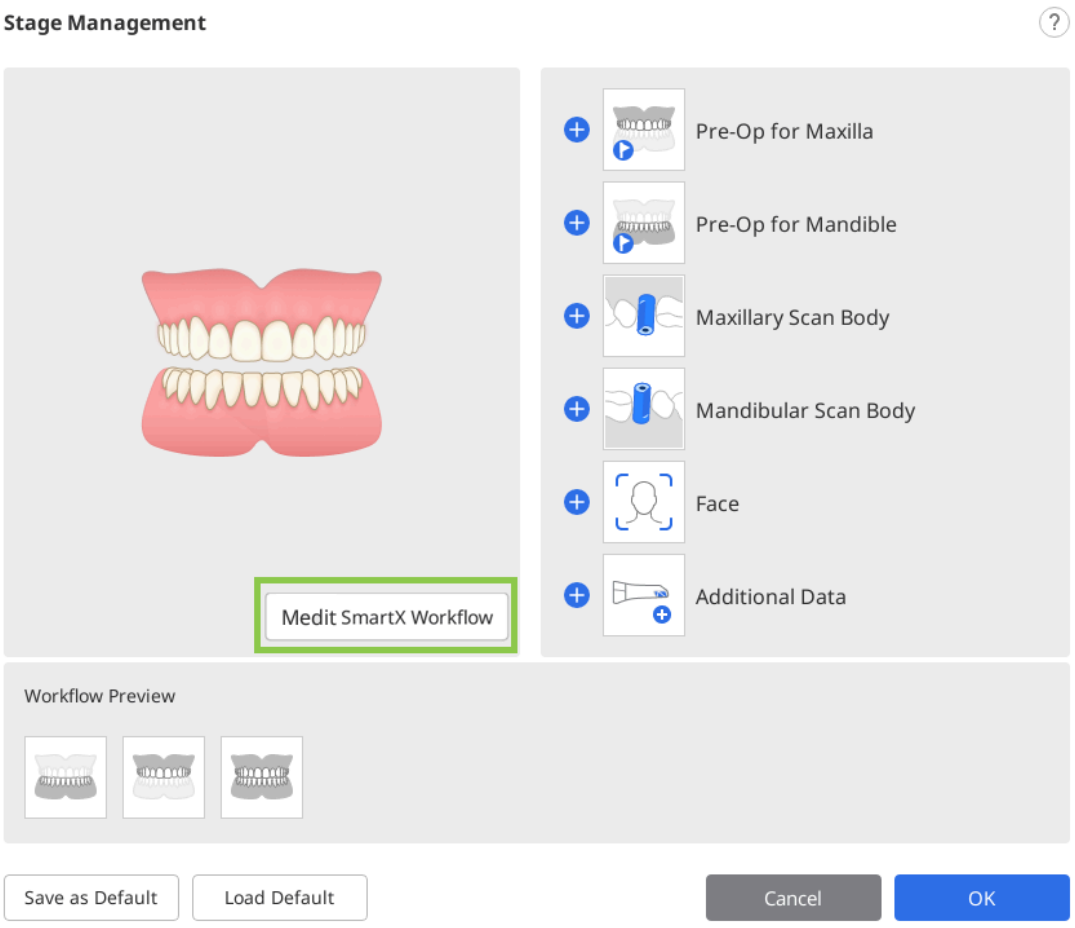
> 🔎**注意**
>
> - 1つの歯列弓で作業する場合には、スキャンボディ工程でのデータ取得をスキップできます。
> - この機能は、IEスキャナーモデルではサポートされていません。

## Medit SmartXワークフローの開始方法

Medit SmartXワークフローで作業を開始するには、2とおりの方法があります。 1つは、概要画面の右下隅にあるバナーから開始する方法です。




2つ目は、工程管理の「Medit SmartXワークフロー」ボタンをクリックする方法です。

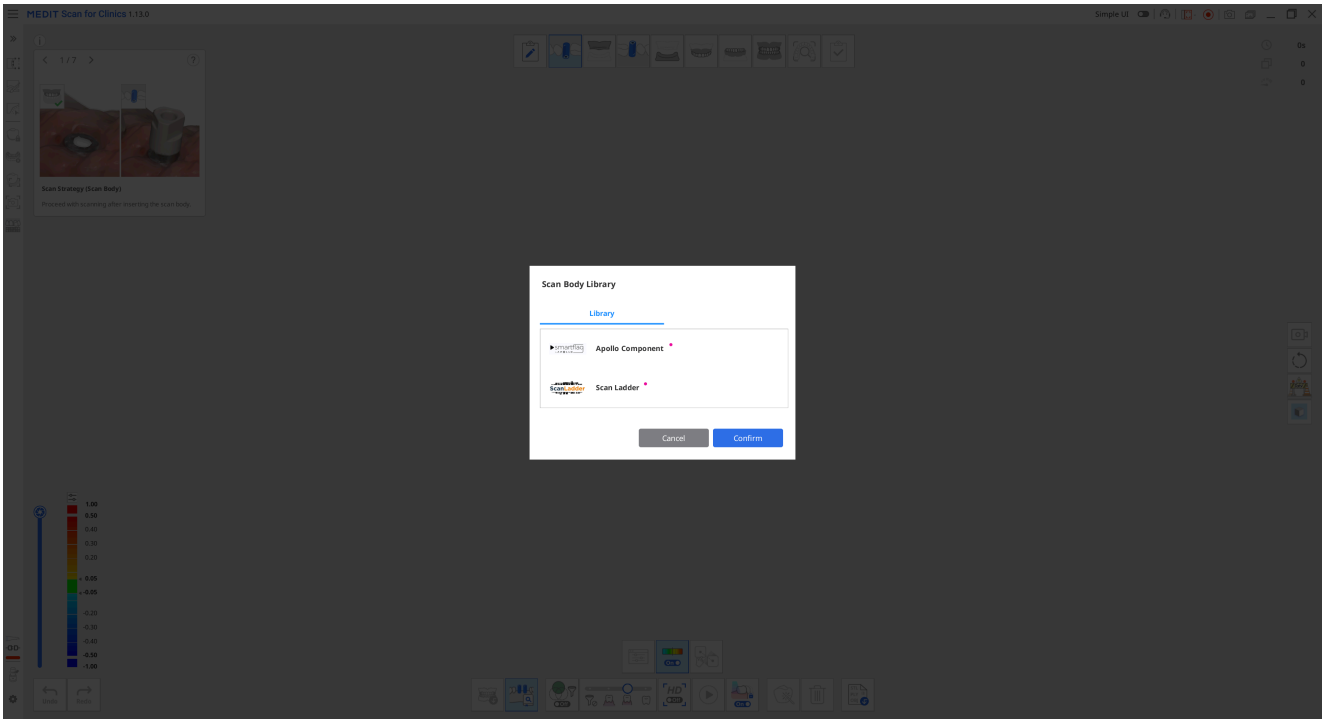



> ⚠️**注意**
>
> 「Medit SmartXワークフロー」の開始前のスキャン工程で収集したデータはすべて失われます。

スキャンシークエンスに入ると、ユーザーはスキャン処理についての紹介と説明のガイドメッセージで迎え入れられます。

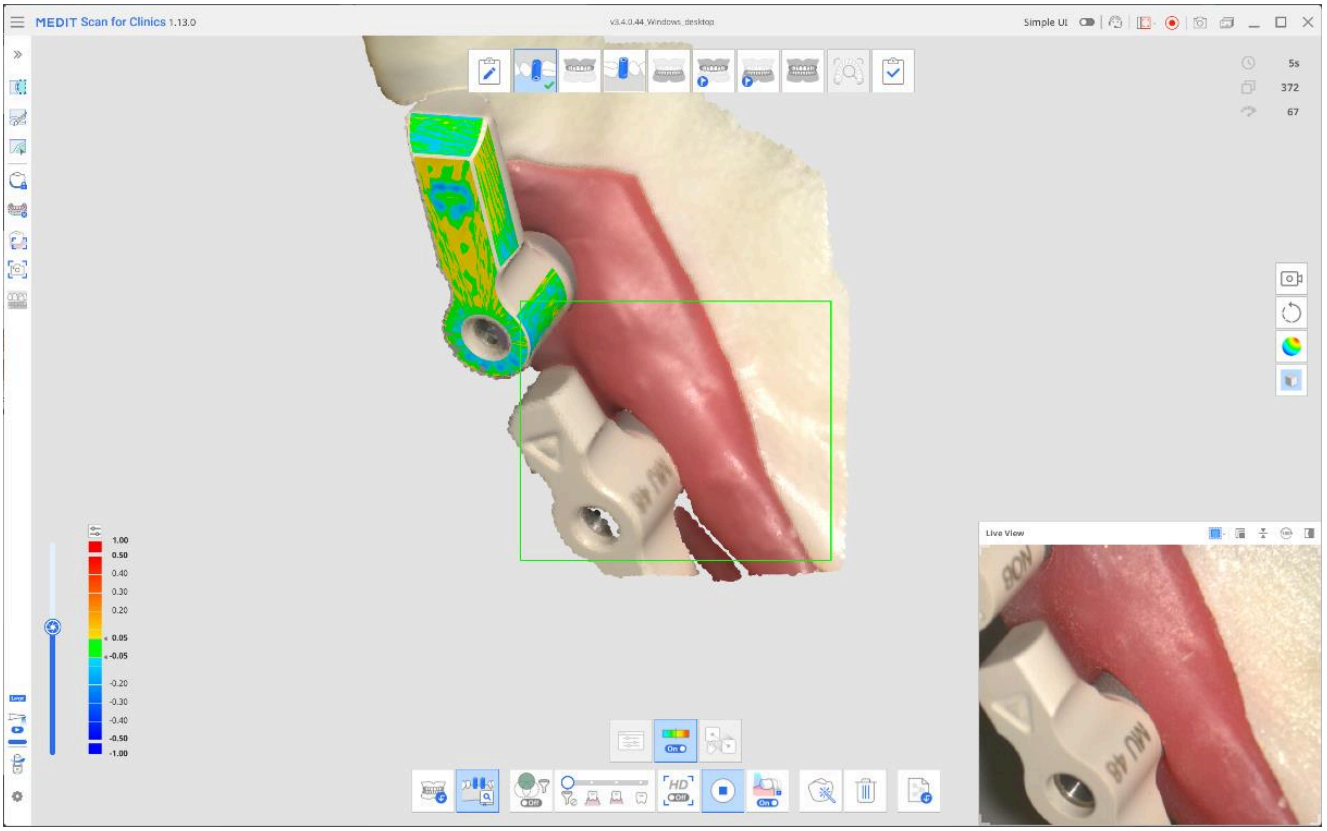
## Medit SmartXワークフローの使用方法

1. オールオンXケースのスキャンシーケンスを有効にする紹介メッセージの後に、下顎/上顎スキャンボディ工程に入ります。スキャンボディライブラリに移動して、このケースで使用するスキャンボディを割り当てるよう促されます。

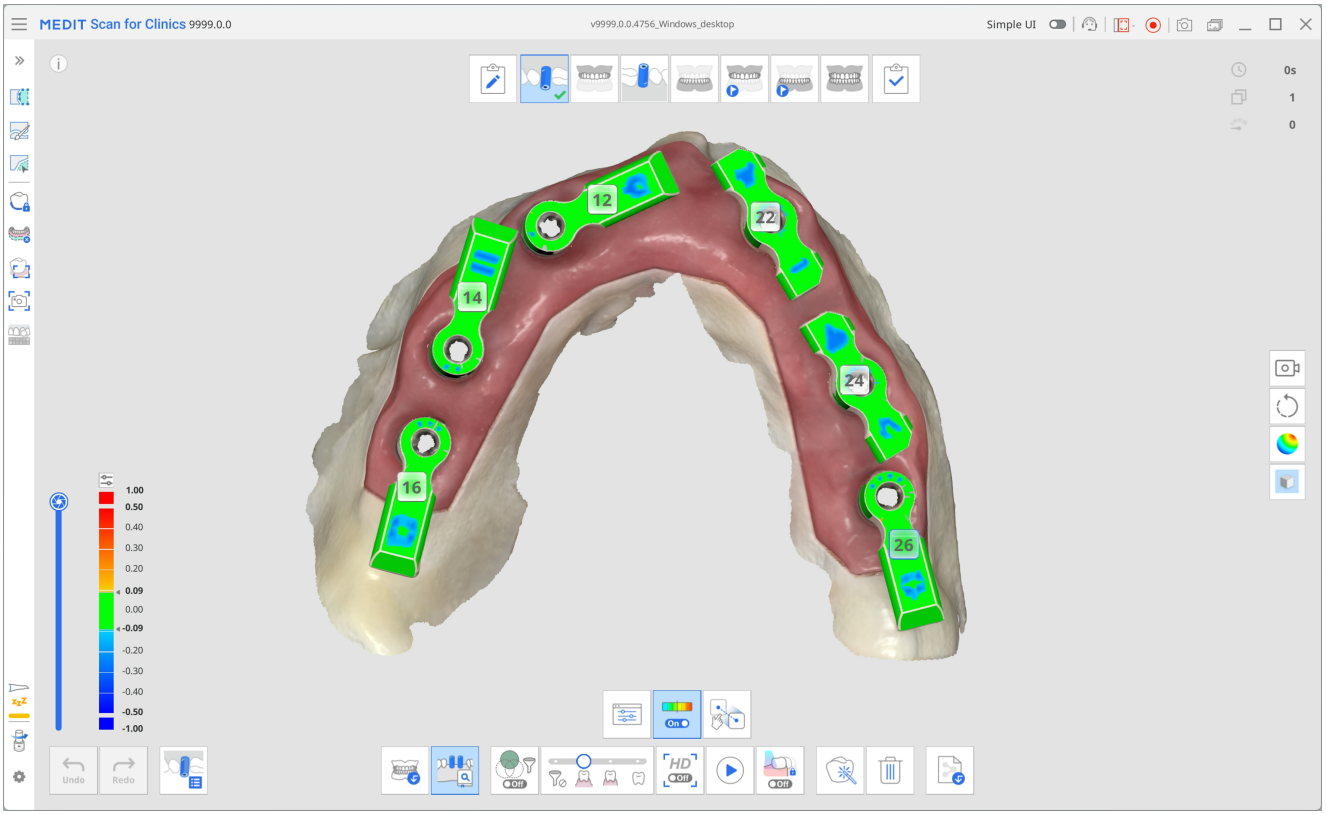



2. 次に、物理的なスキャンボディのスキャンを開始します。十分なデータを取得したら、プログラムが自動的にスキャンしたデータとライブラリからの対応するデータと整列させます。

> 🔎**注意**
>
> 何らかの理由で自動整列が失敗した場合、「手動整列」ツールを使用して、両方のデータセットで対応する3点を選択して、揃えます。

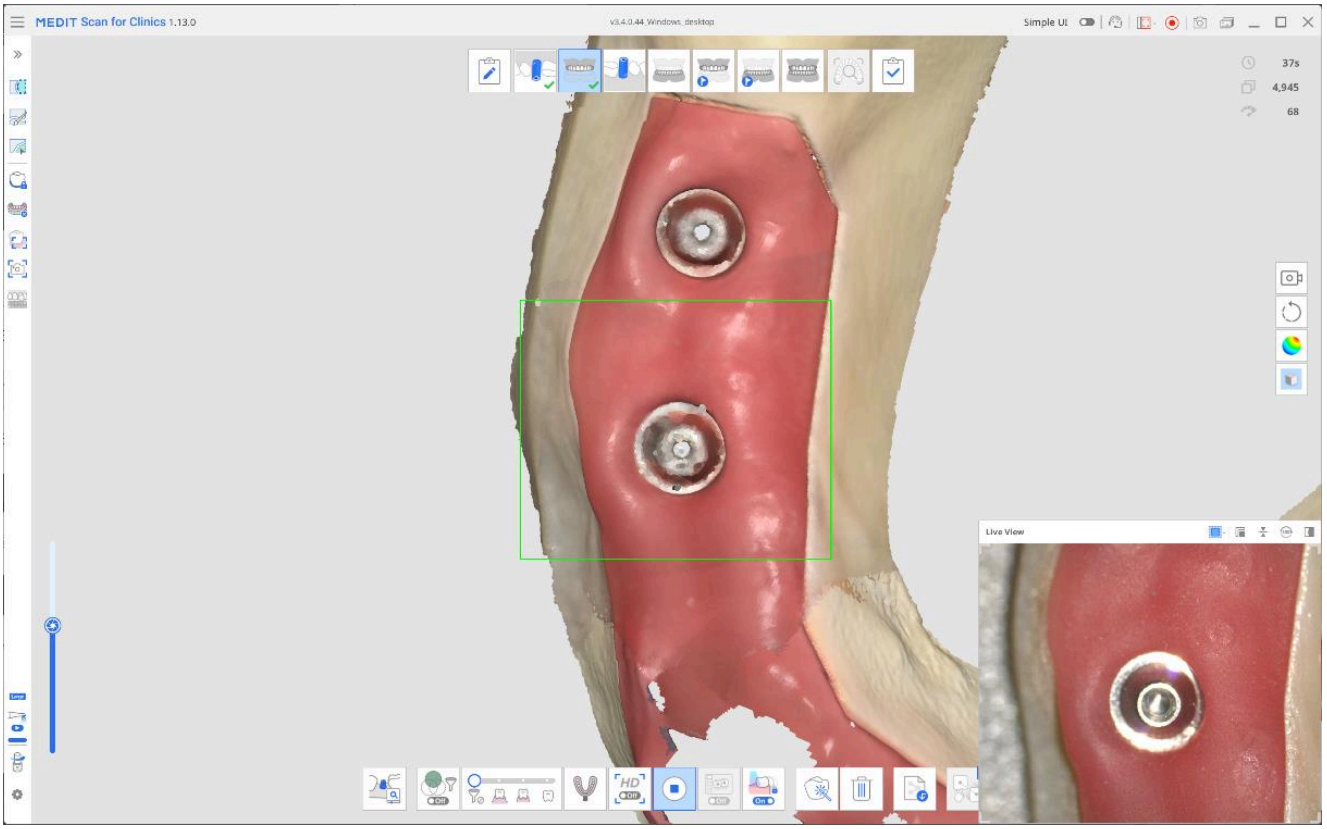



完了したら、下のように表示されます。

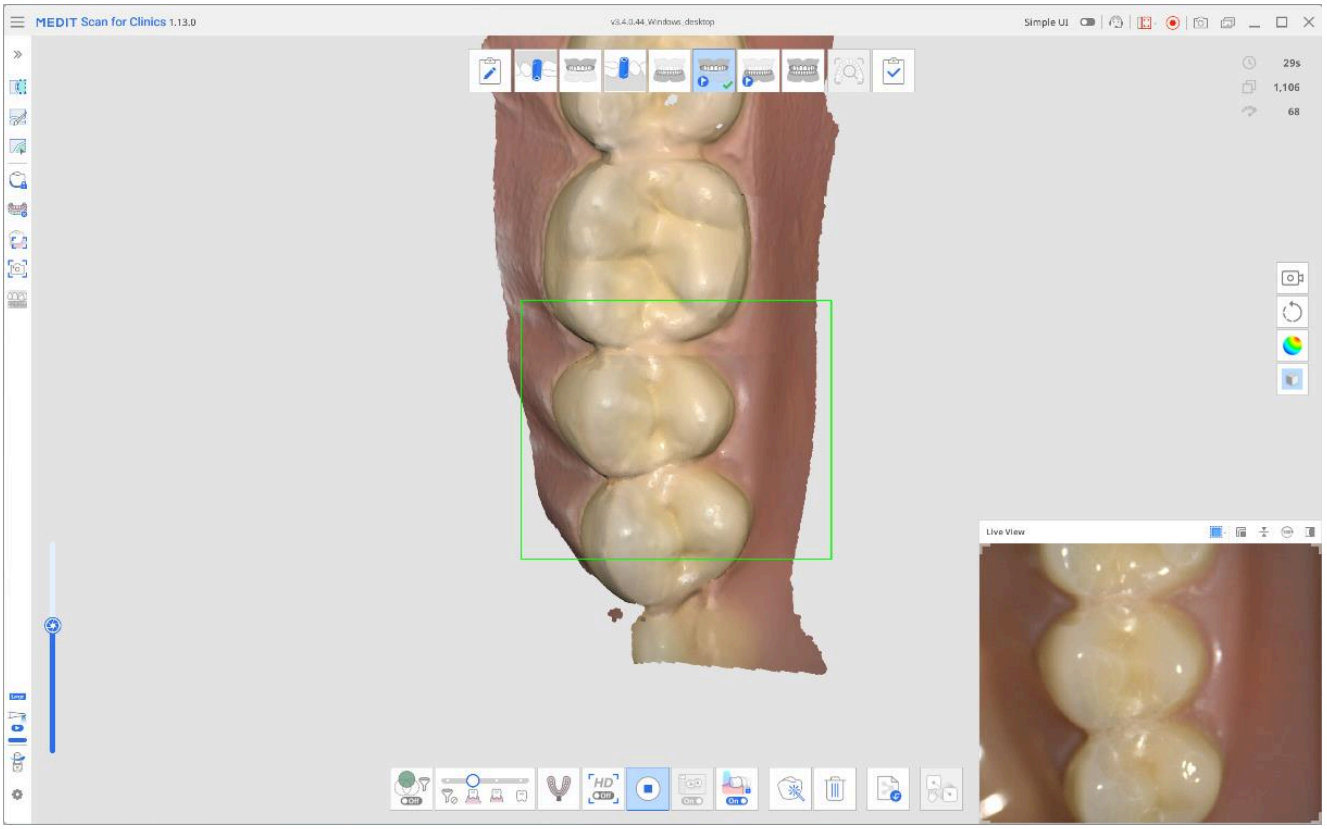



3. 完了したら、画面上部で下顎/上顎の次の工程に移動します。前の手順で取得した歯列弓の施術データはスキャンボディと一緒にこの工程に複製されます。マルチユニットアバットメント（MUA）と歯肉の内側に焦点を合わせ、この工程のデータを完了します。
スキャンボディデータとの整列は自動で行われます。

> 🔎**ヒント**
>
> 左側のメニューからトリミングツールを使用して必要に応じてデータをきれいにします。

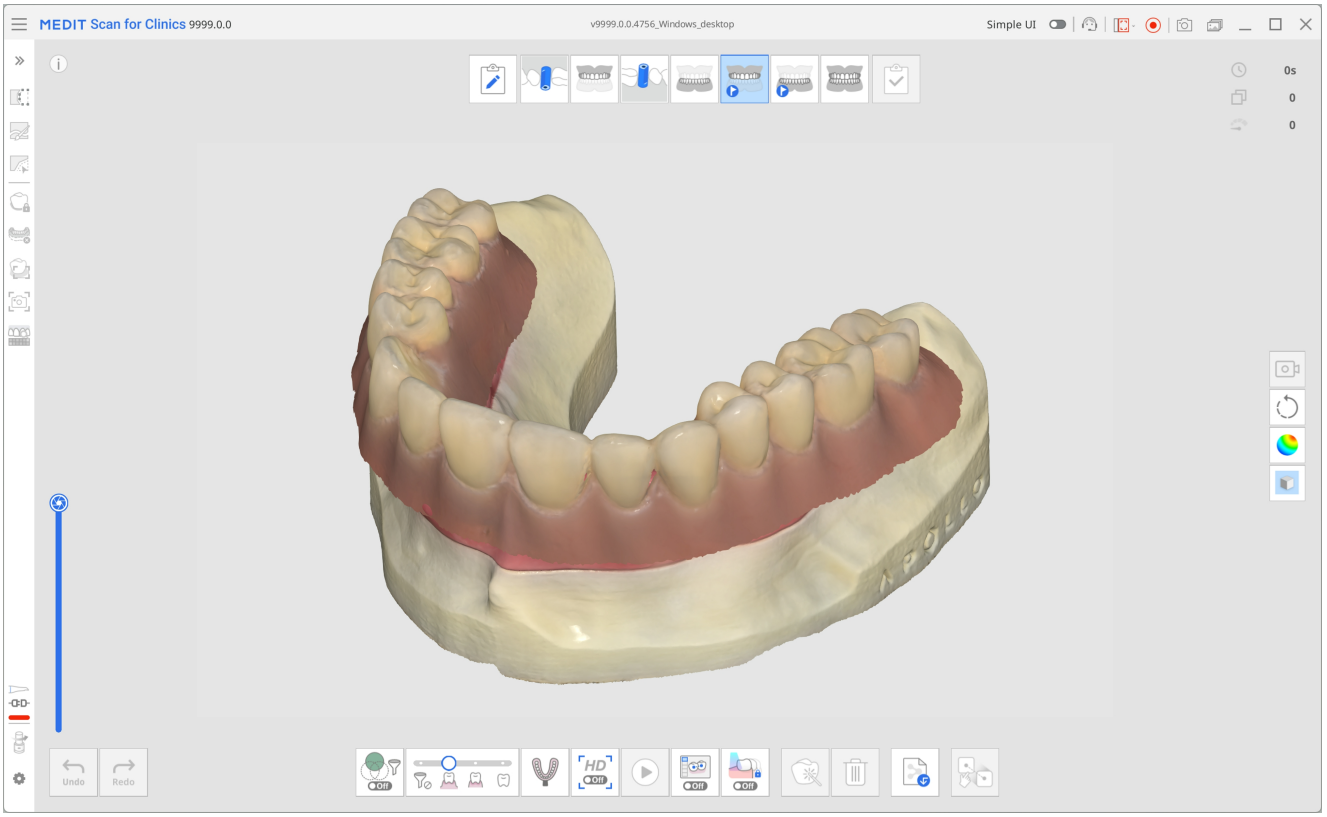



4. 次の手順は、スキャンするためにどの装置を使用するかにより異なります。
下顎/上顎施術前に入る時に、スキャンする前にプロビジョナルブリッジを付けるように指示されます。プロビジョナルブリッジを使用可能な場合には、所定の位置に固定し、口腔をスキャンします。プロビジョナルブリッジとブリッジで覆われていない歯肉部位を確実にスキャンするようにします。




- 代わりに義歯を使用する予定の場合には、作業を進める前にポップアップメッセージで確認ボックスにチェックを入れてください。義歯データを取得するためのスキャン工程は、画面上部のワークフローで自動で表示されます。装着面を含めて義歯全体をスキャンし、付属のツールを使用して、無歯顎データと整列させます。

> 🔎**注意**
>
> 義歯をスキャンすることを選択すると、下顎/上顎スキャン工程は下顎/上顎の無歯顎に更新されます。
> 先に取得されたすべてのデータは保存されます。




5. 最後に、咬合スキャン工程でバイトスキャンを取得し、関連する工程と揃えます。 （下顎/上顎、施術前下顎/上顎または下顎/上顎の義歯工程など）

6. 取得したデータを見直し、工程の完了をクリックする前にすべてが整列されていることを確認して、データ処理に移動し、保存します。

# リアルタイムインテリジェンス

**有料機能**

この機能のご利用には、有料サブスクリプションが必要です。

リアルタイムインテリジェンスはスキャンデータ中の支台歯を自動で特定し、修復物ケースの主要な要件に反するフルスキャンと支台歯の両方の領域を確認します。このインテリジェンスにより、即時にわかりやすいフィードバックを得ることができ、リアルタイムでデータ品質を評価して、その場で調整し、後でより正確な製作作業を行えるよう支援します。

スキャンが停止した際に、プログラムが自動的に支台歯を確認します。何か検出された場合には、支台歯とスキャンデータの確認が行われ、対象となる歯のHD画像データが数枚撮影されます。支台歯が特定されない場合には、スキャン確認項目のみが実行されます。支台歯とスキャンデータの確認結果に基づき、プログラムは追加の確認操作を提示し、スキャンが完全に行われ、修復物ケースの支台歯が適切かどうか確認します。
リアルタイムインテリジェンスは、クラウンとインレー/オンレー、ブリッジケースだけでサポートされています。ベニアケースでは利用できません。そのため、この機能アイコンは、施術前工程、上顎/下顎工程、咬合工程以外の工程では使用できません。

下記の表は、確認するカテゴリ、提案される確認操作、それぞれの説明を要約しています。

| 確認するカテゴリ | 確認する操作 | 詳細 |
| --- | --- | --- |
| クリアランス | 咬合スペースを検証 | 反対側の歯までの距離を測定し、補綴物製作に十分な空間があるかどうかを確認します。デフォルトのしきい値は、設定 > 支台歯確認で設定できます。 |
| | 隣接歯間スペースを検証 | 隣在歯までの距離をチェックして、補綴物製作で十分な空間を作り出せるかどうかを確認します。デフォルトのしきい値は、設定 > 支台歯確認で設定できます。 |
| | 削除深度を検証 | 支台歯形成前後を比較して、補綴物の最適な厚さに基づき、どのくらい追加で削合する必要かあるかどうかを決定します。デフォルトのしきい値は、設定 > 支台歯確認で設定できます。 |

| 確認するカテゴリ | 確認する操作 | 詳細 |
| --- | --- | --- |
| 支台歯 | アンダーカットを修正 | 自動的に挿入された軸に基づくアンダーカットを表示しています。青色で表示されている領域は、補綴物挿入時に干渉が発生した領域を示しています。 |
| | マージンラインを検証 | 凸面、凹面、マージンラインの粗さを視覚的に表示します。これにより、マージンラインを再評価し、マージン領域の支台歯の全面がスムーズで均一であるかどうかを確認しやすくなります。赤色に近いエリアは凸状よりで、青色に近いエリアは凹状よりであることを示しています。 |
| 咬合 | 咬合のバランスを確認 | 噛み合わせ全体の距離と接点を確認し、接触干渉と咬合圧が不均衡に分散されていないかどうか検証します。 |
| | 咬合パターンを分析 | 支台歯形成の前後での咬合を比較します。 |
| スキャンデータ | もっとデータを取得 | スキャンデータが不足しているエリアを表示します。支台歯が検出された後に、支台歯や1、2か所の隣在歯などの歯科的に関連する領域に焦点を絞った確認が実行されます。ハイライトされているエリアを再スキャンして、データを正確にすべてスキャンします。 |
| | 重複しているデータを除去 | 重複している（複数のレイヤーがかかっている）スキャンデータのあるエリアを表示します。このようなデータは、血液、唾、歯の運動、間違ったスキャン方法が原因かもしれません。ユーザーは、影響のあるエリアを削除し、再度スキャンするか、「最適化」を使用して、データを再生列して確認できます。支台歯が検出されると、支台歯や1、2か所の隣在歯などの歯科的に関連する領域に焦点を絞 |

| 確認するカテゴリ | 確認する操作 | 詳細 |
| --- | --- | --- |
| | | った確認が実行されます。支台歯が検出されなかった場合には、歯列弓全体の重複データレイヤーが表示されます。 |
| HD画像 | 自動取得 | 支台歯ごとに複数の方向（咬合、頬側、舌側、近心、遠心の方向）から最大5枚の画像を取得します。 |
| | 手動で取得 | スマートスキャン確認工程では、ユーザーはスキャン中に取得したライブ表示の画像を確認し、右下隅の「手動取得」を有効にしてからそれをクリックして、希望する領域のHD画像取得を作成できます。 |

🔎**注意**

- 値が初期設定のダイアログ画面で設定したデフォルトのしきい値を下回った場合に、クリアランスに関する情報が表示されます。このしきい値は設定で調整できます。しきい値未満のエリアは赤色でハイライト表示されます。該当するエリアにマウスを合わせると正確な距離を確認できます。
- 確認の結果は、トリミングツール（クイックトリミング）を使用してデータを調整する際の参照データとして使用できます。
- 手動での取得は、ワークフローにスマートスキャン確認工程が含まれている場合のみ利用できます。
- 別のサブスクリプションでiEスキャナーを利用できます。

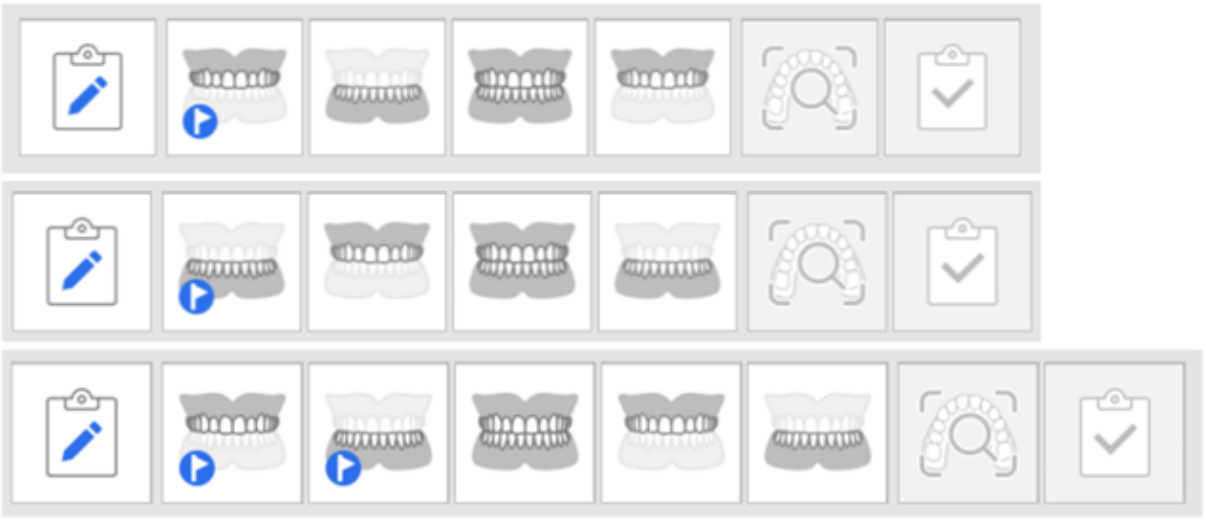
⚠️**注意**

一部の確認結果の見え方は、スキャン工程の順序により異なる場合があります。これらの結果が正しく表示されるようにするには、推奨されるワークフローの設定に従ってください。

### 推奨ワークフローセットアップ

上記の確認項目の表示は、施術前スキャンデータと咬合スキャンデータが使用できるかどうかにより異なります。そのため、この機能を使用する際には、より広範な結果を取得し、スムーズなワークフローになっている、推奨のスキャン工程の構成に従ってください。これとは異なるようにワークフローをカスタマイズする場合には、一部の確認項目についてはプログラムでは識別されず、機能アイコンが特定のスキャン工程で表示されない場合がありますので、ご注意ください。

- 施術前データでのケースでは、ワークフローの最後にターゲットの支台歯（上顎/下顎）のスキャン工程を配置します。*例：*



- 施術前データなしのケースでは、ワークフローの最後に咬合工程を配置します。
  *例：*



🔎**注意**

- この機能は、簡易UIモードでもご利用になれます。
- スマートXワークフローを使用する場合、リアルタイムインテリジェンスはサポートされず、同時に使用することはできません。

**データ確認基準**

最も信頼性の高い確認結果を得るために、データ確認を実行する前に、最小限必要な撮影枚数があることを確認してください。

- スキャンは片方または両方の歯列弓上で実行でき、システムは自動的にスキャンタイプを識別します。
- 最低限必要な撮影枚数にまだ達していない場合でも、「そのまま分析を実行」をクリックして確認を実行できますが、より信頼性の高い確認を行うためには追加のスキャンデータが必要になる場合があります。

| スキャナーモデル | スキャン体験 | 全歯列弓 | 部分歯列弓 |
| --- | --- | --- | --- |
| i900 Mobility / i900 classic / i900 / i700 wireless / i700 | Fast & Furious | 最低2,500画像数 | 最低1,500画像数 |
| i900 Mobility / i900 classic / i900 / i700 wireless / i700 / i600 | Smooth & Steady | 最低1,500画像数 | 最低800画像数 |

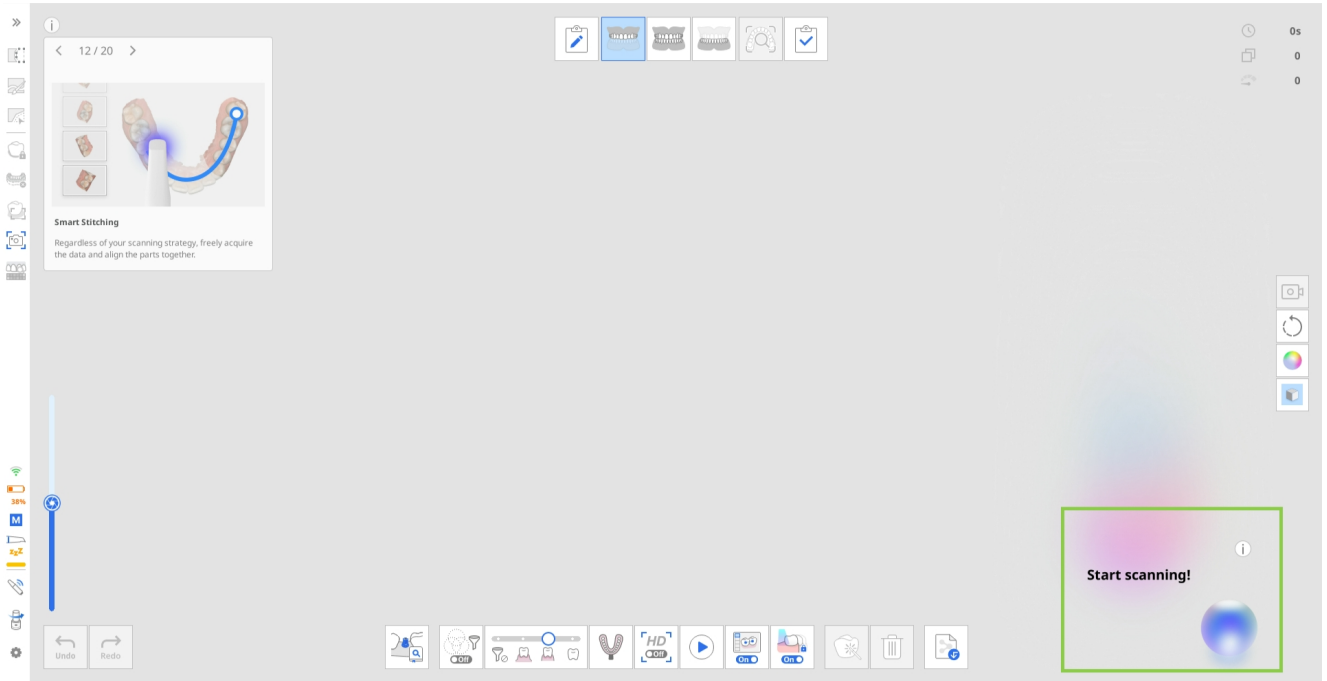
> ⚠️**注意**
>
> 取得に最低必要データ画像数は、事前の通知なく変更されることがあります。

## リアルタイムインテリジェンスの使用方法

サブスクリプションに登録している場合には、この機能を設定 > スキャンデータ分析 > リアルタイムインテリジェンスを有効にすると移動して設定できます。有効になっている場合、この機能の状態を示すアイコンがタイトルバーに色付きで表示されます。



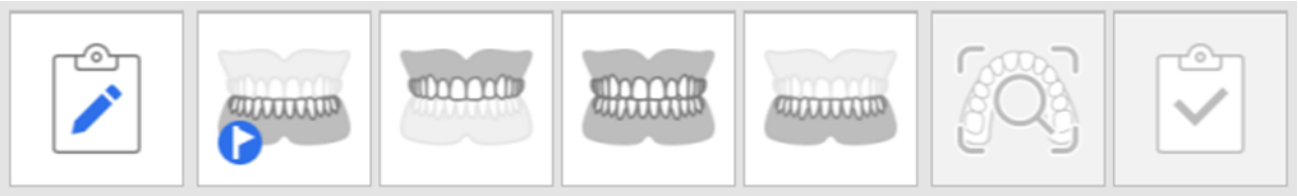

各スキャン工程で、機能のメインアイコンが右下隅に表示されます。そのアイコンをクリックして確認内容とガイドメッセージを表示したり、非表示にしたりします。




リアルタイムインテリジェンスは、選択されているワークフローセットアップに関係なく、同じ主要な原則で運用されます。プロセスを説明するために、このガイドではスキャンのために利用できる施術前の歯科データがあ

る下顎のクラウンケースを例を使用します。

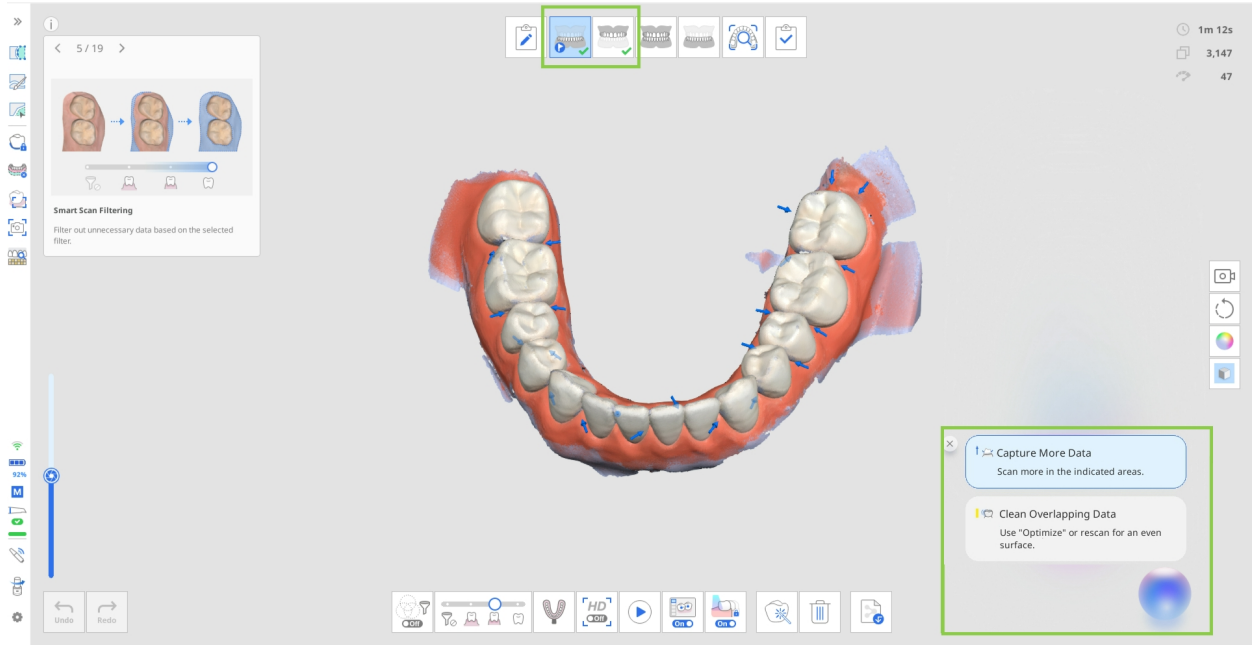
このシナリオでは、スキャンの各工程は先の推奨で提案されている以下の順序で実行されます：下顎の施術前 → 上顎 → 咬合 → 下顎



ワークフロー手順の例

1. **施術前と対合歯のデータを取得**

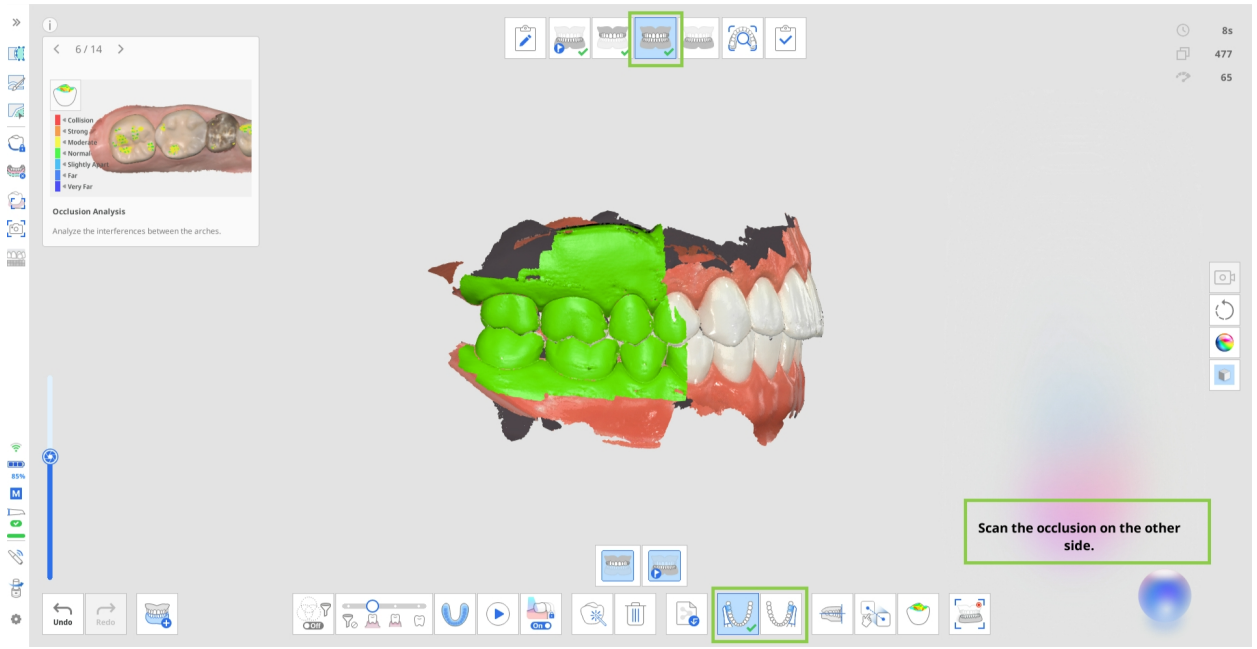
   スキャンが停止したら、スキャンデータの確認が自動的に開始されます。このステップ中、スキャン確認の項目のみが右下に表示されます。結果とフィードバックを確認し、必要に応じてスキャンデータを調整します。




2. **咬合データを取得**

   片方の歯列弓ケースの場合、「1番目の咬合」のみを取得するだけで十分です。両方の歯列弓ケースの場合、確認プロセスを開始するために「1番目の咬合」と「2番目の咬合」の両方のデータを取得する必要があります。

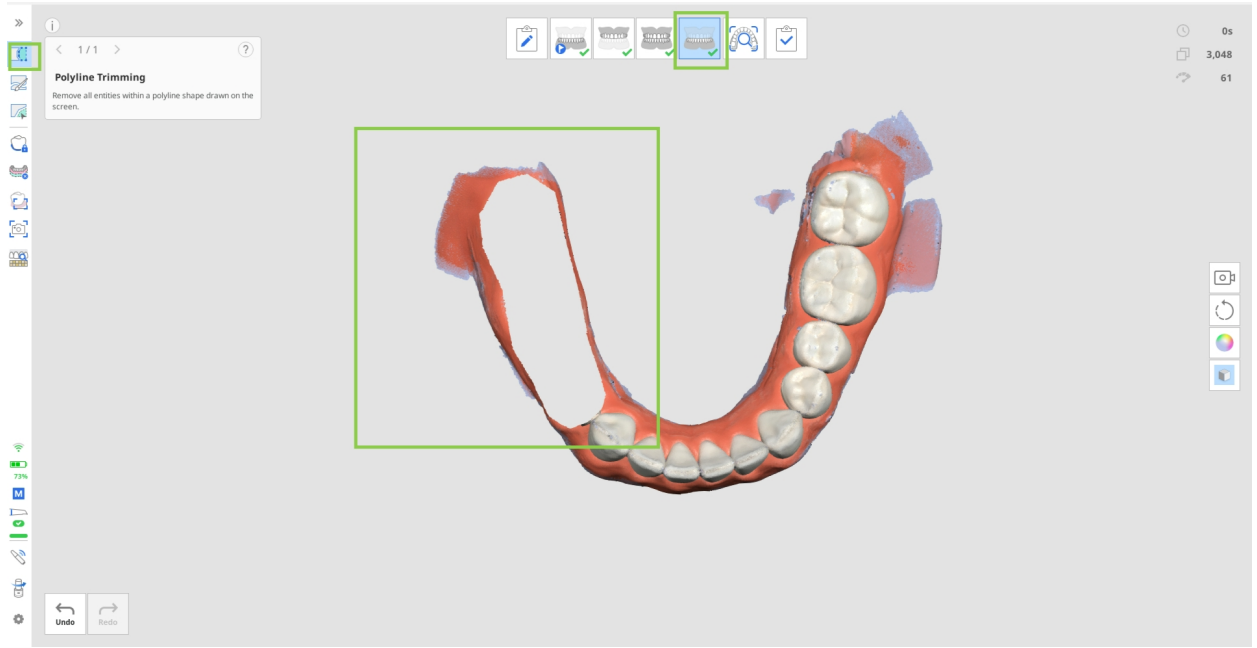
   整列されている歯列データのタイプにより、いずれかの支台歯確認項目（咬合スペースを検証）が表示されるか、なにも表示されません。支台歯データが咬合データの前に取得されていない場合、この支台歯確認は咬合工程中に表示されません。支台歯データが入ると、それが後続の工程で計算だけされ、表示されます。咬合工程中に値が表示された場合、その値は支台歯データが存在する工程にも引き継がれ、ユーザーはその工程で「咬合スペースを検証」を確認できます。




> 🔎**注意**
>
> 「複数咬合グループ」により、咬合の整列はさまざまで、対合歯までのクリアランスの確認はそれぞれのグループに応じて表示されます。

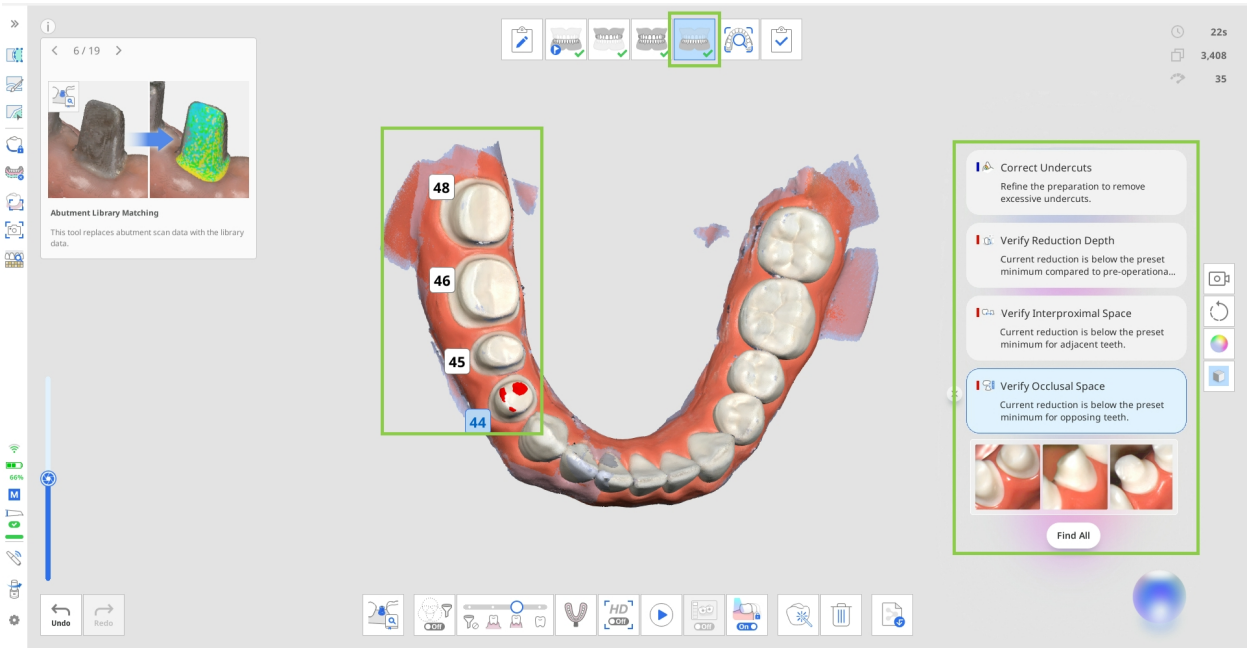
### 3. 支台歯データを取得

施術前データが利用できる場合には、自動的に現在のスキャン工程にコピーされます。こちらでは、ユーザーが支台歯の領域のみをトリミングして再スキャンするか、現在のデータにわたりスキャンできます。両方のケースで、支台歯データが利用可能になると、支台歯確認項目が表示されます。




スキャンが停止した際に、支台歯領域は対象の基準について評価されます。結果は、取得されたHD画像とともに画面右下に表示されます。ユーザーは、各歯ごとにその結果を確認するか、すべての支台歯をまとめ

て確認できます。




- 「すべて探す」をクリックし、すべての支台歯を選択し、その結果を一度に確認します。別の方法としては、特定の歯番をクリックして、その歯だけの結果を確認することもできます。
- データを確認後、各結果の横にある閉じるアイコンをクリックしてリストから項目を削除できます。
- それぞれの支台歯で確認事項リストの最後に自動データ取得を利用できます。取得データを確認し、右下隅の「ダウンロード」アイコンをクリックし、Medit Linkのケースに必要な画像を保存します。ダウンロードした画像のみをMedit Linkのケース内の添付で利用できます。そして、ワークフローにスマートスキャン確認工程が含まれている場合には、ダウンロードした画像のみがその工程での確認で利用できます。
  スキャンデータを追加するたびに画像が更新されることにご注意ください。




**🔎注意**

この工程で表示されているスキャン確認項目は、スキャン全体を対象とせず、支台歯に焦点を絞っています。その結果は、支台歯に加えて1、2本の隣在歯を対象とした領域で表示されます。

# 確認の結果と設定を更新

デフォルトで、追加のスキャンを実行する際、取得画像の最小数（100枚）に達すると、スキャンデータがスキャンの開始時と終了時に自動的に確認されます。確認の結果は、スキャンデータが修正された場合（データの追加、トリミングまたは最適化）、スキャン工程に入った場合、またはスキャン工程間でデータが転送された場合にも、常に更新されます。

> ⚠️**注意**
> ユーザーが手動で歯を選択したり、マージンライン機能を使用してマージンラインを修正したりした場合、その結果がリアルタイムインテリジェンスの作業に影響を及ぼす可能性があります。

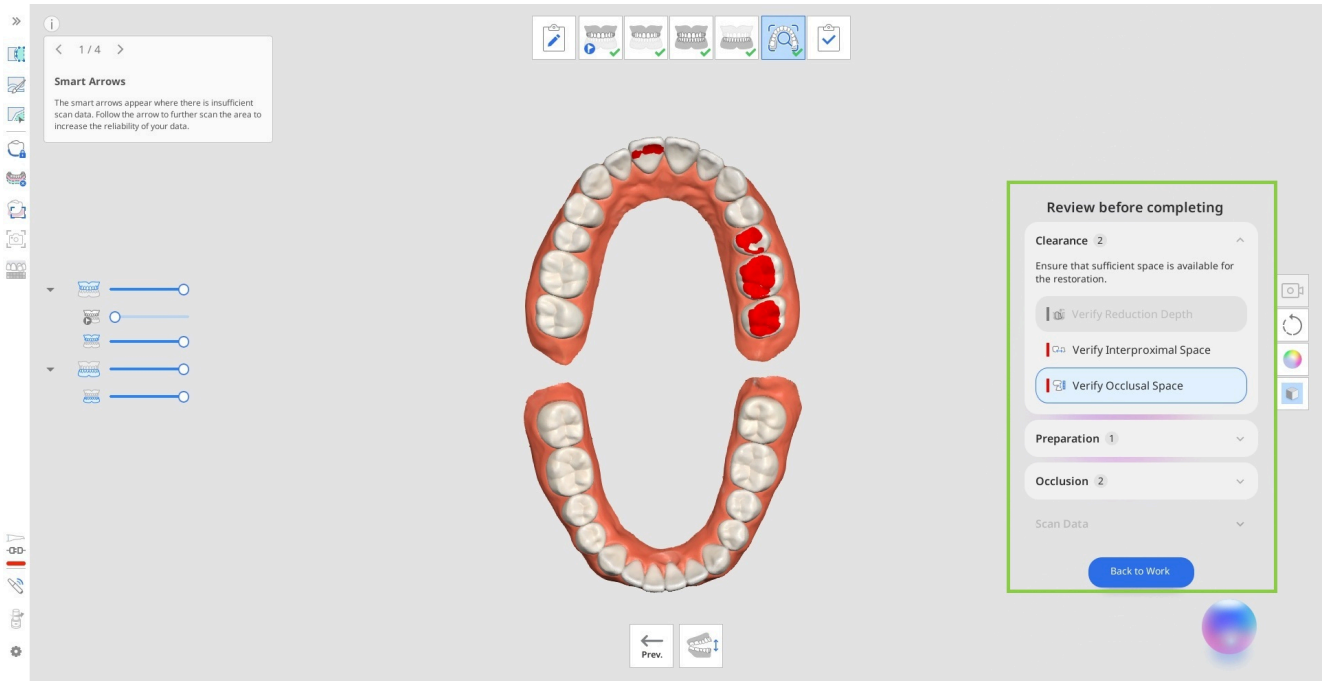
**設定に基づく項目を確認する場合の条件と制限を表示**

- 設定 > スキャンデータ分析の距離の値を調整する際、クリアランス確認の結果は、新しい基準に沿って更新されます。すべての関連する確認のための操作は、それに応じて更新されます。
- GPU利用オプションが設定でオフの場合、リアルタイムインテリジェンス機能は自動的に無効になり、使用することはできません。
- スマートスキャンフィルタリングを歯+歯肉に切り替えると、すべてのスキャンデータの確認項目が表示されます。この項目は、スマートスキャンフィルタリングがオフの状態では使用できません。

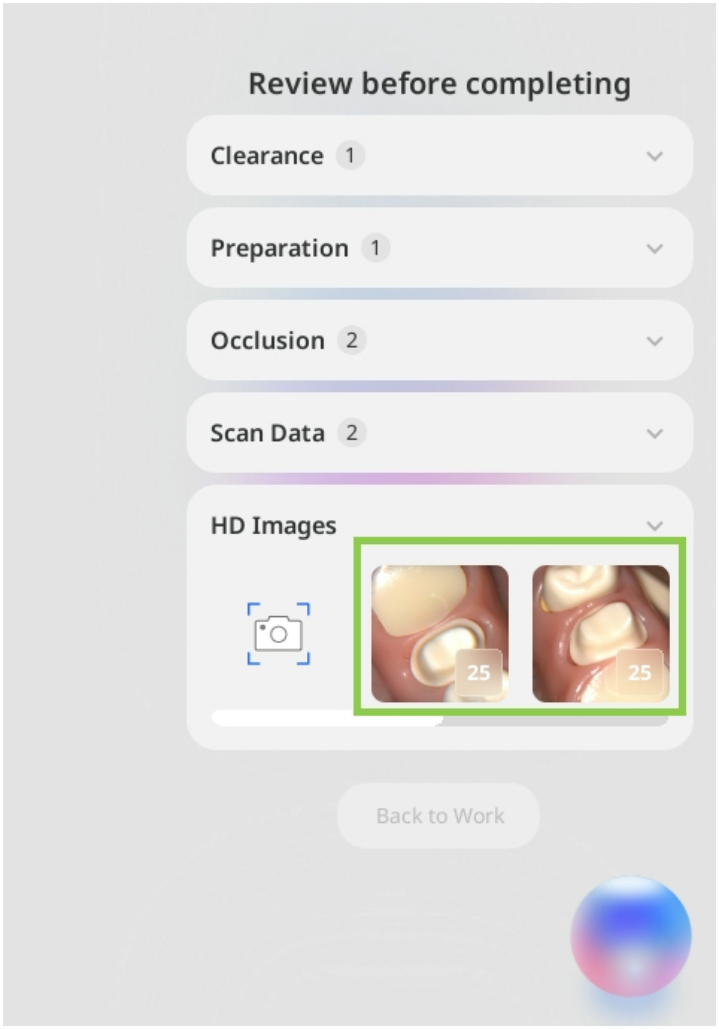
# スマートスキャン確認でのリアルタイムインテリジェンス

有効になっている場合、リアルタイムインテリジェンスがスマートスキャン確認のレポートをどのように生成するかに影響を及ぼします。現在のスキャン工程の標準レポートを提供する代わりに、リアルタイムインテリジェンスが高度なレポートを生成します。このレポートには、右下の現在のケースの具体的なすべての確認項目の概要が含まれます。

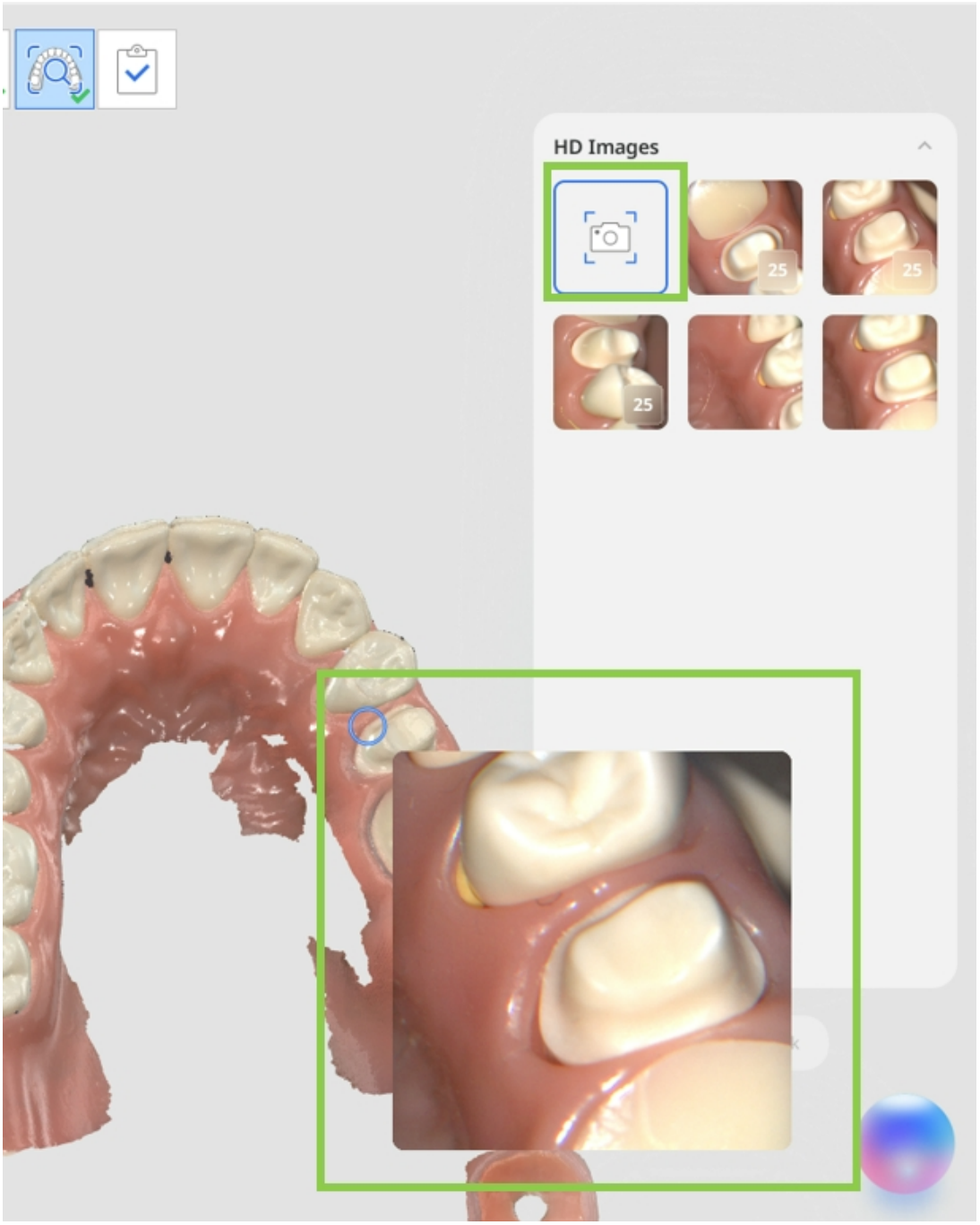
ケースを完了し、スキャンデータを完成させる前に、リアルタイムインテリジェンスが検出した項目を確認します。「作業に戻る」をクリックし、現在選択されている確認項目に対応するスキャン工程に戻ります。そこで必要に応じて、スキャンデータを修正できます。




この工程では、支台歯の高解像の2D画像を使用することもできます。上顎や下顎の工程中に自動データ取得の画像をダウンロードした場合、それらはHD画像セクションにおいての確認で利用可能です。



また、HD画像セクションで手動データ取得の機能を使用して、特定の領域の2D画像を追加することもできます。手動取得のアイコンをクリックしてから、3Dデータ上にマウスを合わせて利用可能な画像をプレビューします。希望する領域をクリックし、画像を取得・保存します。




スマートスキャン確認工程中の確認セクションで使用可能なすべてのHD画像（自動取得と手動取得の両方）は、ケース完了時に自動的にMedit Linkケースの添付として保存されます。

**Medit Corp.**

9F, 10F, 13F, 14F, 16F, 8, Yangpyeong-ro 25-gil, Yeongdeungpo-gu, Seoul, 07207, Republic of Korea

Tel: +82-02-2193-9600

**Contact for Product Support**

Email: support@medit.com

Tel: +82-02-2193-9600

Powered by Document360